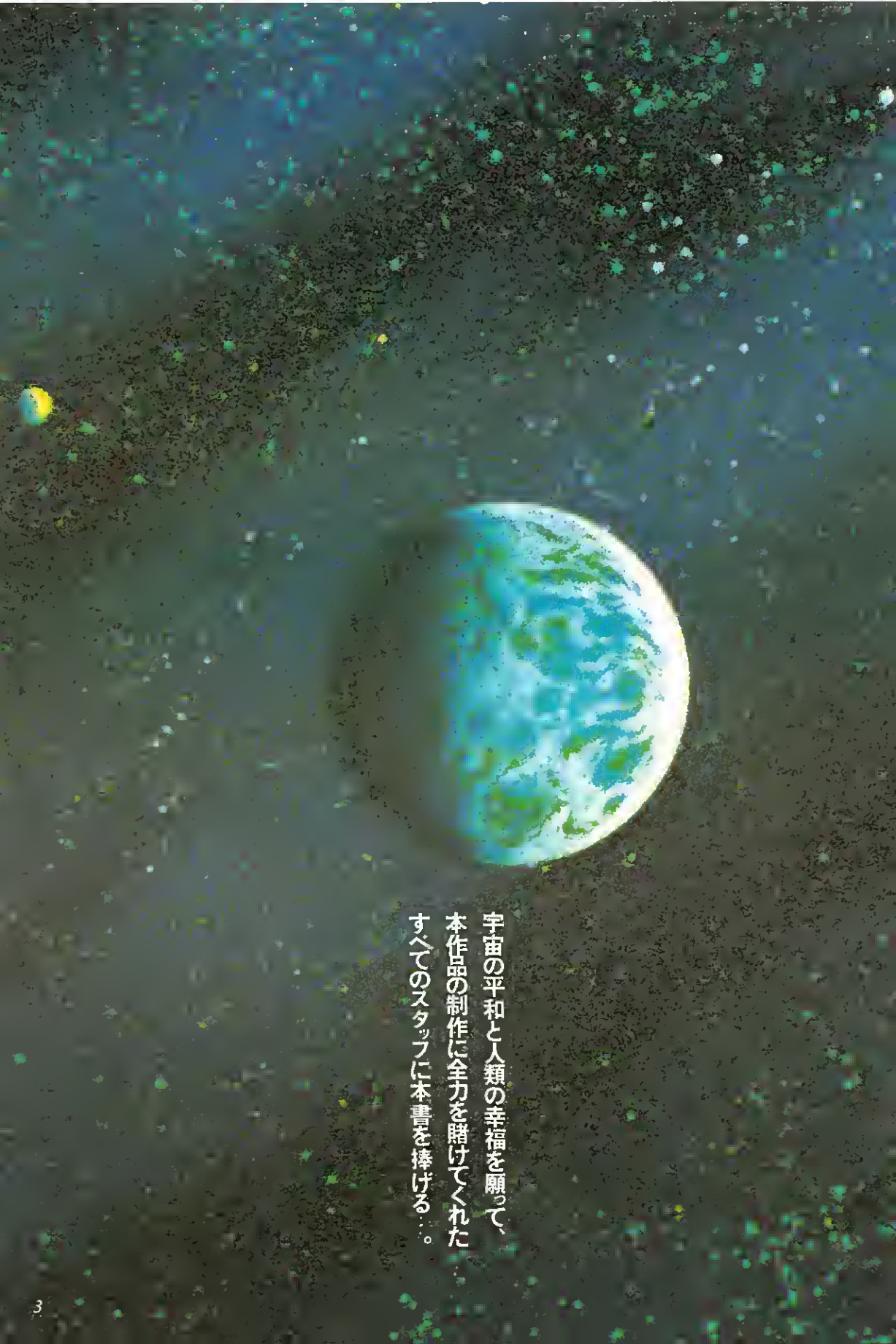


宇宙の平和と人類の幸福を願って、
本作品の制作に全力を賭けてくれた
すべてのスタッフに本書を捧げる…。

Title : GUNDAM
Author : NIPPON SUNRISE CO.,LTD
Copyright : ©1979 by NIPPON SUNRISE CO.,LTD
SOTSU AGENCY CO.,LTD

printed in Japan

機動戦士

ガンダム

GUNDAM



●本書の制作スタッフ

●構成　㈱ニューアート・クリエイション
●編集・美術統括　新田雅利

●編集進行　増崎幸子
●フィルム編集　佐野礼子
●編集協力　中川万佐子

●写植・版下制作　荻原　敬
●製版担当　高味寿雄

●制作コーディネイト　平田昭吾

●印刷・製本　小宮山印刷㈱



日本サンライズからのメッセージ

〈機動戦士ガンダム〉を熱烈に愛して下さる全国のファンのみなさまに、日本サンライズが心をこめて、この一冊を、お贈りいたします。

〈機動戦士ガンダム〉が、他の多くのロボット・アニメ作品をしのいで、みなさまの絶大なご支持をいただけたのは、この作品がSFの世界を舞台にしながら実は、非常にリアリティに富んだ、人間の、若者たちのドラマだというところにありましょう。

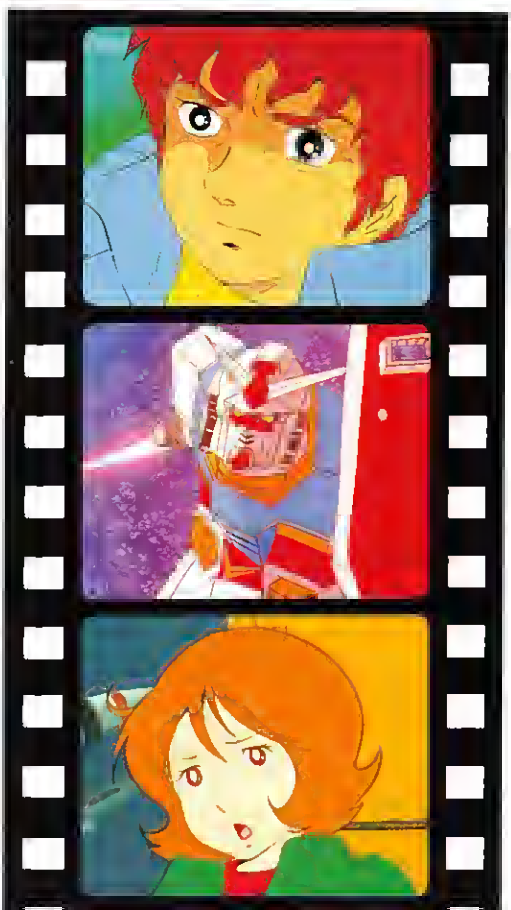
勿論、天下無敵のヒーローなど一人もいません。登場人物は、いつもどこかで見かける身近な人たちばかりです。むしろ、アムロやフラウ、シャアもブライトも、あなた自身といえないでしょうか。

このたび、みなさまの熱いご要望にお答えして記録全集・第一巻を出版することになりました。本書は、制作に参加した総ての人びとの記録です。

機動戦士・ガンダム記録全集・1

目次

サンライズからのメッセージ　7
オープニング編　10
ビジュアルストーリー編　15
●登場キャラクター　16
●第一話　ガンダム大地に立つ　19
●エンディング　84
オリジナルデザイン編　85
●キャラクターデザイン　86
●メカニックデザイン　94
●キャラクターシート　104
設定・資料編　115
●原案　設定書　116
●美術設定　126
●モビルスーツ設定　134
●人物設定　140









○地球連邦
○ジオン公国
●メカニック設定 150
○地球連邦軍備
○ジオン公国軍備
●透視イラスト 160
●玩具製作図面 164
●録音台本 169

制作スタッフ
●制作スタッフ紹介 183
●メインスタッフ・プロフィール 184
●スタッフからのコメント 186
●キャスト紹介 188
●声優からのメッセージ

テーマソングスコア
●翔べガンダム 190
●永遠にアムロ

オリジナルポスター〔巻末〕

MOBILE SUIT GUNDAM

●オープニング編

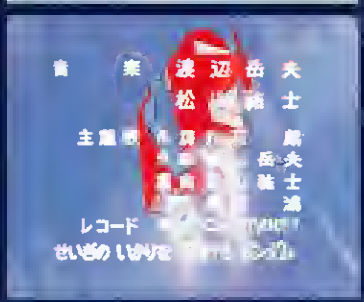


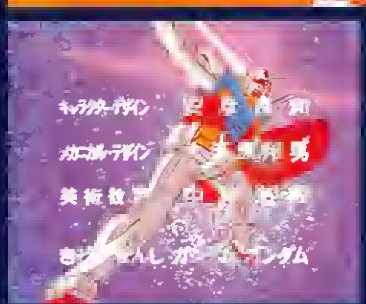
OPENING


原作 矢立肇
富野喜幸
掲載誌 講談社 テレビマガジン
たのしい幼稚園
放映局 東京 鉄王
きょうもげんきでいこうよ
まだいかりにもえるとうしがあるなら

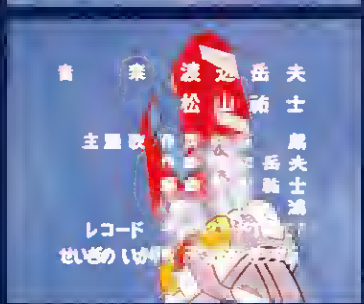








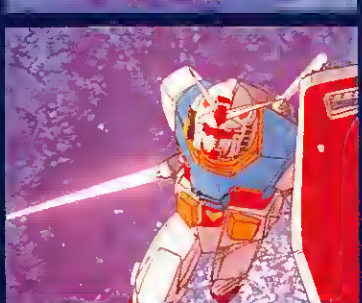










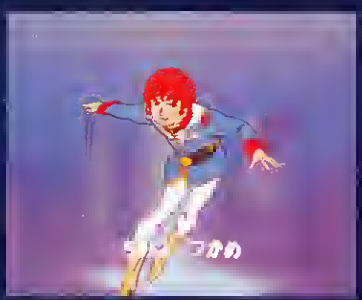






OPENING



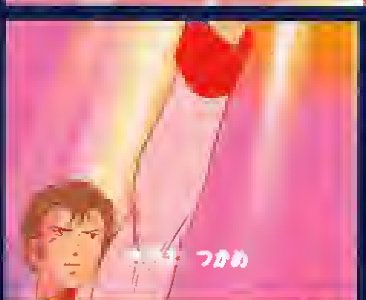


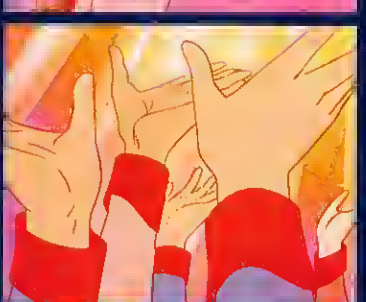






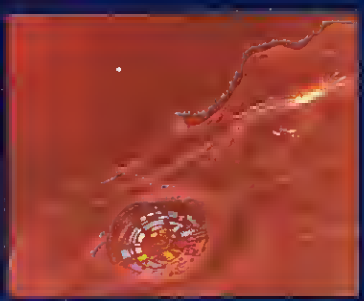






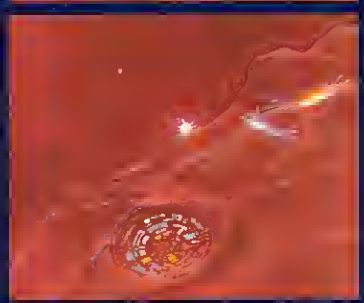


OPENING



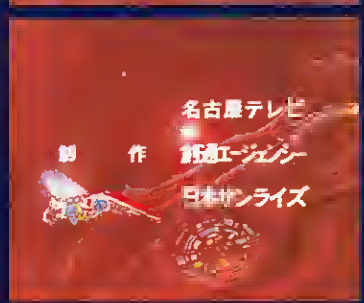


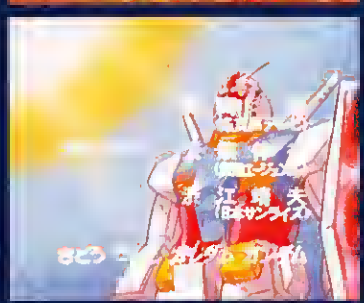

ぎんがへ むかって とべよ ガンダム




プロデューサー


ぎんがへ むかって とべよ ガンダム


名古屋テレビ
制 作 創通エージェンシー
日本サンライズ






名古屋テレビ
制 作 創通エージェンシー
日本サンライズ

●ビジュアルストーリー編



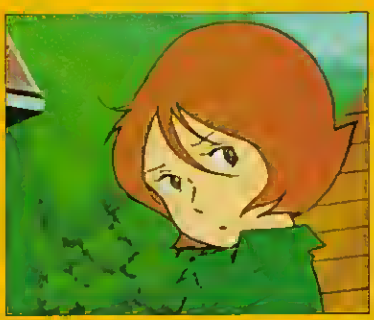
VISUAL STORY

●登場キャラクター

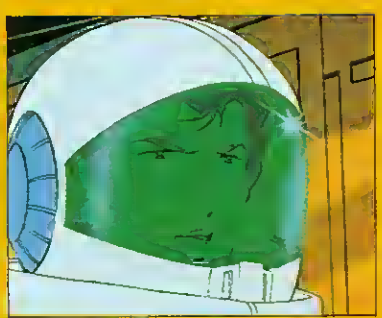
〈地球連邦軍＆ジオン公国軍〉



アムロ・嶺（レイ）
ガンダムの搭乗員。幼時からメカ好きのマイコンマニアだが、ナイーブな性格の持主。



フラウ・ボウ
アムロとは近隣で明るく快活な女の子。子供たちの面倒をみるお姉さん役。



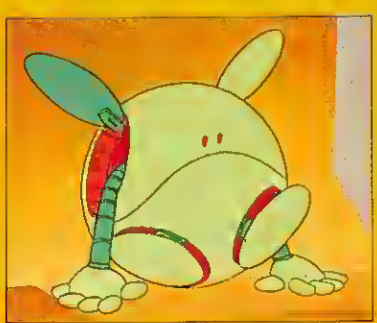
ブライト・ノア
宇宙士官候補生。ホワイトベースでは司令官役を務めアムロたちのリーダー的存在。



ハヤト・小林
ガンタンクを操縦してアムロを助けながら戦う。善良で素直な性格のスポーツマン。



テム・嶺（レイ）大尉
地球連邦軍の技術長。アムロの父親で、モビルスーツ・ガンダムの設計者。



ハ　ロ
アムロが作った、フラウ・ボウのペットロボ。簡単な会話ができる。

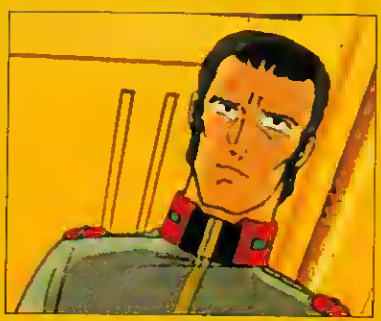


パオロ艦長
宇宙連邦軍の宇宙空母、ホワイト・ベース艦長。



地球連邦軍・中佐
サイド・7司令官

CHARACTER'S



地球連邦軍・少尉

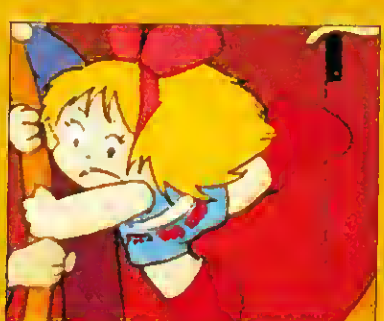


地球連邦軍・士官



フラウの祖父

フラウ・ボウの母と共に、サイド7に潜入したジオン軍の攻撃を受けて死ぬ。



キッカ

いつもホワイトベースの中を駆け廻っている、元気でお茶目な女の子。



シャア少佐

謎の生い立ちをもつジオン軍の少佐。頭脳明晰、冷静沈着、度胸満点の戦闘のプロ。



ドレン中尉

シャア少佐の副官としていつもそばにいるシャアの本心を知る唯一の部下。



デニム曹長

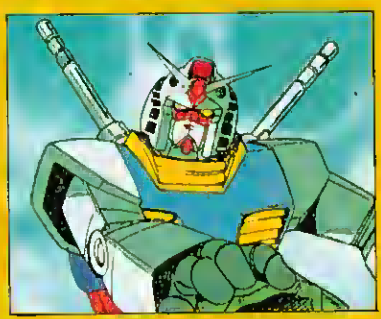
シャアの命令を受け、V作戦基地偵察のためサイド・7に潜入しガンダムに初めて接触する。



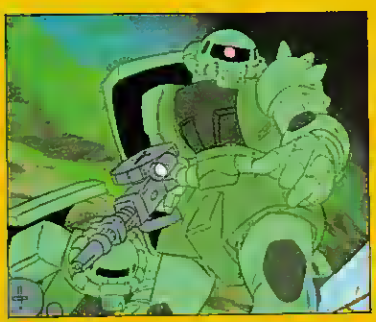
ジーン

基地偵察の任務を忘れ、手柄を焦ったことが命を落すきっかけとなるジオン軍新兵。

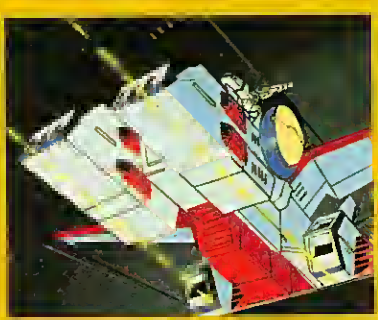
CHARACTER'S



モビルスーツ・ガンダム
地球連邦軍が総力をあげ、科学力を結集して製造した最新鋭のモビルスーツ。



モビルスーツ・ザク
科学力を誇るジオン軍が最初に開発したモビルスーツ。



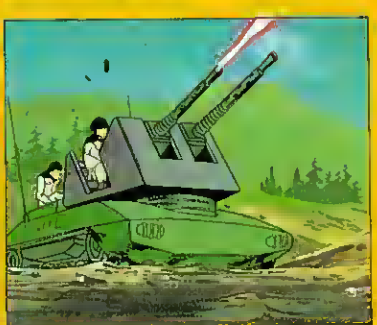
宇宙空母ホワイト・ベース
モビルスーツの機動性を最大限に発揮するため開発された強襲揚陸空母。



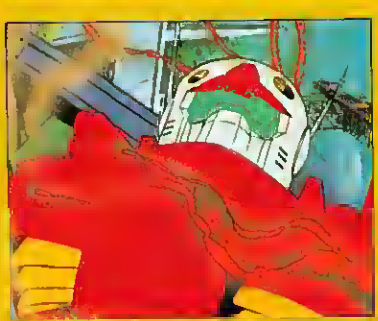
シャアの専用ムサイ艦



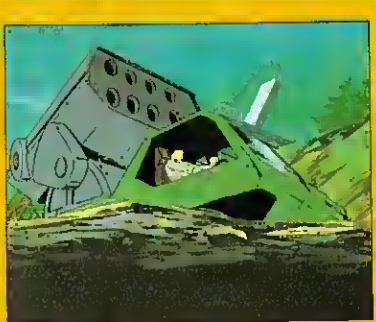
サイド・7（セブン）
開発途上のスペースコロニーで、完成後は二千万人余の人間が住める巨大な人工都市衛星。



モビルガン
電気自動車（エレカタイプ）の対戦車用兵器。



ガン・キャノン
地球連邦軍の長距離援護用のモビルスーツ。

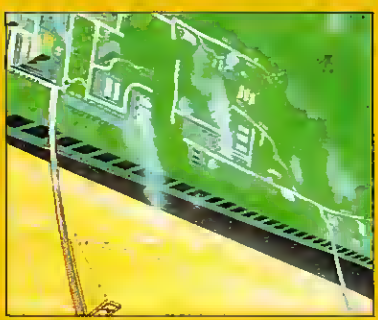


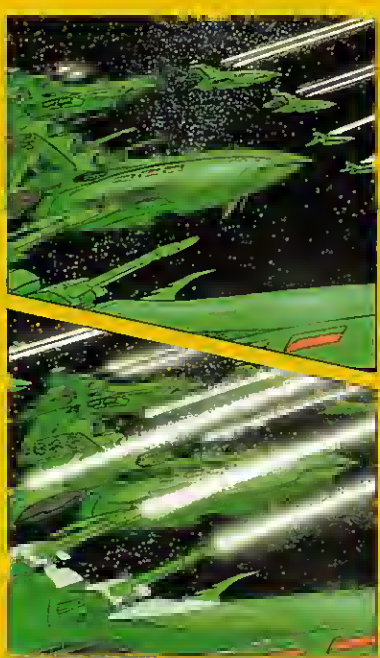
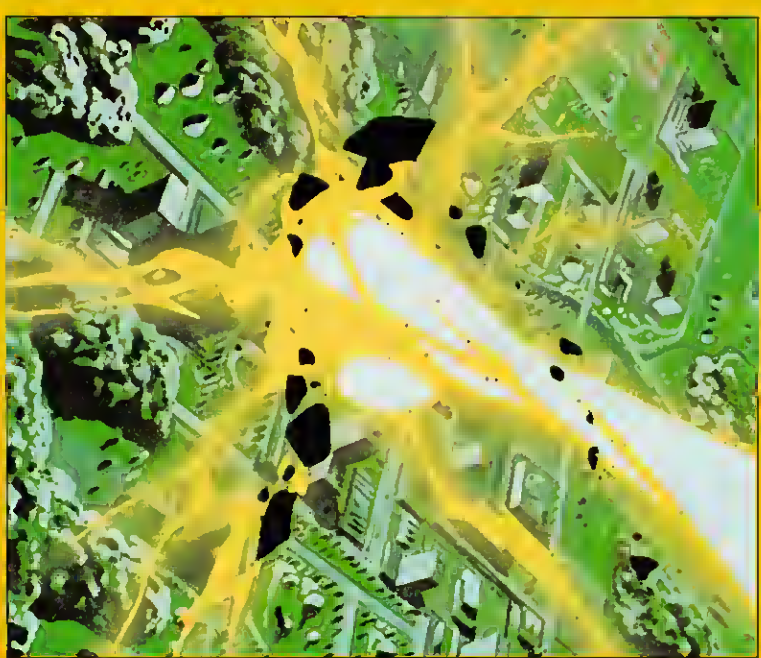
有線ミサイル
モビルガン同様、エレカタイプの対戦車用ミサイル兵器。


機動戦士
ガンダム
GUNDAM
ダム大地に立つ

人類が、ふえすぎた人口を宇宙に移民させるようになって、すでに半世紀がすぎていた。地球のまわりの巨大な人工の島は、人類の第二の故郷となり、人びとはそこで子供を生み、育て、そして死んでいった――。










宇宙世紀（アフター）〇〇７９年…。
地球に最も遠い宇宙植民地サイドスリーはジオン公国を名乗り、地球連邦政府に独立戦争を挑んできた。
この一ヶ月余りの闘いで、ジオン公国と連邦軍は、総人口の半分を死に至らしめた。
人びとは、自らの行為に恐怖した。
……戦争は膠着状態に入り、八ヶ月余りがすぎた。



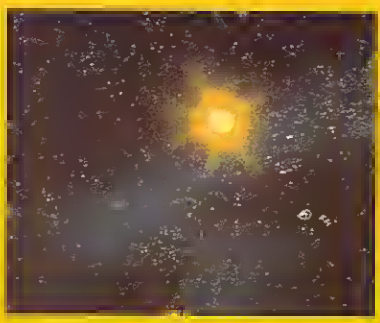
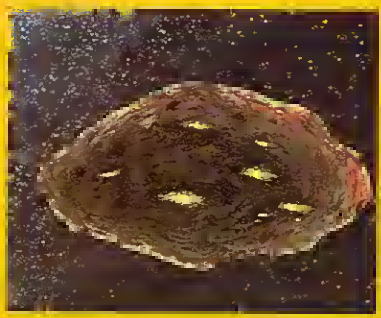
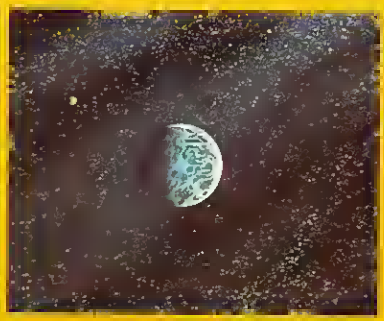




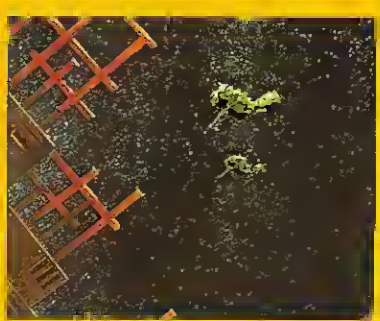




ガンダム大地（だいち）に立（た）つ!!

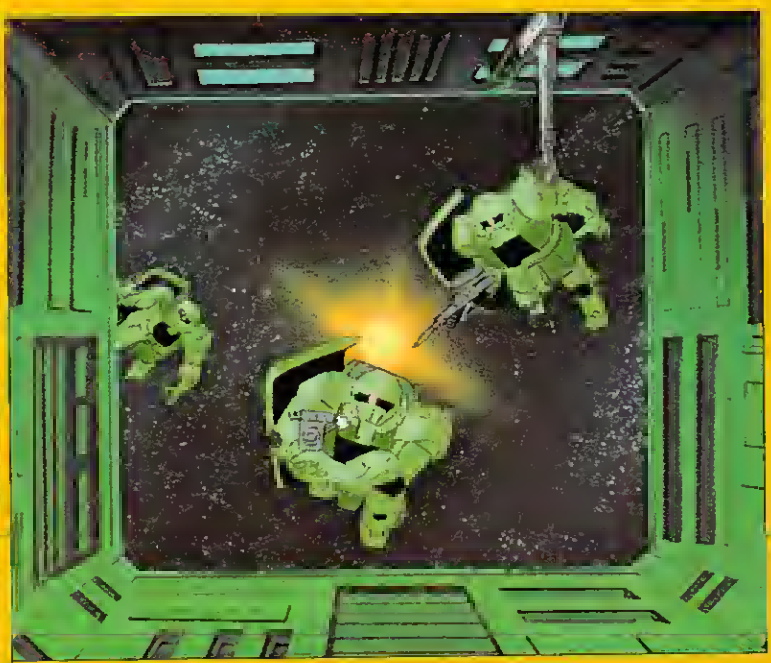


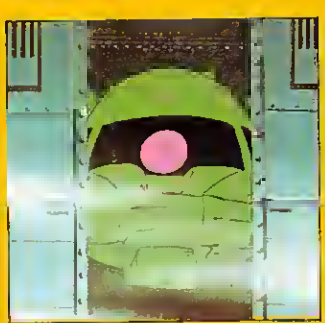










デニム(oi)「幸い空きだ。スレンダーお前はここに残れ。俺たちに万一のことがあったら、直ちにシャア少佐のもとへ戻るんだ」

スレンダー(off)「ほ！曹長」

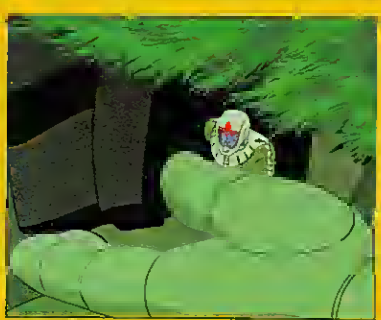


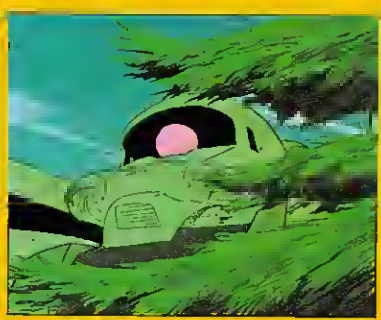


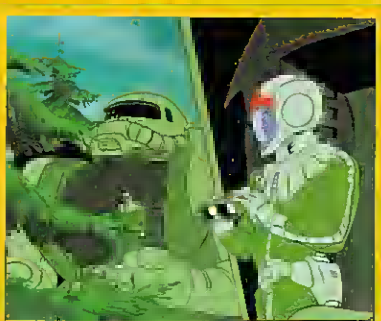






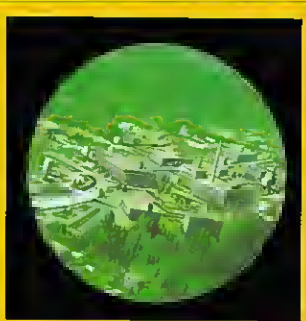



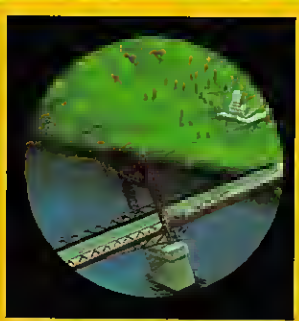




ジーン「曹長、軍の施設は右上のブロックのようです。」

デニム(off)「失敗したな。この居住区には、まだ人がいるのか？」









ジーン(off)「出勤時間のはずですが車が一台行っただけです。人影はありません…いました！子供のようです」



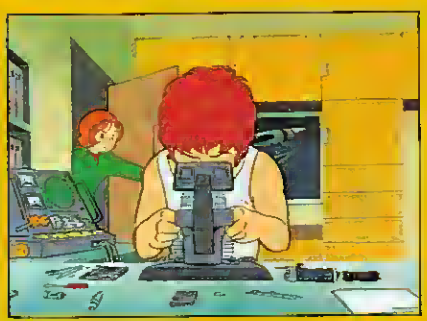


フラウ　「アムロー！」



フラウ　「まあ！まだ食べてない……アムロー！」

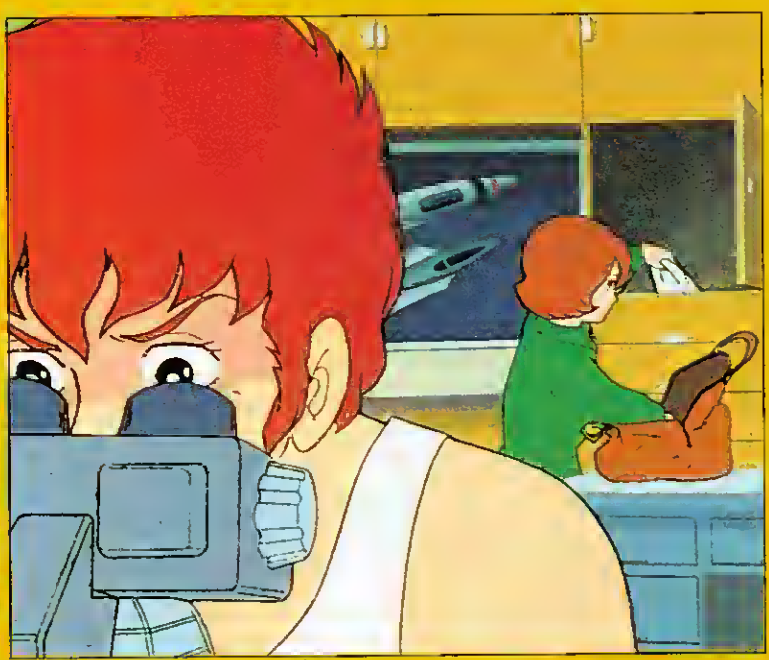




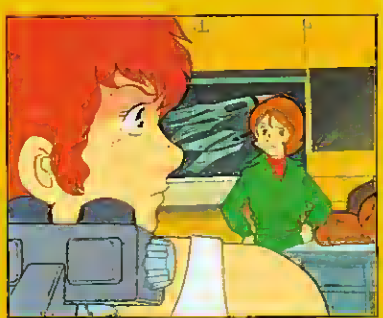
フラウ　「こんなことだと思ったわ。ちゃんと朝食をとらないと、身体のためによくないのよ」



ハロ　「ハロー、アムロ。ハロー、アムロ…」
アムロ　「ハロ！今日も元気だね」
ハロ　「サンキュー、アムロ」

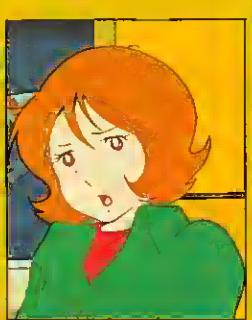


フラウ　「なに着ていくつもり？アムロ…」
アムロ　「……」
フラウ　「アムロ！」
アムロ　「このコンピューター組んだら、食べるよ」
フラウ　「避難命令きいてないの！」
アムロ　「避難命令？あのサイレンそうなのかい？」





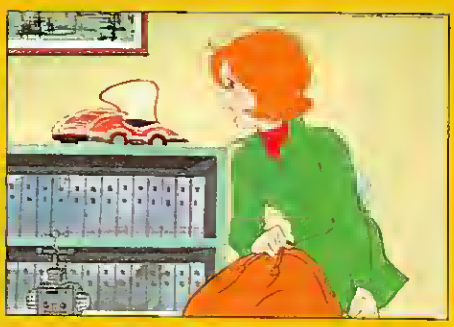
フラウ　「あきれた！軍の放送、聞かなかったの！軍艦が入港するから避難するんだってさ！」



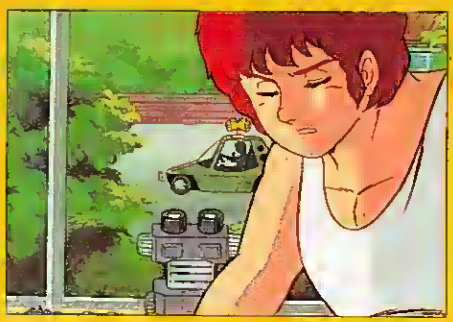
アムロ　「なんで？」



フラウ(off)　「知らないわよ」

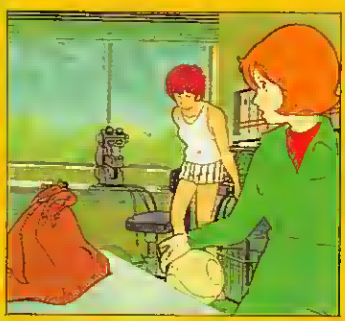


フラウ　「どうせジオンの船にでも追いかけられてるんでしょ。アムロ、時間ないのよ」



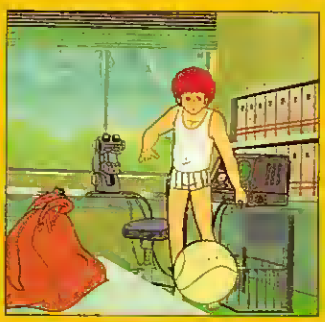
アムロ　「判ったよ」

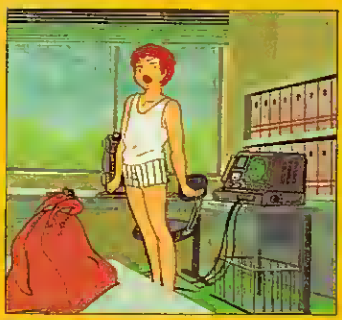
スピーカー(off)　「退避急げ！」

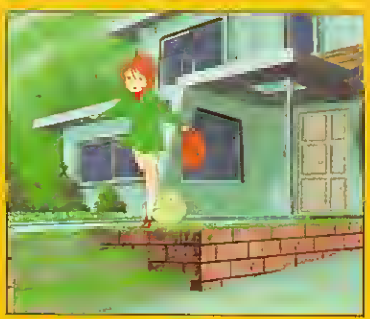


フラウ　「外で待ってるから…ハロ！いらっしゃい」

アムロ　「うるさいなァ」

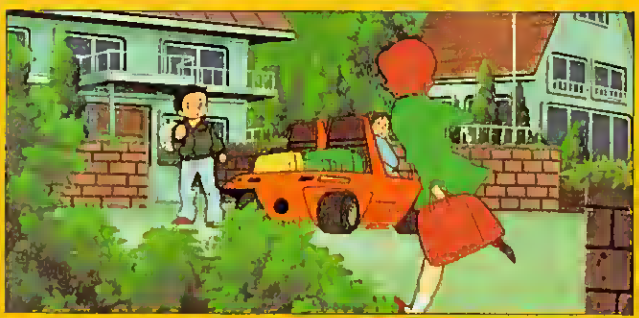






フラウ　「ハヤト君！」

ハヤト　「やあ、フラウ！」



フラウ　「だめじゃない、お向いさんなんでしょ。アムロに教えてあげなくっちゃ」

ハヤト　「避難命令のこと？」

フラウ　「そうよ。一人っきりなんだから」

ハヤト　「ア、アムロのおやじさんみたいな軍事技術者がここに来なけりゃ……」

フラウ　「研究施設をつくるんで、立ち退きさせられたのをまだうらんでるの!?」

ハヤト　「そ、そうじゃないけど……」

ハヤトの母(off)　「ハヤト！」

ハヤト　「はい！じゃあ」

フラウ　「アムロ！」











フラウ「行儀悪いのね」
アムロ「ン」



フラウ　「入港する軍艦に、アムロのお父さん乗ってるんでしょ？」
アムロ　「だと思うよ。一週間前に地球に降りるっていってたから……」
フラウ　「ここも戦場になるのかしら？」
アムロ　「さー、おやじは研究のために来るだけだし……」
フラウ　「でも、軍艦が来るっていうのなら……」
アムロ　「知らないよ。おやじは何も教えてくれないもん」







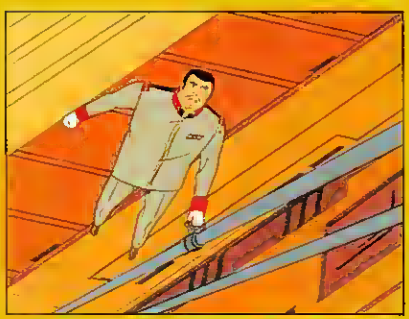




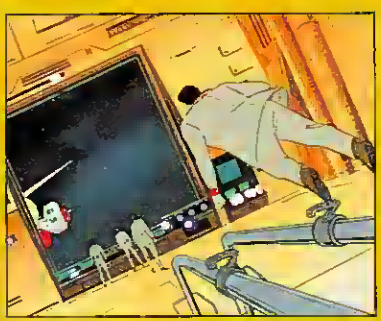




中佐(off)「ホワイトベースにガンダムの部品をのせるんだ。地上の作業を急がせろ！」
兵A(off)「ハッ！」
中佐(off)「ホワイトベースめ」



中佐(off)「よりによってジオンの船につけられるとは！」



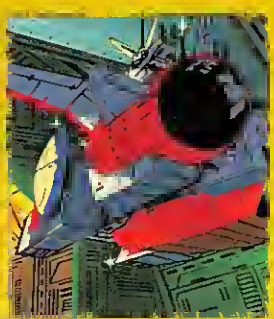
中佐「いいか！ホワイトベースにはパイロットがいる。連中にガンダムを渡しさえすれば、ジオンの船の一隻や二隻はやっつけられる！」
小尉(off)「中佐！ホワイトベースが入港します」
中佐「急がせろ！」

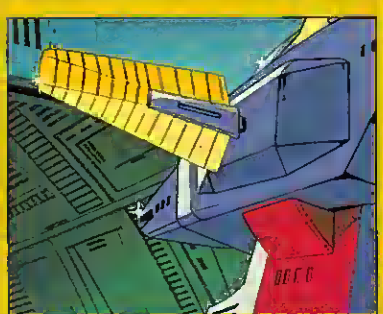


中佐「ほー！こ、これか!?」
小尉「ハ！」
中佐「さ、さすが我が連邦軍の新鋭戦艦だな」
少尉「ハ！ガンダムと連繋プレーをめざす戦艦だけのことはあります」
中佐「ガンダムをドッキングベイにあげるよう伝えろ！」
兵A(off)「伝えます」



中佐「こ、この艦とガンダムが完成すれば、ジオン公国を打ち砕くなど雑作もない」











ブライト　「伝令！嶺大尉、サイド7へ入港いたしました。至急ブリッジへおいで下さい」
テム　「うむ。了解した」
テム　「ブライト君だったね」
ブライト　「はい」



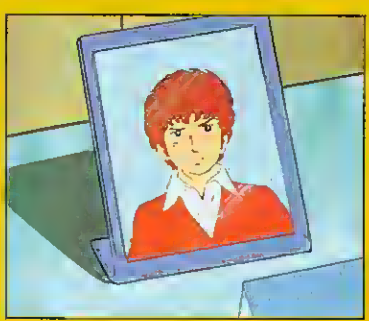


テム　「何ヵ月になるね？軍に入って……」
ブライト　「6ヵ月であります」
テム　「19才だったか？」
ブライト　「はい！」

テム　「ガンダムが量産されれば、君のような若者が実戦に出なくとも戦争は終ろう…」



ブライト　「ガンダム？…あ、ガンダーX78のことでありますか？」
テム　「フ、フ、……君らしいな。我われの愛称というのが気に入らんとは…」
ブライト　「いえ…」

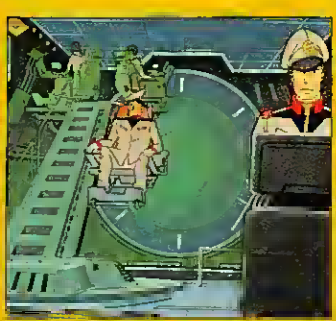


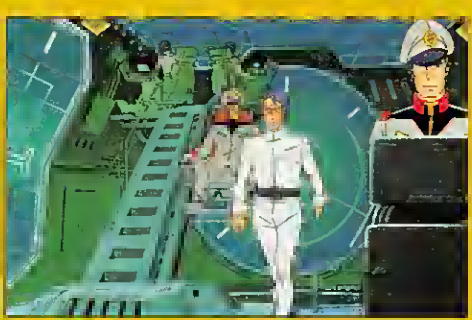
ブライト(off)　「お子様でいらっしゃいますか？」
テム　「ああ…こんな年の子がゲリラ戦に出ているとの噂もきくが、本当かね？」



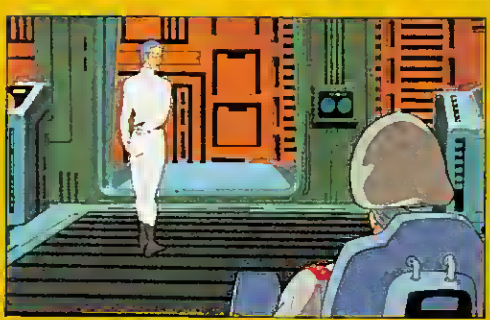
ブライト　「ハイ！事実だそうであります」
テム　「いやだね」
ブライト　「ハイ」

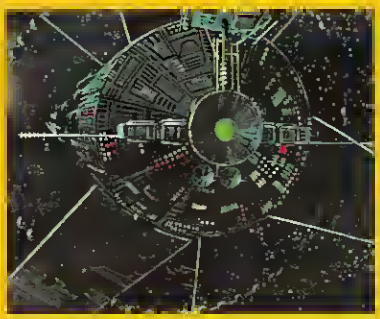




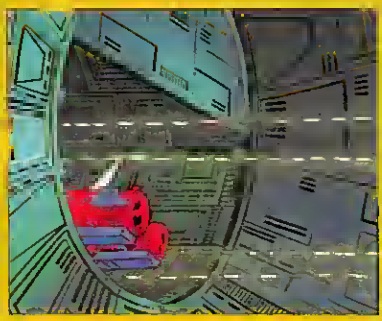


艦長　「ご苦労様です嶺大尉」
テム　「結局、ジオンの船は…巻くことができなかった？」
艦長　「残念ながら……」
テム　「なぜ、攻撃をしかけてこなかったんだろう？」





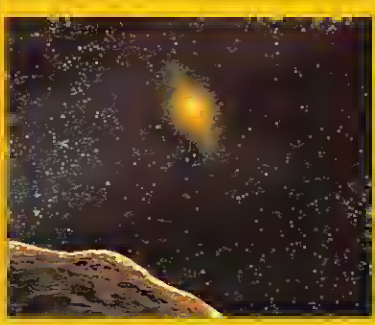








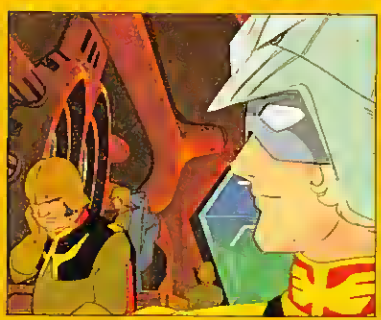




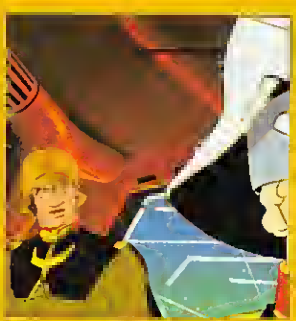




シャア　「わたしもよくよく運のない男だな？作戦が終っての帰り道で、あんな獲物に出会うとは…フフ…むこうの運がよかったのかな？」




ドレン　「はい、シャア少佐。……しかし、あんな辺地のサイドに連邦のV作戦の基地があるのでしょうか？」
シャア　「あるよ。…我がザク・モビルスーツよりすぐれたモビルスーツを、開発しているかも知れんぞ」
ドレン　「まさか、あんな僻地のサイドで…」
シャア　「遅いな……」
ドレン　「来ました！」

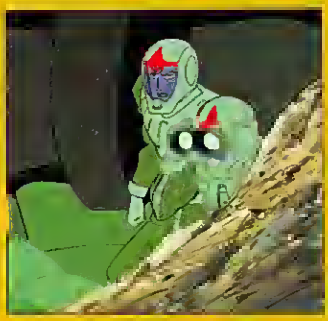



ドレン　「暗号、C、C、ツーです」
シャア　「みろ、……私の予測した通りだ」



ドレン　「で、では連邦軍もモビルスーツを？」
シャア　「開発に成功したとみるのが正しいな」









デニム(off)「3台目もモビルスーツだ！まだあの中に何機もあるかも知れんぞ」

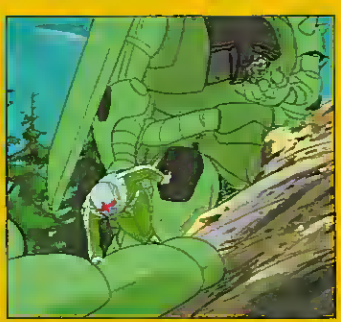


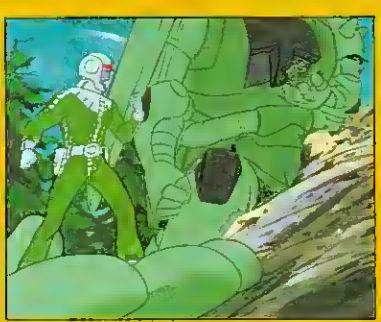
ジーン「たたくなら、今しかないな…」
デニム「我われは偵察が任務だ。シャア少佐にこの事実を伝えればすむ」
ジーン「しかし敵のモビルスーツがあの戦艦にのったら」



デニム「手柄がないことを焦ることはない」





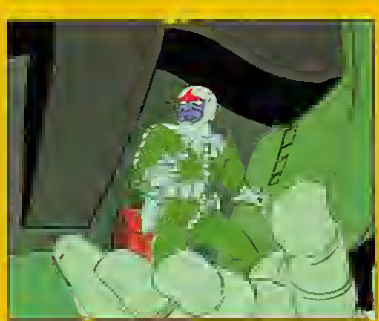


デニム「ジーン！」
ジーン「シャア少佐だって戦場の闘いで勝って出世したんだ」

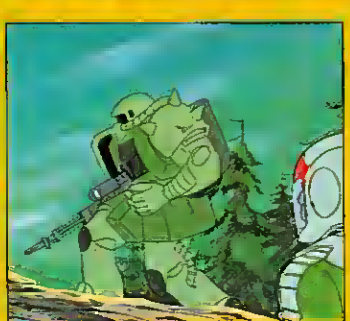








デニム「おいジーン！き、貴様、命令違反を犯すのか。やめろ！ジーン…」



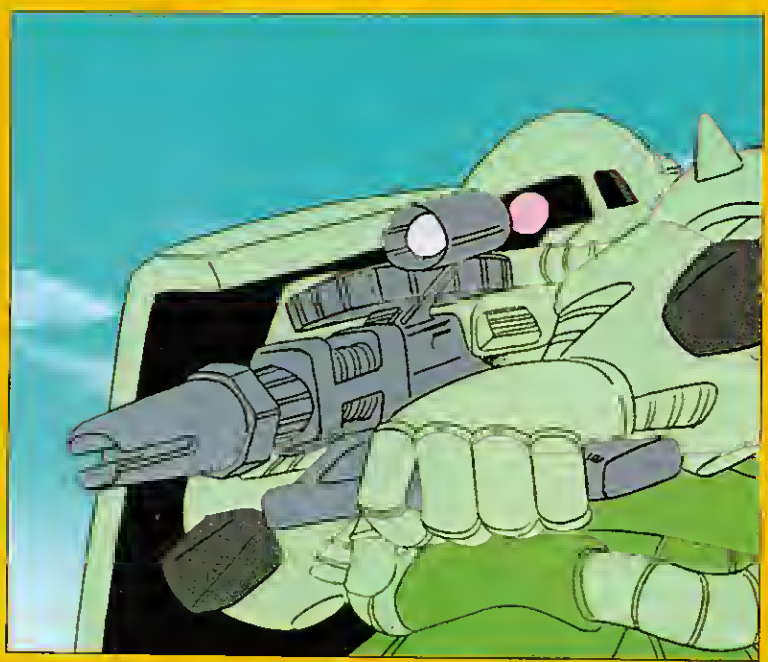


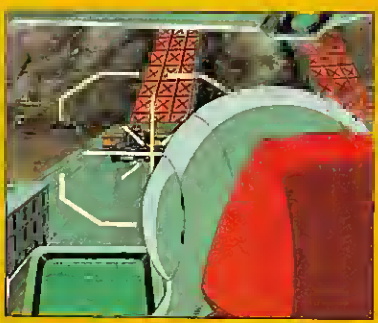




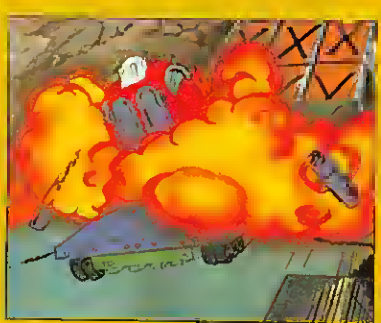
ジーン「フン！手柄をたてちまえば、こっちのものよ」

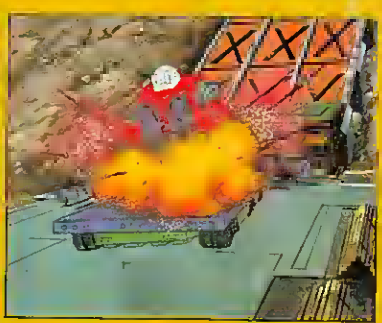








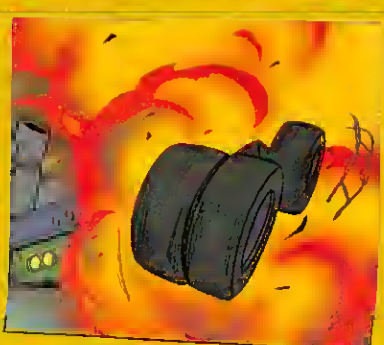


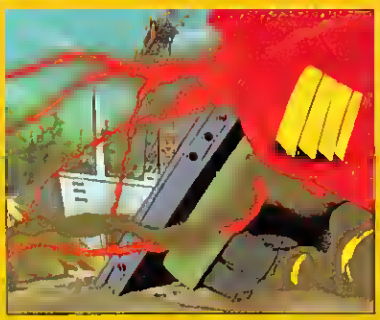
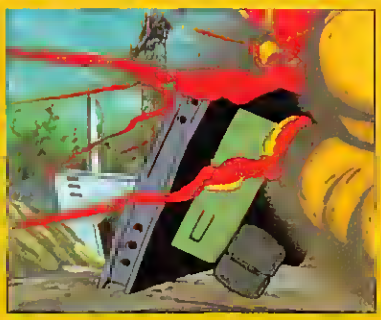








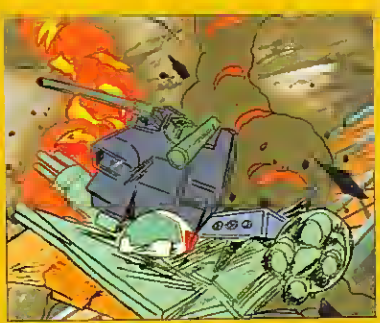
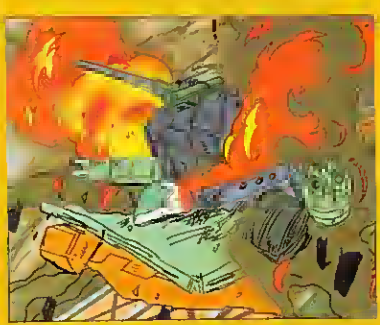
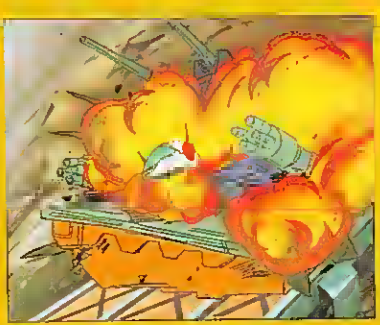




ジーン「へへ…敵を倒すにや早いほどいいってね」








老婆A　「ああー」
子供　「ヒー！」
老人A　「ち、近いぞ」
老人B(off)　「サ、サイドの中らしいぞ」
老婆B　「隕石じゃないの？」
アムロ　「こ、この震動の伝わり方は……爆発だ」
人々(off)　「キャアアー！」

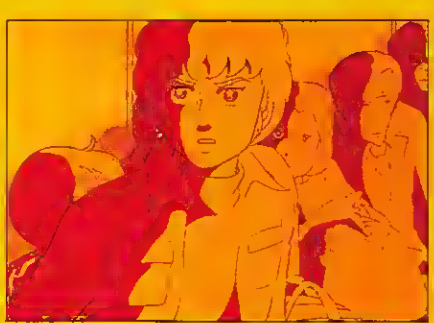




フラウ　「あー！」
フラウの母　「あー！」
フラウの祖父　「ジ、ジオンだ！ジオンの攻撃だ!!」
アムロ　「！」
フラウ(off)　「アムロ！」
アムロ　「父を探してきます」
フラウの祖父　「アムロ君！」







老人C　「君！勝手に出ては皆んなの迷惑に…」
アムロ　「父が軍属です。こんな待避カプセルじゃ保ちませんから、今日入港した船に避難させてもらうように頼んできます」
老人C　「君！」



老人C　「やめたまえ！」
アムロ　「閉めといて下さい」



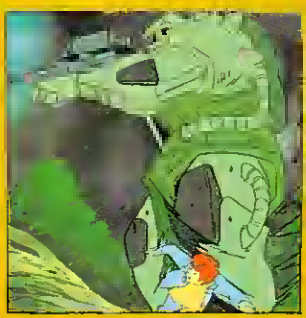




アムロ「う！





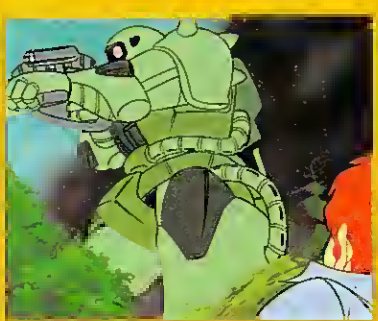


アムロ「うわー！」



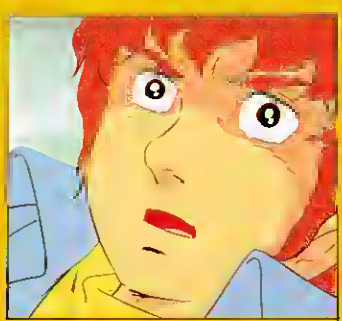


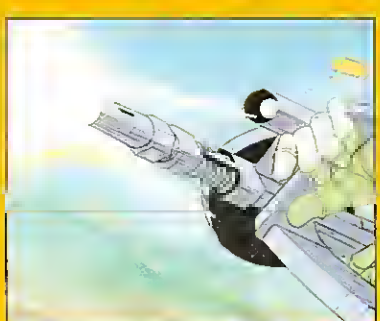
老婆A「アア～。ジ、ジオンのモビルスーツが……」



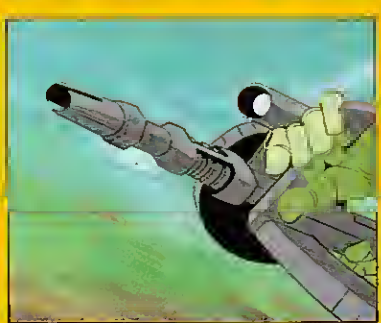


アムロ「こ、これがジオンのザ、ザクか!?……」



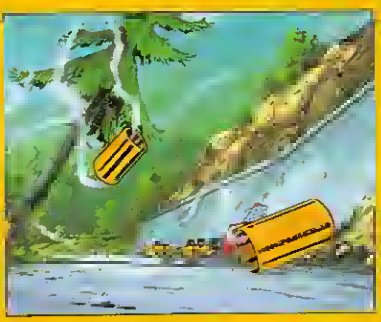
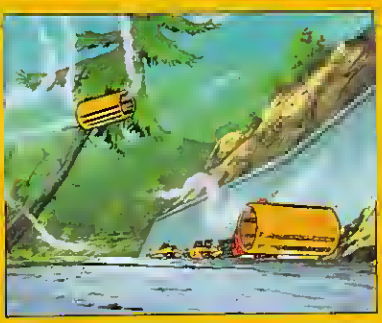














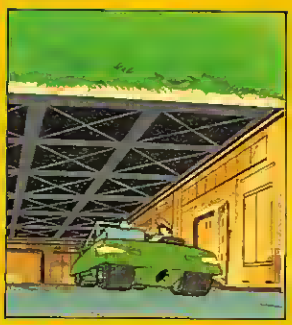




士官　「貴様！民間人は待避カプセルに入っていろ！」



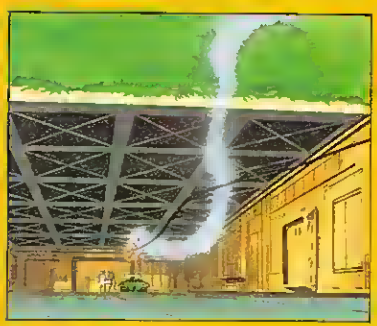
アムロ　「技術士官のテム・レイを探しているんです！どこにいるんですか？」

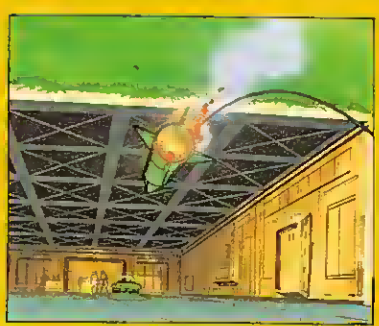


士官　「船じゃないのか！おい、下ろせ！」



アムロ　「危ない!!」



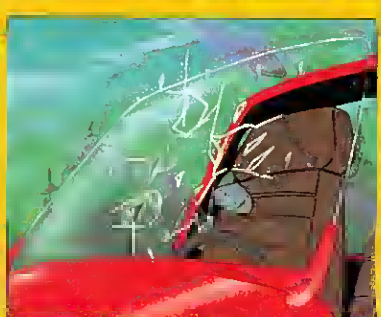


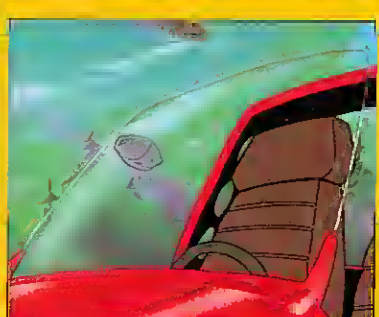


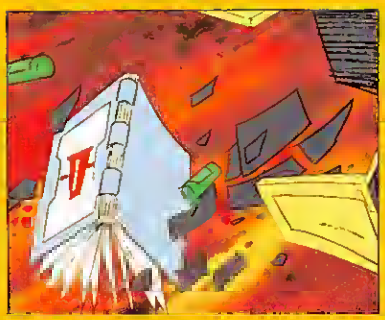


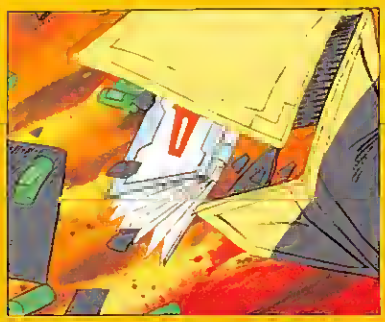


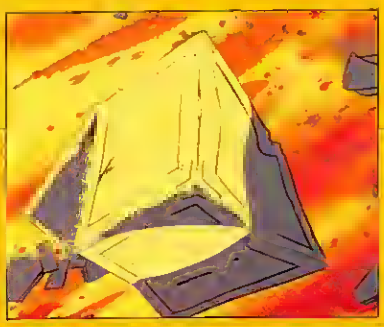














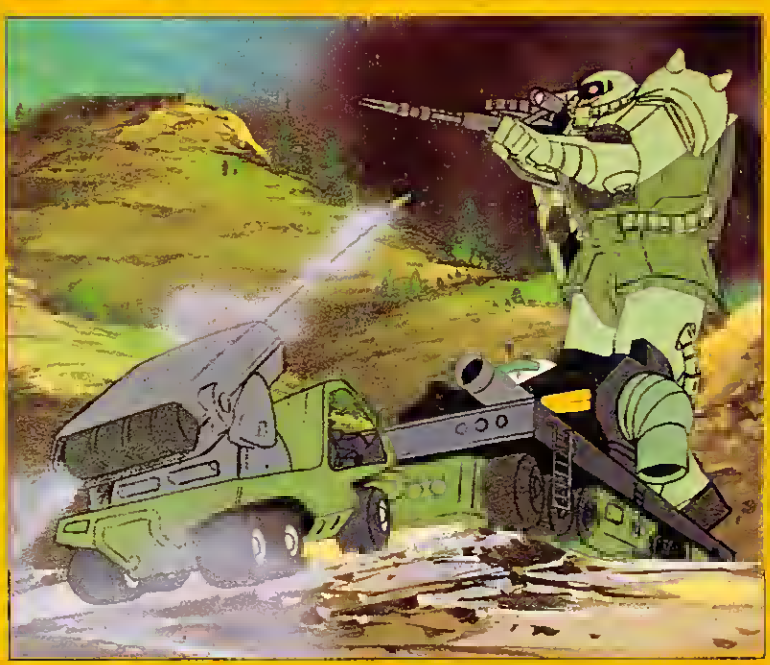


アムロ「あ……」





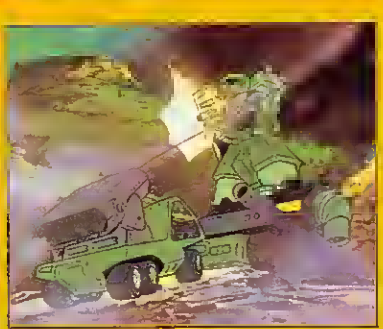
アムロ「うう……！」



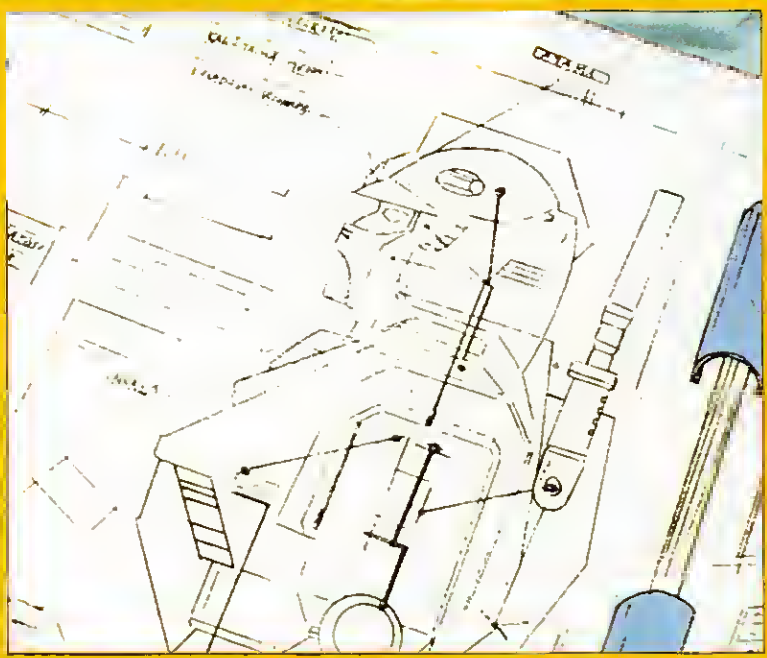









アムロ「し、死んだ……」
アムロ「？」



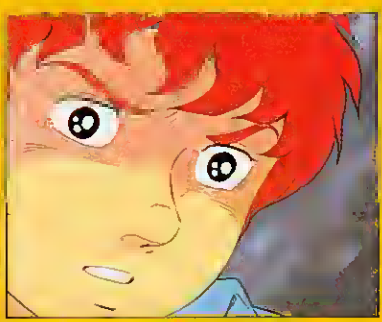


アムロ「……極秘資料？」



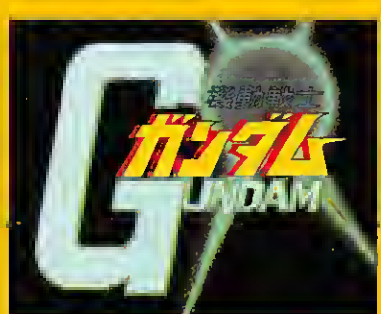








アムロ「…！れ、連邦軍の……モ、モビルスーツ？」

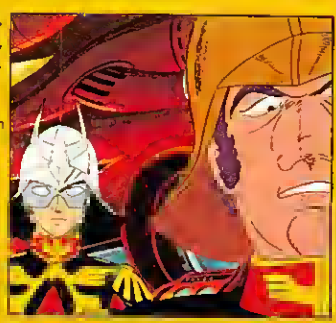






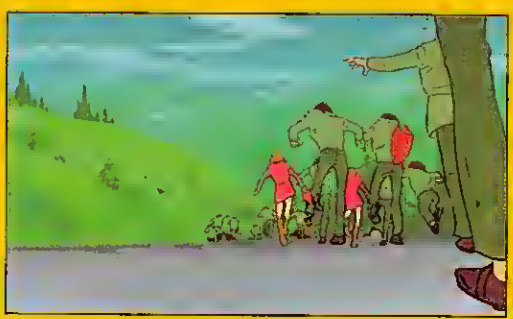
スレンダー「は、はい。自分はデニム曹長の命令を守って……」
シャア「デニム曹長は！」
スレンダー「ハッ！ジーンを援護するために、後方から出ました」





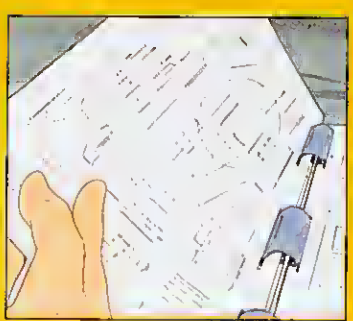
シャア「連邦軍のモビルスーツは存在するのだな！」
スレンダー(off)「はい！」
シャア「お前は、撮れるだけの写真をとって危険になったらひき上げろ」
スレンダー「は、はい」

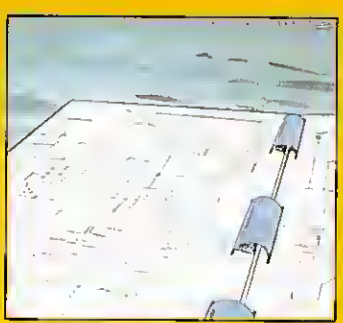
シャア「……」
ドレン「どうします」
シャア「デニムに新兵がおさえられんとはな…連邦軍のモビルスーツが動きだしたとなると、デニムらは苦戦しよう……私がでるしかないかも知れん。船をサイド7に近づけろ！」
ドレン「はっ！」

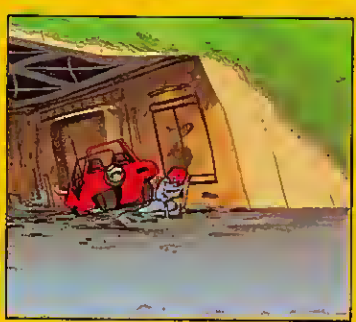




人々(off)「港へ行くんだ！戦艦が待っているぞ…逃げおくれるな…走って行くんだ！リフトはこわれてるぞ。28番へいけ！戦艦が来てるんだ！」







アムロ(off)「コンピューター管理で操縦ができる？」

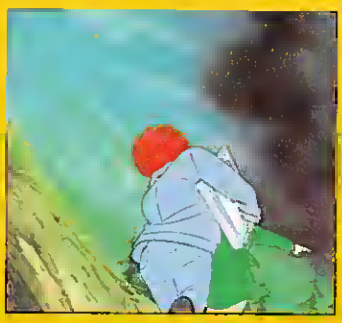




フラウ(off)「アムロ！」



アムロ「教育型タイプ・コンピューター？……すごい！おやじが熱中するわけだ」

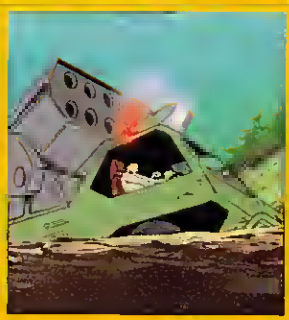




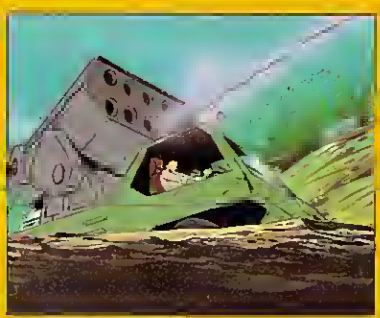
フラウ「アムロ、何しているの！」



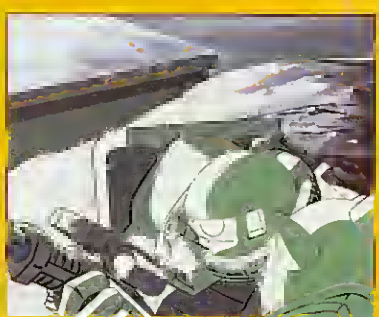


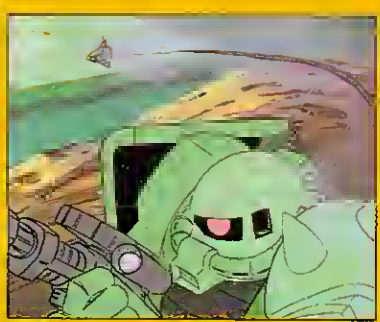


兵E「もっとだ！射程距離にあと10メートルだ！」

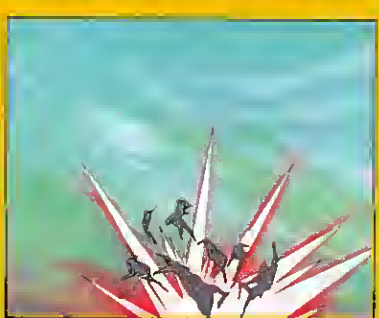
















人々「うわー！」
レツ「ちくしょオー！」



アムロ「！」
フラウ「アムロ……」



テム(off)「急げ、奥のリフトが使えるはずだ」



アムロ「フラウ・ボウは港に上がれ！」



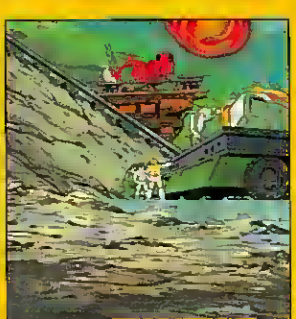
フラウ「アムロ！」



フラウの母(off)「フラウ早く」
フラウ「…はい！」

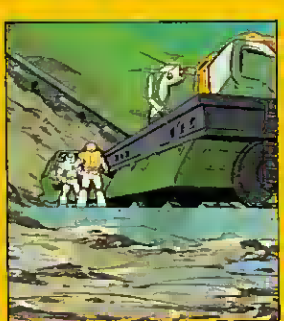


アムロ「父さん！」



テム(off)「第3リフトがあるだろう！」
兵F(off)「しかし、リフトは避難民で一杯なんです！」
テム(off)「ガンダムを優先させろ！」





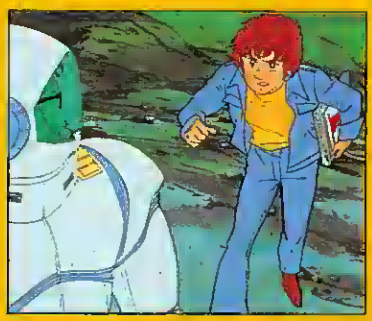
テム「避難民より、ガンダムをホワイトベースに収容して戦闘準備をさせるんだ！」
兵F「ハッ！」



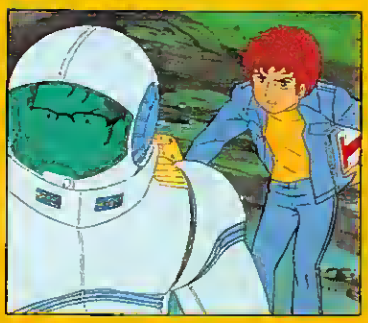
アムロ「父さん!!」



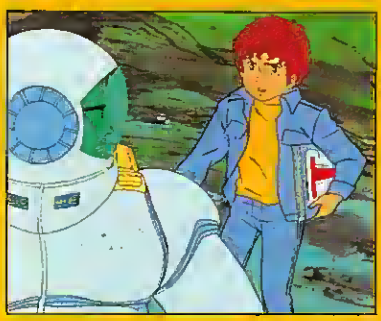
テム「…!?アムロ、避難しないのか？」



アムロ　「待避カプセルが何の役に立つんです。父さんは人間よりモビルスーツの方が大切なんですか？」

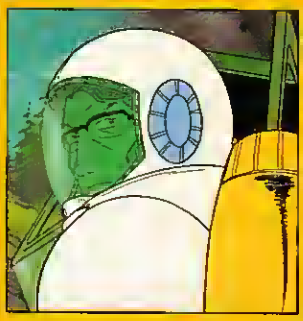


テム　「早くホワイトベースへ逃げこむんだ」
アムロ　「ホワイトベース？」
テム　「入港している軍艦だ」



テム　「何をしている！」
兵F　「エンジンが、かかりません…」





テム　「ホワイトベースへ行け！牽引車を探してくる」



アムロ　「父さん！」





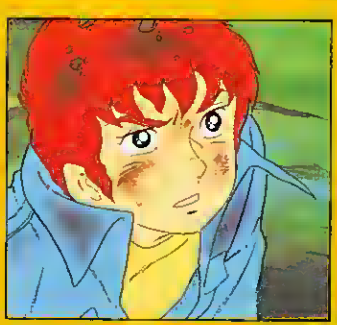
アムロ　「これが連邦軍の秘密兵器だっていうモビルスーツ…？ガンダム？」



アムロ　「あっ！」

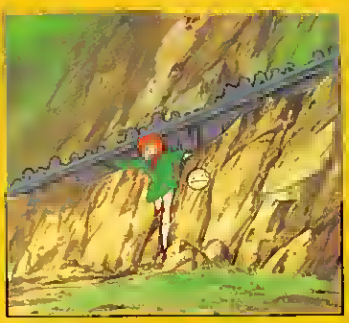


アムロ　「う……」
フラウ(off)　「アムロ、早く！」
アムロ　「フ、フラウ！」

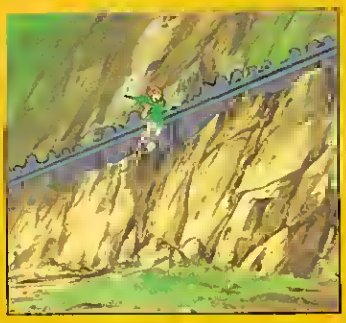




「キャーン！」



フラウ「大丈夫、アムロ！」















アムロ「フラウ・ボウ！」

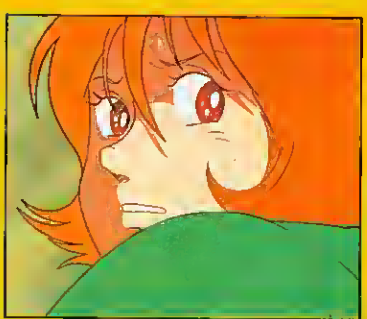




フラウ「うう…う…う…う…」

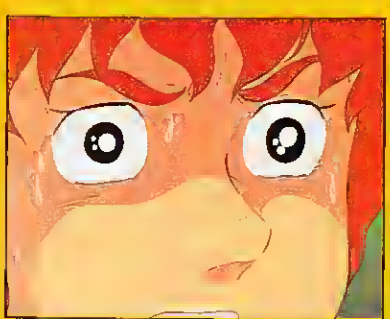


アムロ「フラウ、フラウ・ボウ！」



アムロ「フラウ・ボウ！しっかりするんだ」
フラウ「う……ア、アムロ」
アムロ「立てるか!?」
フラウ「あ！う！……」





フラウ「か、か、かあさん…お、おじいちゃん…」
アムロ「……」







フラウ「ああ！　ああ！」



フラウ「かあさん、かあさん、かあさん……あああ……」

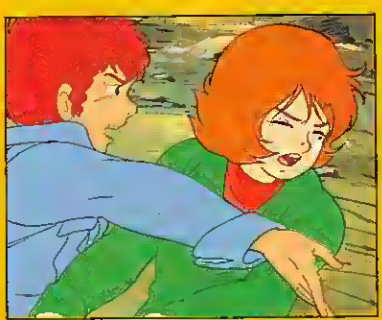




フラウ「ああ、あああ……あああ　ああ」



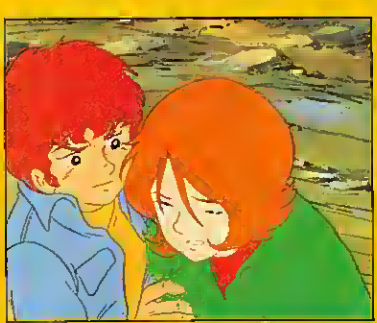
アムロ「フラウ、君までやられる。逃げるんだフラウ！」

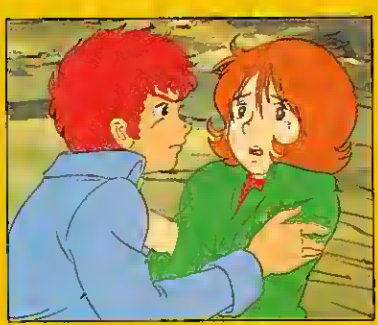


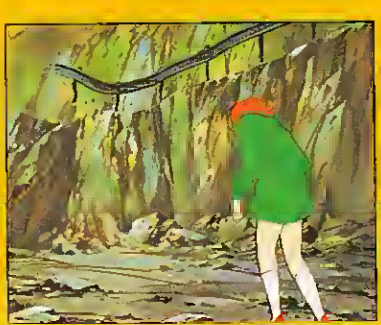
フラウ「いやぁよ！」
アムロ「しっかりしろ！君は強い女の子じゃないか！」

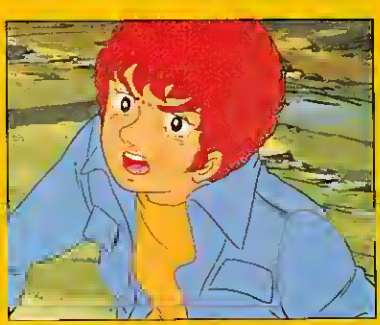


フラウ「う、う、う…！」
アムロ「港まで走るんだ。走れるなフラウ・ボウ！ぼくもすぐ行く。行くんだ！走れ！フラウ・ボウ！」

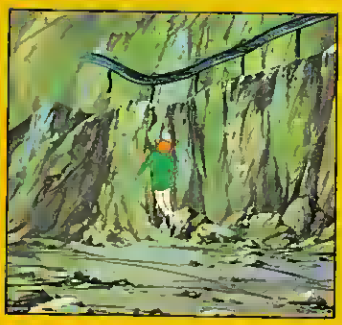








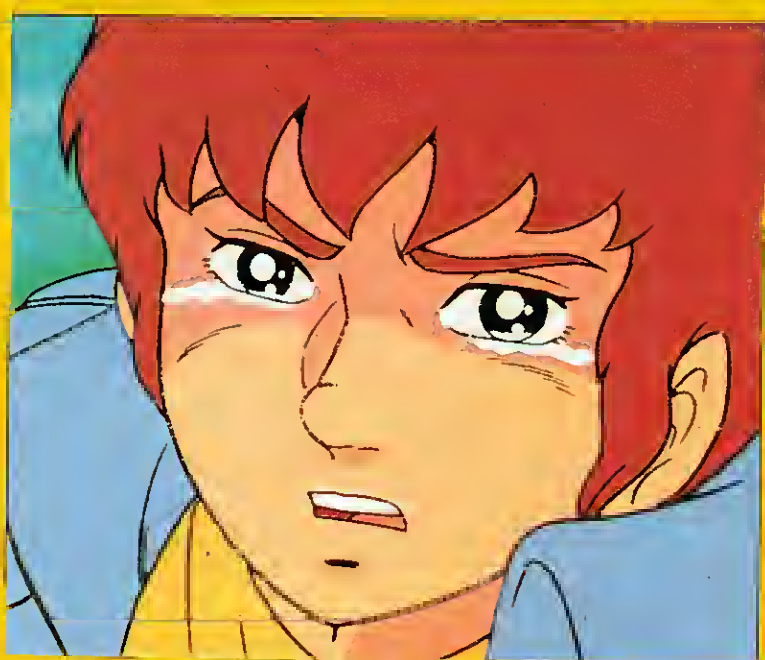




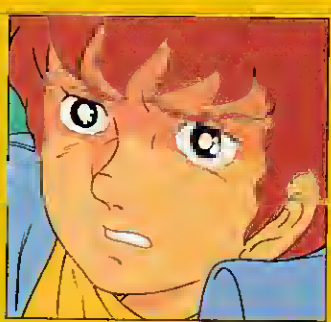
アムロ「走れ、フラウ……」

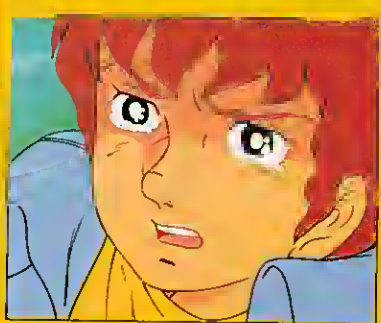






アムロ「…そ、そうだ…フラウ・ボウ……い、いいぞ」

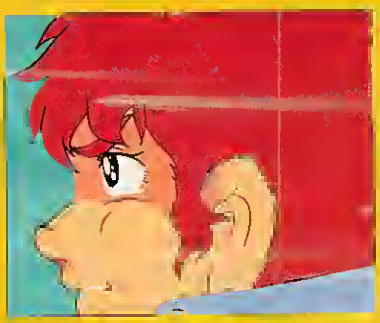




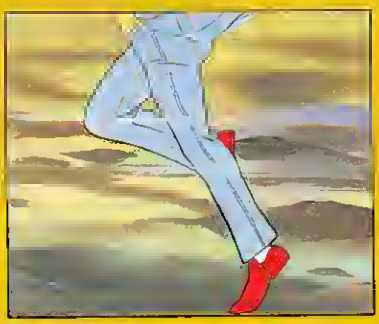


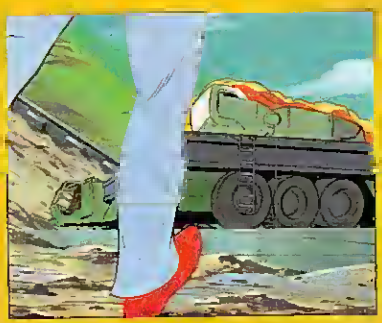


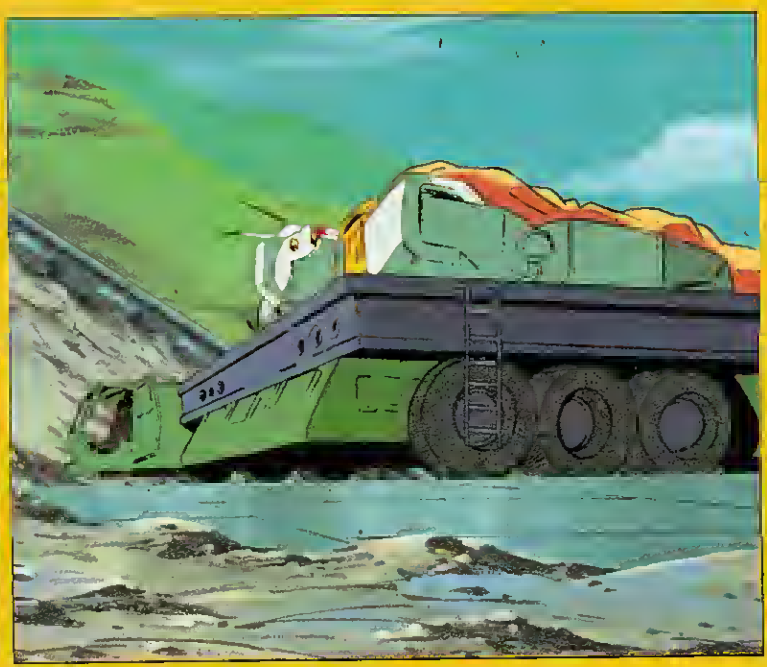


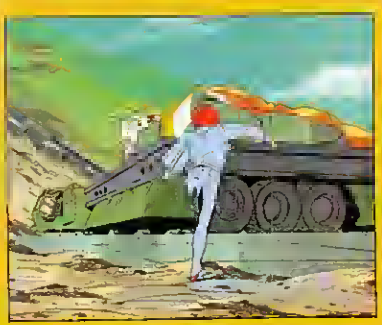


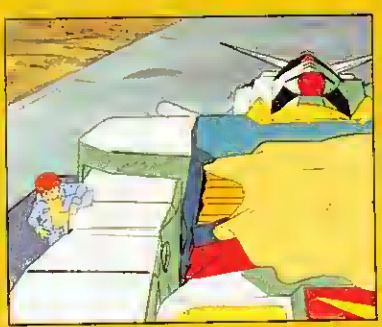




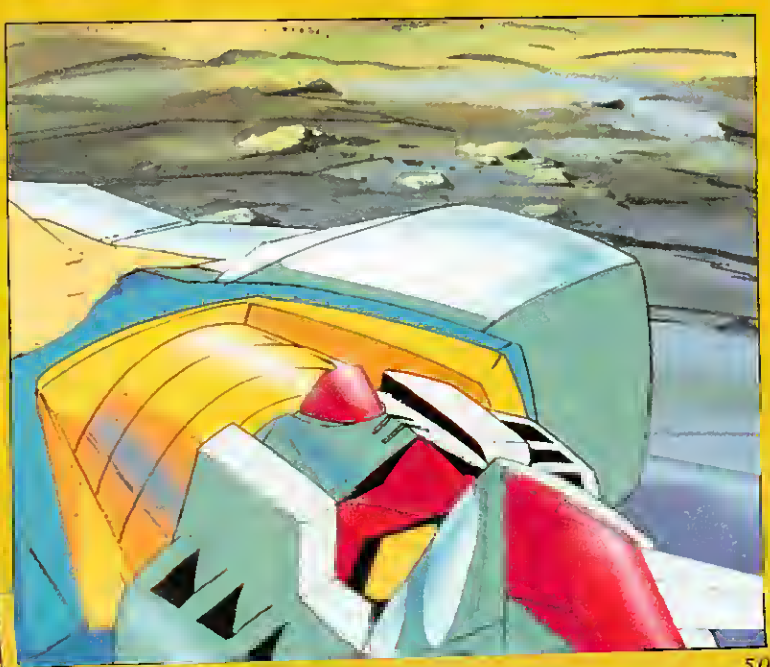


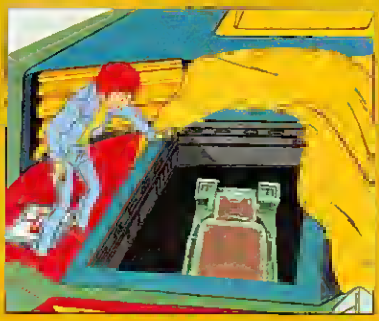


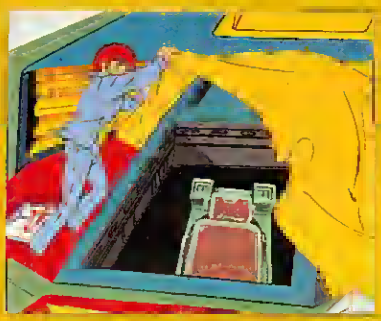










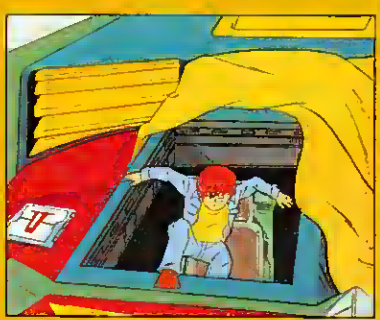




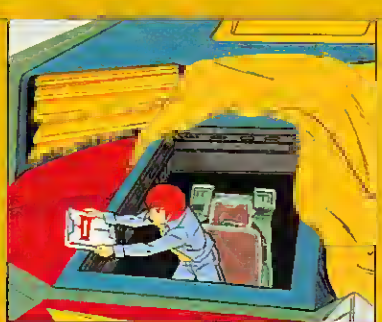


アムロ「動くぞ…こいつ」





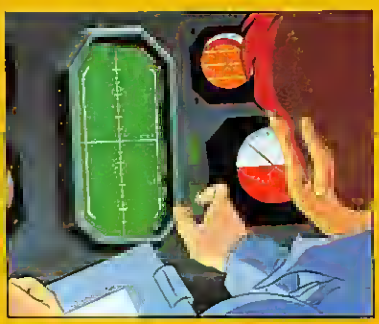


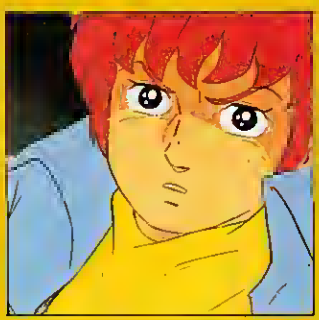




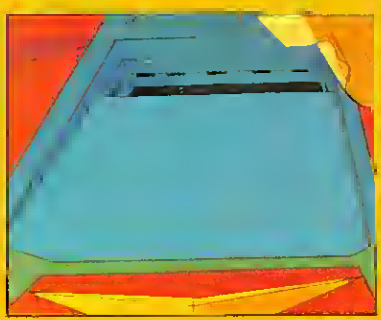
アムロ「同じだ。こいつか？」



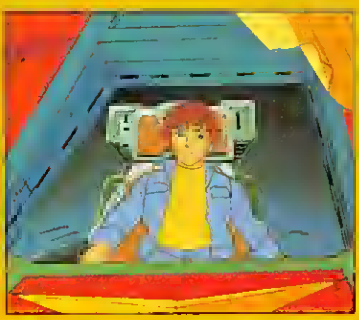




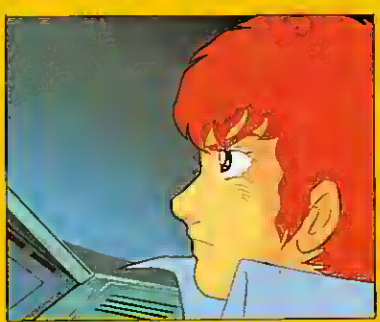
アムロ「すごい…5倍以上のエネルギーゲインがある！」

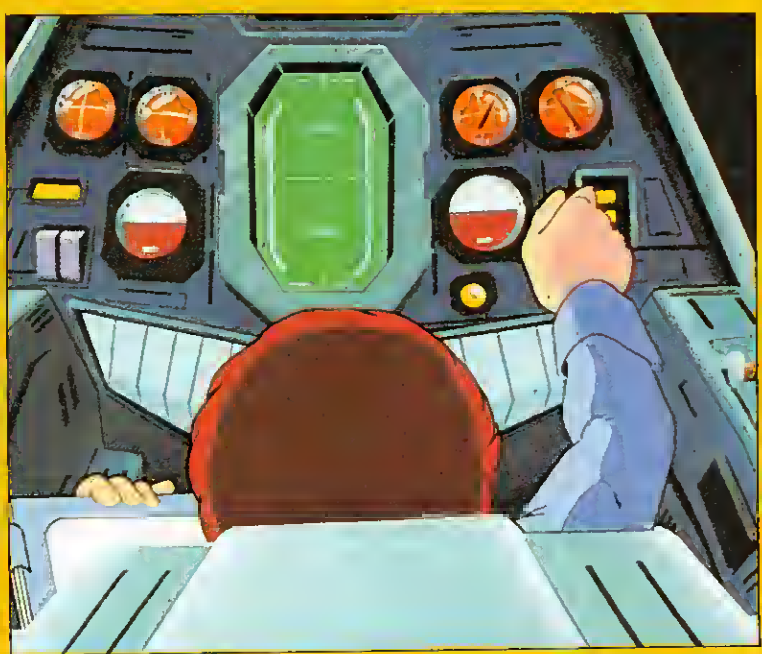


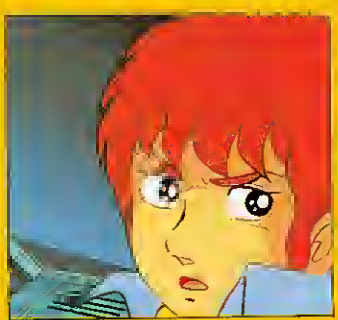




アムロ「やってみるさ！」

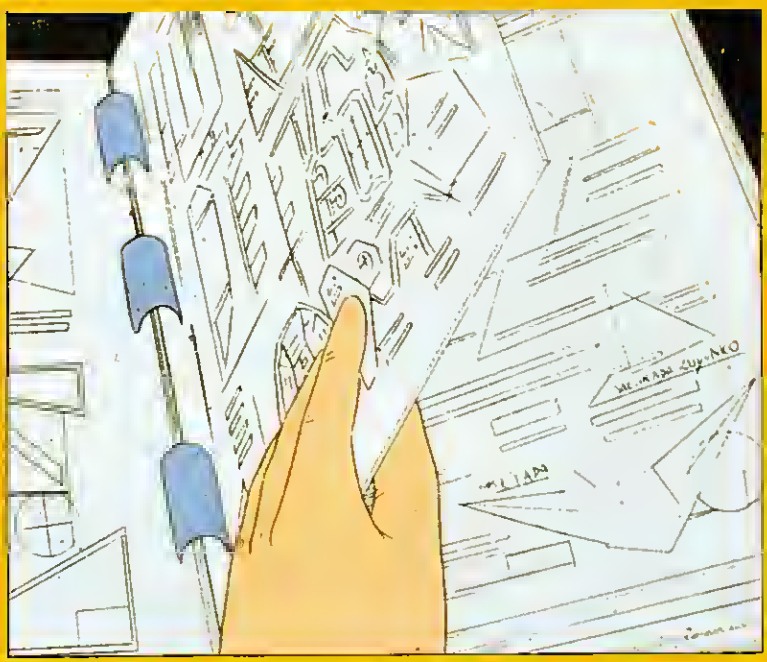






アムロ「こ、これだけか？」





アムロ「こいつだ」





アムロ「左と右か」



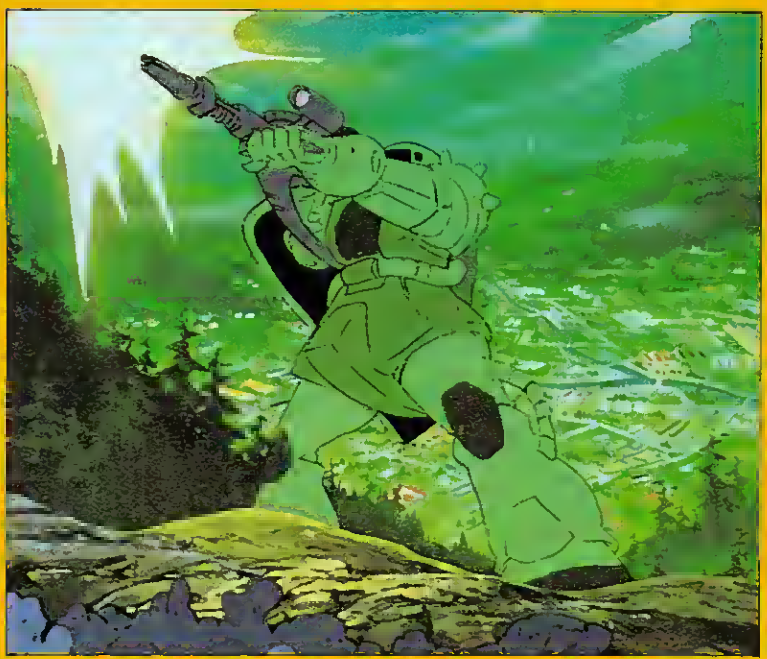
アムロ「間に合うか？」













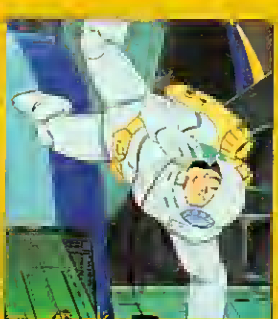
人々「うわー！」











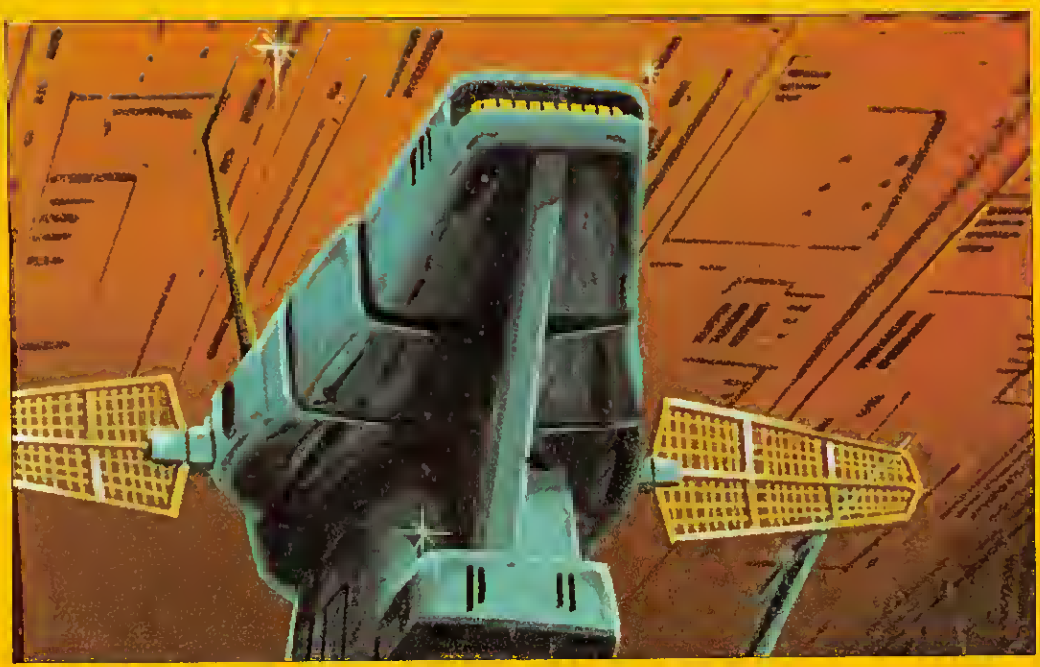
兵G「ホワイトベース！コアファイター発進できませんかァ！」



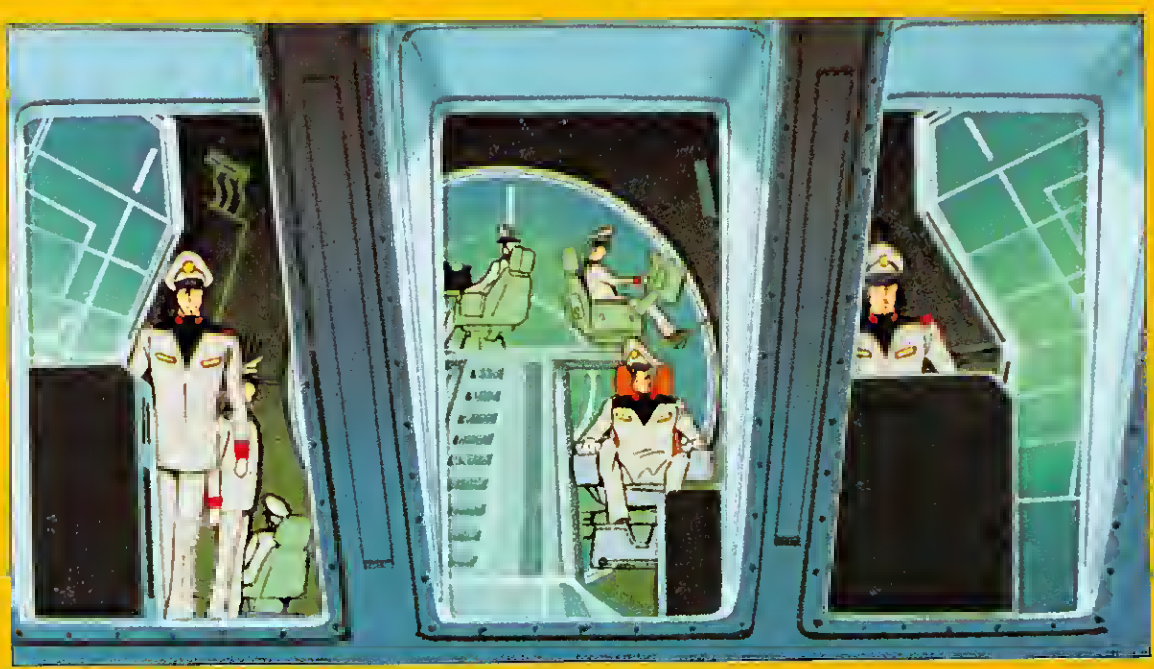
ブライト「急いで！早く！武器を！」



キッカ「ギャー！」



兵H(off)「出来るわけないだろ！サイド側の隔壁を開かなけりゃあな」



艦長(off)「戦闘員は全員出たのか？」





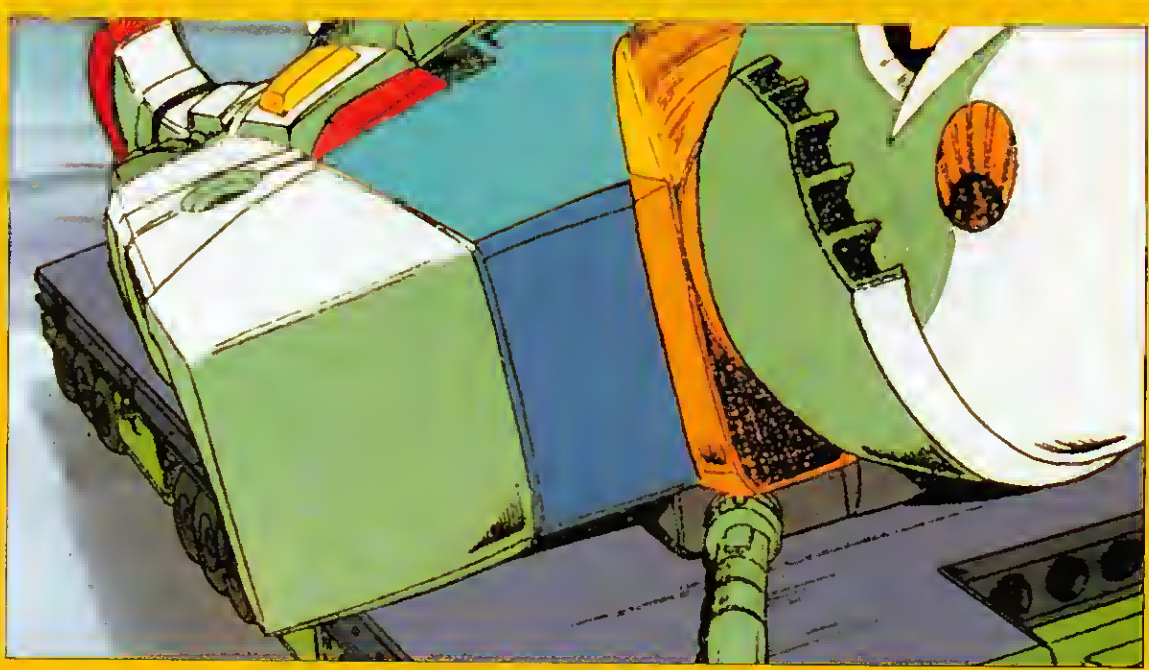
兵1「ハッ！　パイロットもガンダム収容に下ろさせました」

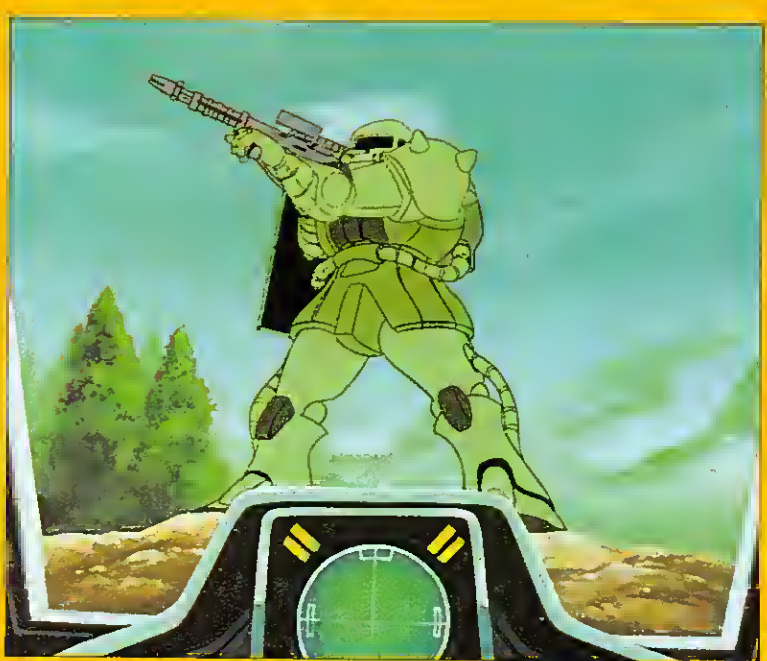
艦長「うむ、サイドの中から攻撃とはな……」





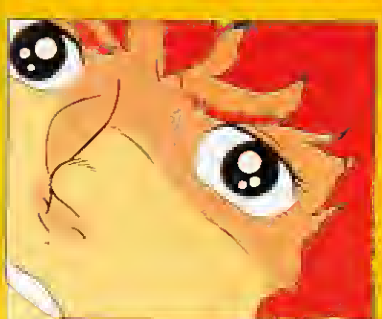






アムロ「う…た、立ち上がって……」

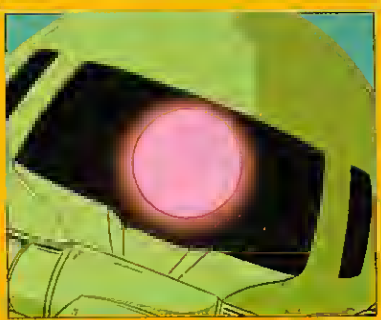






アムロ「し、正面だ？」



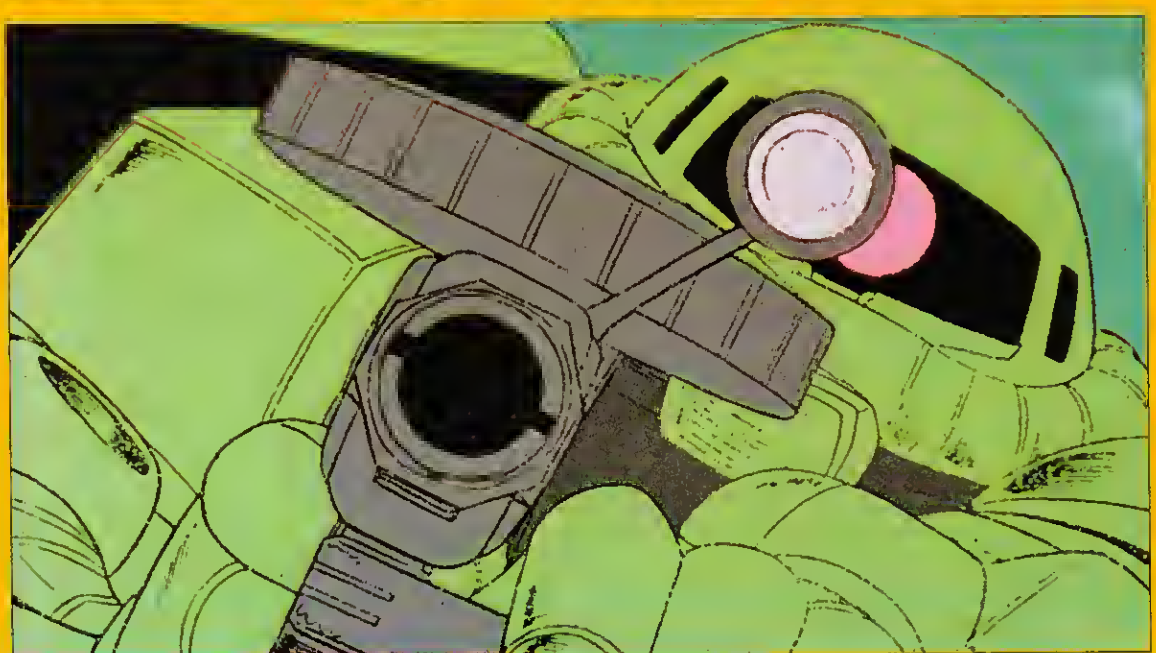




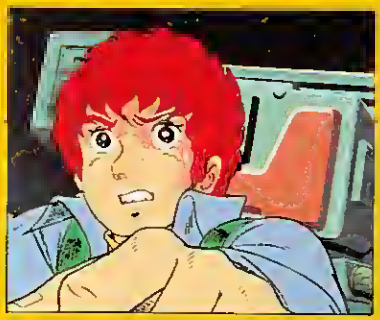




アムロ「ぶ、武器は……」





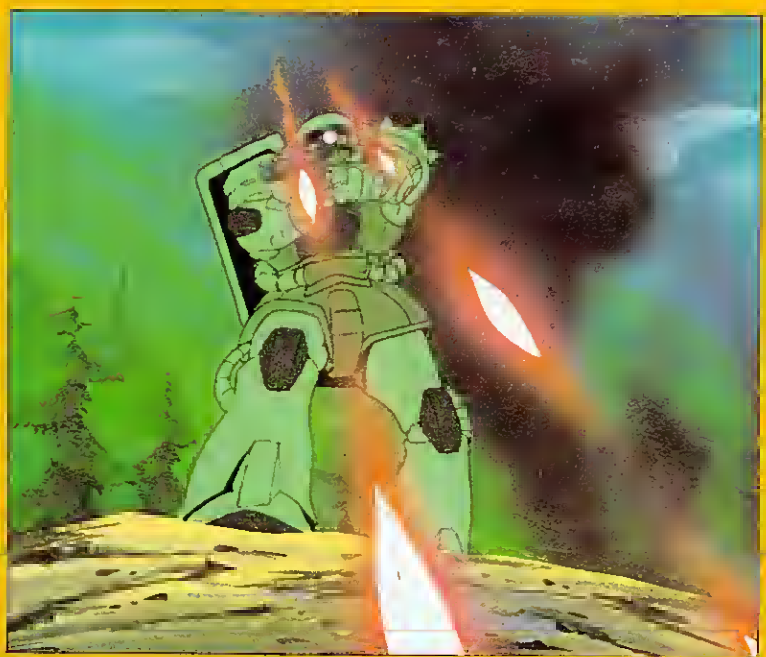




アムロ「うわーっ！」



ジーン「デ、デニム曹長！て、敵のモビルスーツが動きます！」





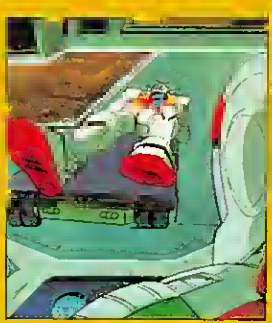
デニム(off)「なにーっ！」



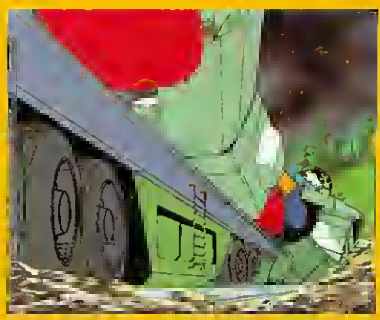
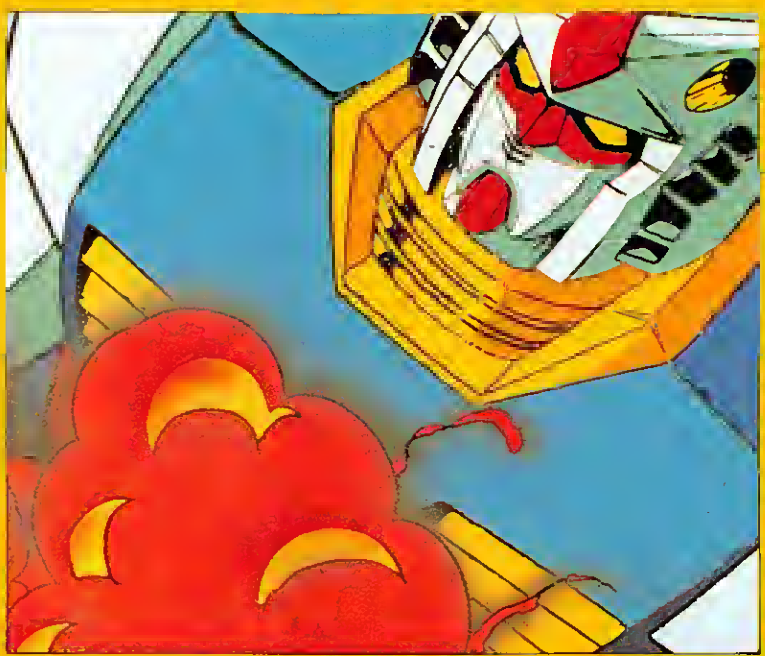
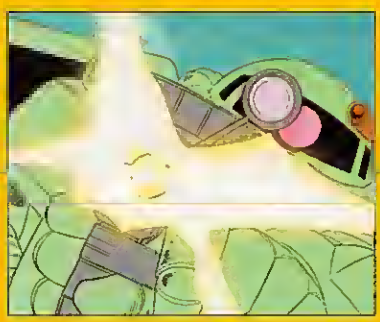
デニム「みんな部品ばかりだと思っていたが」
ジーン(off)「いちばん奥のやつが完成品らしい」
デニム「退れ！ジーン、性能が判らんうちは……」



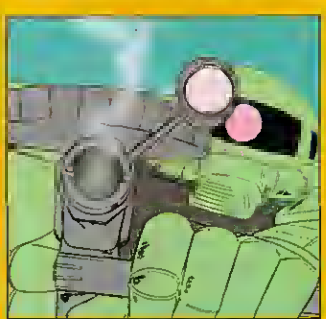
ジーン「いや、まだよく動けんようです。やります」






アムロ「来た！」

ジーン「な、なんてモビルスーツだ！ライフルを全く受けつけません！」



デニム(01)「退るんだジーン」

アムロ「見てろよザクめ！」





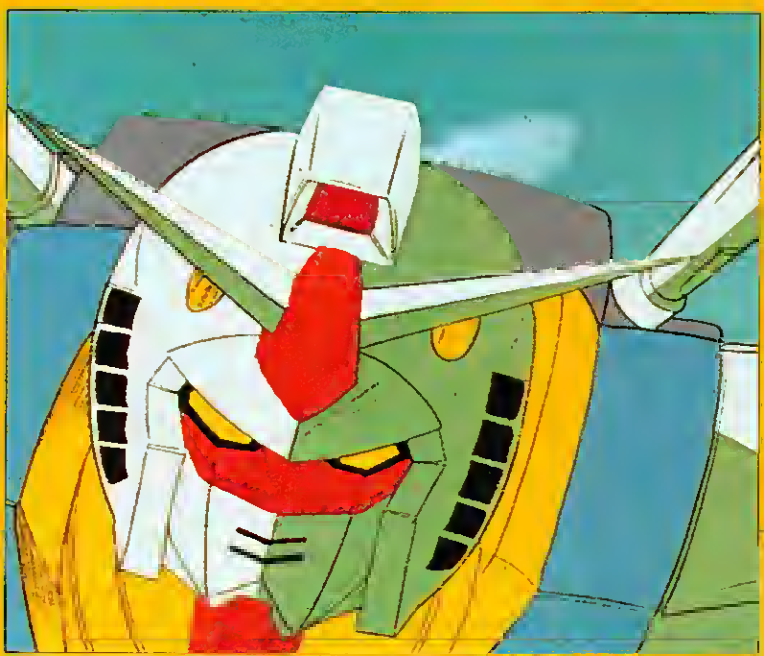
デニム「我われは偵察が任務なんだ。ひくんだジーン！」





ジーン「何云ってるんです！ここで倒さなければ、敵はますます…う！」

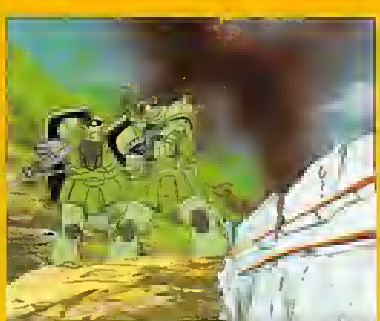
デニム「た、立った！」

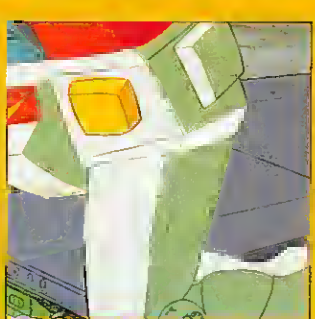






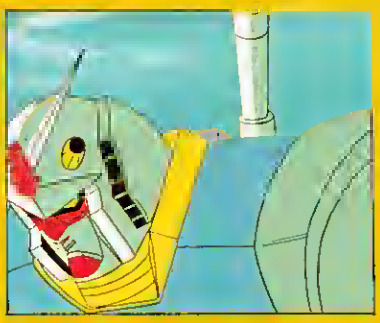


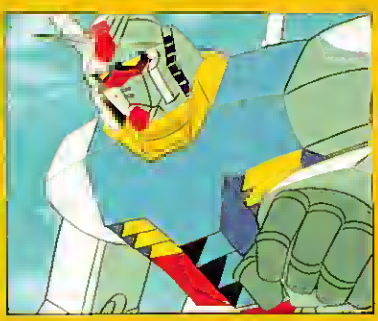




アムロ「……くっ！た、たってくれ……立てよ……！」





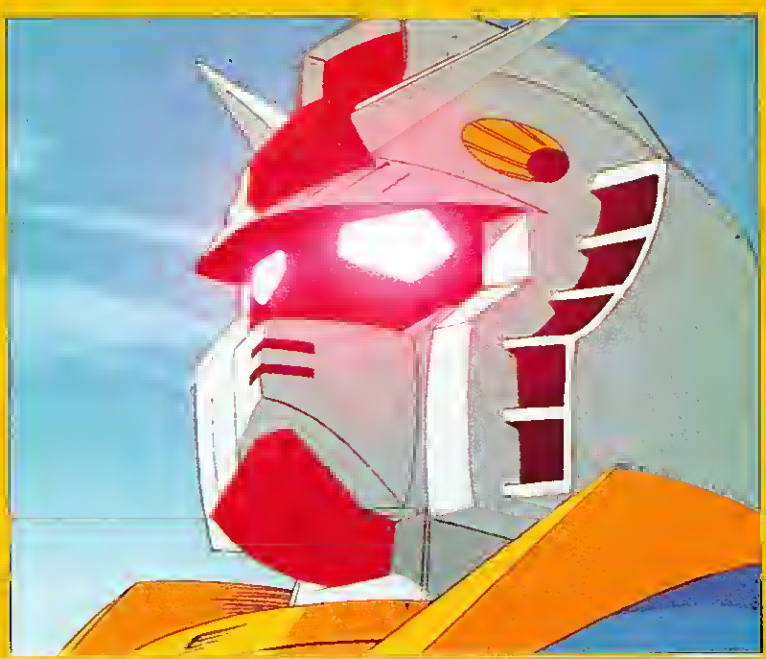




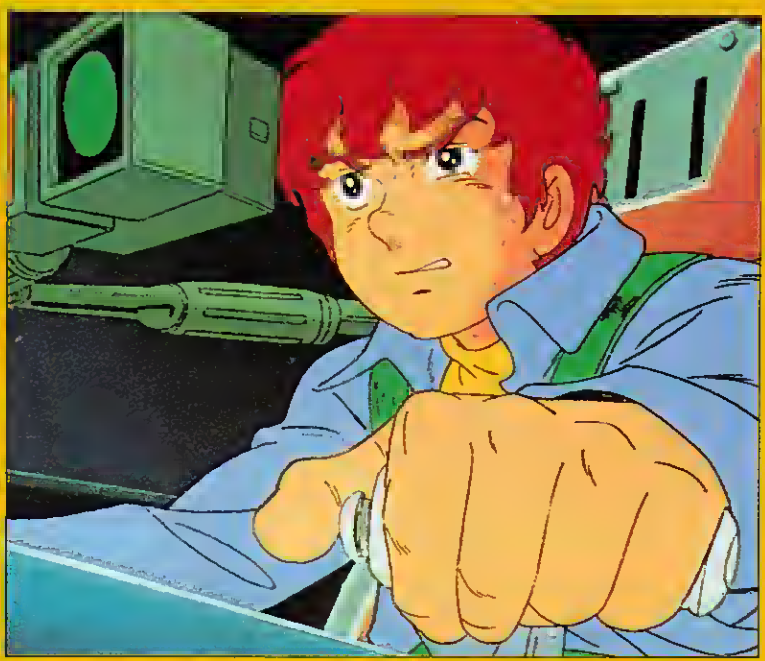


アムロ　「こ、これか！」





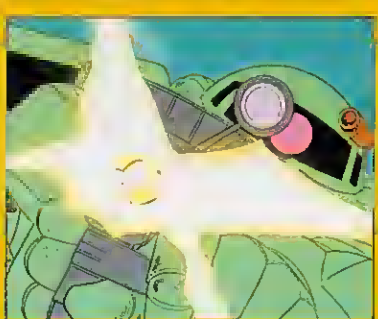


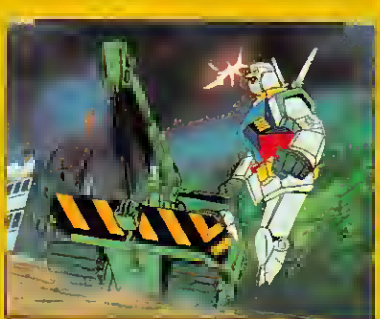


















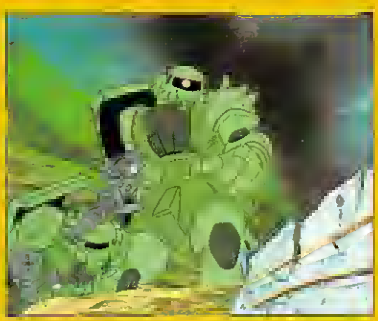
兵F　「技師長、味方のモビルスーツが動き始めました！」
テム　「動く？」
兵F　「しかし、弾丸はテスト分しか入ってないはずです」



テム　「何て攻撃の仕方だ！誰がコックピットにいる…」



アムロ　「うっ…!?弾丸が切れた？」



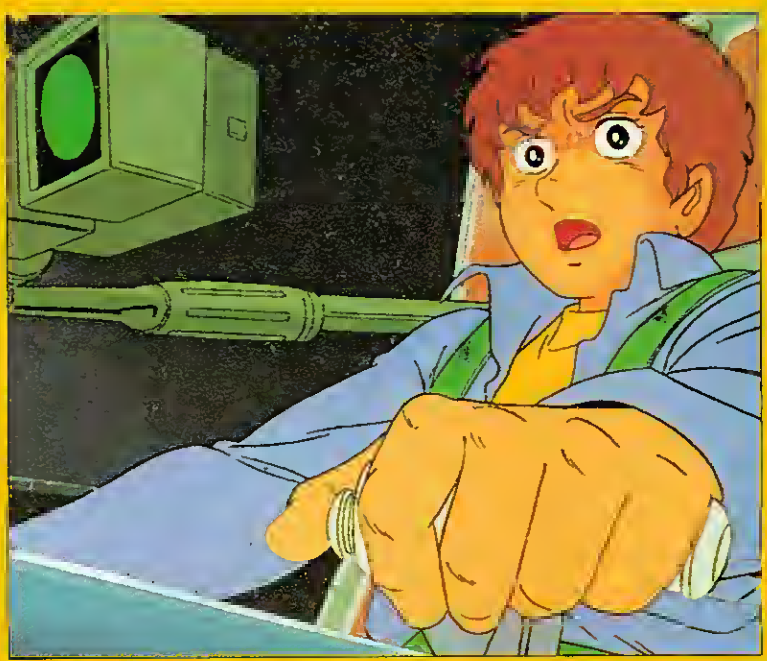




ジーン　「やってやる！いくら装甲が厚くったって……」



アムロ　「き、来た」







アムロ　「アア……」



ジーン　「へへ…おびえていやがるぜ、このモビルスーツ」

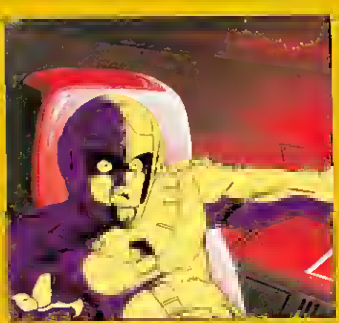



シーン
「うわ〜!」









ジーン　「うわーっ！」



デニム　「う…わ、わがジオン軍が誇るモビルスーツ・ザクを、こうも簡単につきとばせるパワー？あれが連邦軍のモビルスーツの威力なのか！」





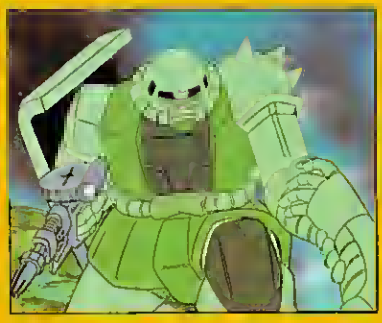




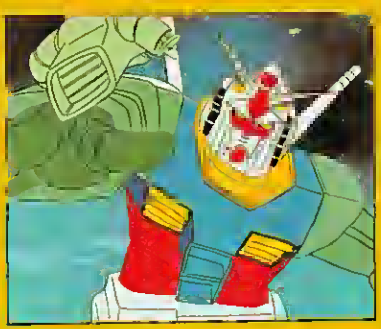


アムロ「…す　すごい…」







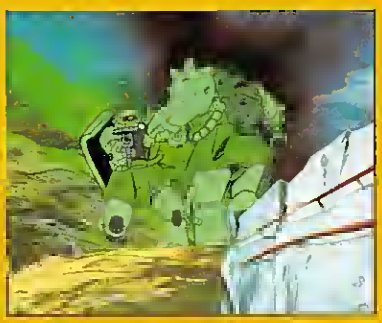


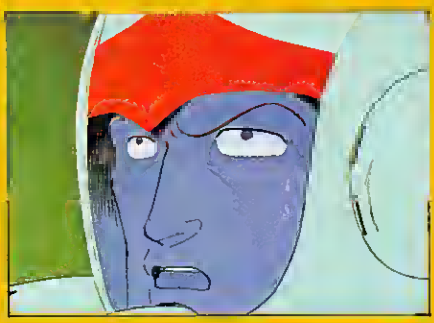

アムロ「逃がすものか！ぶ、武器はないのか、武器は！」

アムロ「これか？」

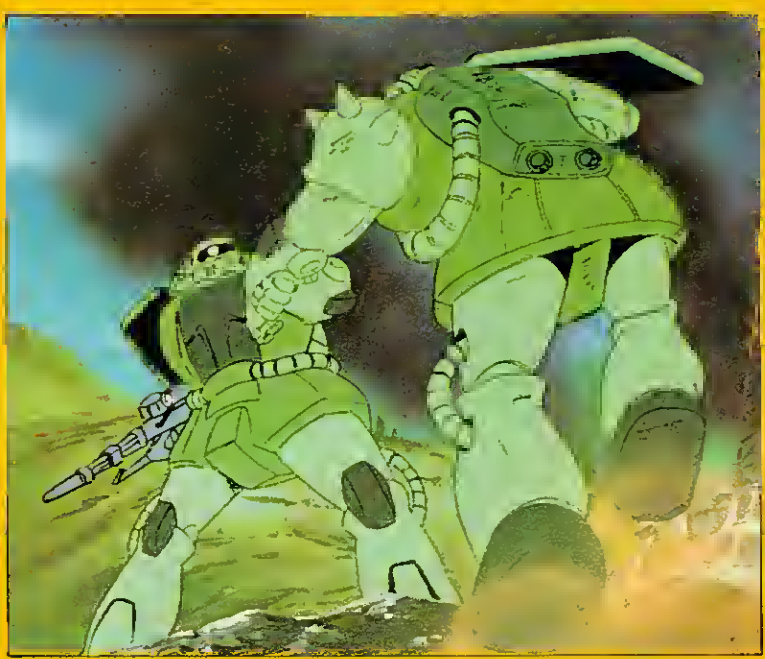


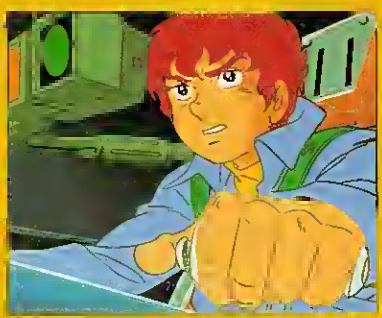
デニム「ジーン、スレンダーが待っている所までジャンプできるか！」



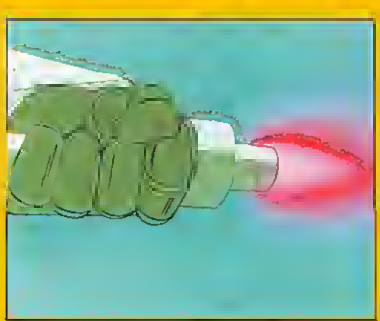


ジーン「補助カメラが使えますから…ジャンプします」





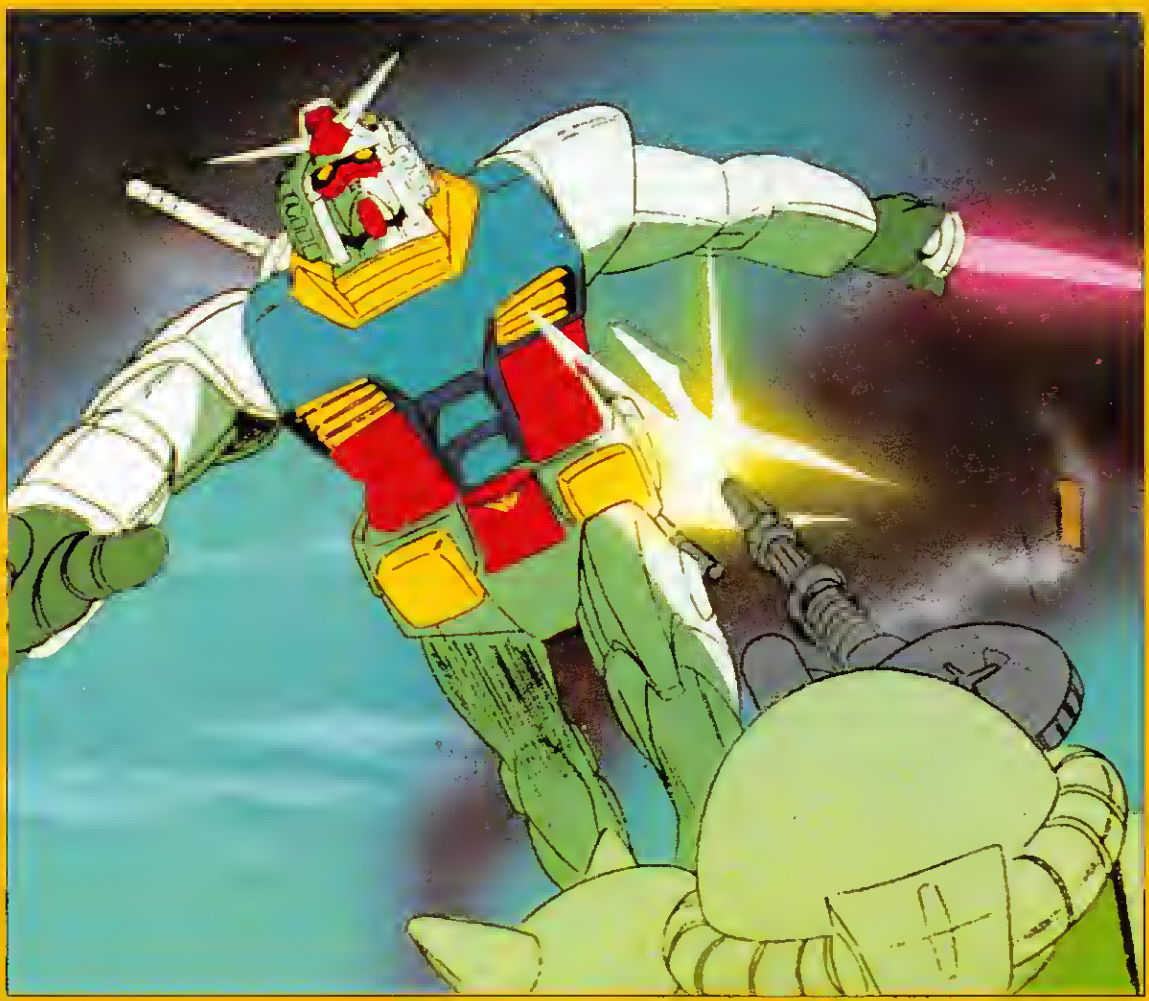






アムロ「逃がすものか！」







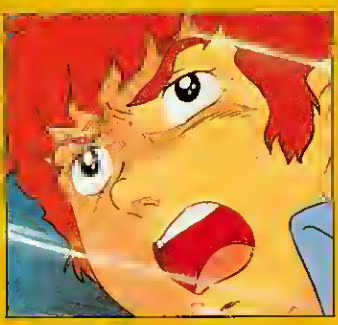








ジーン「うわー！」

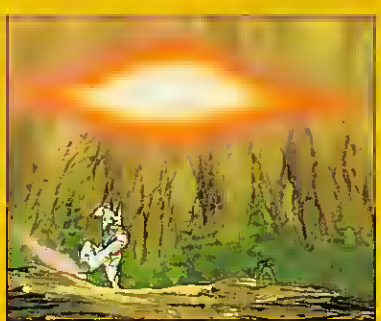


アムロ「うわー！」











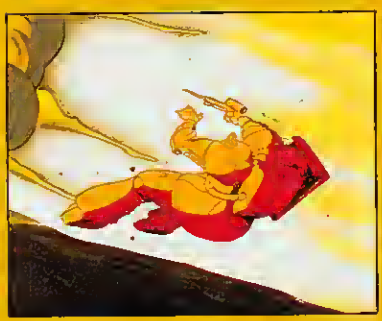






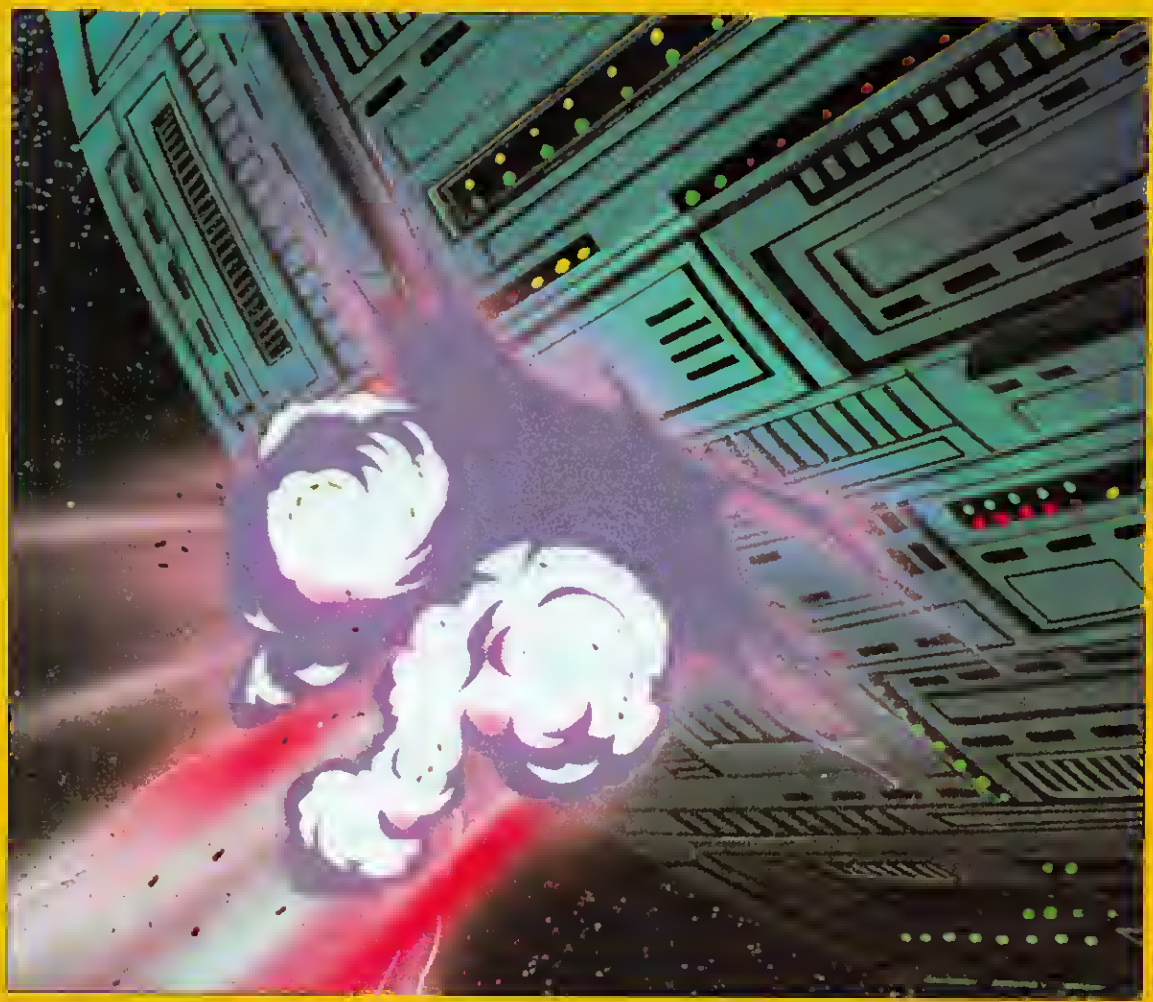


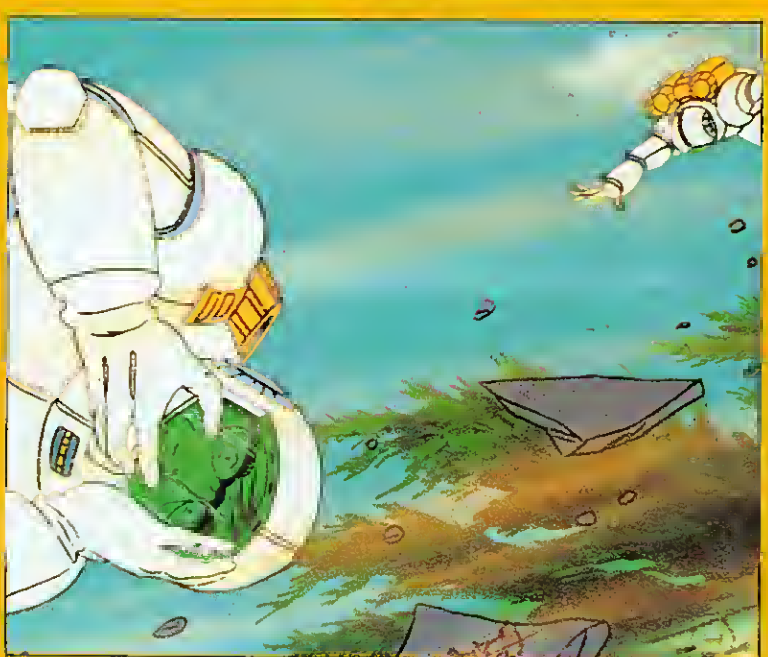
アムロ「う、うーっ」







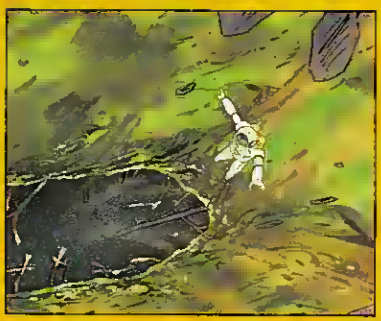


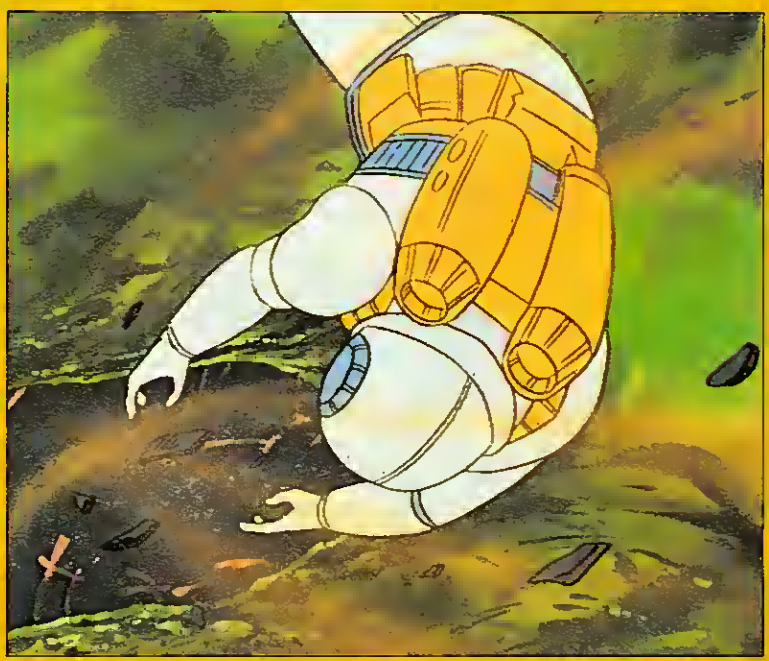




テム「うわー！」







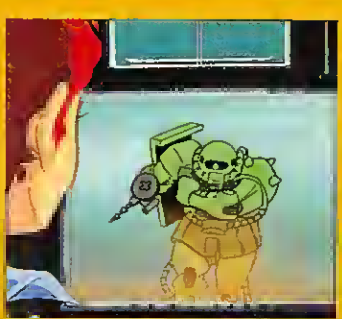


テム兵「うわ」
「あー！」







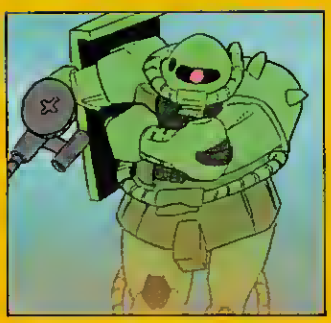




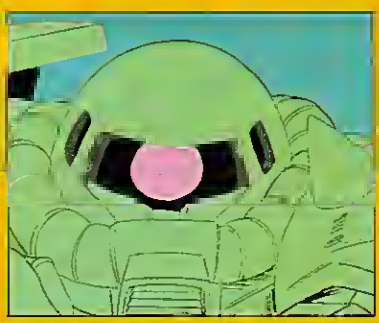


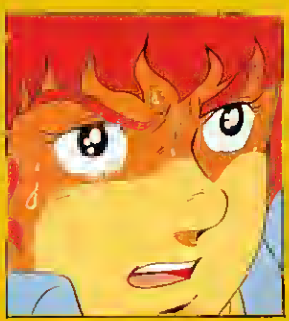
アムロ「モ、モビルスーツのエンジンをやれば、サイド7もやられちゃうのか…ど、どうすりゃいいんだ」



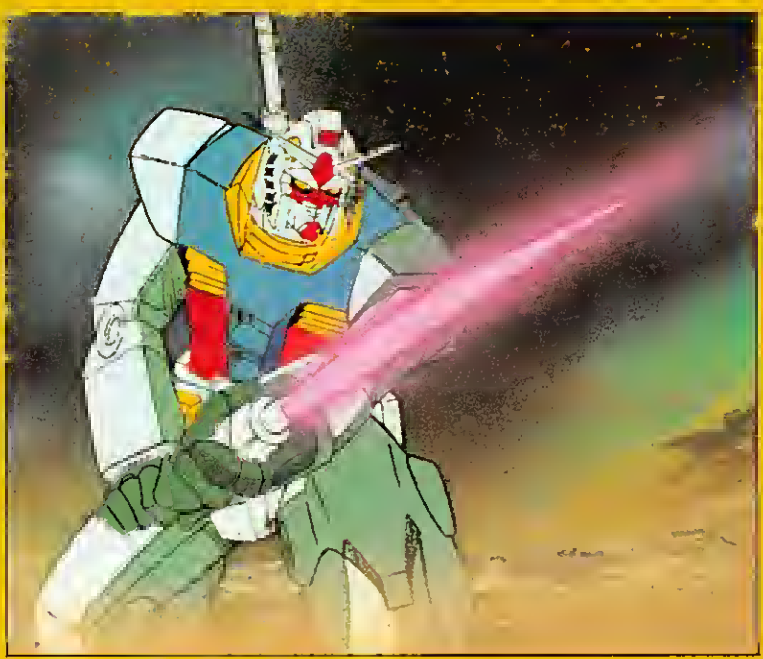


デニム　「よくもジーンを！」





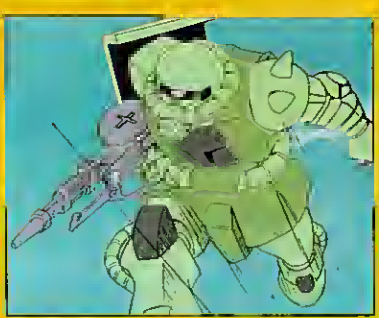
アムロ　「ど、どうする……コクピットだけを狙えるか？」





アムロ　「こんどザクを燃発させたら、サイド7の空気がなくなっちゃう…」









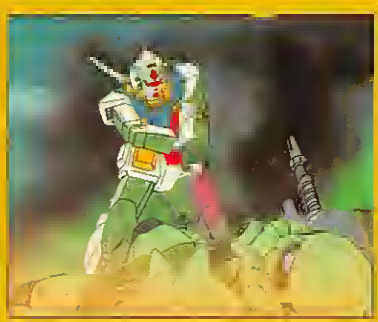


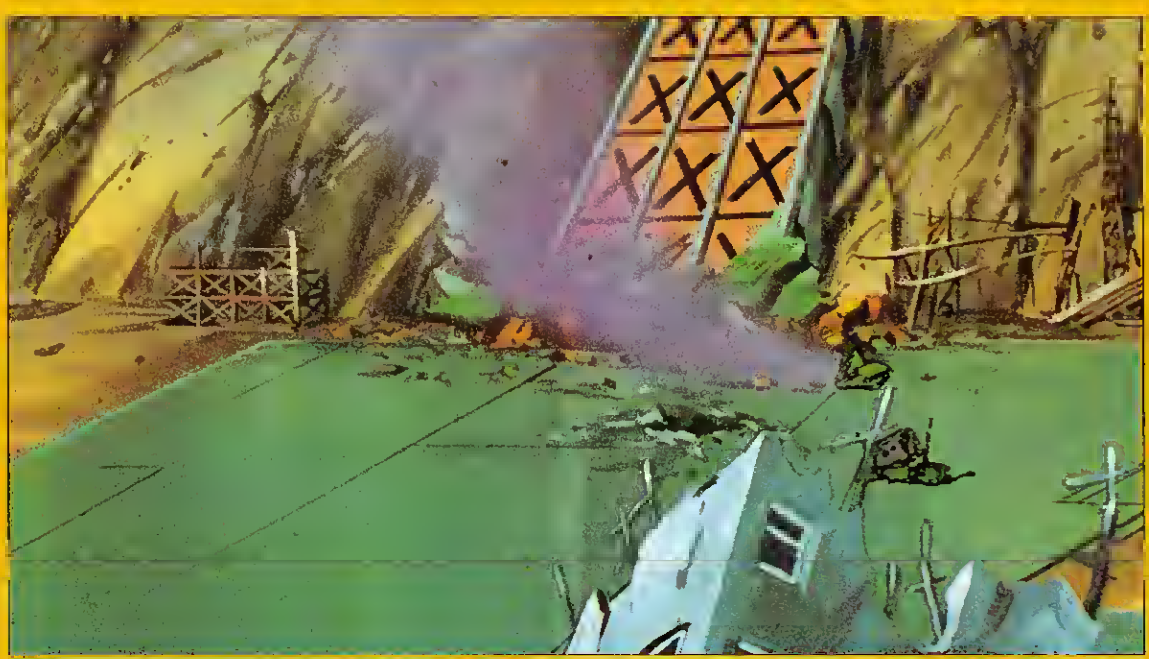


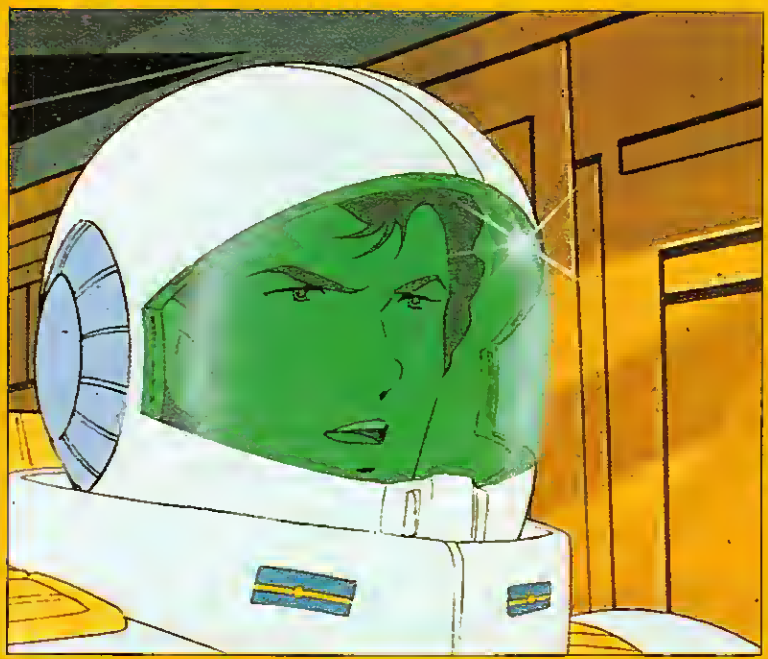








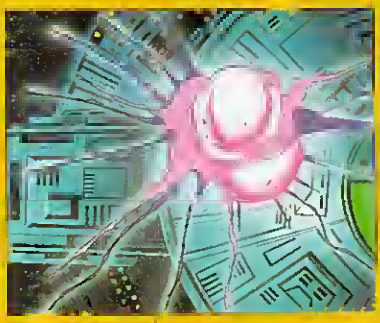


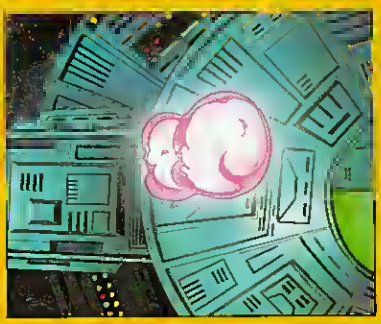


ブライト　「民間人をホワイトベースへ急がせろ」
兵G(off)　「ハ！」
兵H　「空気の流出は止まったようです！」
ブライト　「ガンダムは!?」
兵H　「正規の技師が、ほとんどやられてしまったようで運搬は進んでいません」
ブライト　「あれにもやって貰おう」
兵H　「ハ？」
ブライト　「正規のパイロットだろうと何だろうと、手伝って貰わなければ」



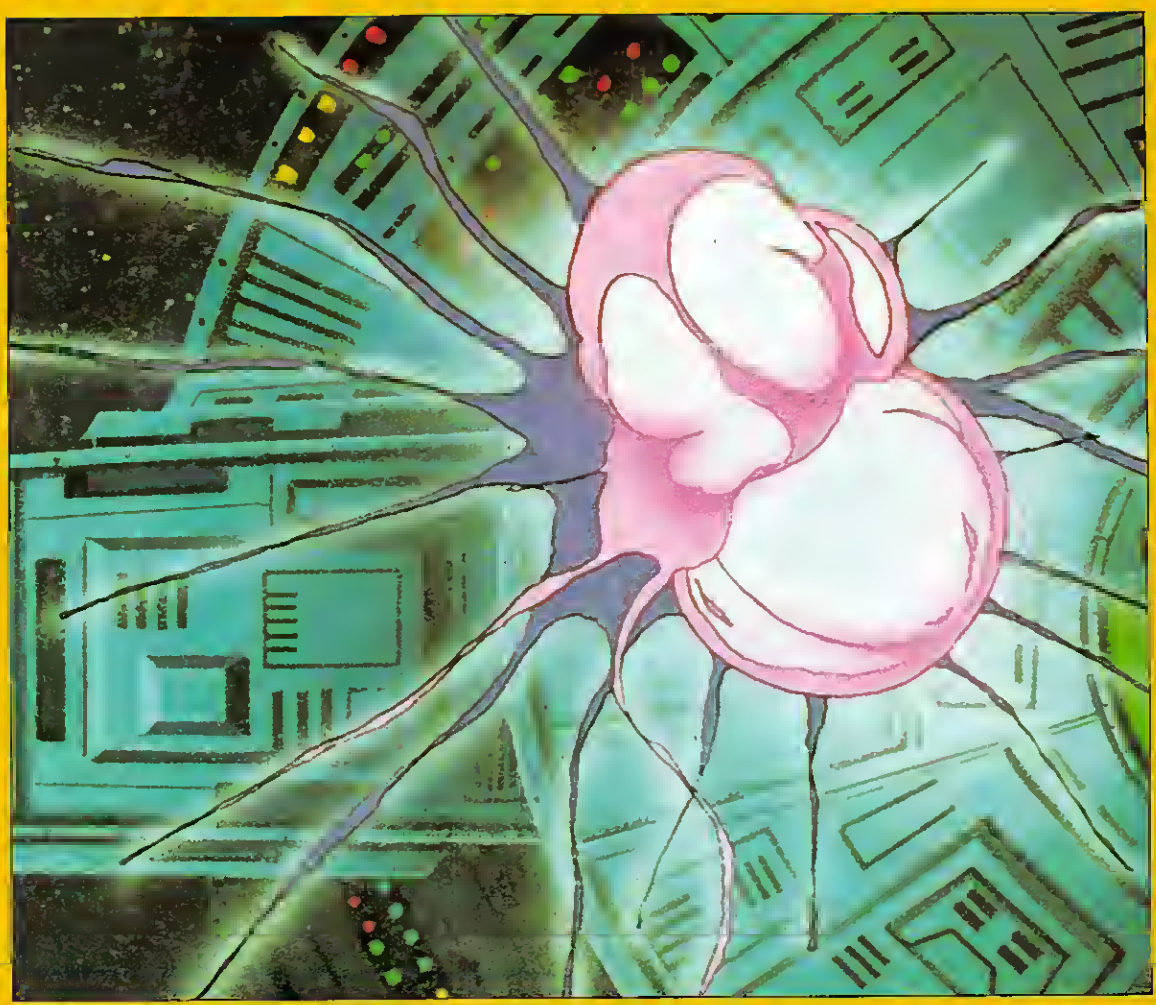






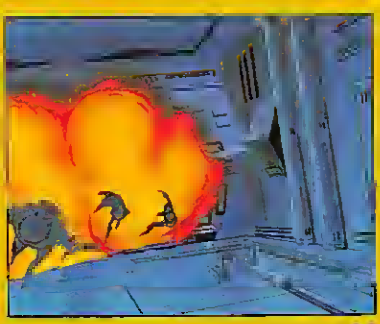


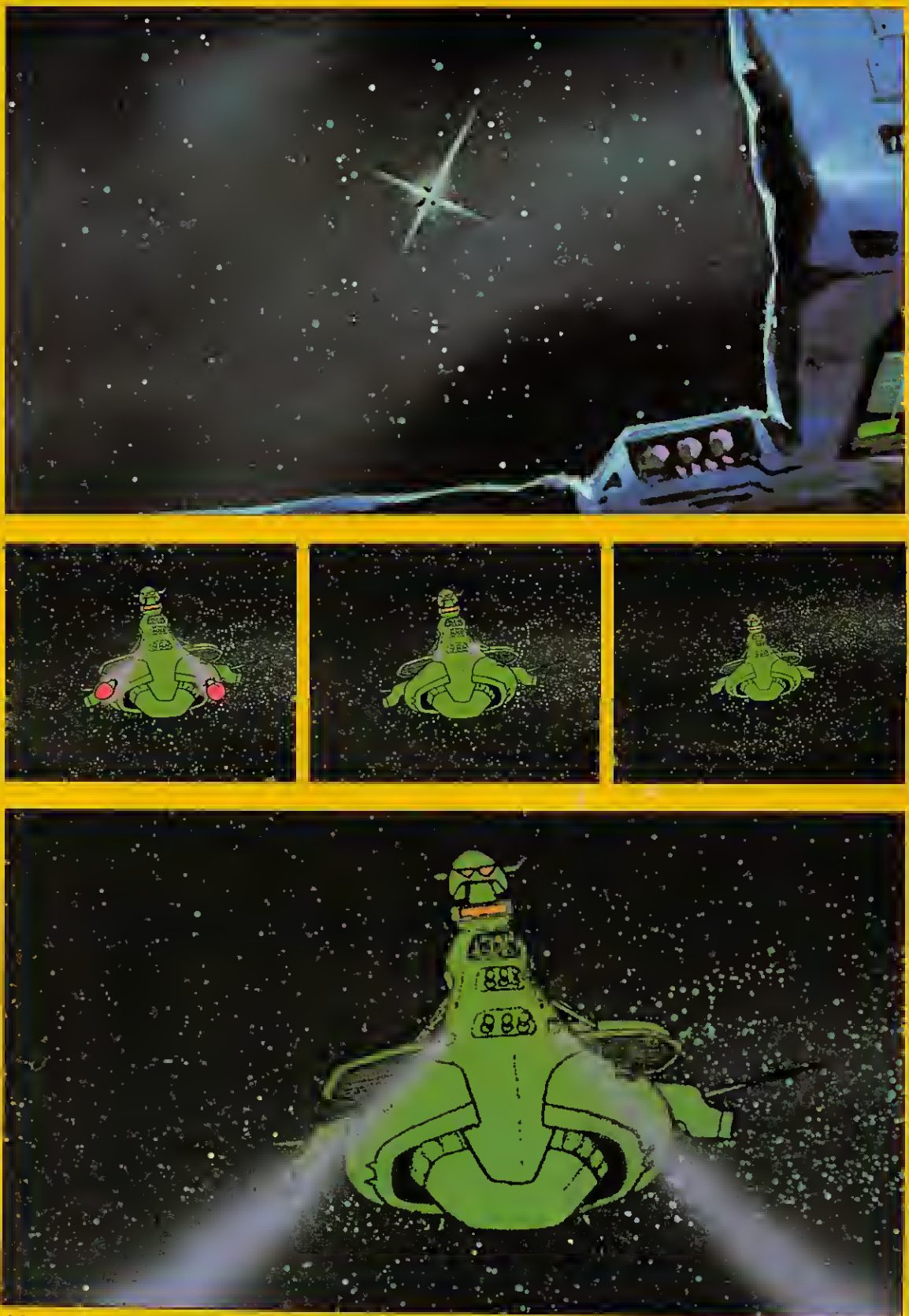
アムロ「なんだ？」









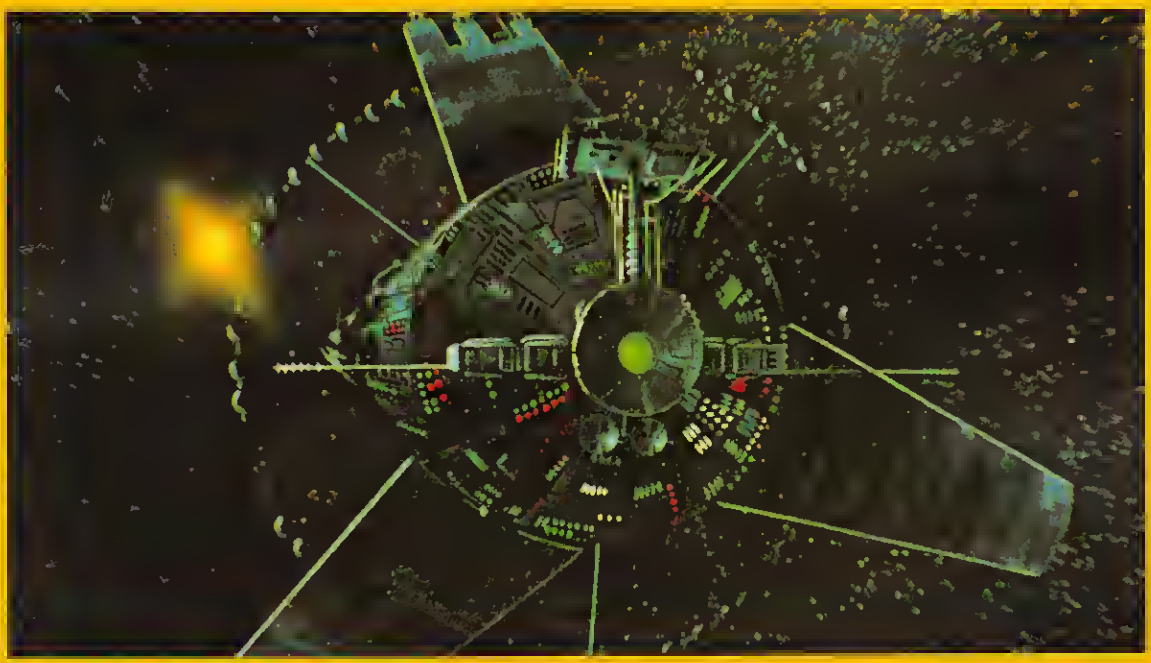


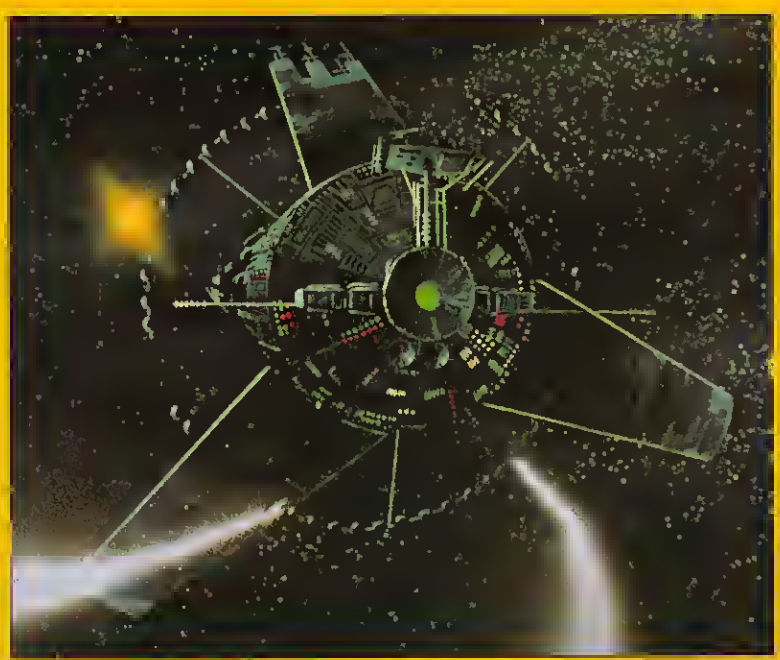


シャア　「スレンダーは…!?」
ドレン　「サイド7を脱出して、本艦に向かっております」



シャア　「認めたくないものだな。…自分自身の…若さ故の誤ちというものを……」



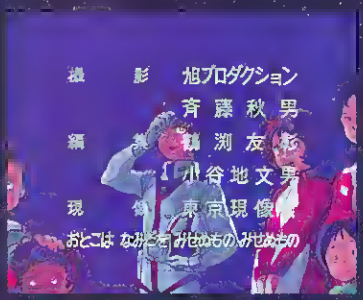


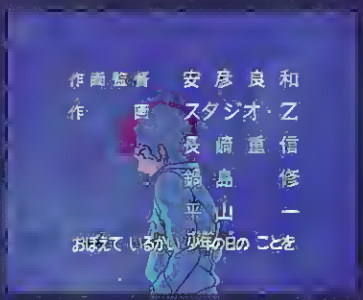


★ビジュアルストーリーのセリフは録音台本・第１稿を基本に構成してありますので、ＴＶ放映の時とは変更になっている部分があります。

ENDING

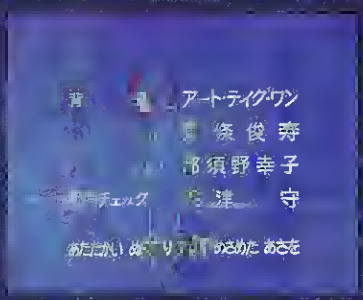
●エンディング

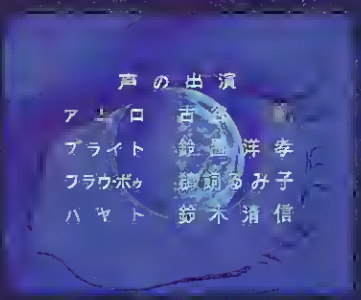




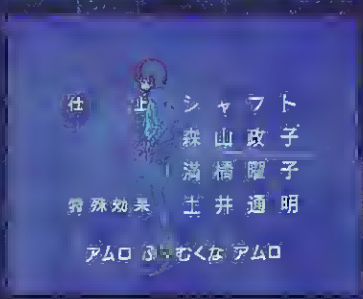


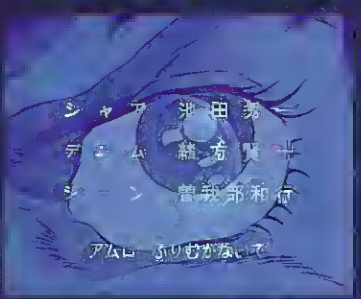






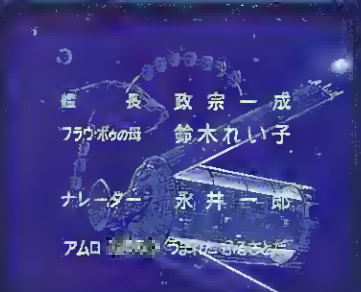










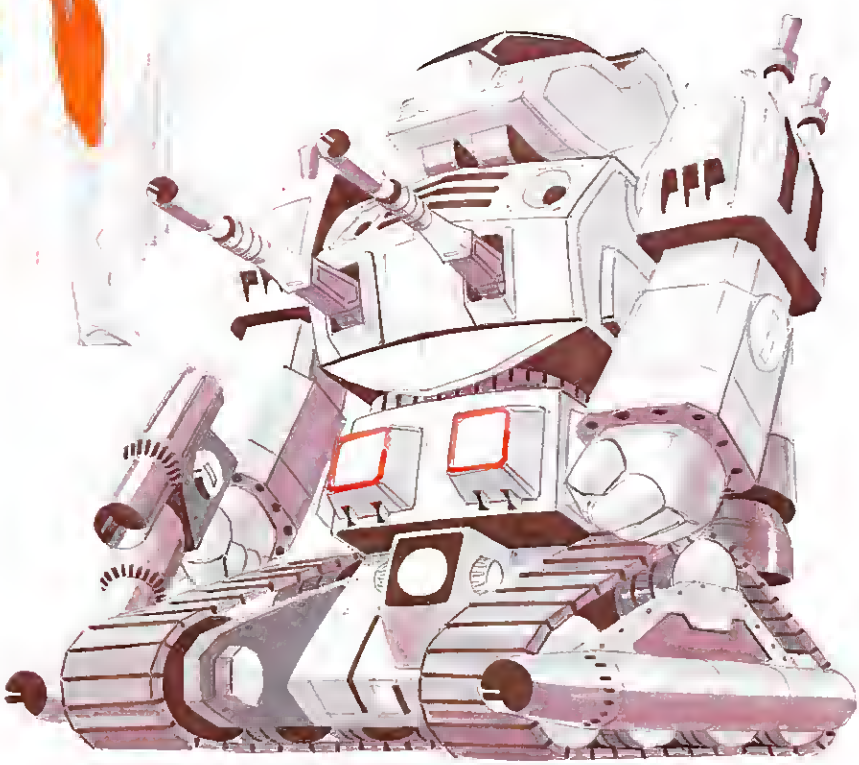




●オリジナルデザイン編

キャラクターデザイン／安彦良和

メカニックデザイン／大河原邦男



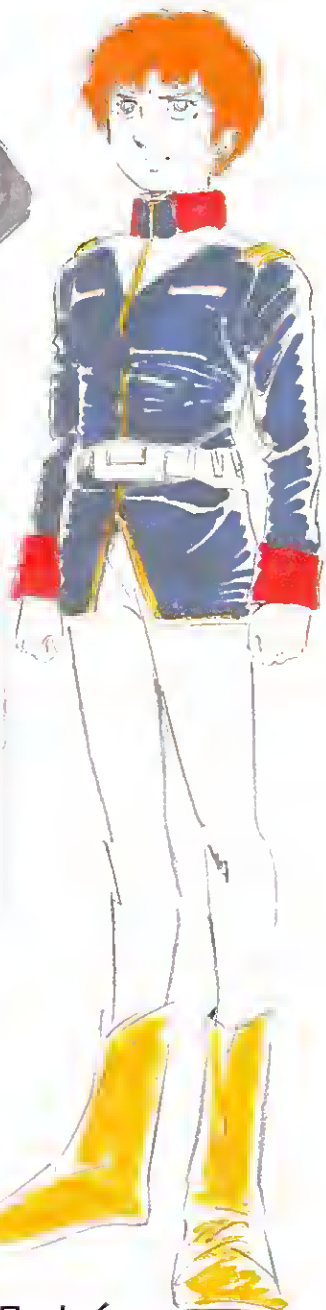
●人物デザイン

企画・立案時のオリジナルキャラクターデザイン

●シャア少佐

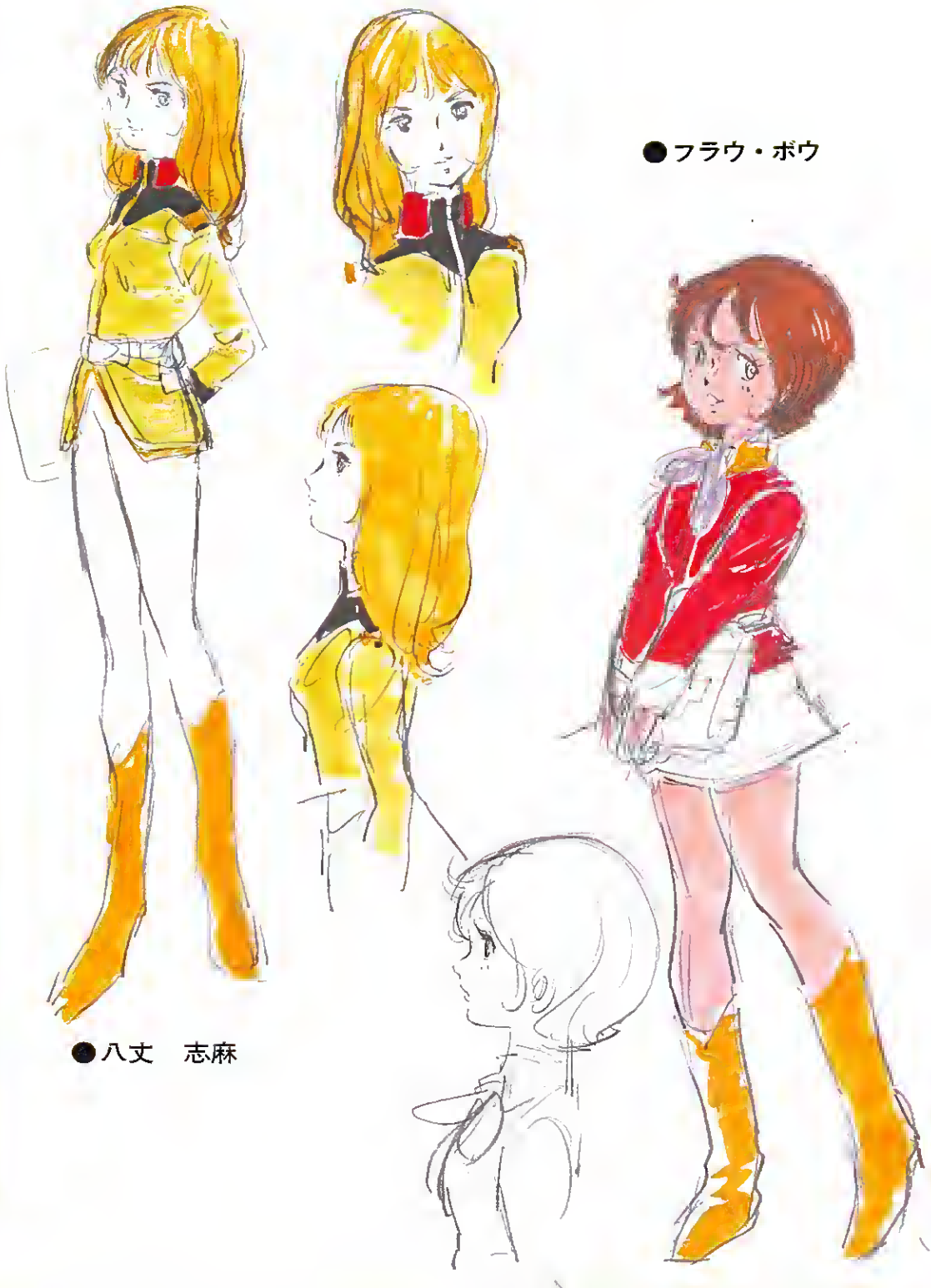






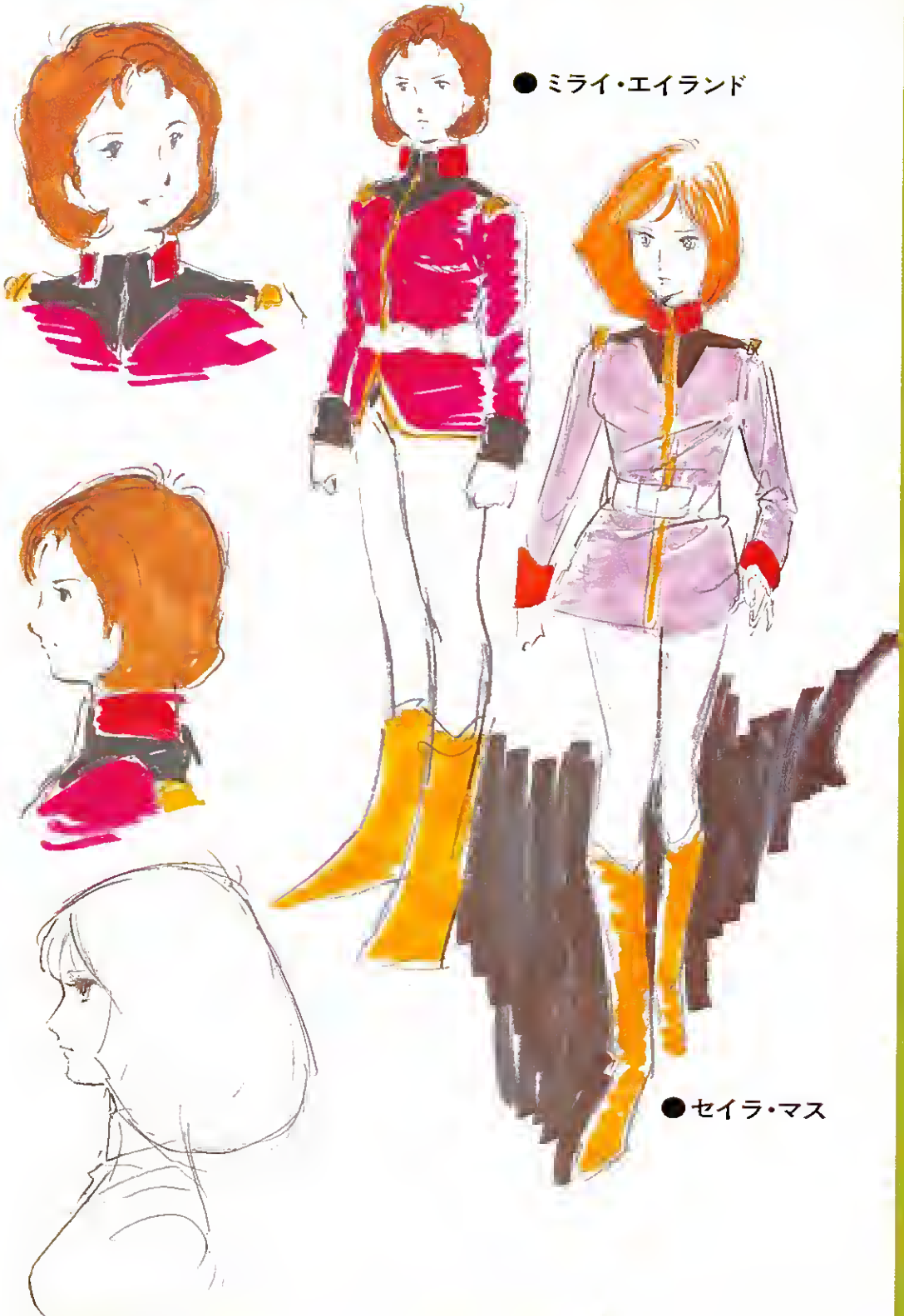


●アムロ・レイ



●フラウ・ボウ

●八丈　志麻



●ミライ・エイランド

●セイラ・マス

ORIGINAL DESIGN





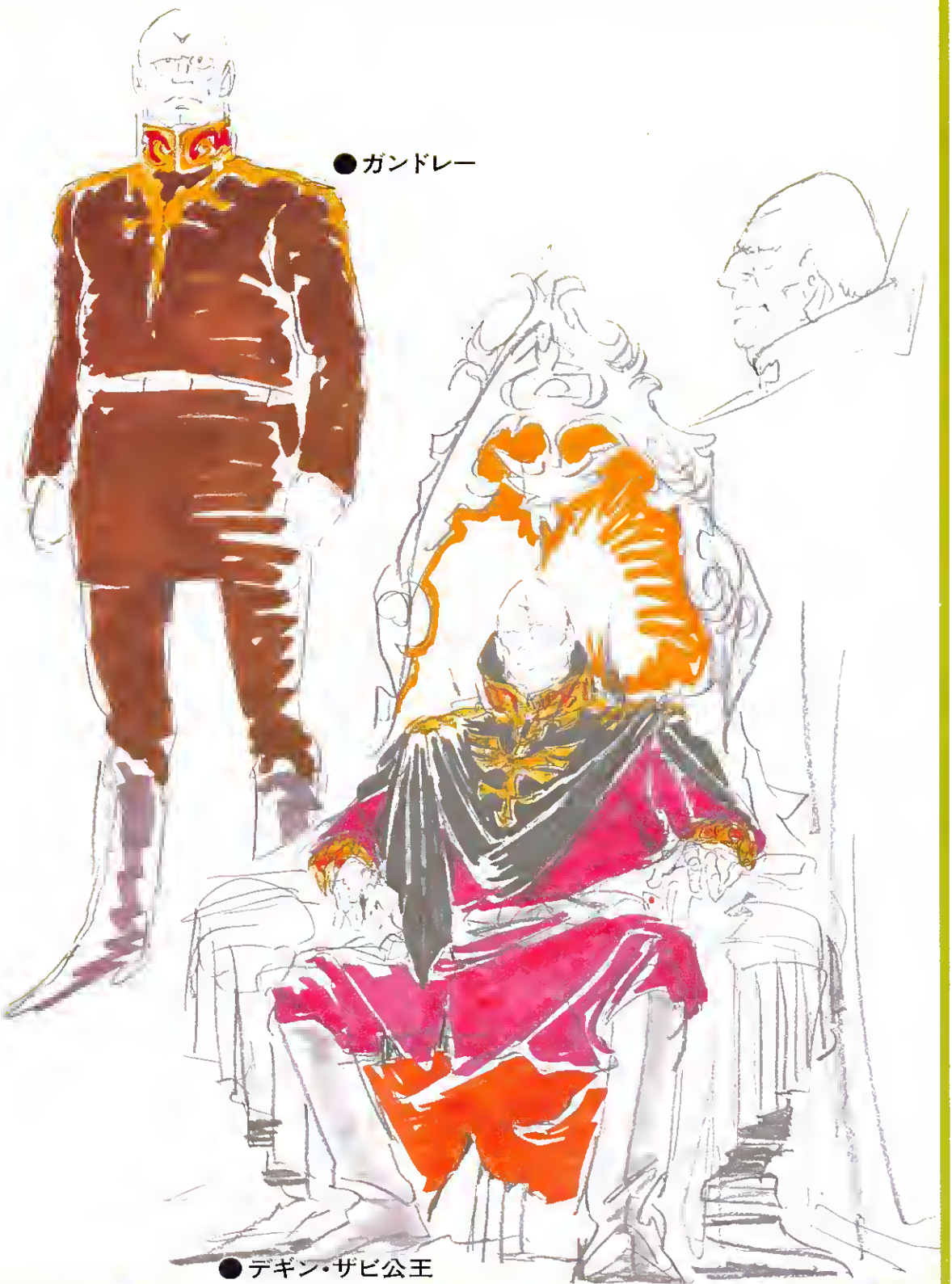
●ハヤト・小林

●カツ　●レツ　●キッカ



● ガルマ・ザビ

● キシリア・ザビ



●ガンドレー

●デギン・ザビ公王

ORIGINAL DESIGN



● ギレン・ザビ総帥

● ゲルベル

● ドルス・ザビ

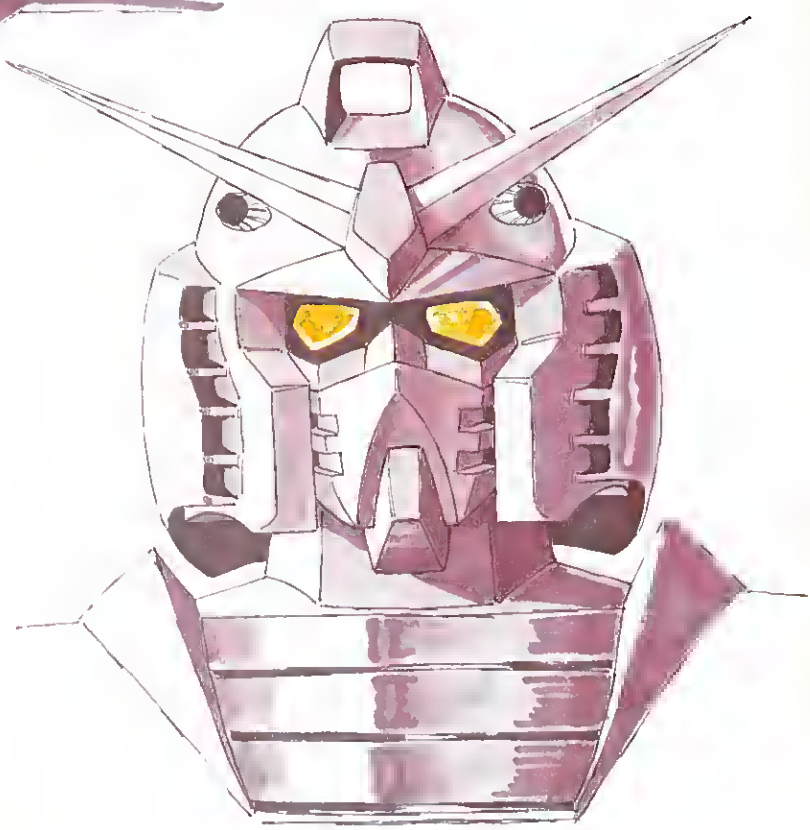
●メカニックデザイン

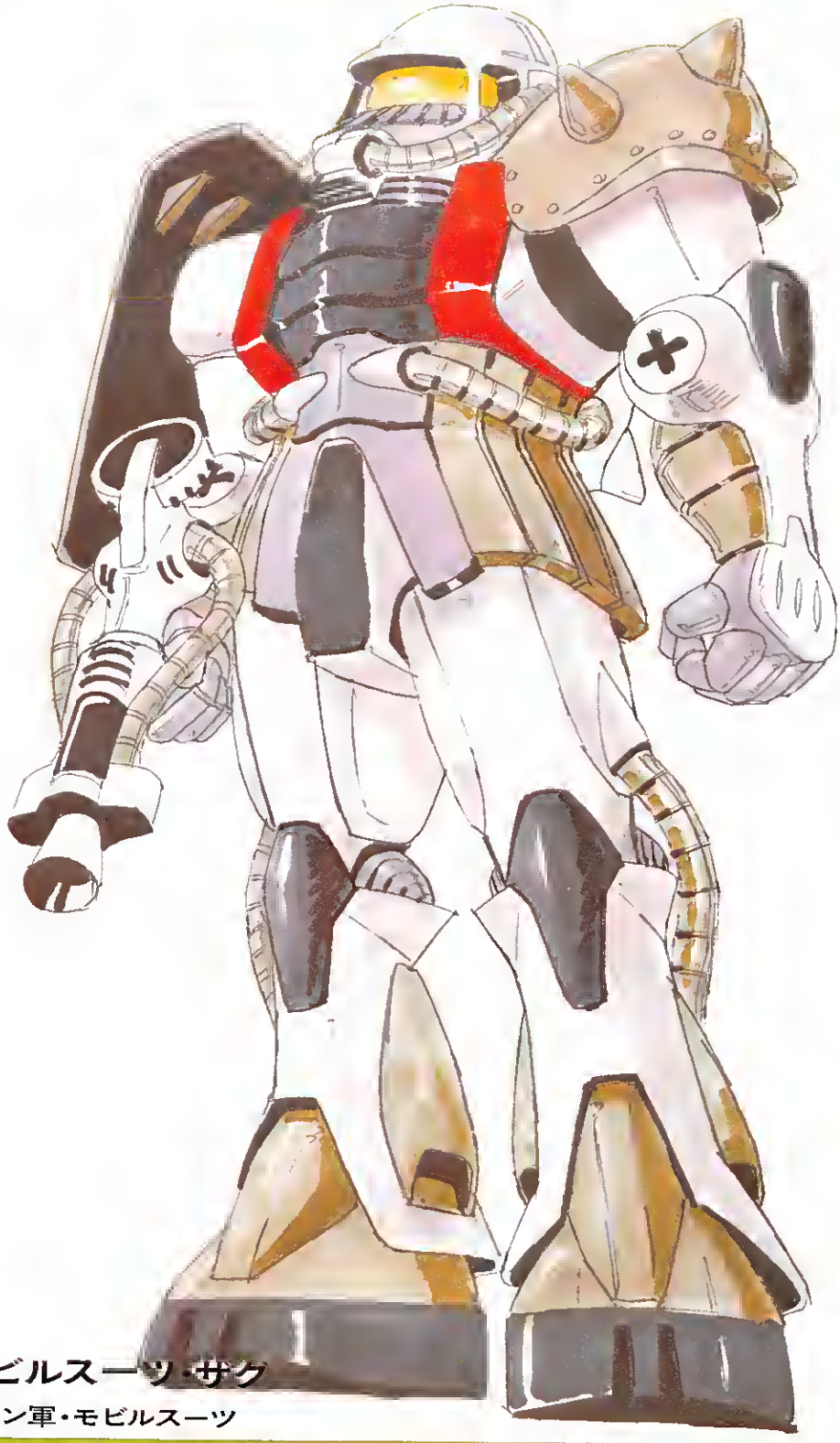
企画・立案時のオリジナルメカニックデザイン



● ガンダム

地球連邦軍・モビルスーツ



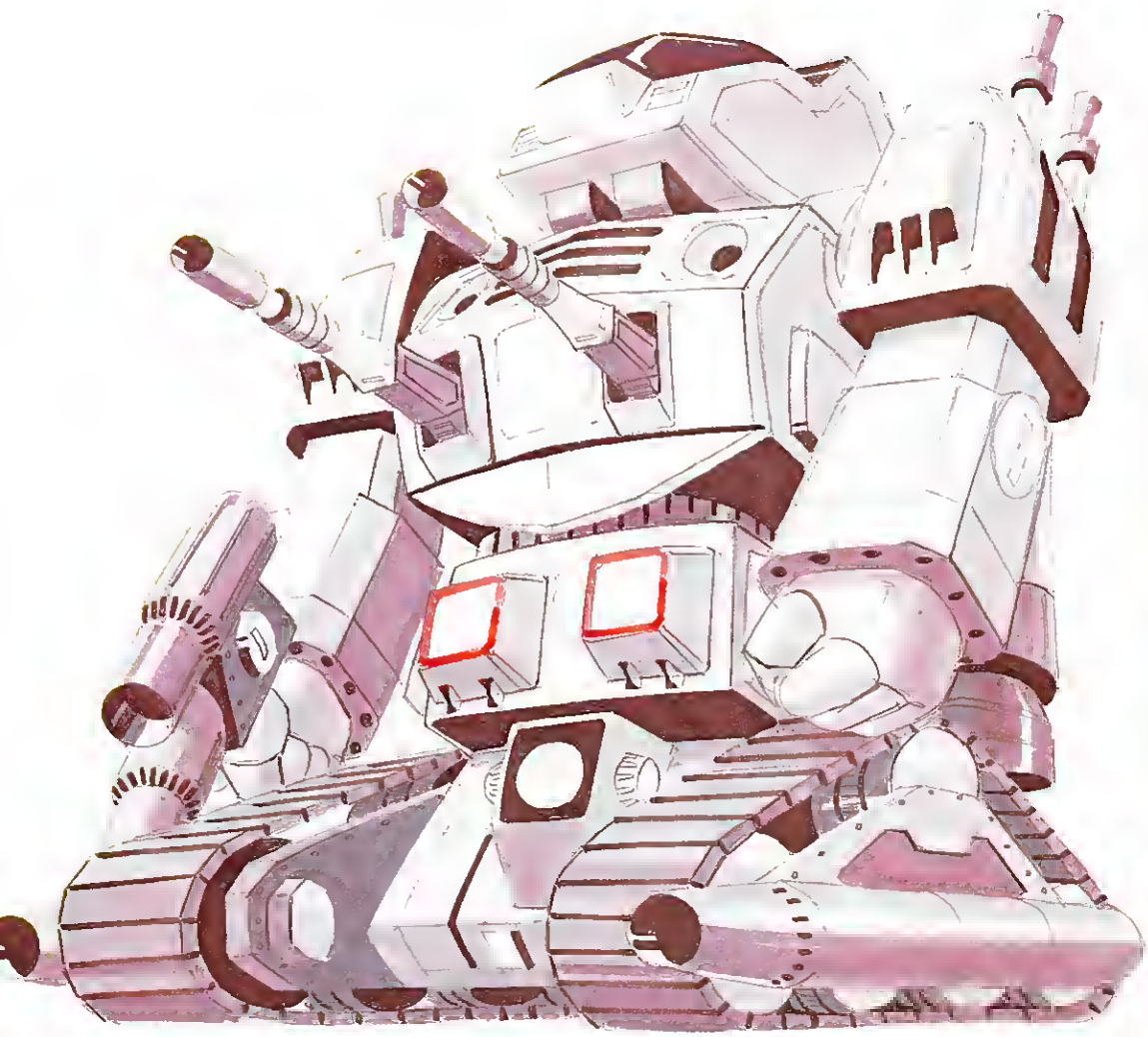


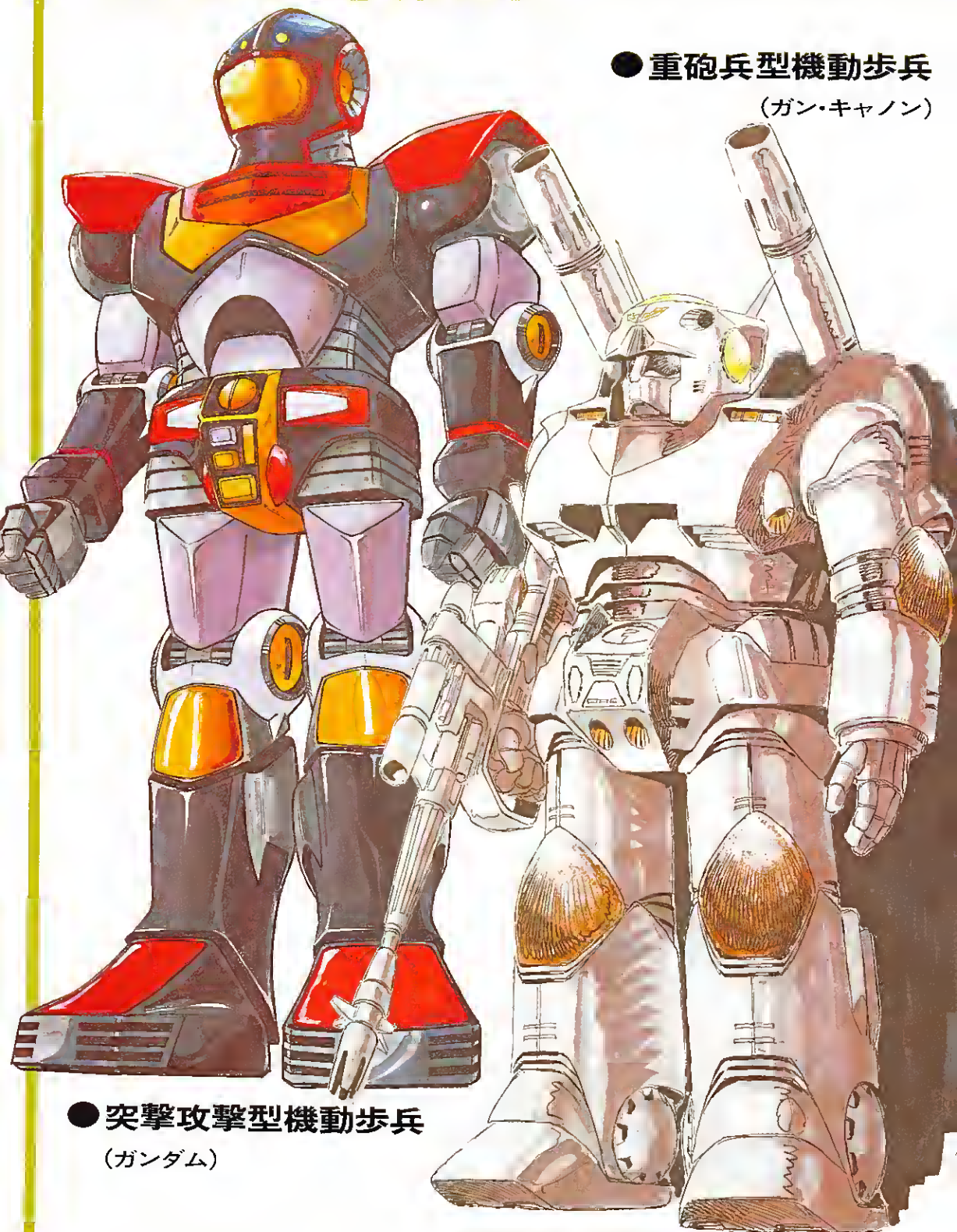
● モビルスーツ・サク

ジオン軍・モビルスーツ

●重機甲型機動歩兵

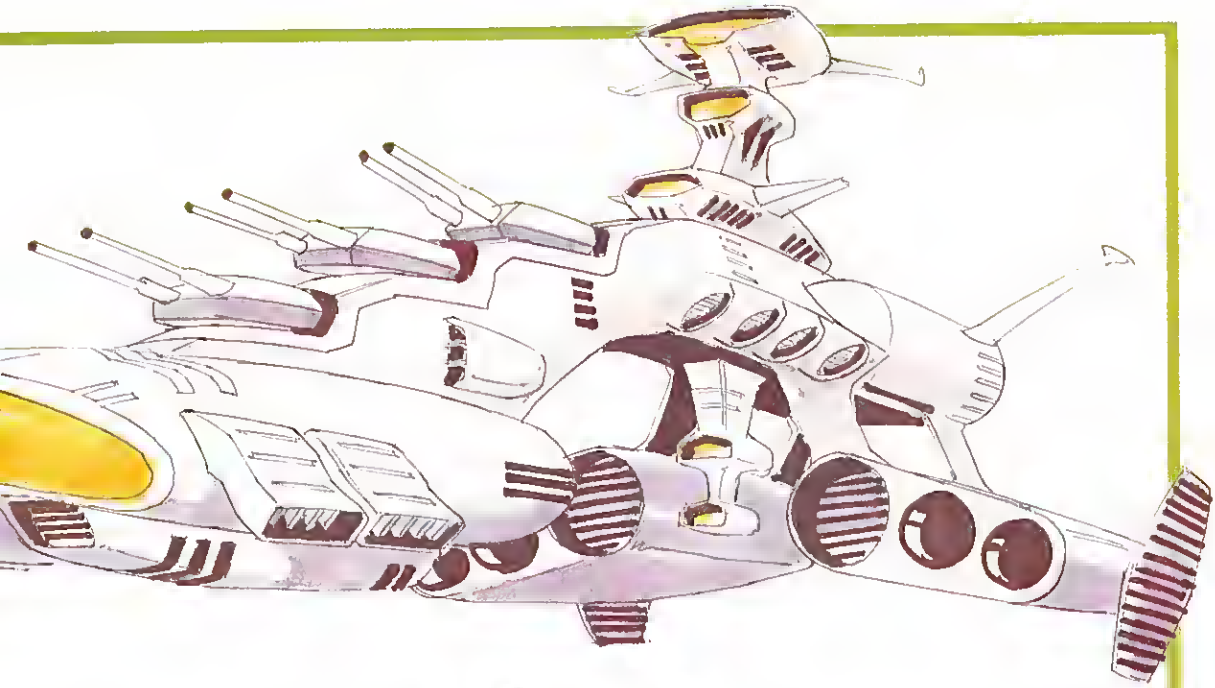
（ガン・タンク）



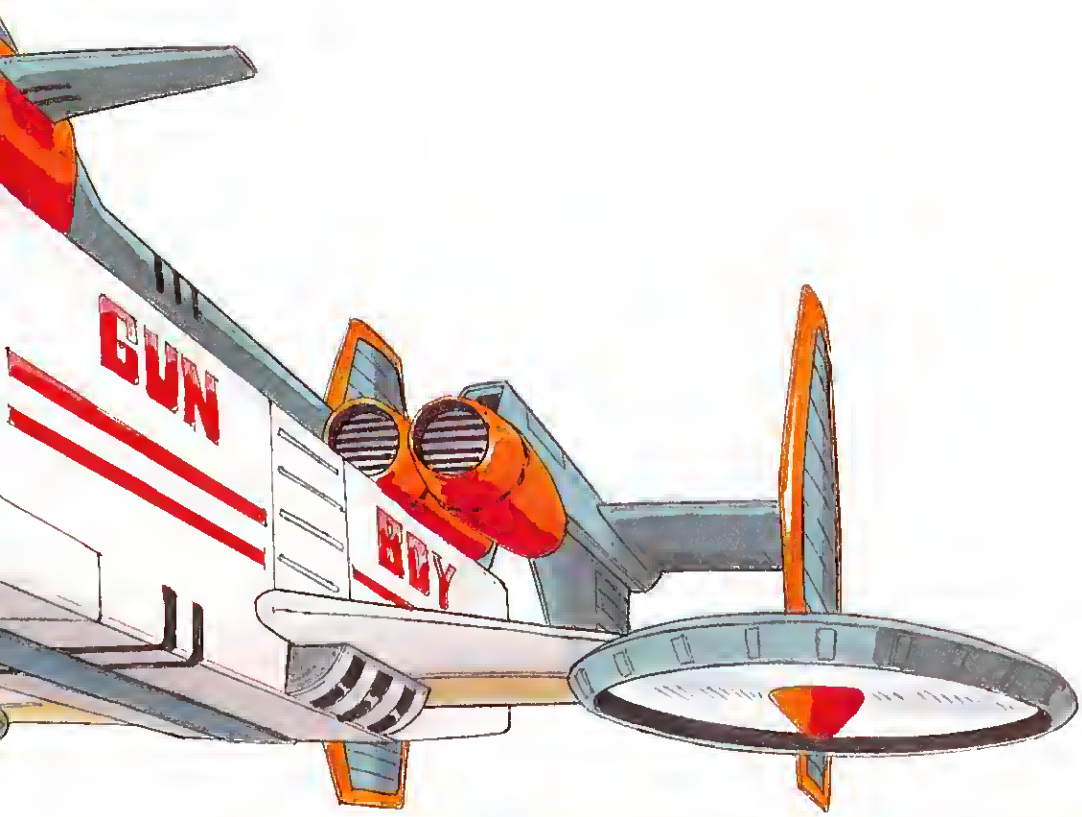


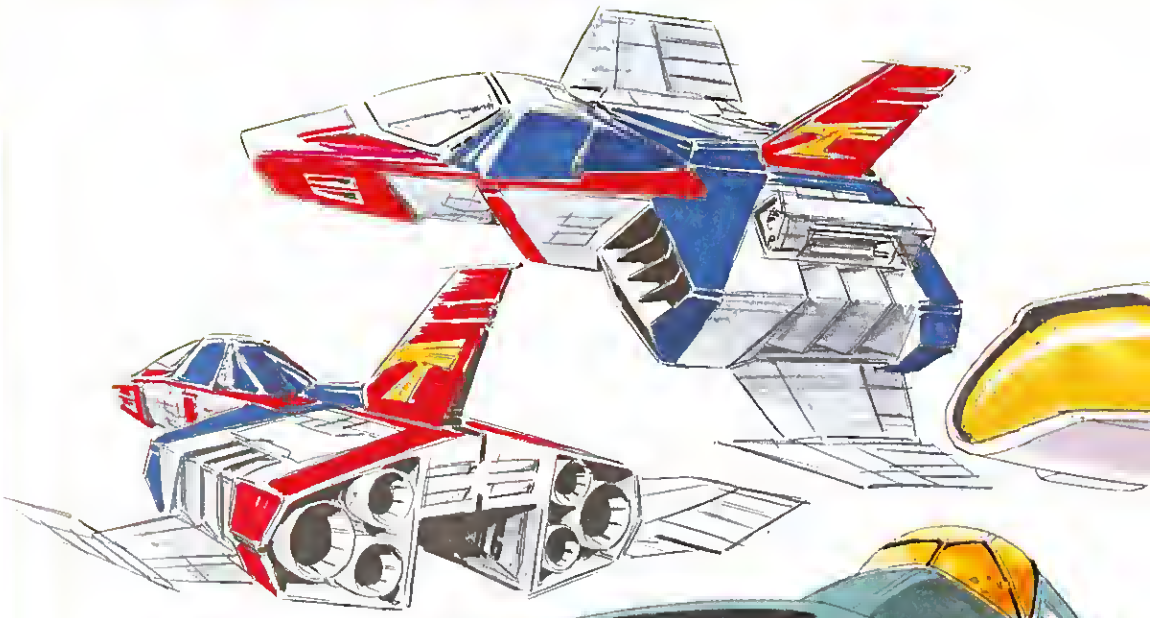
●重砲兵型機動歩兵
（ガン・キャノン）

●突撃攻撃型機動歩兵
（ガンダム）

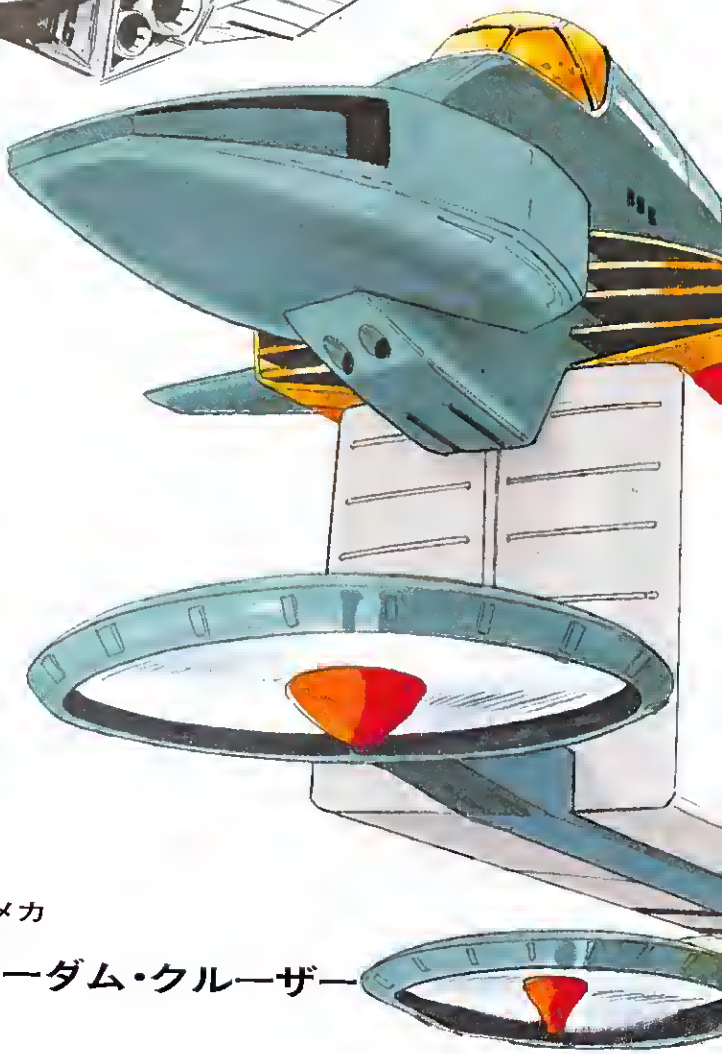


● ムサイ艦



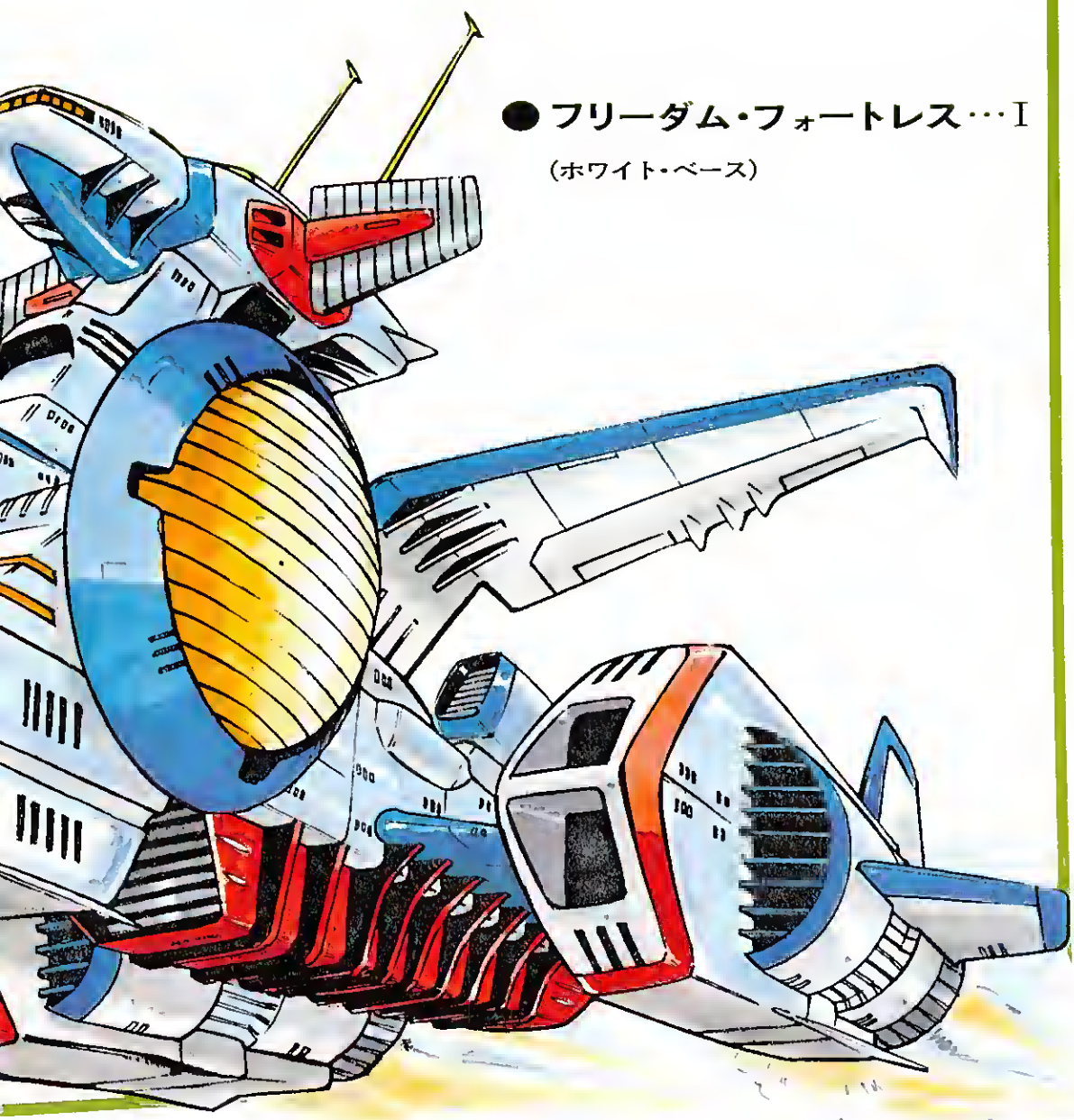


● コア・ファイター



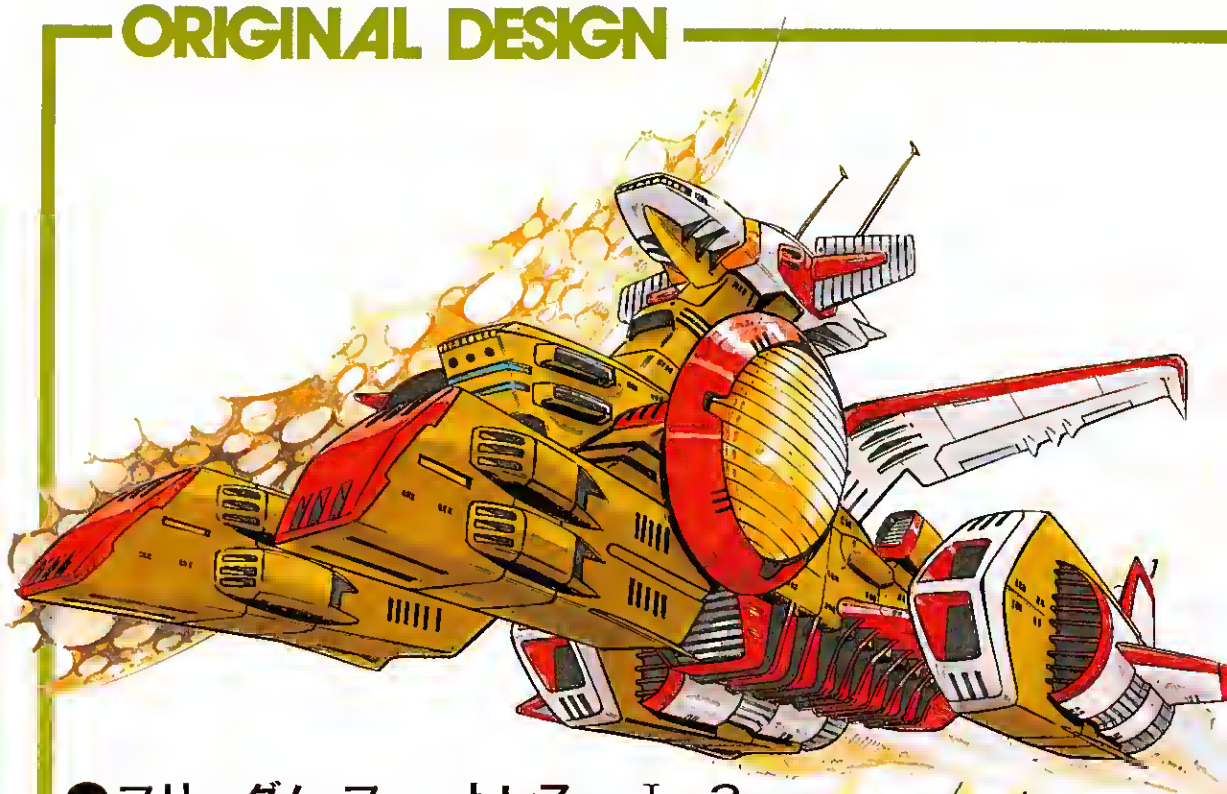
輸送メカ

● フリーダム・クルーザー

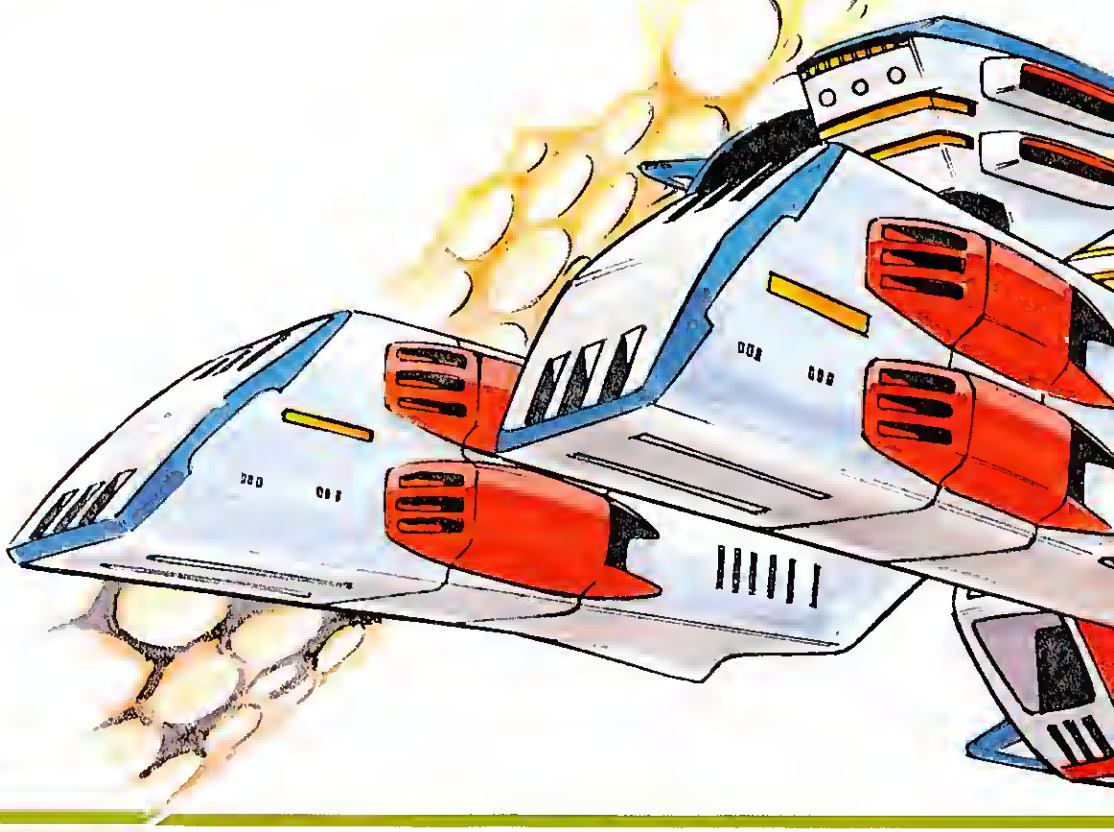


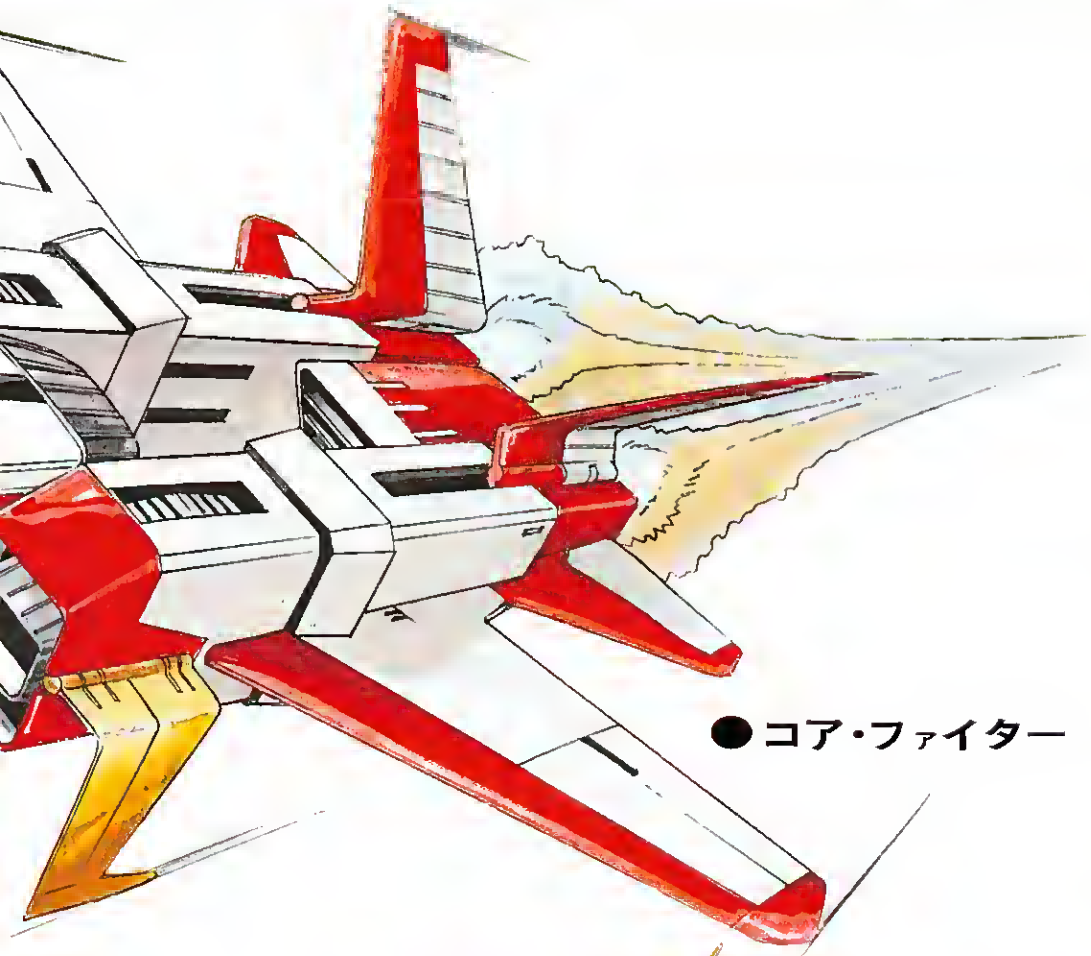
● フリーダム・フォートレス…I

（ホワイト・ベース）

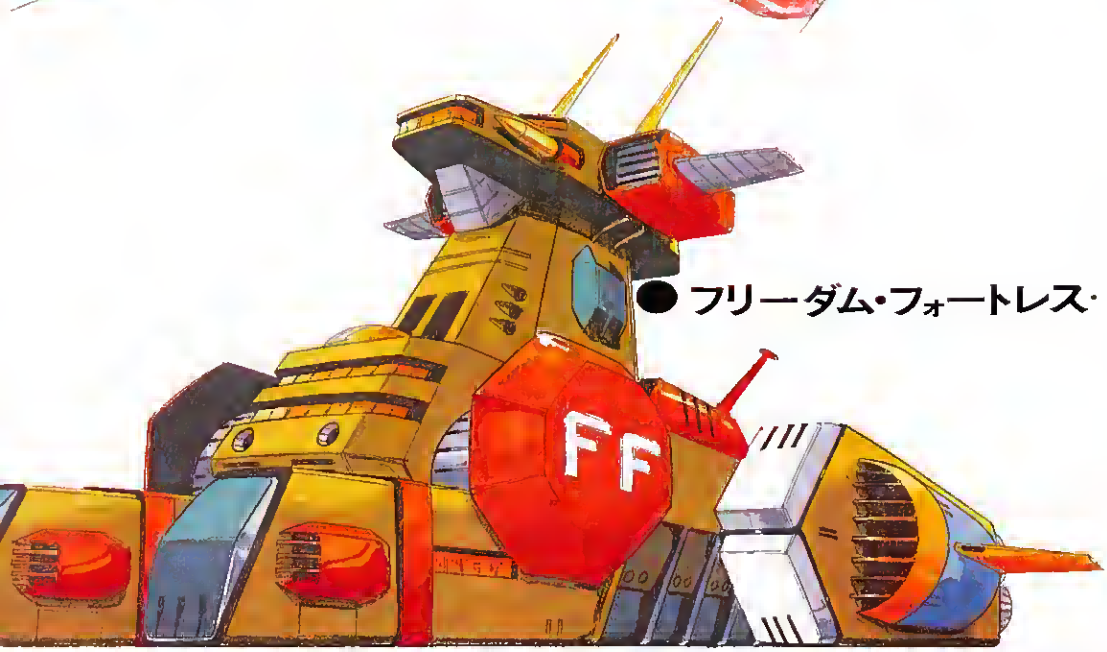


●フリーダム・フォートレス… Ⅰ - 2

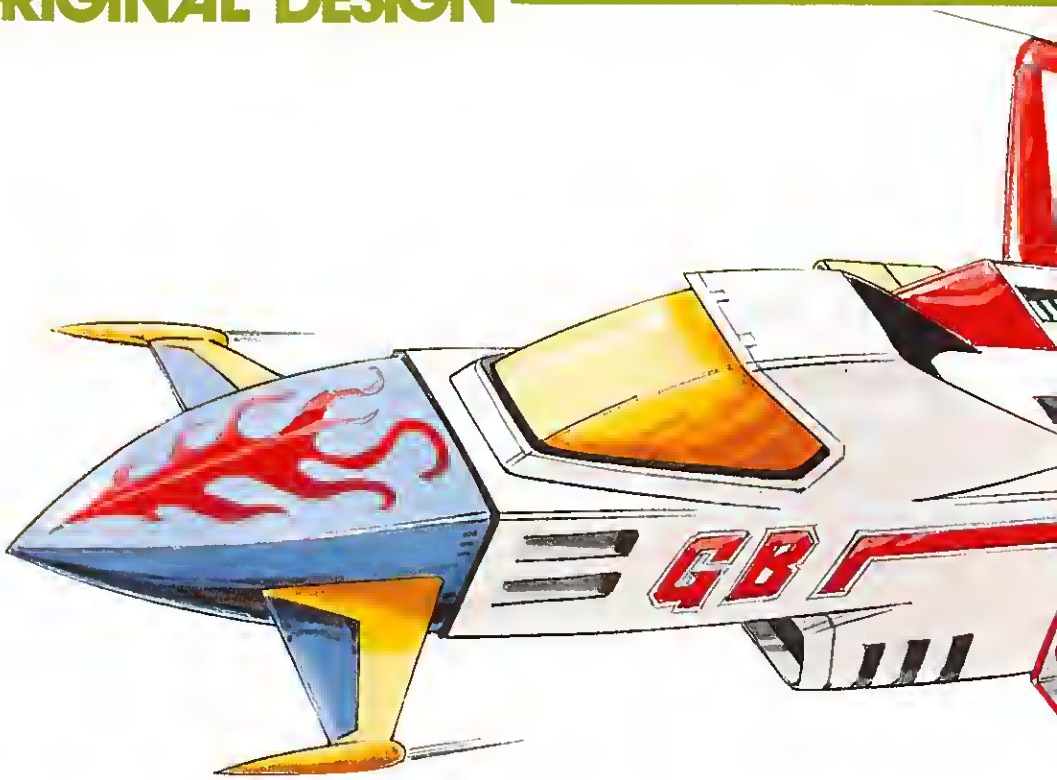


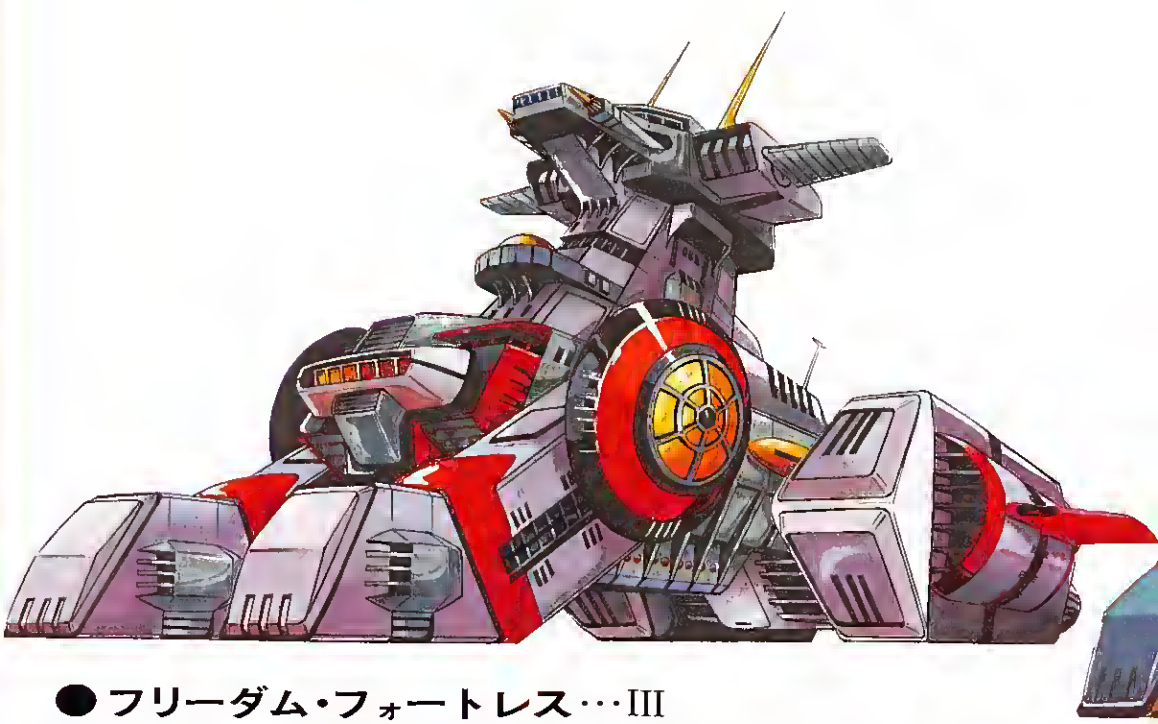


● コア・ファイター



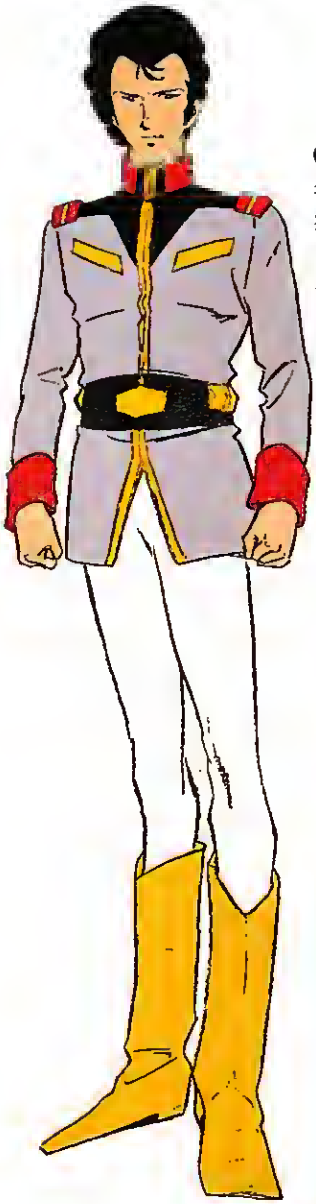
● フリーダム・フォートレス…II





●フリーダム・フォートレス…III

●キャラクターシート



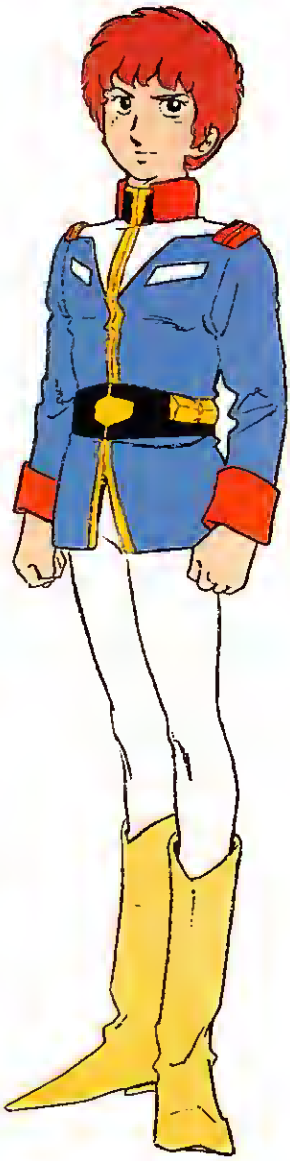
●ブライト・ノア

年令・19才　身長・175cm
英国人系　総指揮官　ホワイトベースのリーダー的存在で理想主義者。



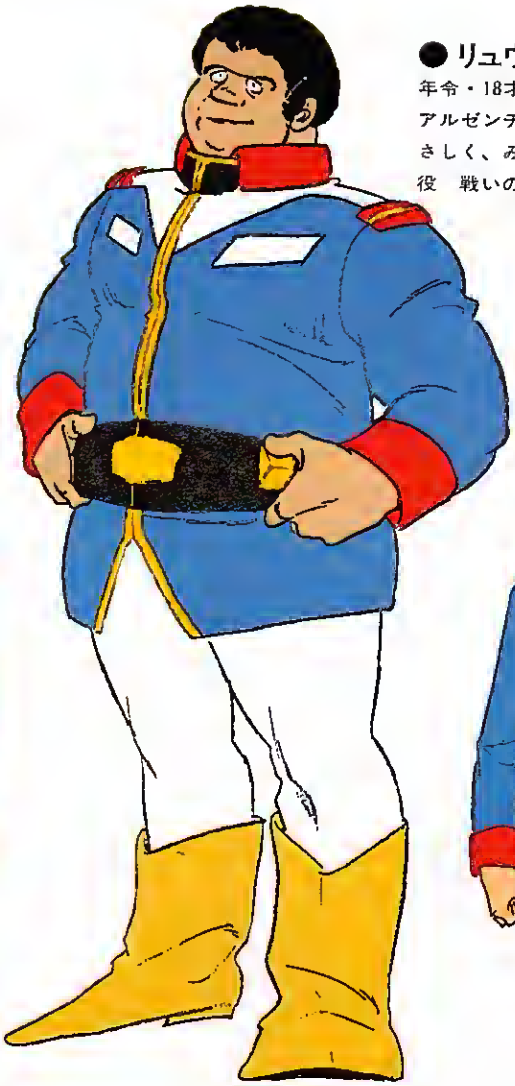
●フラウ・ボウ

年令・15才　身長・160cm
ドイツ人系　みんなの世話や雑務を担当し、戦いには直接参加しない。

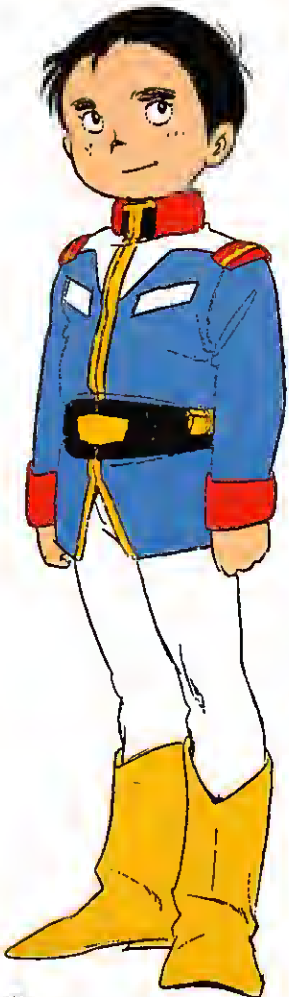


●アムロ・嶺

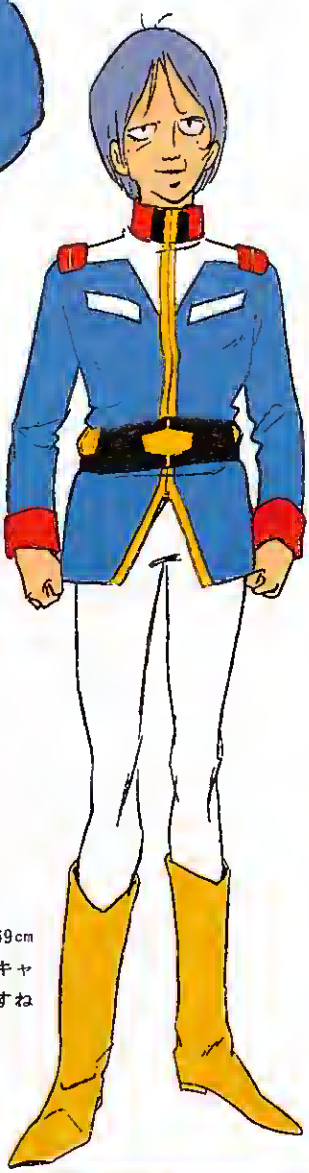
年令・15才　身長・168cm
主人公・日本人系　ガンダムの搭乗員　コンピュータや電子工学につよい。



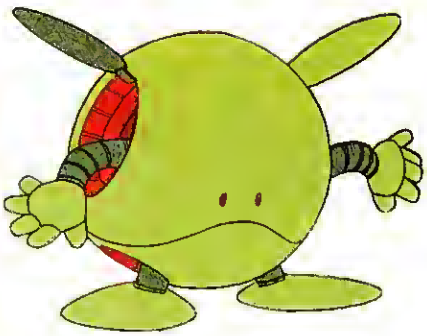
●リュウ・ホセイ
年令・18才　身長・180cm
アルゼンチン系　性格はやさしく、みんなのとりもち役　戦いの実力も抜群。



●ハヤト・小林
年令・15才　身長・150cm
日本人系 主にガン・タンクを操縦している。柔道が特意で善良なスポーツマン。



●カイ・シデン
年令・17才　身長・169cm
プエルトリコ系 ガン・キャノンを操縦する。少しすねたところがある。



●ハロ

フラウ・ボウのペットロボ。
簡単な会話ができる。



●セイラ・マス

年令・17才　身長・165cm
フランス系　連邦軍との通信を担当　ブライトの補佐として指揮もとる。



●ミライ・エイランド

年令・18才　身長・163cm
日本人系　ホワイトベースの艦長　みんなの母親的な存在としてがんばる。
（決定稿ではミライ・八洲となる）

●カツ

●レツ

●キッカ



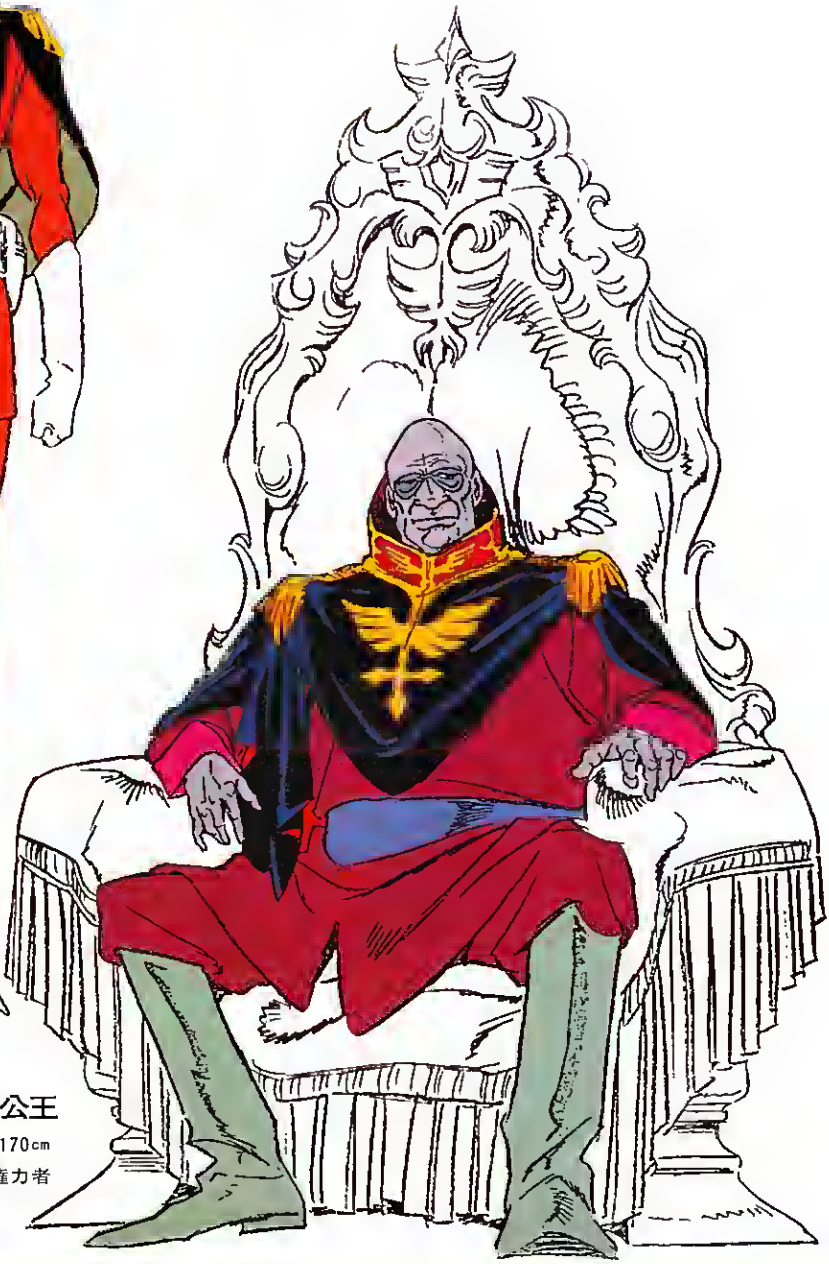
ホワイトベースの中をかけまわる、いたずらっ子たち。



●シャア少佐

年令・20才　身長・175cm

ジオン軍少佐　なぞの人物



●デギン・ザビ公王

年令・62才　身長・170cm

ジオン国公王　最高権力者



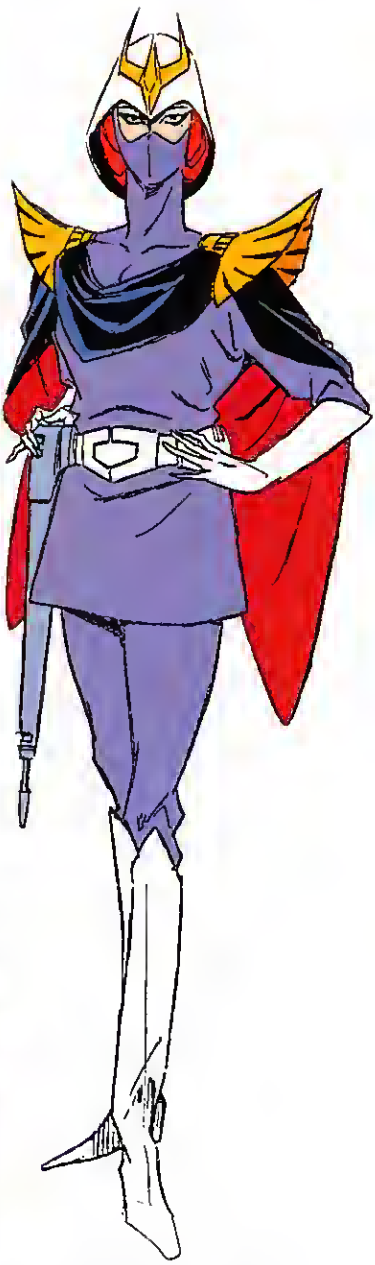
● ドルス・ザビ

年令・28才　身長・210cm
公王の三男　ジオン軍中将
宇宙攻撃軍指令
（決定稿ではドズル・ザビとなる）



● ギレン・ザビ総帥

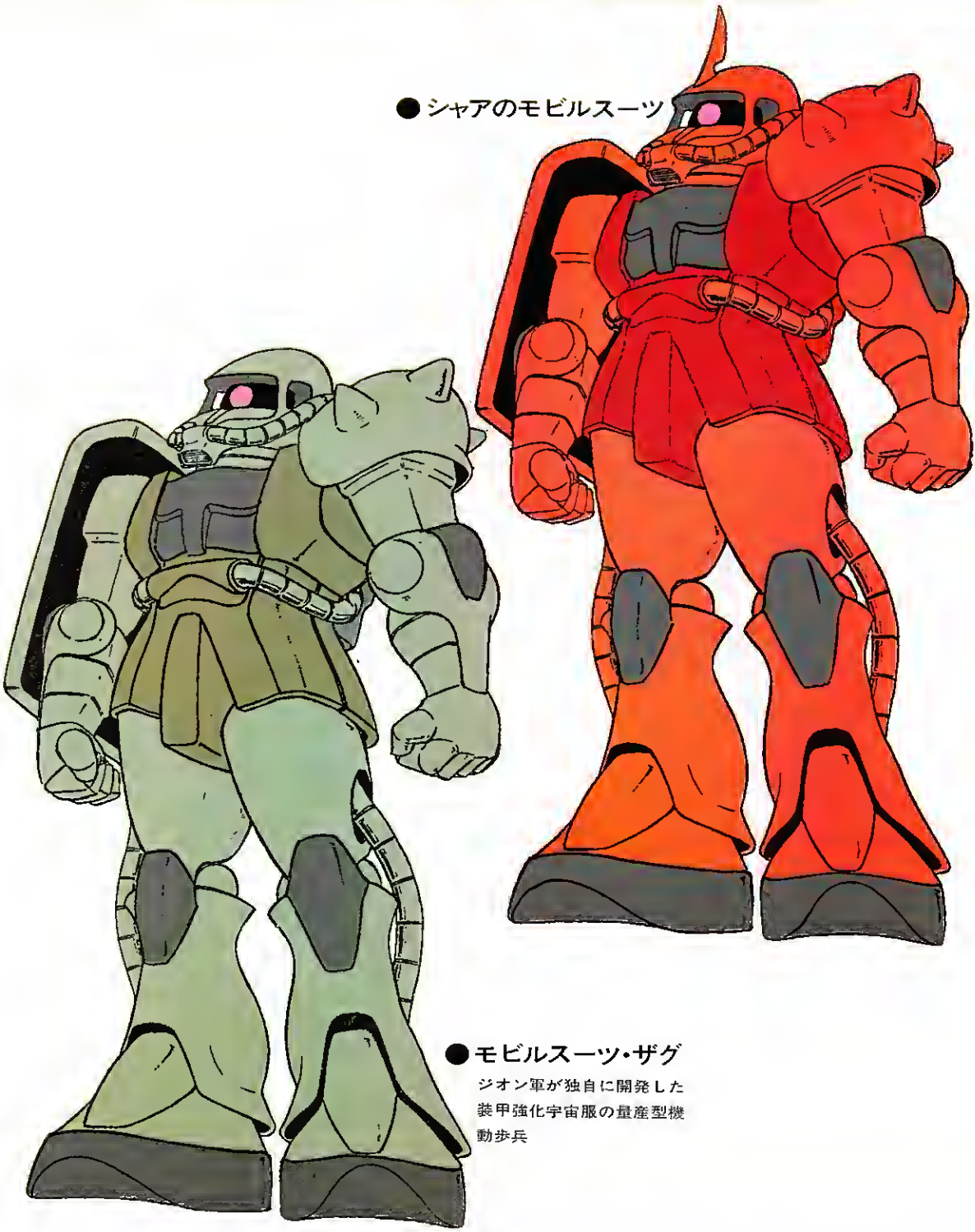
年令・35才　身長・190cm
公王の長男　ジオン軍大将
一族の実質的な指揮者



● キシリア・ザビ

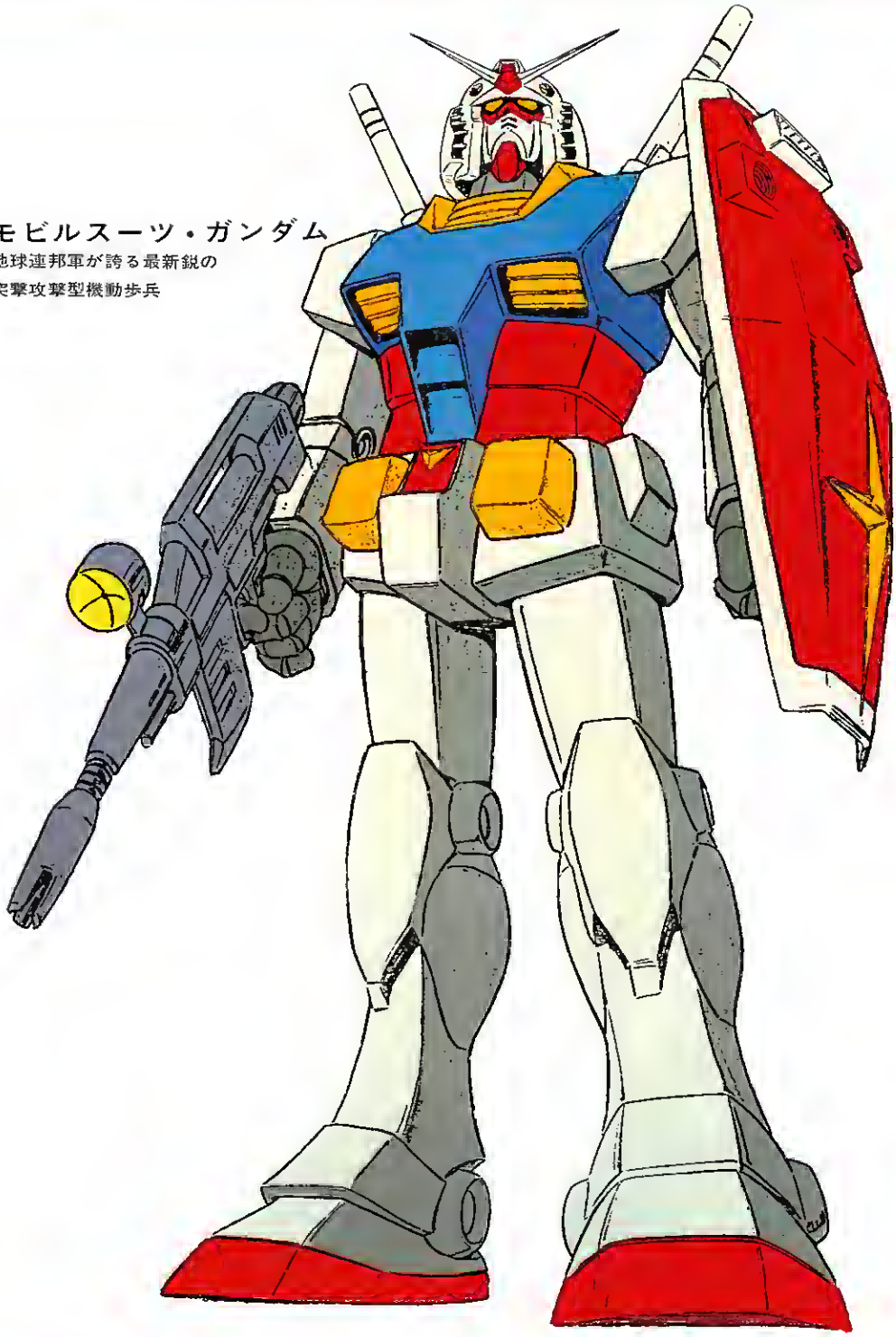
年令・24才　身長・173cm
公王の長女　ジオン軍少将
突撃機動軍指令

● シャアのモビルスーツ



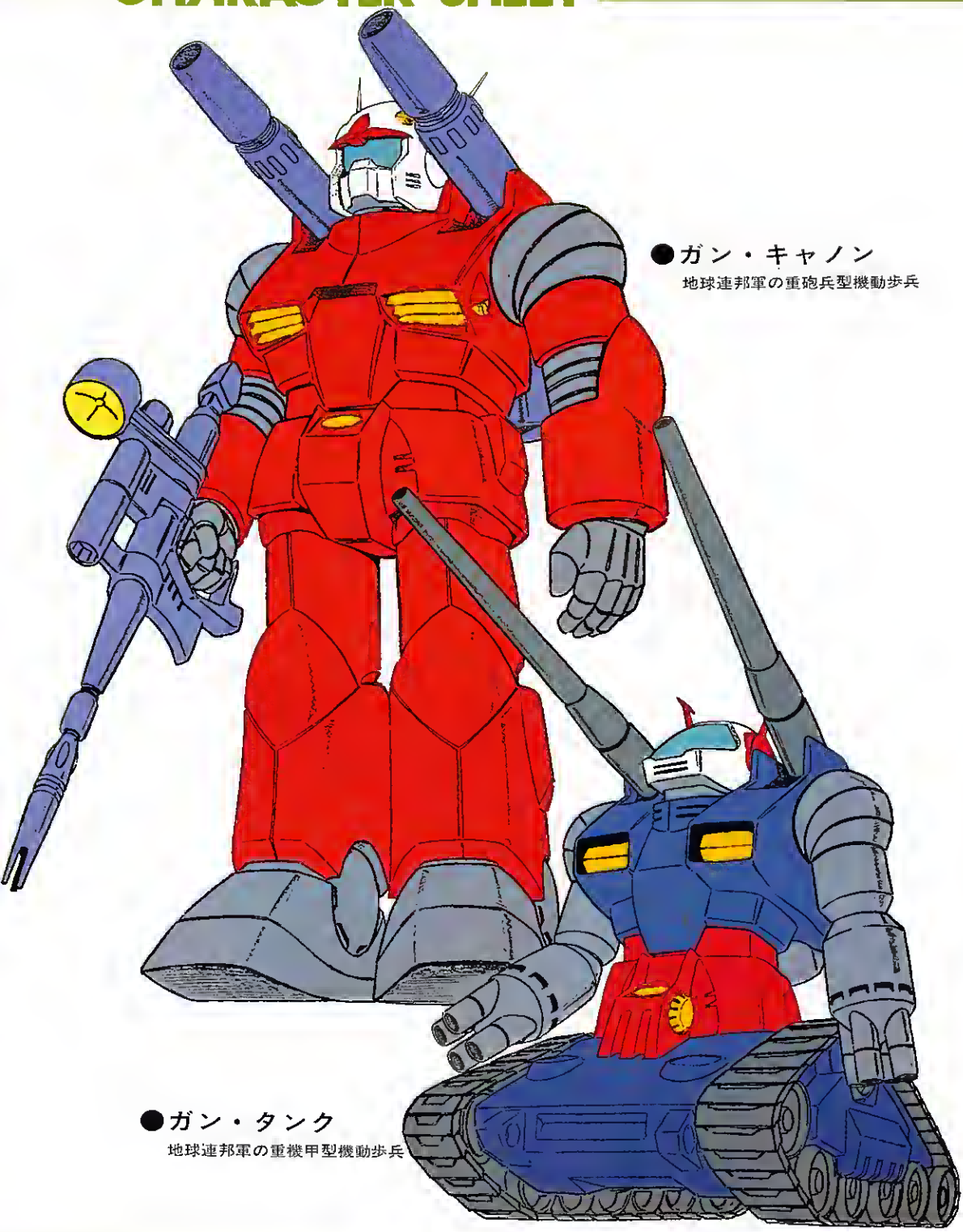
● モビルスーツ・ザグ

ジオン軍が独自に開発した
装甲強化宇宙服の量産型機
動歩兵



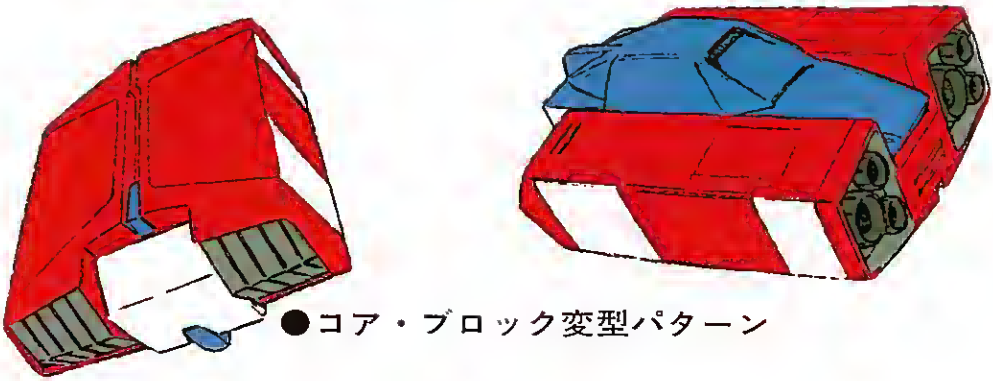
●モビルスーツ・ガンダム

地球連邦軍が誇る最新鋭の
突撃攻撃型機動歩兵

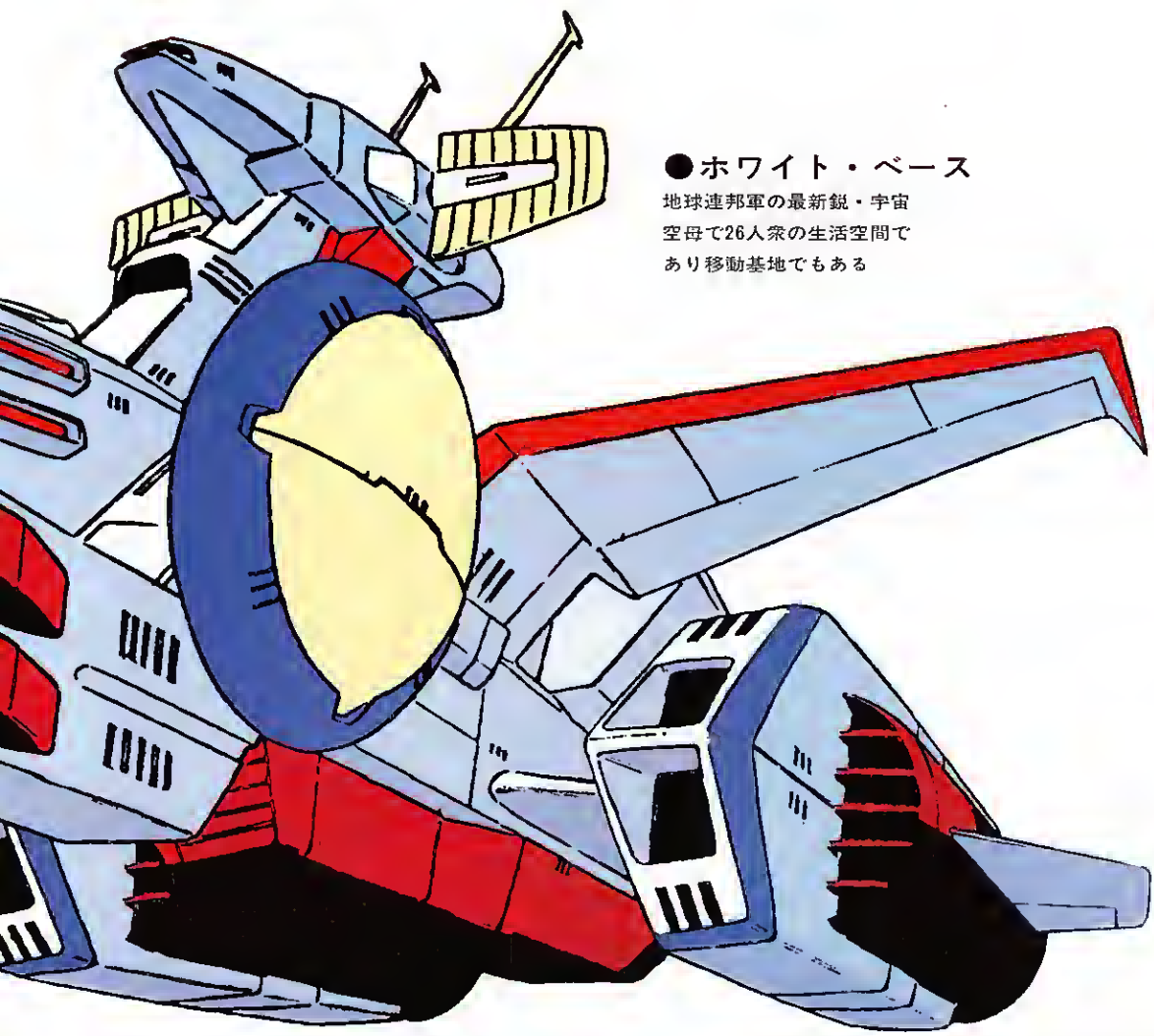


●ガン・キャノン
地球連邦軍の重砲兵型機動歩兵

●ガン・タンク
地球連邦軍の重機甲型機動歩兵

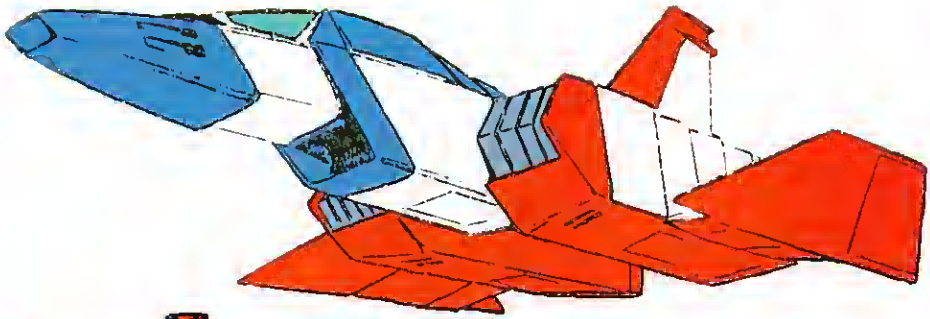


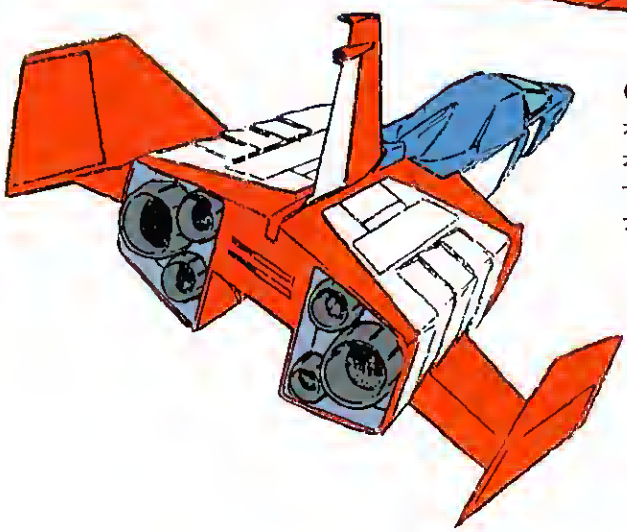
●コア・ブロック変型パターン



●ホワイト・ベース

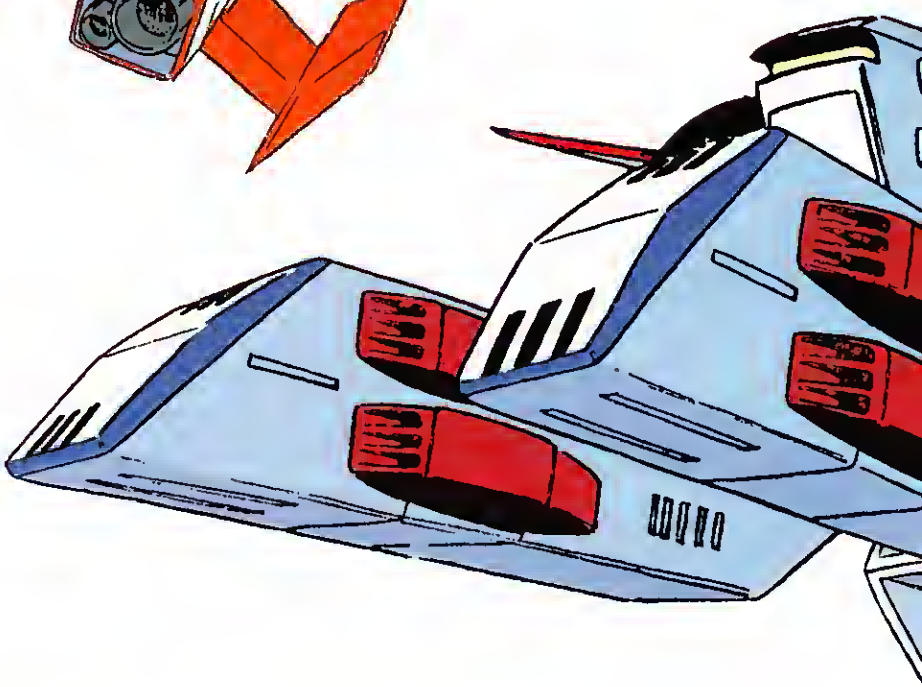
地球連邦軍の最新鋭・宇宙
空母で26人衆の生活空間で
あり移動基地でもある





●コア・ファイター

ガンダム、ガン・キャノン
ガン・タンクのコクピット
で万一のときには、脱出カ
プセルになる





敵ジオン・ザクの攻撃から始まったプロローグ物語はアムロとシャアの対決へと展開していく……第2話～5話を完全収録した記録全集第2弾！

豪華保存本の造本・体裁

●判型／B5判（左右18.2cm×天地25.7cm）●頁数／全138ページ建て●特製ポスター綴じ込み●用紙／両面アート（90kg）上質（90kg）を使用●造本／ハードカバー、堅牢上製本仕上げ（角背、かがり綴じ）●色数／4色128ページ、2色68ページ●印刷／オールオフセット

ガンダム GUNDAM

豪華保存本

機動戦士・ガンダム記録全集2

3月下旬発売予定

定価2,700円（送料別途）

記録全集2の主な構成・内容

- ●第2・3・4・5話（4本分）のビジュアルストーリーをカラー増ページで完全収録
- ●安彦良和の“ガンダム・カラーグラフティー”を特集
- ●富野喜幸の「ガンダム」制作秘話、生絵コンテによる演出論を初公開
- ●各話の人物・メカニックキャラクターなどの設定資料を満載
- ●オリジナル特製ポスター綴じ込み

〈予約受付中〉 お申し込みは本書の綴じ込み予約カードにてお願いいたします。



●設定・資料編

機動戦士ガンダム設定書・原案

原作　富野　喜幸

一九七八年十一月十四日新企画ガンボーイとして
一九七八年十二月一日新企画ガンボイとして改訂

○メインタイトル
「機動戦士・ガンダム」
または、「永遠のアムロ」

○型式
30分、カラー・アニメーション

○対象
児童全般

○シリーズ・キャプション
…君は何に生命をかけられるか…

○作品テーマ
自由と義務

○演出テーマ
…少年から青春を見上げる…

○映像
修羅の連続

●物語に描かれる世界

戦場とは極限状態だ。そこでは物事に対して、理性的、有機的に対処していかなければならないはずだが、青年であり、少年であるが故に、主人公たちは過失を累積させてゆくだろう。

まして、今次大戦は人類の半数を消滅させたのである。彼等の理性は、決して冷静ではない。しかし人間というものが、絶望するものなのだろうか？

人類は、新たな時代へ向って立たねばならない時なのだ。それを少年たちは、本能的にかぎわけて突破しようとする。が、同時に少年たちは、文明の爛熟がもたらす退廃をもくぐりぬけねばならない。むしろ、戦場を突破するより難しいことかも知れない。

殊にテレビにあっては、一人の少年を通して年上の青春を見上げ、社会を見上げてゆく型をとる。

その行く先に新しい世界が待っているとは、誰にも信じられないのだが、少年たちがひとりひとり生き残りへの道をたどる姿を描くのが、この物語の骨子である。

●戦士たち——男としての存在

自由を得た文明の中では、戦士は不要だ。戦士的人間であればあるほど、文明の枠外におかれてゆく。

力を示し、闘い得る敵——自然でもいい——がなければ、戦士は容易に人間失格者となってゆく。殊に、今次大戦の状況は、人類有史来の未曽有のことである。

真の戦士たちこそ、種の保存を本能として受けとめて闘うだろう。彼らは最良の戦士であるが故に、平和な社会からは抹殺されざるを得ない性癖を有する。

それは人間として悲しいタイプだ。

女性が根本的に戦士たり得ないのは、性の機能が全的に守りにあるからだろう。その属性は、生存のための根元的な機能であって、本能的に女性がこれを放棄することは、一瞬たりともあり得ない。

男は、女の中に己れの種を残せたことの確信が持てた時、〝種〟を守るための死をいとわぬ部分がある。

そして、戦士の精神を伝えることができるのは女性である。戦士が、何をし、何を守り、何を残そうとしたのかを子に伝えるのが女なのだ。

この初原的な種の観念を一語でも語ろうとするのが、この物語の表の顔である。テレビにあっては、恐らく主人公に近い女性が、主人公かそれに近い男に対して、

「私は、あなたの子供を生みたかった。今になって、そう思えます」

という語りで、終ることになる。

●時代設定

宇宙暦0078。巨大な人工衛星を地球周辺に浮かべて、すでに百億人近い人々が、宇宙を故郷にする時代。

そのスペース・コロニー（宇宙植民地）の一つが、ジオン公国と称して地球連邦に対する反逆の狼火をあげた。

ジオン公国の一方的な攻撃は、第一波（通称、三日戦争）、第二波（通称、ルウム戦役）と行なわれた。

この二つの争いで、人類は50%弱の人々を失ない、膨大なコロニーも失った。また、ジオンも連邦政府も、極度に軍備を失なって戦力の均衡状態が続き、戦いはゲリラ化し泥沼化していった。そのうえ、両国の間には和平への道さえも開かれないありさまだった。

……物語は、新たに建設途上にあったスペース・コロニー〈サイド7〉に生き残った少年たちが、やむなく戦争に巻き込まれながら、ゲリラ戦争の続く宇宙を、地球を舞台に、己れの〝生〟を見つめてゆく物語である。

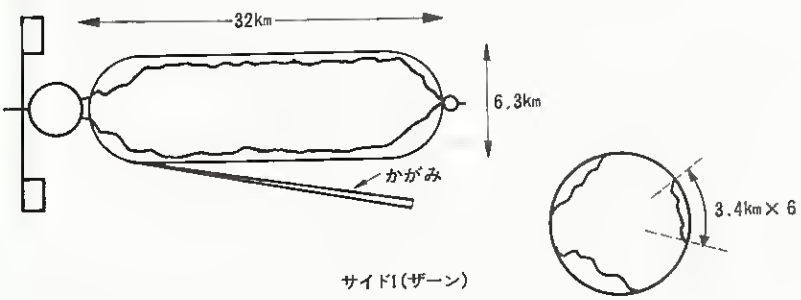
物語は、宇宙暦（U.C.）0079年に始まる。

●スペース・コロニー設定

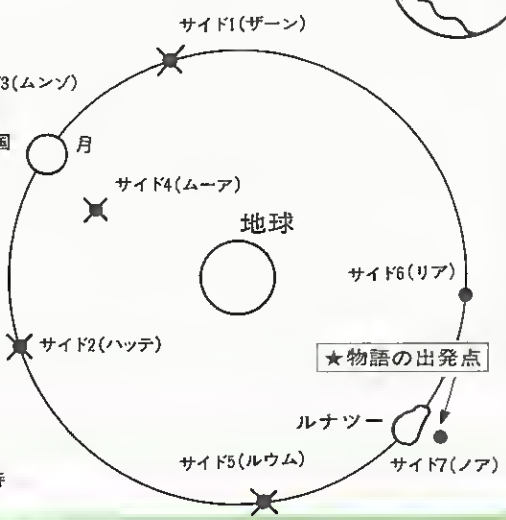
全長32km、直径6.3kmの円筒の中に、3,600万人を収容する人工の宇宙植民地。その一台を、一バンチという。

これを35～40バンチづつ、一つの空間に浮べる。この一群を〈サイド1〉〈サイド2〉と建設順に、ナンバーをうってゆく。

●コロニー概念図



●コロニー位置



×印のサイドは物語のはじまり時点で、2回の戦争で失っている。

●コロニーの位置設定

1サイドは、36～40バンチ。

1バンチ3,600万人として、1サイドに13億人移住。

〈ルナツー〉＝火星と木星の間にあるアステロイドベルトから運んできた、アステロイド・パラス（直径608km）がある。コロニーで使う、土や岩を得るために運んできたもの。

●ジオン進攻

ジオン・ズムに依って独立宣言がされて、開戦までの16年間。地球連邦は全サイドを連邦の名のもとに支配しようとして、ジオンの独立を認めることはなかった。

しかしジオンは、人類のあまりの増加は、地球の鉱物資源をもってしても支えきれるものではないと考え、連邦の平和主義に反逆の立場をとる。が、地球にしかない特殊鉱（水銀、白金など）がなければ、サイドの完全独立などはあり得なかった。

ジオン・ズムの死後、後継者デギン・ザビは、地球連邦との開戦準備を積極的に開始した。そして10年。0078年中期、一方的奇襲に依って4つのサイドを殲滅し、人類の50%近くを消してしまった。が、翌年の春、二次にわたる戦争はジオン公国、連邦政府双方の戦力は極度に疲弊して、戦況の膠着状態に陥ってしまった。

●ガンダム設定

ジオン公国が連邦に対して開戦した原因に、モビルスーツの開発があった。

戦闘が、宇宙船どうしの闘いだけで結着をみることはなかった。

歩兵が敵地を占領して初めて、勝敗が決まるのは太古と同じである。

ジオンの自信は、装甲強化宇宙服（モビルスーツ）の開発を、連邦に先んじたことにある。

連邦国側は、三日戦争、ルウム戦役の戦訓を得て、ジオンのモビルスーツを参考に、これまでの研究成果とを踏まえた新しいモビルスーツの開発をすすめた。開発名VX78。3つのタイプを開発し、その完成時が物語の出発でもある。

ガンダムとは、主人公たちがつけた愛称である。このフル装備時の破壊力は、現在の巡洋艦クラスに匹敵する。

●26人衆

サイド7は、第一番目のコロニーが$\frac{1}{3}$建設されたところで、開戦を迎えた現在、建設は頓挫している。

コロニーの建設要員の家族が二、三百世帯住むだけの辺境の地である。そこに、ガンボイの最終テスト地として、主人公アムロ等が来た。そして、ガンボイ用新造戦艦・ペガサスが来港した時、サイド7はジオン公国の特務艦に乗るシャアの攻撃を受ける。

この時、成年男子が死にたえて、サイド7の子供たちがペガサスに乗りこみ、ガンボイを使ってジオンに闘いを挑んでゆく。

この少年、少女たちが26人いたわけで、19才のブライト・ノアを含めて、以下4才のキッカまでの少年少女たちが、この物語を支える26人衆である。

●ホワイト・ベース

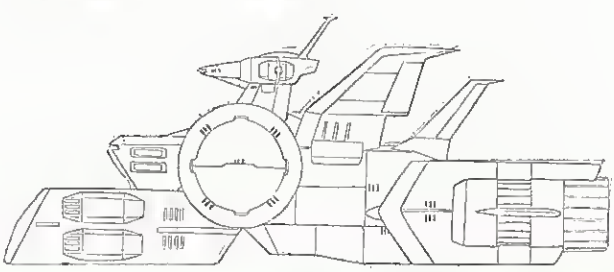
またはコスモペガサス、ペガサススペースペガサス

移動基地。本来、ガンダムタイプのスーツを6機搭載。他に支援戦闘機、輸送機等を搭載した、攻撃、揚陸用艦。

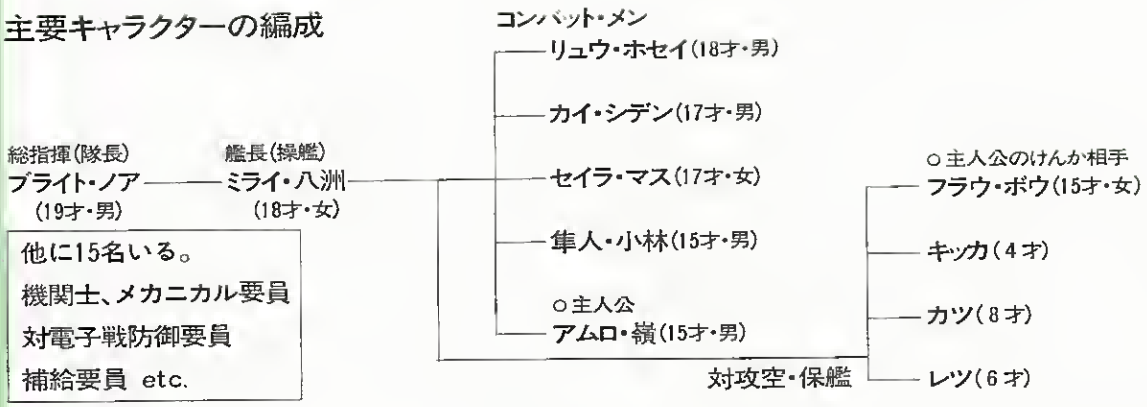
新造艦で、今後の戦闘隊型はペガサス・タイプを中軸にした機動部隊が、戦闘の主流になるものとみられる。

26人衆が、物語全般にわたって使用する生活空間であり、基地である。

〈宇宙空母ホワイト・ベース〉側面図



主要キャラクターの編成



キャラクター概要

※改変あり

●アムロ・嶺（15才・男　主人公）

ガンダムの提唱者の父を持つ。ガンダムの最終慣熟調整を、サイド7で行うため、父と共にサイド7に流れ住む。もともとサイドの建設技師である父は、アムロの見聞を広めるために連れ歩く。

母は、地球に居ることが多いが、技術一辺倒の父を見守る典型的な良母。

アムロは、女性コンプレックスを持ち、孤独癖があり、コンピューターマニア、文学好きでスペースカー好き…と一人遊びが得意だった。が、フラウ・ボウとのつき合いが、人間関係に目をむけることになる。

そして、ペガサスとの出合いの時、父のガンダム・マニアルを盗み見る機会を得たことが、一人ガンボイの操縦者として己れの立場を得る。

このことが、26人衆の中でのアムロの独自の立場を生み出すと同時に、好むと好まざるとに拘らず、戦士としての道を歩まざるをえなくなる。

この内向的な少年が、外向的な性格に変らざるをえない処に、彼の成人への道があるといえる。しかし、この戦場という極度の緊張状態は、彼の感情をややもすると、ブツ切りにするのだ。ために、アムロはチビちゃん達には好れない面がある。そこにフラウ・ボウ、ミライ・八洲等が彼を支える役としているわけであり、また、リュウ・ホセイの純朴さの中に、いつしか男の優しさを発見してゆく。セイラ・マスに惚れるけれどこれは本物ではない。

真剣一途。痛みを感じる。ナイーブ。

●ブライト・ノア（19才・男）

理想主義者。年令的に無理している。宇宙士官候補生一年終了で応召。サイド7の新任務と命令されて来るが、何も知らされていない。ペガサス要員ではあったらしい。

アムロを抱えこみ、いつもいらいらしている。博識。戦略家の天分をもっている。両親ともに、サイド建設者であったが戦死。

●ミライ・八洲（18才・女）

エリート。星連のいい、少女。お母さん役。スペースグライダーに慣れ親しんだお蔭で、ペガサスの操艦をやってのける。インスピレーションのいい少女。

父親は、連邦政府の高官だったが、政府のやり方に反対し、サイド7に流れてきた。が、父は応召し戦死。

●リュウ・ホセイ（18才・男）

軍人。ペガサスの戦闘員として生き残る。三ヵ月と戦闘機にのっていない。家族を、ジオン進攻で亡くす。

が、性格はやさしく、26人衆のとりもち役となり、戦闘メンバーの長と

して成長する。

●カイ・シデン　（17才・男）

日和見主義。口かずこそ多いが、結局一人では何もできない。星廻りがひどく悪い。サイド3から逃げてきた医者の子供だ。

戦闘マニア癖に陥るのも、これらの反動か……。

●隼人・小林　（15才・男）

善良。能力はあるが、気の弱さがそうはさせない。柔道などリュー・ショーキを手玉にとれるのだが…。

子供たちの、いい兄さん。一家は、全て戦死。当初は、アムロを憎む役まわりとなろう。

※リュー・ホセイの前の名前

●セイラ・マス　（17才・女）

ジオン・ズムの娘。ザビが主権を握った時、ジオン公国を脱出して、地球で生活する。権力の抗争を極度に嫌う。連邦国民として新天地サイド7に移住し、平和な一生を願うが、ペガサスとの出会いが、彼女を26人衆の中でもりりしい戦士に、育てあげてゆく。

●フラウ・ボウ　（15才・女）

アムロの友達。いいお姉さんになってしまうが、女の子と意識しないでつき合える少女。家族は全て戦死する中で、ひとり頑張りズム。

●キッカ　（4才・女）
●カツ　（8才・男）
●レツ　（6才・男）
チビちゃん

生活班の整理人。補給班の邪魔者として、活躍する。

地球連邦国軍備要覧

★宇宙機動軍

マゼラン・タイプ戦艦　ネルソン・タイプ空母　サラミス・タイプ重巡
ペガサス・タイプ軽空母（揚陸戦）
パプア補給艦

★防衛軍

戦車といってもミサイル搭載対キュイ用の低空クラフト防御機衛
ワンマン・ヘリ　各種火器

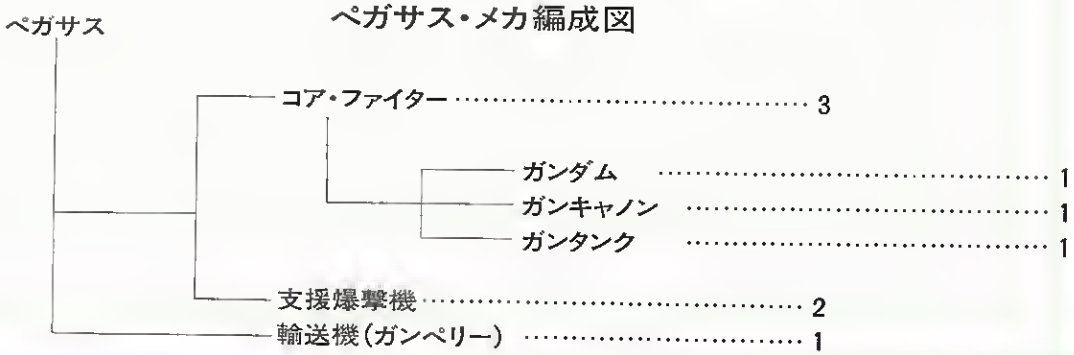
ペガサスのメカ編成

★本来のペガサス装備

（但しフル装備のペガサスは、まだ連邦軍のどこにもない）

コア・ファイター　7
ガンダム　3
ガンキャノン　1
ガンタンク　2
ボンバー　3
ガンペリー　2

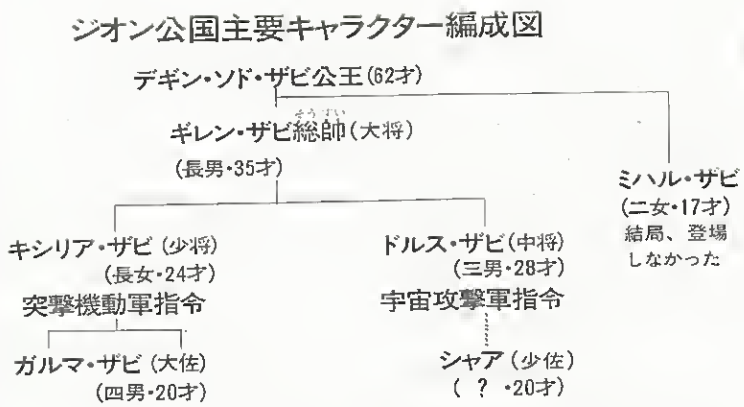
ペガサス・メカ編成図



ジオン公国設定

ジオン・ズムが、サイド国家論を実践して独立した公国。
ジオン・ズムの死後、デギン・ソド・ザビが、一族支配主義を施く。以後、軍制独裁を一族によって占める。

ジオン公国主要キャラクター編成図



ジオン公国成立の歴史

地球人口増加危機の打開策として、地球連邦政府は、地球外移住地（スペースコロニー）を建設した。
ジオン公国は、三番目のコロニー、〈サイド3〉に発生した独立国。
人口10億。ジオン・ズムの指導により、公国としての道を歩むが、地球連邦はその独立を認めることがなかった。
連邦は、地球を中心とする中央集権を唱え、いかなる自治権も認めないのだった。
ジオン・ズムの死後、デギン・ザビは、ジオン・ズムの理念の実践を図った。すなわち、多すぎる人口の整理とジオンによる連邦の支配の二つである。
さらに、ザビ家による軍制独裁の体制を強化して、開戦の準備をすすめ、一挙に全面戦争へと突入させたのである。それが三日戦争であり、ルウム戦役である。
一見、巨大な軍事力をもつジオン公国のようであったが、宇宙を舞台にした戦闘による打撃は大きく、ジオン、連邦双方の力を一気に消耗させてしまったのである。
以後のゲリラ戦化の原因には、いくつかの要素がある。
○資源不足のジオンにとって、長期化する戦闘は不利である。
○連邦の民主制、すなわち合議制はあらゆる政治決定を優柔不断にする。
○二次の戦争によって、余りにも簡単に人類が消滅させられる事実に、双方が恐怖したこと（これが、B・C兵器、核兵器禁止協約を生む）。
○ザビの独裁、連邦の極度の合議主義とのぶつかり合いによる、和平工作の不手際などである。

キャラクター概要

●デギン・ソド・ザビ公王（62歳）
ジオン・ズムの思想を実践化、一族主義体制を施いた人物。自己顕示欲の強い独裁者。が、隠居。

●ギレン・ザビ総帥（35歳）
公王の長男。実質的指導者。知能指数240！無能な人間は切り捨て、有用人生残説を説える理想主義者。
彼の主張は、冷酷なまでの合理的科学性に基づいているという、恐ろしさを感じさせる。
〝我々は神ではないからだ。人口減し作戦については、選ぶということはしなかった。確率的に。人間殺生の権利は人間にはない。しかしだ。以後は違う。有能種は選別する〟

●ドルス・ザビ中将（28歳）
公王の三男。宇宙攻撃軍指令。本能的戦闘能力が極度に高い。熱血漢。が、女性に弱い。

●ガルマ・ザビ大佐（20才）
公王の四男。キシリアに利用されるようなところのある青年。感じやすい。が、物語の頭初で死に至る。



●**キシリア・ザビ少将**　（24才）
公王の長女。突撃機動軍指令。ギレンより政治的手腕をもつ。ギレンの一途さに対して、むしろ冷たい。サイド6の中立化政策など、ギレンに対抗するキシリアの策といえる。

●**ミハル・ザビ**　（17才）
公王の次女。

ジオン公国軍備要覧

★ジオン軍・宇宙攻撃隊艦種
ソドン、タイプ重巡（主力攻撃艦）
バルキリ・タイプ空母
攻撃機／14機（2中隊）
戦闘機／24機（2中隊）
偵察機／4機　輸送機／2機
ムサイ、タイプ駆逐艦
（攻撃、揚陸、12体のモビルスーツをもつ）

★**変型タイプ各種**
ニューモビル　三分化するか？
改／モビルスーツへ　格戦タイプ
　　砲撃タイプ
初期／モビルスーツ＝一タイプのみ

★**補給艦2種**
ラビア　ミデア㊟

★**突撃機動軍**（引力地帯での陸戦）
ガウ攻撃機　ガウ輸送、揚陸機
マゼラ、アタック
（攻撃用戦車、突戦パースとドッキングしている）
グフ水陸両用攻撃艇
（宇宙軍が開発した陸戦艇）
（モビルスーツと併用）
キュイ攻撃艇
（歩兵を防御しつつ戦線を前進させるメカ）
歩兵用ワンマン・ヘリ
歩兵用各種火器

ミノフスキー粒子

ジオン、連邦両軍で使われる、最重要電子兵器である。
白ロシア系ジオン人、ミノフスキーによって開発された、強力な帯電機能をもつ微粒子である。数種のミノフスキー粒子を散布することによって、広領域に及ぶ電波の反射、吸収作用を行なわしめる。
モビルスーツによる機動作戦の一環として、ルウム戦役に於ける地球と月系間の戦闘に使用され現在に至る。
三日戦争、ルウム戦役に於ける核兵器の大量使用は、衛星軌道を中心とする宇宙空間に多量のプラズマを放出せしめた。このプラズマとミノフスキー効果との複合作用によって、長距離間の無線、レーダーの使用は不可能となったわけである。
現在、長距離通信は、レーザー通信を使用することが普通となっている。むろん、10キロ余の極く短距離の通信（テレビ映像も）は可能ではあるが、等二次大戦初期の無線状況に近く、使用は思うにまかせない。

ビーム砲

本物語では、レーザー砲は使用されない。レーザーが、真空中でその光束を目視することができないからではな

く、ビームーの方が優れているからである。

帯電粒子を磁力によって発射するシステムは、核融合エンジンの動力を流用できるため〈宇宙艦×戦闘艦〉タイプに、主砲、副主砲として装置される。

ガンキャノンの狙撃ライフルまでの小型軽量化が限度である。

使用に際して、5秒間隔の間を必要とする。貯電、貯磁の時間のためだ。

艦船の場合も各砲の斉射、連射は可能であるが、そのために船速はおちる。しかも、一分以上の斉射に耐えることはまずない。貯電磁のメカが焼け、艦戦の〝帯磁〟が極限をオーバーするためである。とはいえ荷電粒子ビーム一砲の装置が標準となったのも、多量の弾頭の装備よりは軽量で済み、メンテナンスが楽なためである。

大気中ではビームが減速するため、20～30キロ以上の射程は望めない。そのため宇宙にあっては、ビームのバリアとして、空気層（必ずしも空気でなくとも良い）を張りめぐらせる。しかし、これとてもビームの直撃をやや軽くするクッションであって、それ以上の防御兵器とはならない。

以上の制約から、長距離・短距離ミサイルは制式兵器であり、まして小型軽量火器としての小火器類は、現用のままである。

また、荷電粒子砲によるビームは、真空中でも見ることが可能である。

B・C・兵器、核兵器

古代以来、本気になってB・C・兵器と核兵器が使われたのは、3日戦争とルウム戦役であった。が、この殺戮によって、人類が容易に自殺できることが実証された。すなわち、実戦闘日数10日で、人類は50億を消滅させ得たのだ。これは、ヘゲモニー戦争との比ではないし、ザビ家がジオン公国を存続させてゆくにしても、これ以上の巨大な殺戮は不必要なのだ。

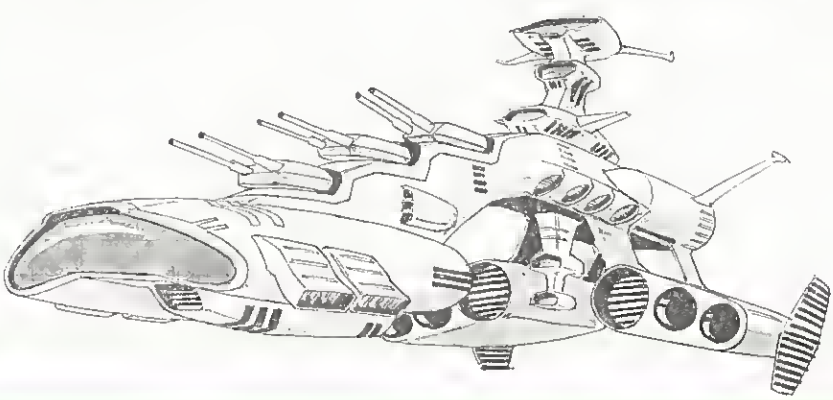
ルウム戦役後、自らの力に恐怖したジオン、連邦軍の双方は、B・C・兵器核兵器の使用禁止協定を結んだ。

南極協定がこれである。

教育型コンピューター

ペガサス、ガンボイに搭載されているコンピューター。

基本動作、操艦、管理システムは、当然セットされているし、基礎データも各々のコンピューターの用途に応じて記憶されている。が、教育タイプの異る点は、その後に〈体験〉した事象を学んで、それを記憶してゆくことだ。殊に、ガンボイの戦闘を学んでゆくシステムはすぐれていて、場合によっては操縦者に先行するきらいがある。しかし、間違い行為を排除してゆくシステムについては、万全とはいえないため、各々の操縦者の癖が残り、欠点ともいえる。（消去ヘッド開発の遅れ）



ガンダム年表

宇宙世紀

——宇宙移民開始をもって、Universal Century 0001年とする——

U.C. 0001　地球総人口90億

0040　総人口の40%(約50億)が移民

（エレズムの発生。地球は生命の素、聖地だとする考え）

0041　ルナツー成立

ジオン・ズムがコントリズムを唱える。各サイドの国家主義。ここにエレズム＋サイドズム（サイド国家主義）がドッキングする

0050

総人口110億。うち90億が移民

0052

ジオン・ズム、サイド3に渡り、コリントリズムの実践を開始

させる戦法がとられ、B・C・兵器と核兵器が多用された

▼

ルウム戦役／サイド5（ルウム）で

連邦とジオンの激突が行なわれ、この名称がつけられた

ザクの威力！

サイド2、サイド5のコロニーはほとんど地球に激突し、35億の人類が死亡した。核兵器、B・C・兵器が多用される

▼

ジオンの最後通告

しかし連邦は、ジオンの捕虜となったレビル将軍の救出に成功し、〝ジオンに兵なし〟の言に力を得て、最後通告を拒否する

▼

ゲリラ戦の時代に入る

U.C. 0078 12.31

南極条約締結

B・C・兵器と核兵器の使用禁止条約

0062 **ジオン公国独立宣言**
連邦との対立。ズム、特殊鉱獲得の暗躍をはじめる　連邦の動揺。

0068 ジオン・ズムの死
連邦の政治的攻勢

0069 デギン・ザビ主権確立
開戦への暗躍

0075 **モビルスーツ・ザクの開発に成功**

U.C. 0078 **ジオンの進攻**
3日戦争・ルウム戦役によって、人口の50%が減少した

▼ **ジオンの進攻**／ジオン・ズムの10回忌を以て発進

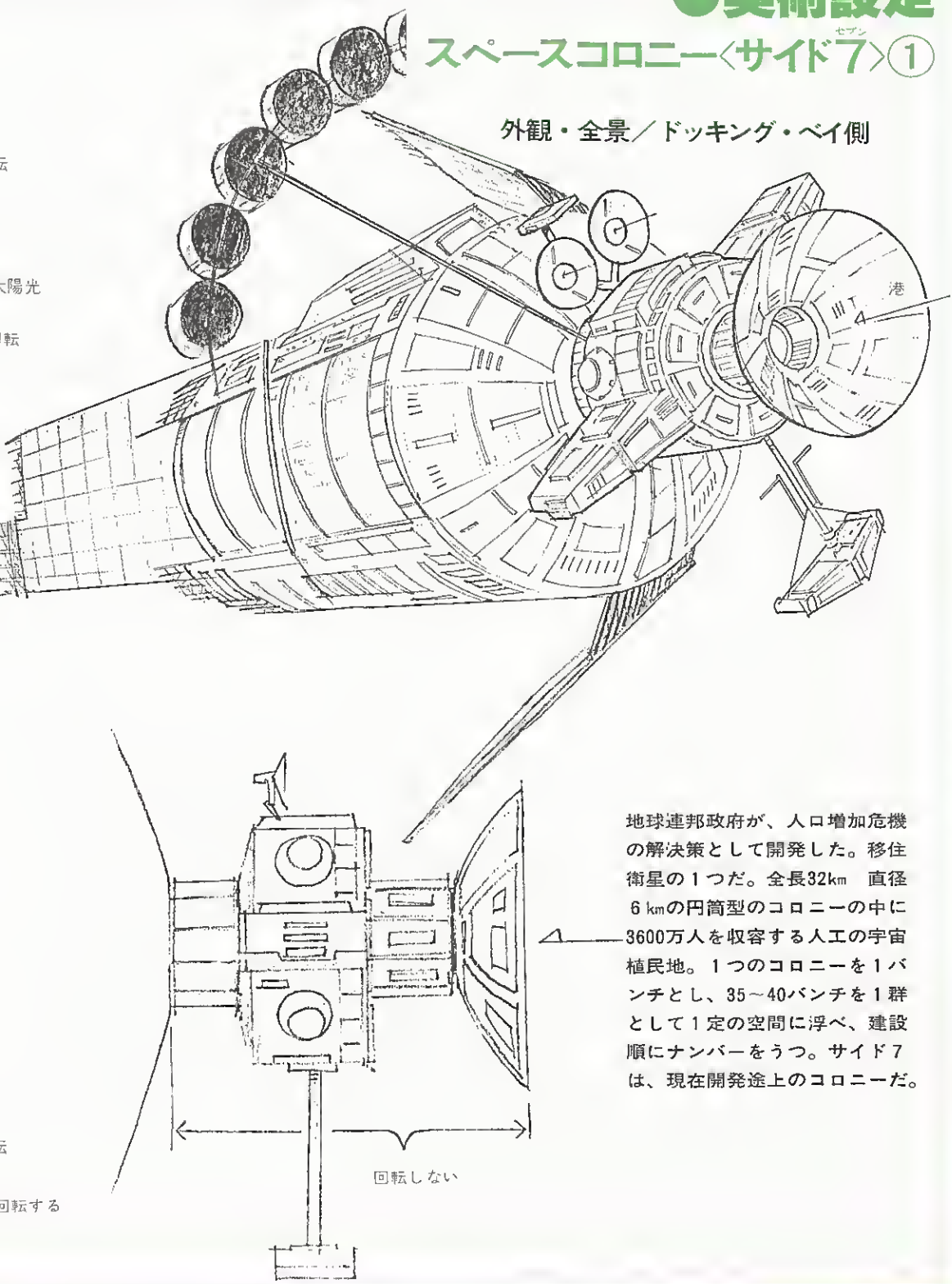
▼ **3日戦争**／サイド1、サイド2、サイド4の、約40のコロニーを、三日間で撃破し、30億もの人類を死に至らしめた
40ほどのコロニーを、地球に激突



●美術設定

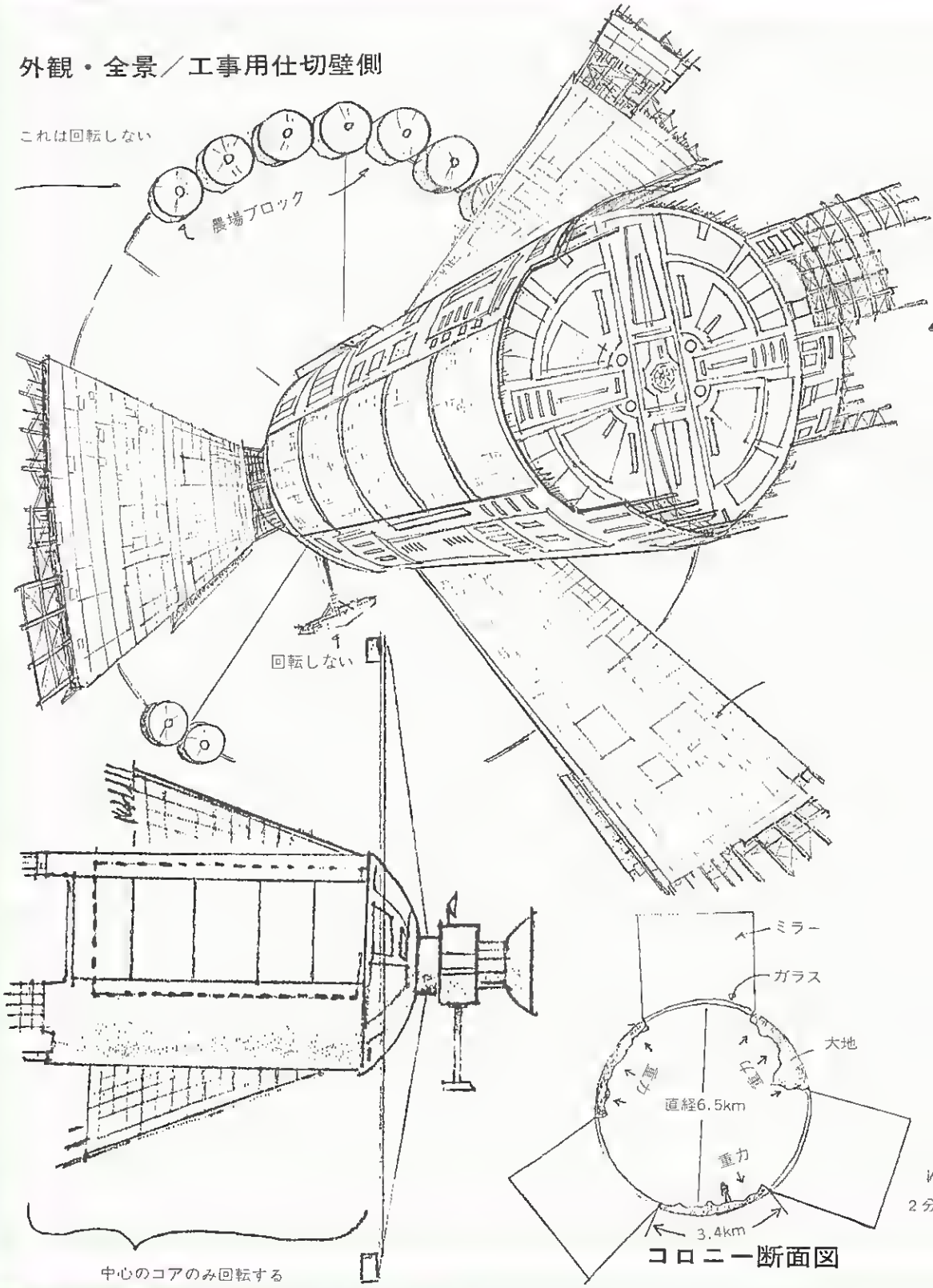
スペースコロニー〈サイド7（セブン）〉①

外観・全景／ドッキング・ベイ側



地球連邦政府が、人口増加危機の解決策として開発した。移住衛星の1つだ。全長32km　直径6kmの円筒型のコロニーの中に3600万人を収容する人工の宇宙植民地。1つのコロニーを1バンチとし、35～40バンチを1群として1定の空間に浮べ、建設順にナンバーをうつ。サイド7は、現在開発途上のコロニーだ。

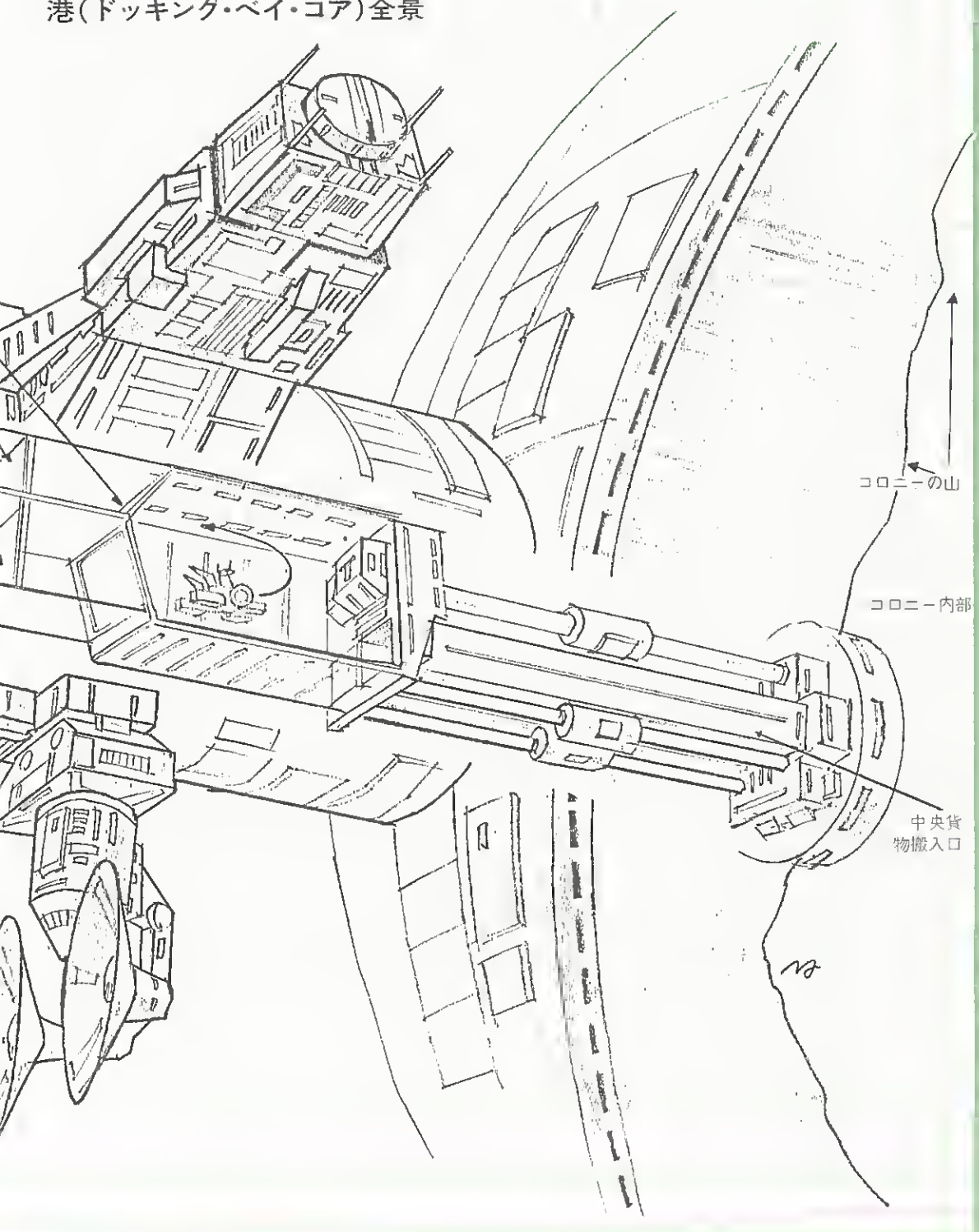
外観・全景／工事用仕切壁側



コロニー断面図

スペースコロニー〈サイド7(セブン)〉②

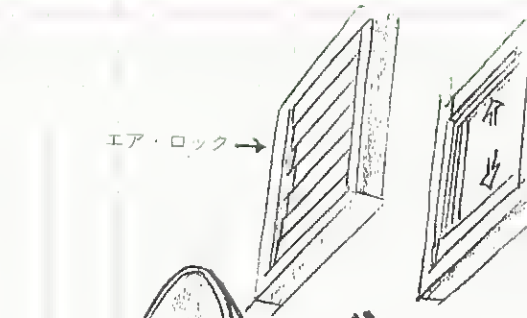
港(ドッキング・ベイ・コア)全景

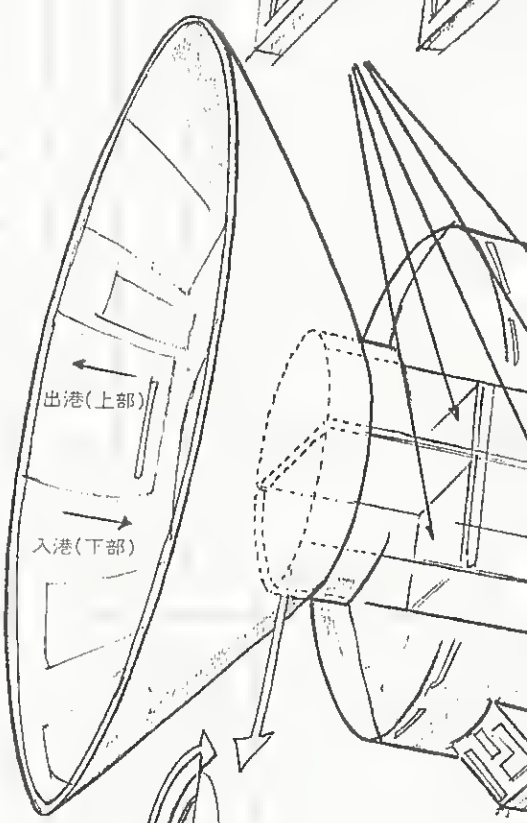


外壁破壊口



エア・ロック

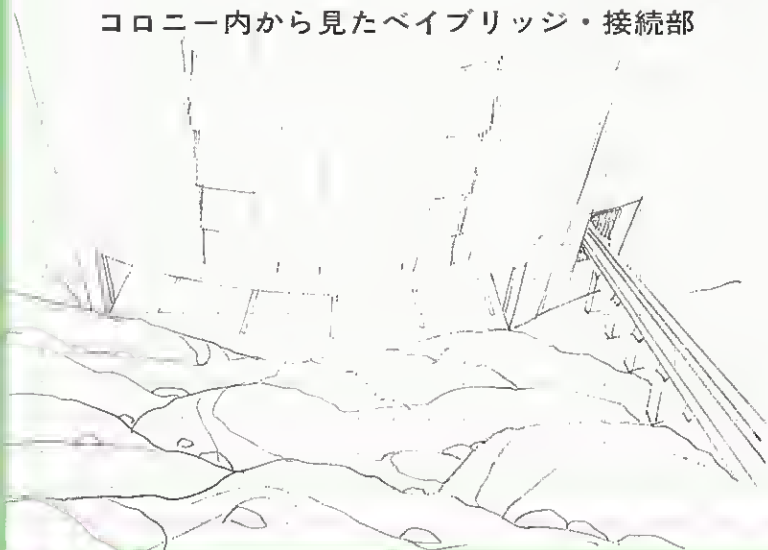




内壁破壊口



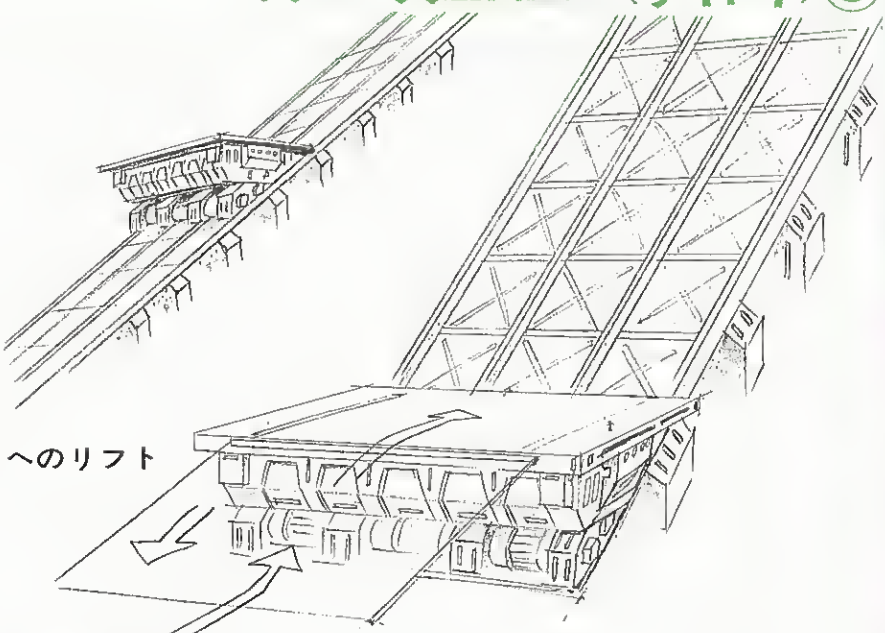
コロニー内から見たベイブリッジ・接続部



中央ドア開閉

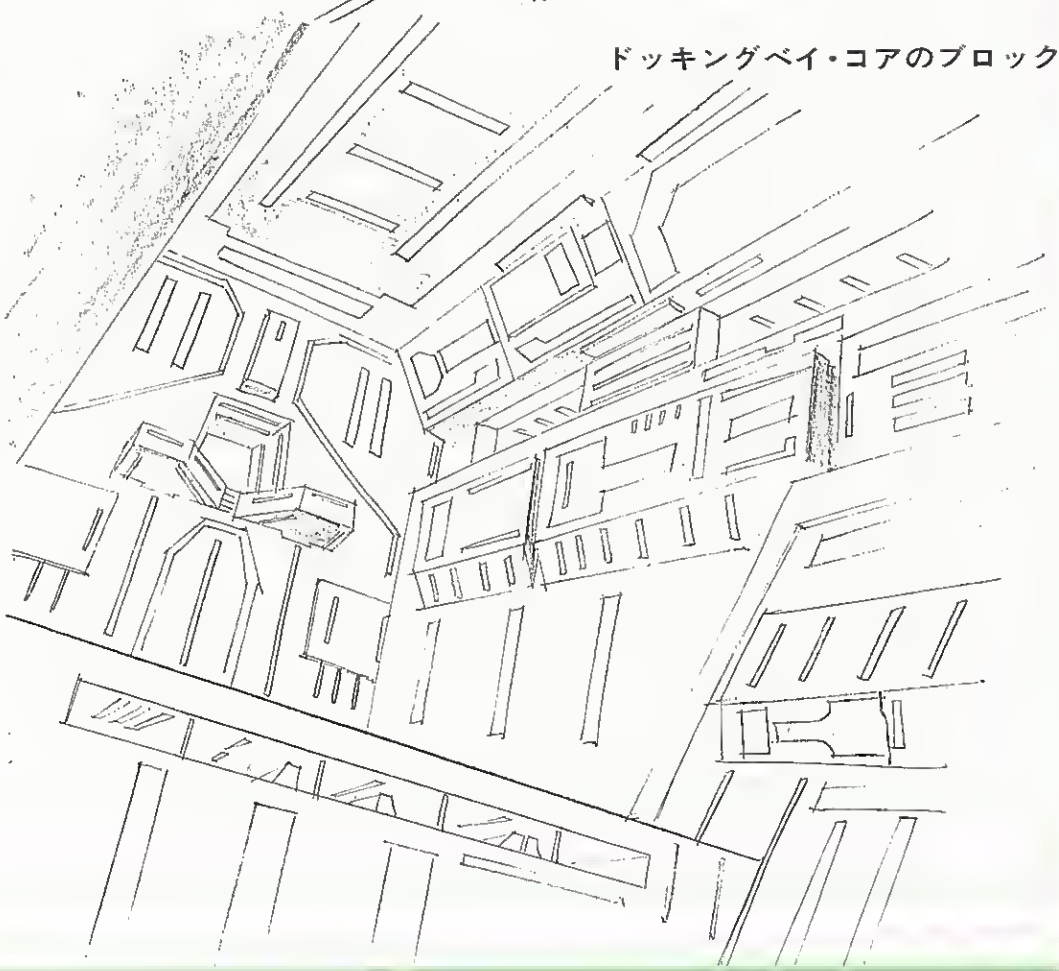


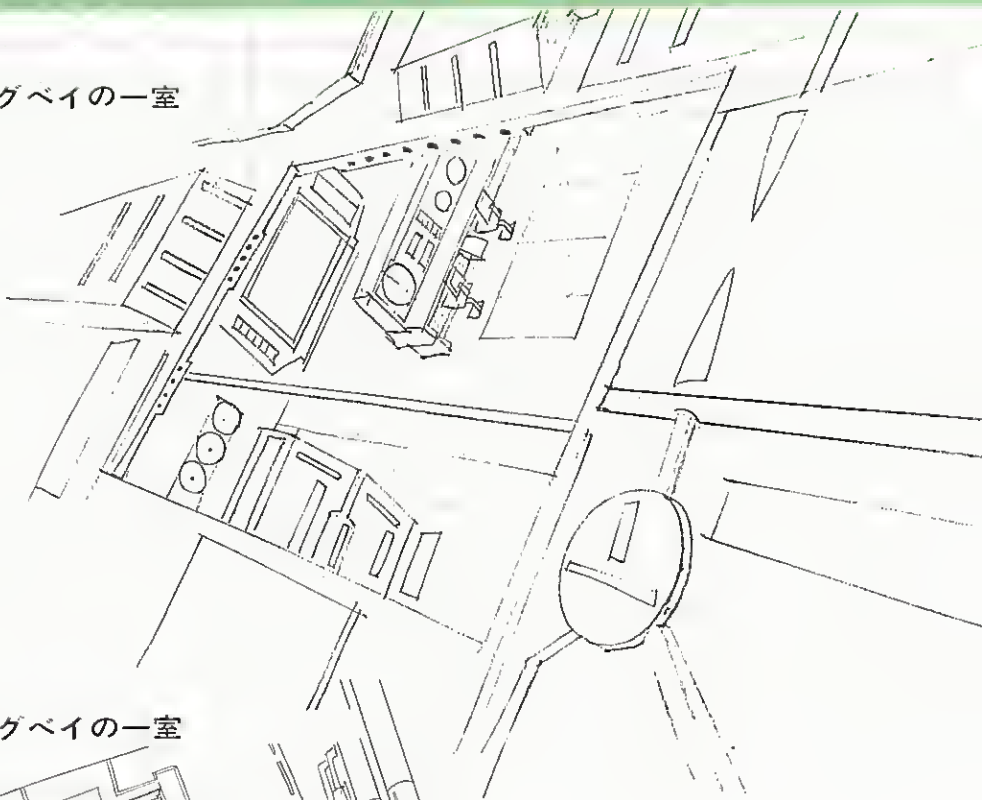
スペースコロニー〈サイド7（セブン）〉③



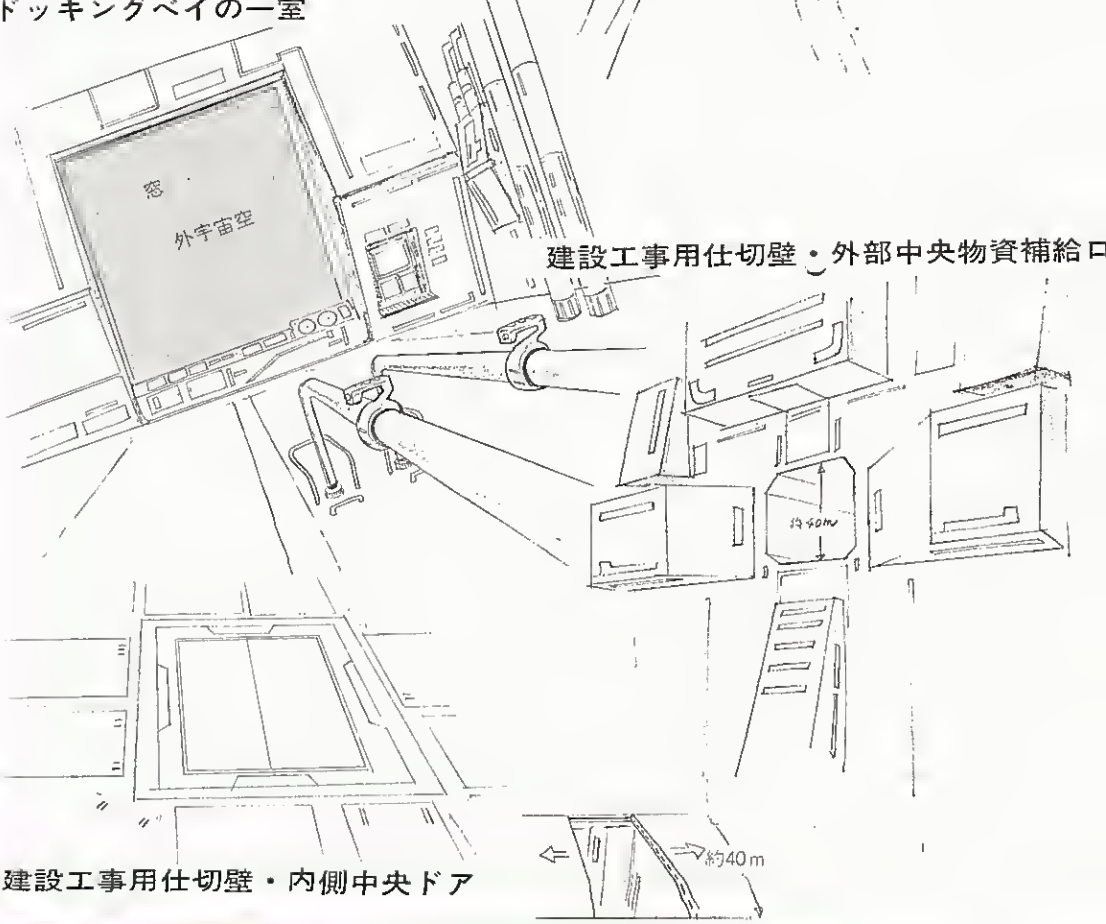
地上より
ドッキングベイへのリフト

ドッキングベイ・コアのブロック





ドッキングベイの一室



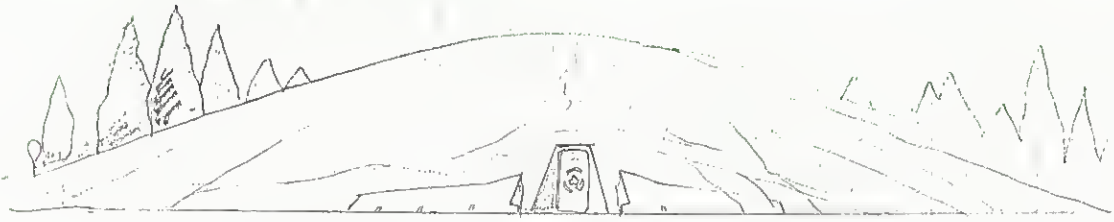
ドッキングベイの一室

建設工事用仕切壁・外部中央物資補給口

建設工事用仕切壁・内側中央ドア

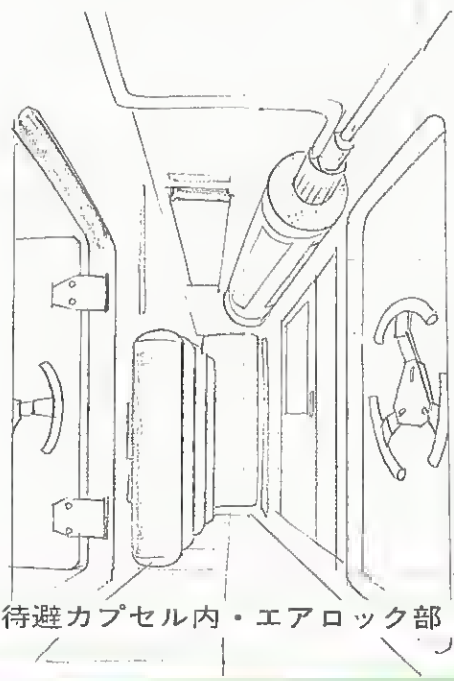
スペースコロニー〈サイド7（セブン）〉④

待避カプセル・外観

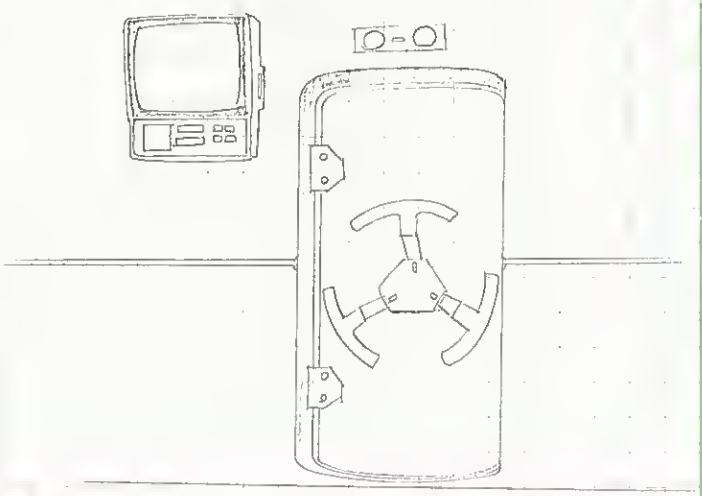




ドッキング・コアに通じるコロニー地上部入口

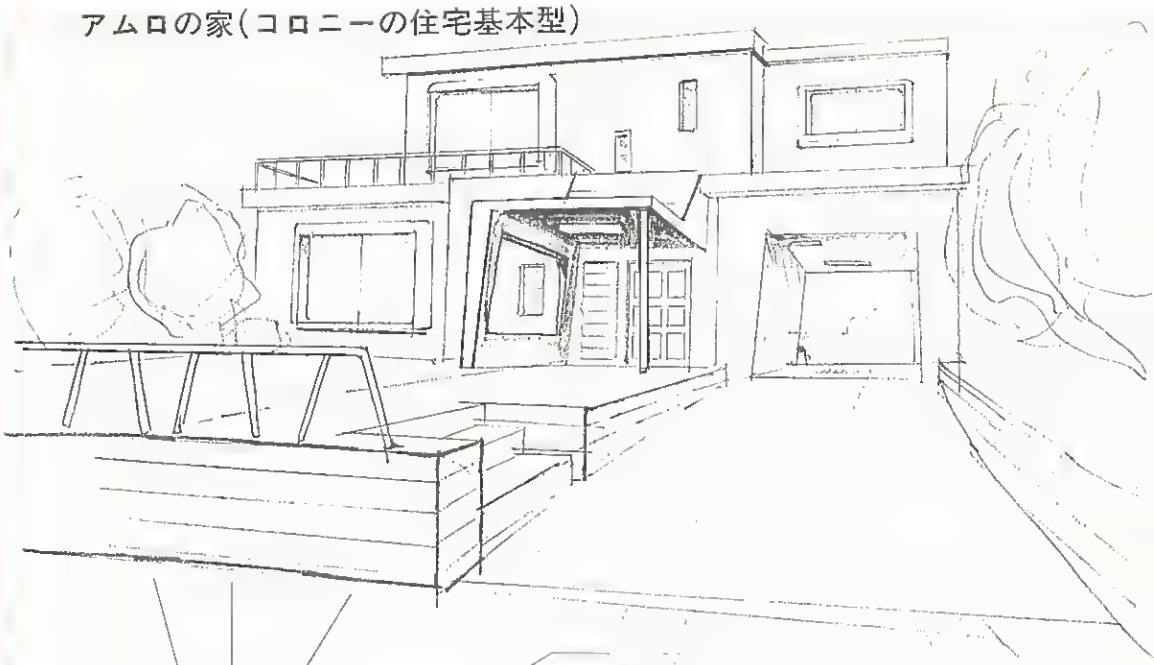


待避カプセル内・エアロック部

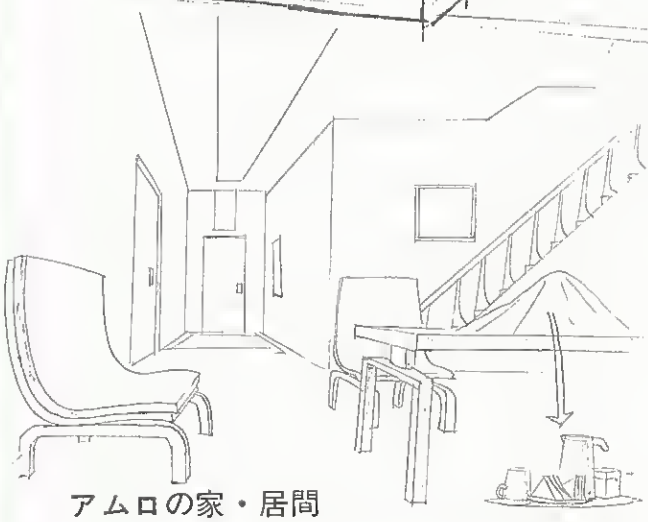


待避カプセル・ドア

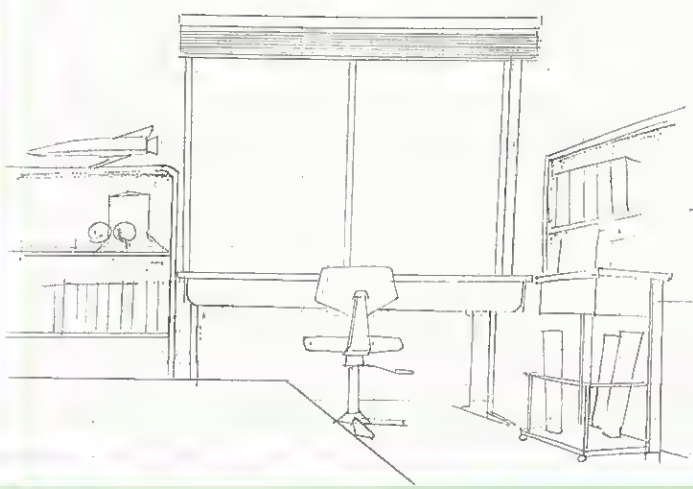
アムロの家(コロニーの住宅基本型)



アムロの家・室内



アムロの家・居間



アムロの部屋

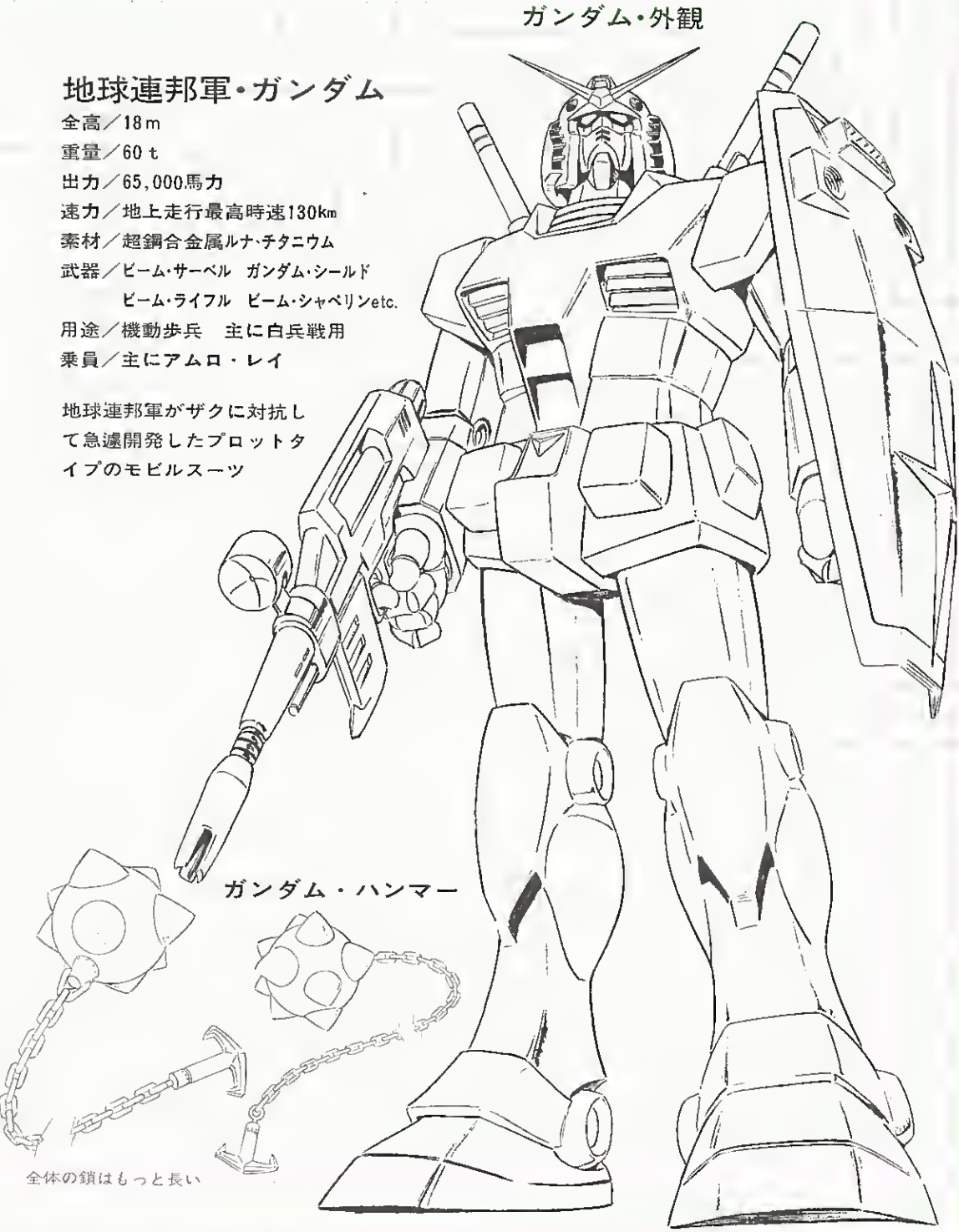
●モビルスーツ設定1

ガンダム・外観

地球連邦軍・ガンダム

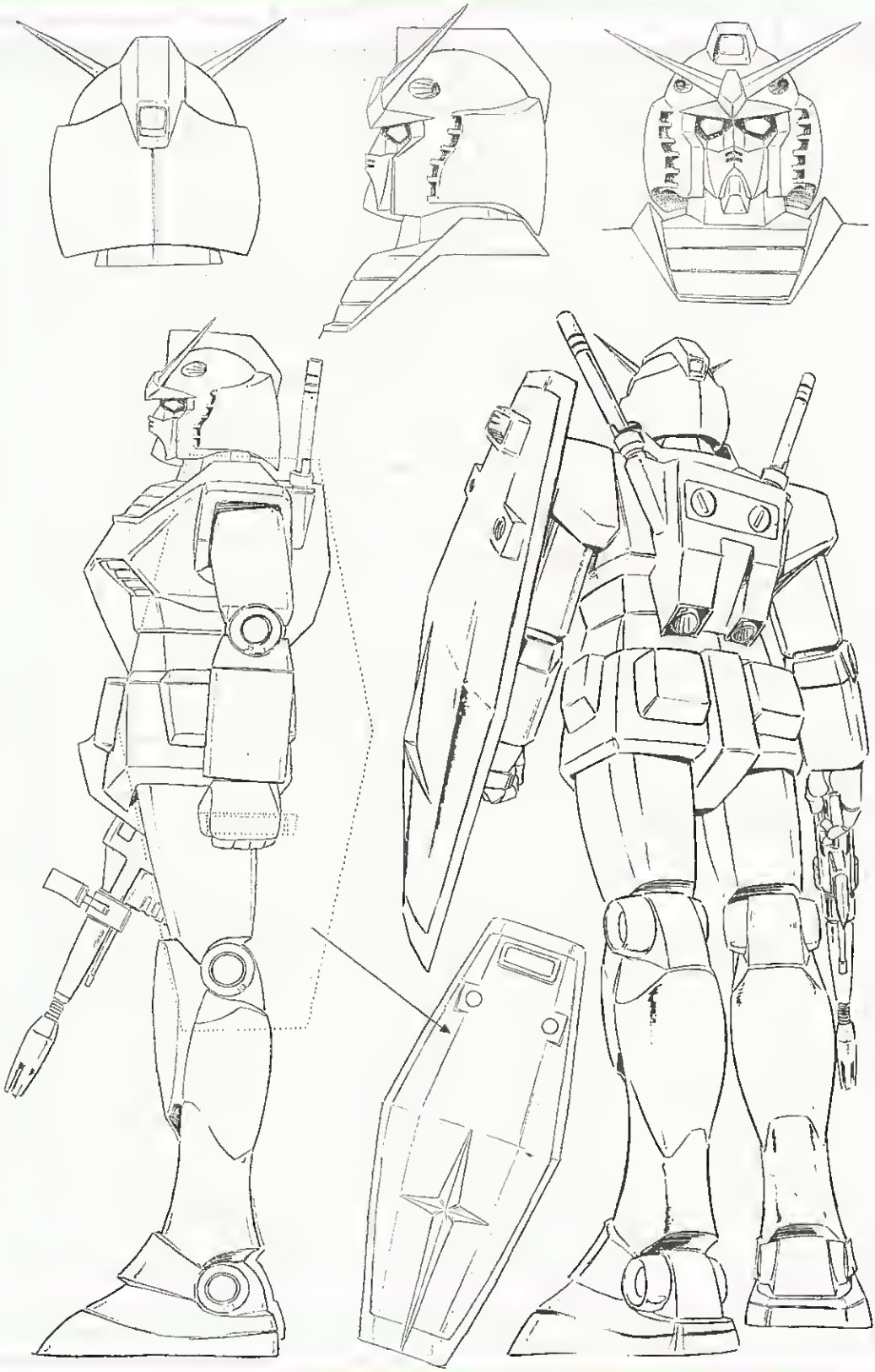
全高／18m
重量／60t
出力／65,000馬力
速力／地上走行最高時速130km
素材／超鋼合金属ルナ・チタニウム
武器／ビーム・サーベル　ガンダム・シールド
　　ビーム・ライフル　ビーム・シャベリンetc.
用途／機動歩兵　主に白兵戦用
乗員／主にアムロ・レイ

地球連邦軍がザクに対抗して急遽開発したプロトタイプのモビルスーツ



ガンダム・ハンマー

全体の鎖はもっと長い



モビルスーツ設定2

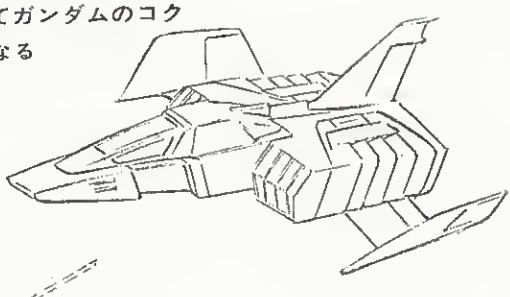


ビーム・ライフルで
武装したガンダム

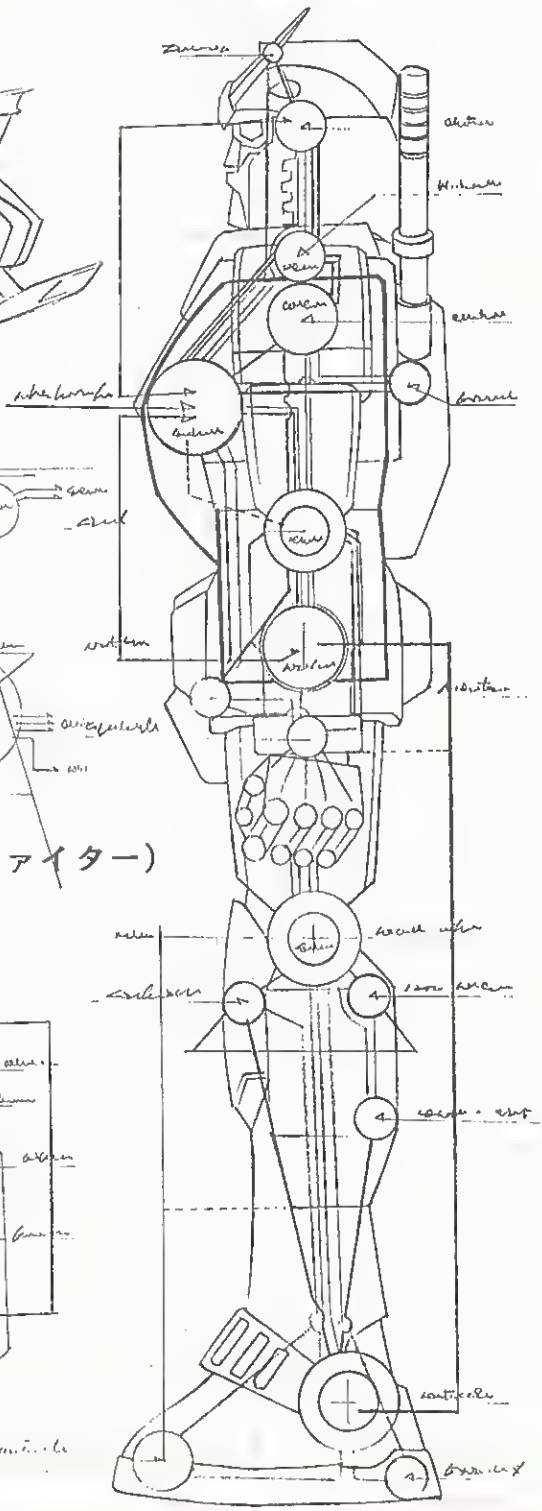
ビーム・サーベルで
武装したガンダム

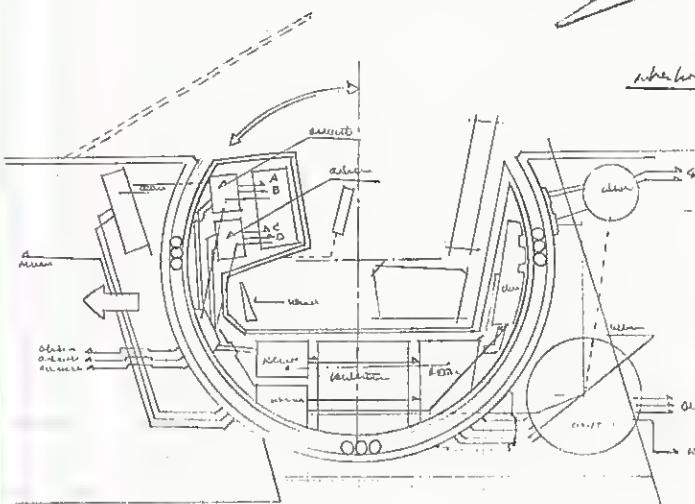
正式名称
RX-78モビルスーツ
ガンダムは主人公たちがつけた愛称だ。地球連邦軍が総力をあげ、科学力を結集しただけあって、フル装備時のガンダムの破壊力は、現在の巡洋艦クラスに匹敵

小型戦闘機コア・ファイターが変型して搭乗メカ・コア・ブロックになり、胴中に合体してガンダムのコクピットになる

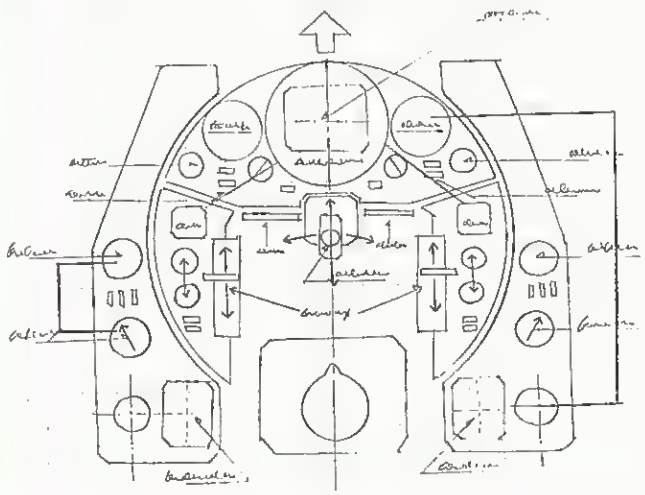


ガンダム電気系概念図





ガンダム・コクピット概念図（コア・ファイター）



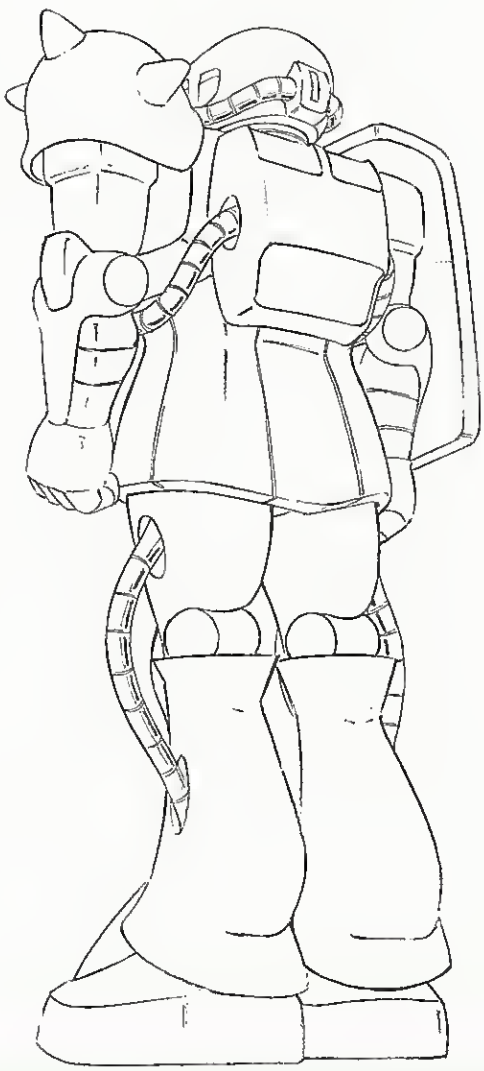
●モビルスーツ設定3

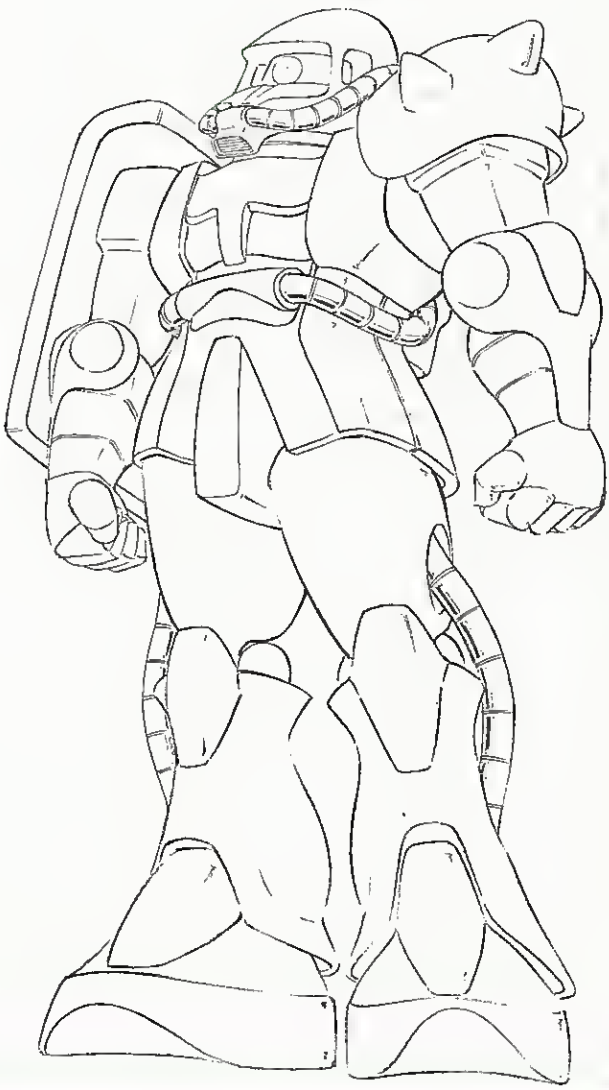
ジオン公国軍・ザク

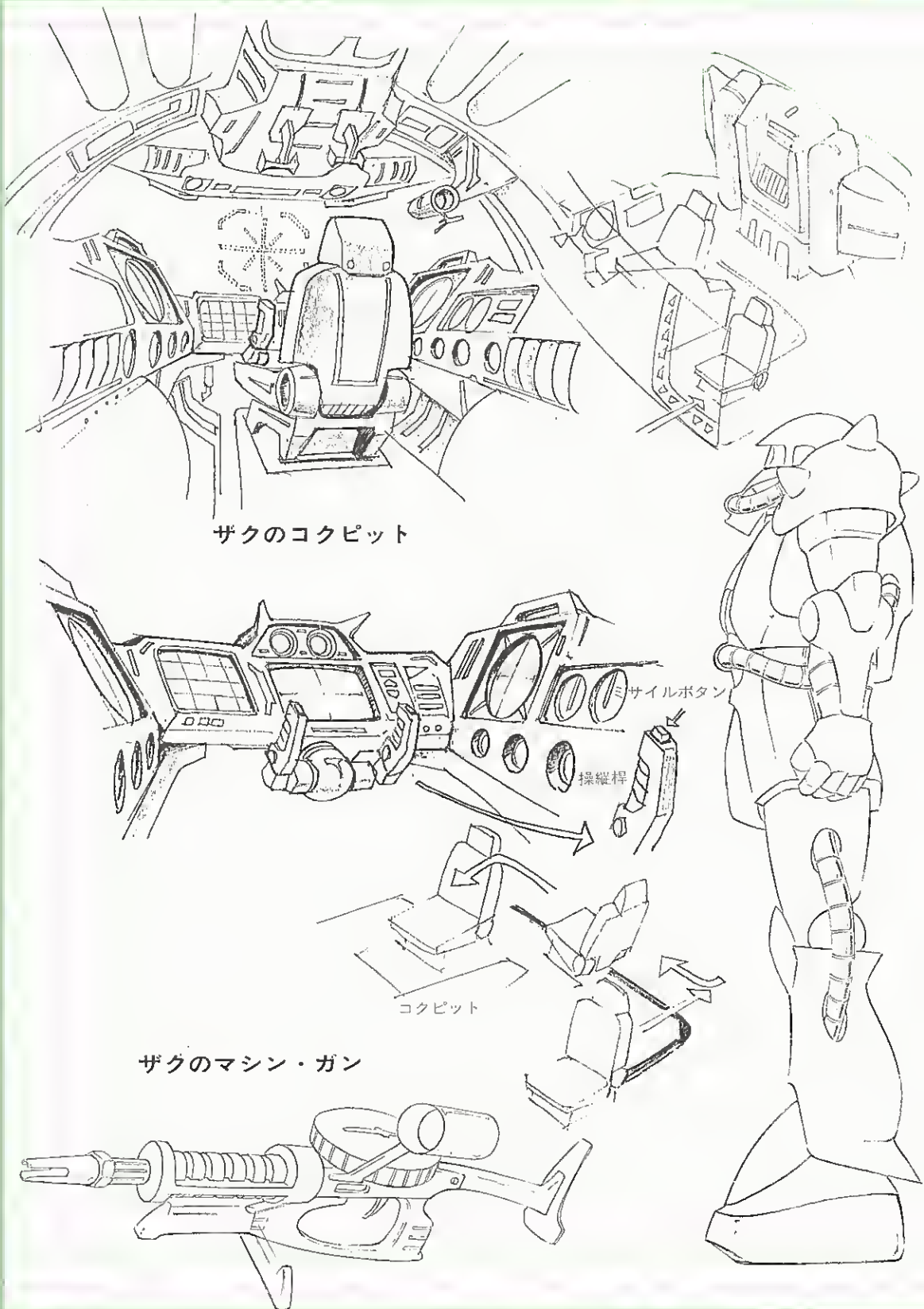
全高／17.5m
重量／74.5t
出力／55,000馬力
速力／地上走行
　　最高時速85km
素材／超硬スチール合金
用途／機動歩兵　歩兵戦闘

科学力に優れたジオン軍が最初に開発したモビルスーツだ。実戦用量産型

ザク・外観







ザクのコクピット

ザクのマシン・ガン

●人物設定1



アムロ・嶺（レイ）（15才）

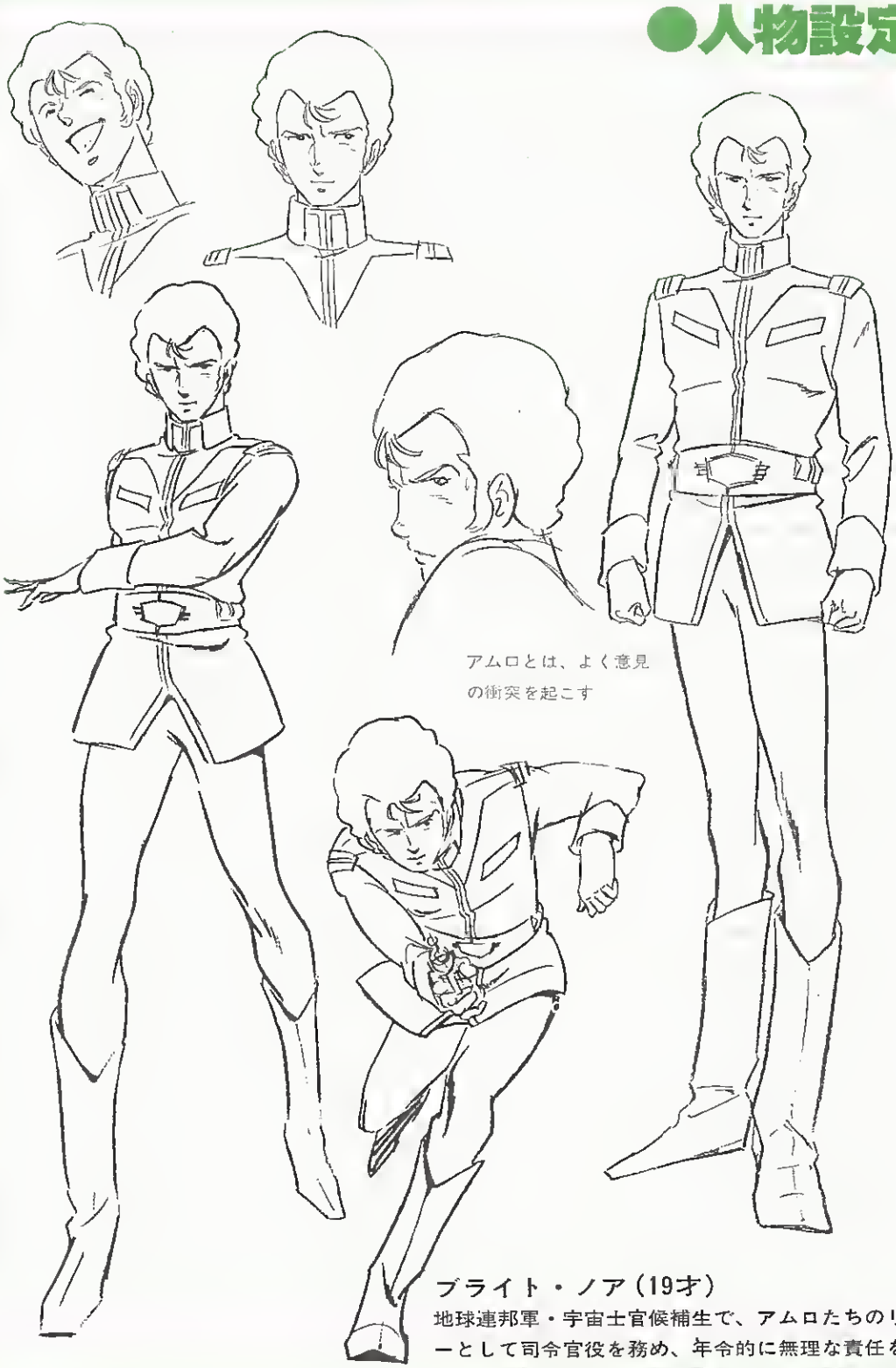
モビルスーツ・ガンダムの搭乗員。幼時からのメカ好きで、マイコンマニア。コンピュータをはじめ電子工学に強い。孤独癖がある



フラウ・ボウ（15才）

サイド7ではアムロと近隣の仲。アムロを好きで、身の周りの世話をやくが今だに通じない。ホワイトベースでは医療や生活の面倒をみるお姉さん役。ドイツ系

●人物設定2



アムロとは、よく意見の衝突を起こす

ブライト・ノア（19才）

地球連邦軍・宇宙士官候補生で、アムロたちのリーダーとして司令官役を務め、年令的に無理な責任を負っている。英国人系で父親は軍人だった。博識で戦略家。

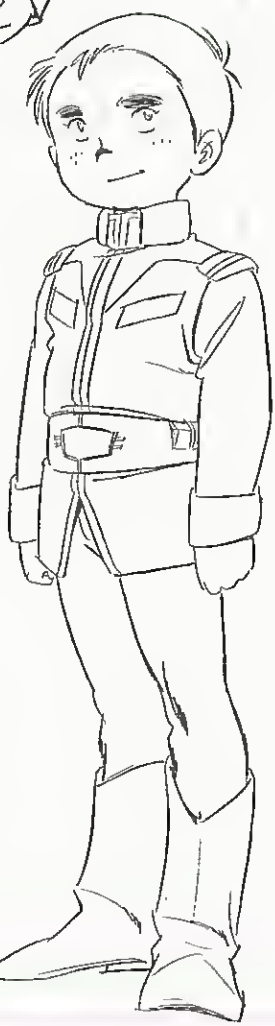
ハヤト・小林（15才）

日本人系で父親はサイド7の技術者だった。主にガンタンクを操縦。素直で善良だが気の弱さが玉にキズ。柔道が特技のスポーツマン

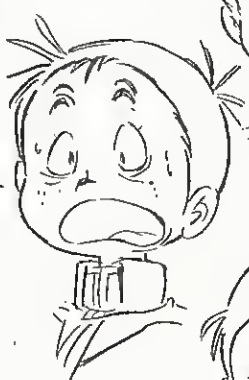


普段着のハヤト















●人物設定3

テム・嶺（レイ）大尉

アムロの父親。地球連邦軍の技術長でガンダムの設計者。技術一辺倒人間

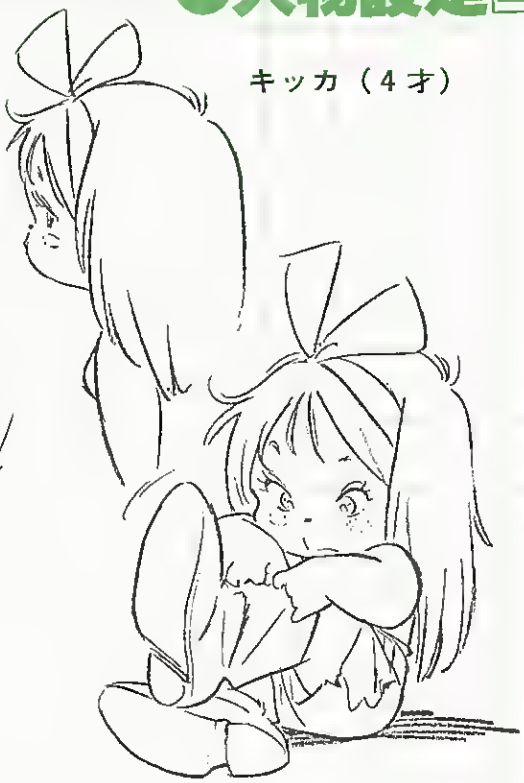


一般的メカニックマンのスーツ


サイド７司令・中佐
地上勤務の制服には、この部分がない
階級章
艦上高級士官の一般的スタイル
連邦宇宙軍マーク
ペガサス艦・艦長

●人物設定4





キッカ（4才）

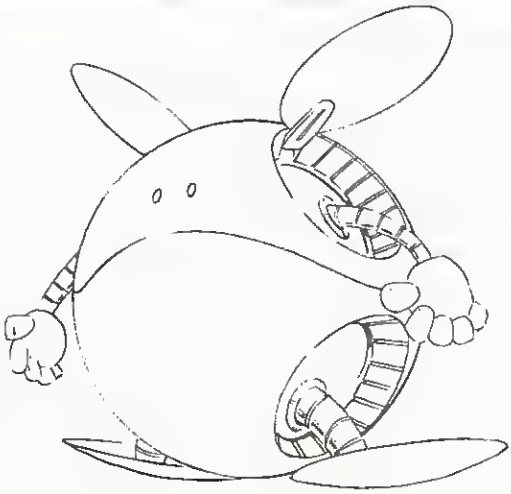


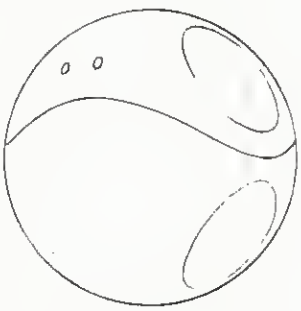
カツ（8才）　　レツ（6才）

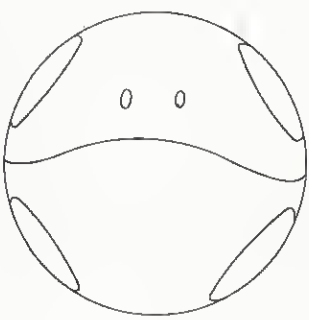
フラウ・ボウの母と祖父
ジオン軍の攻撃を受けて
フラウの目の前で死ぬ

フラウの母

フラウの祖父







ハロ

フラウ・ボウのペットロボアムロが作って贈りものにした。直径40cm。マイ・コンが仕組まれていて、簡単な会話ができる

●人物設定5



シャア少佐(20才)

敵ジオン軍少佐。頭脳明晰、冷静沈着、度胸満点、運動神経抜群で戦闘のプロ。ともすると冷徹な利己主義に陥り強烈な出世欲と功名心に結びつく。生い立ちは謎。

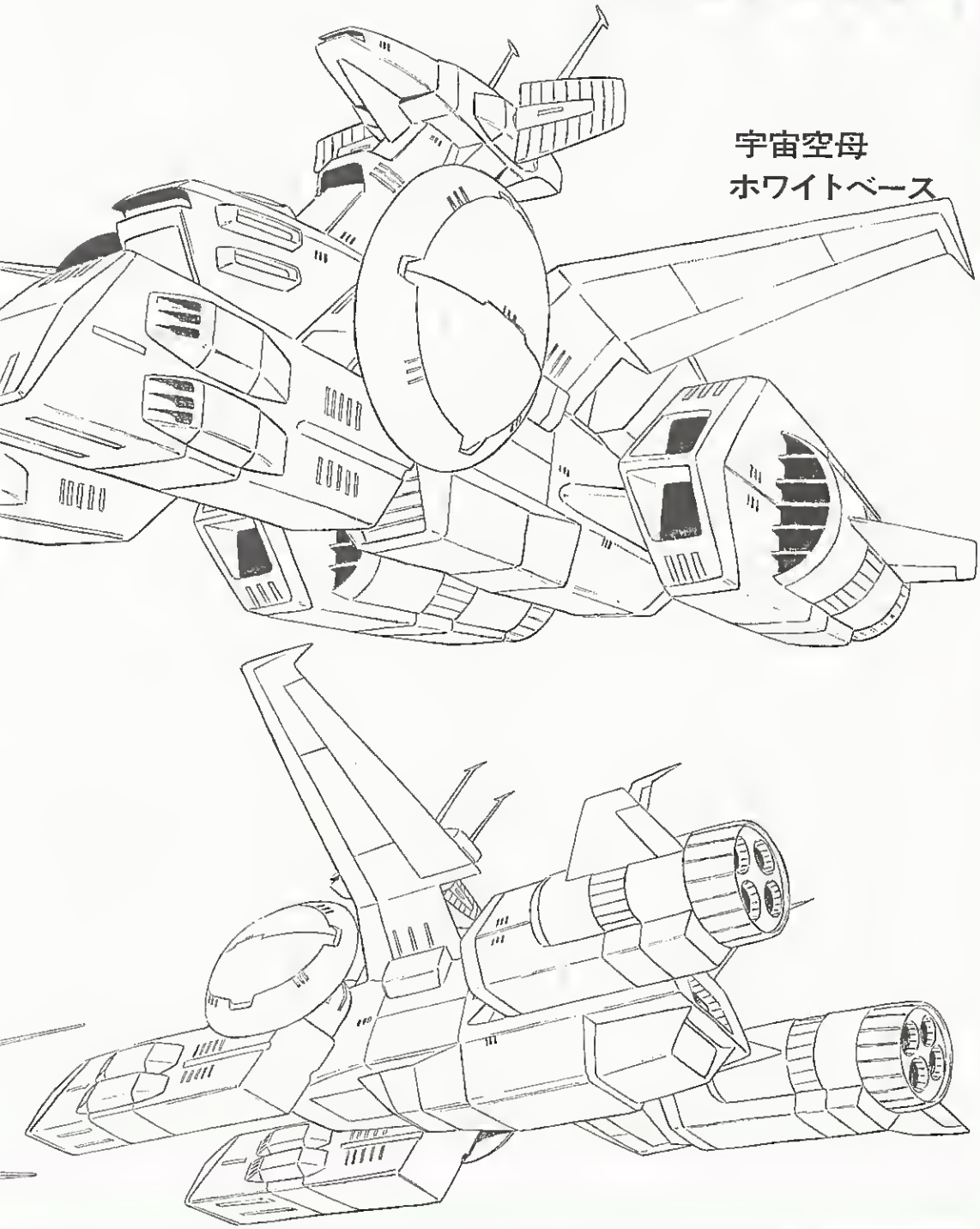


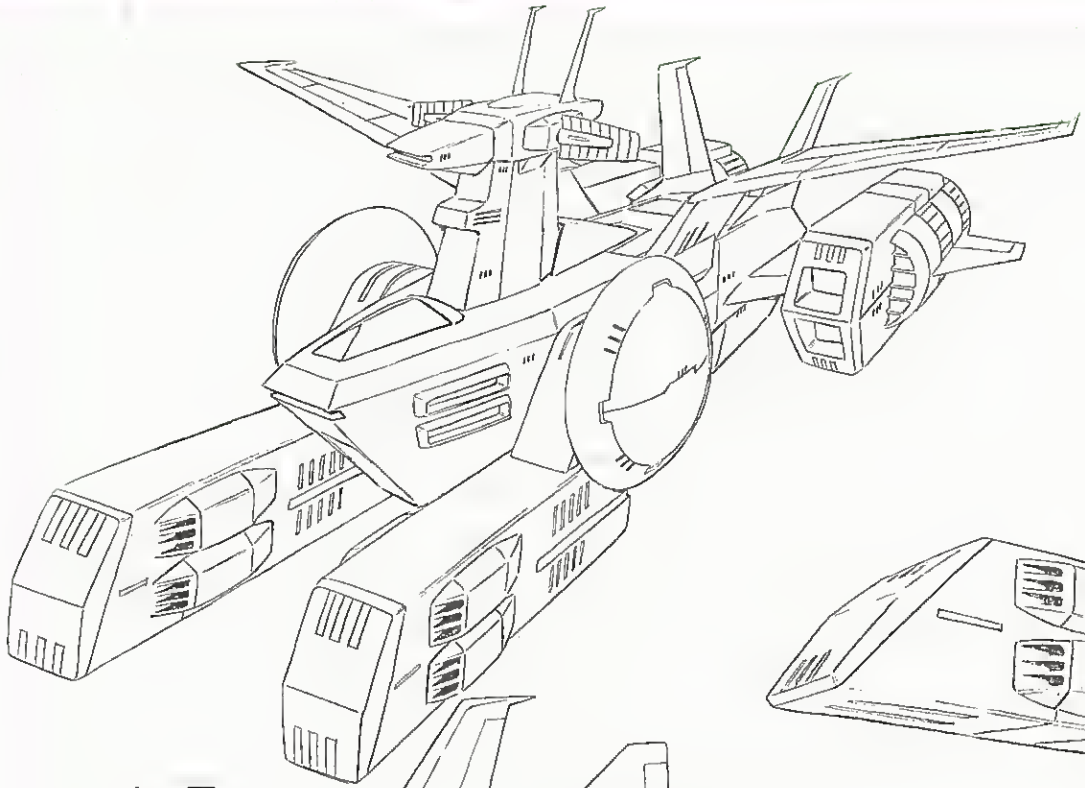
●ジオン軍・コンバットマン

●メカニック設定1

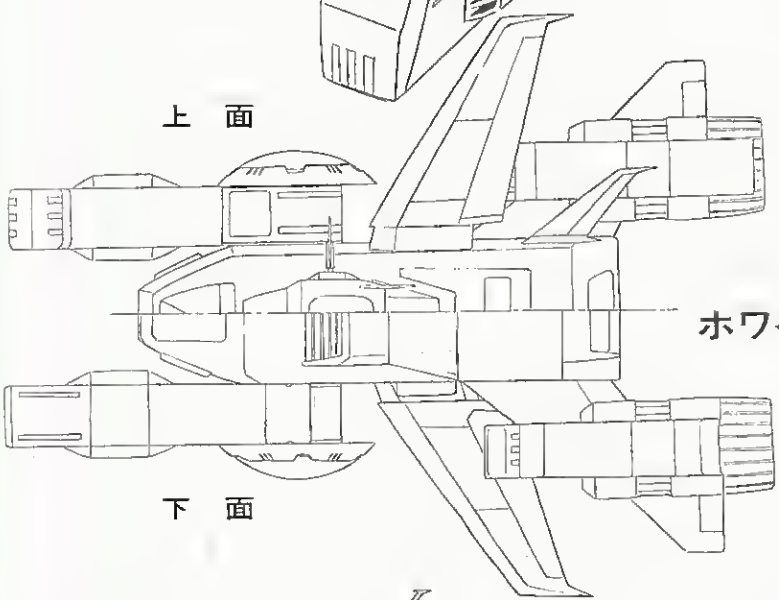
〈地球連邦軍・軍備①〉

宇宙空母
ホワイトベース





上　面



下　面

ホワイトベース五面図

前　面

後　面

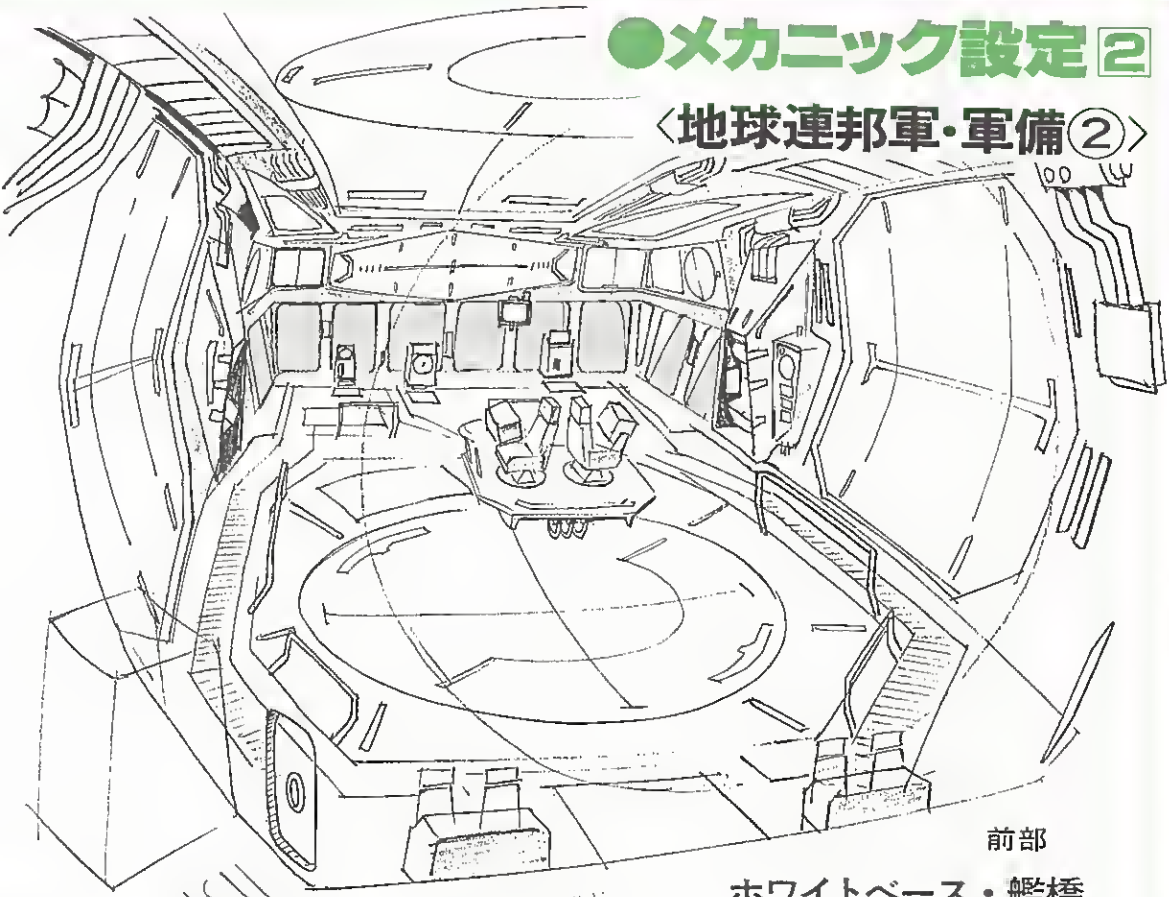


左側面



●メカニック設定2

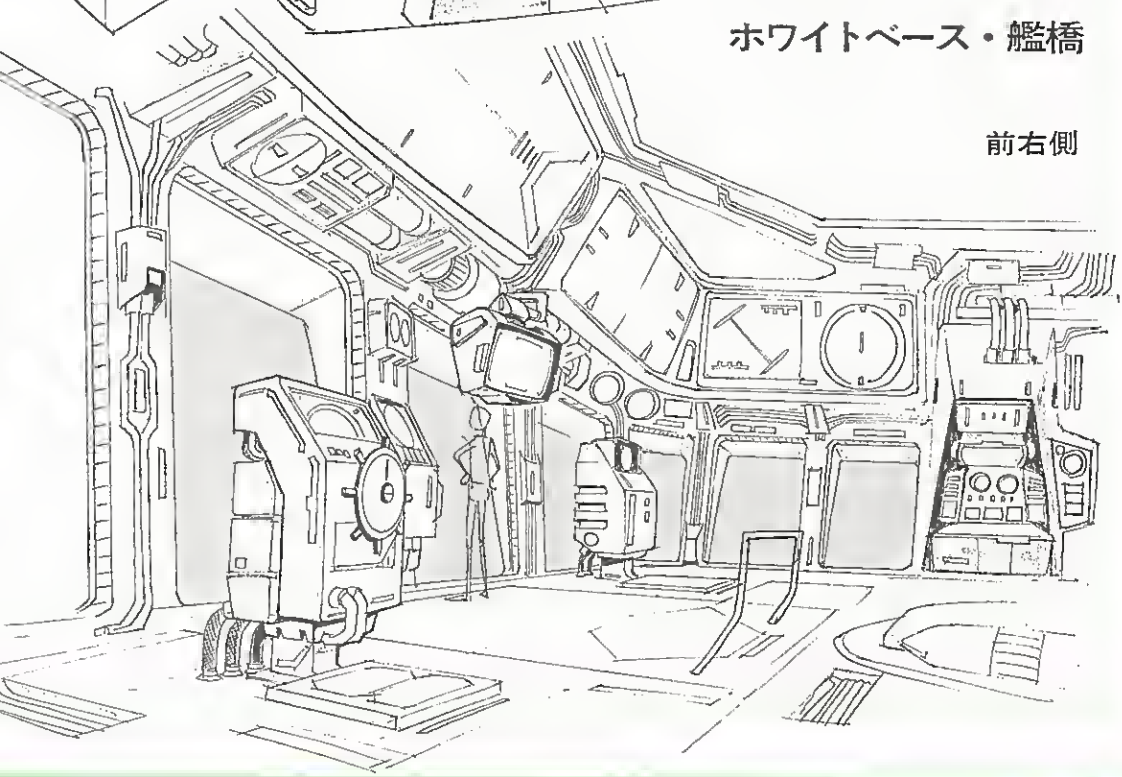
〈地球連邦軍・軍備②〉

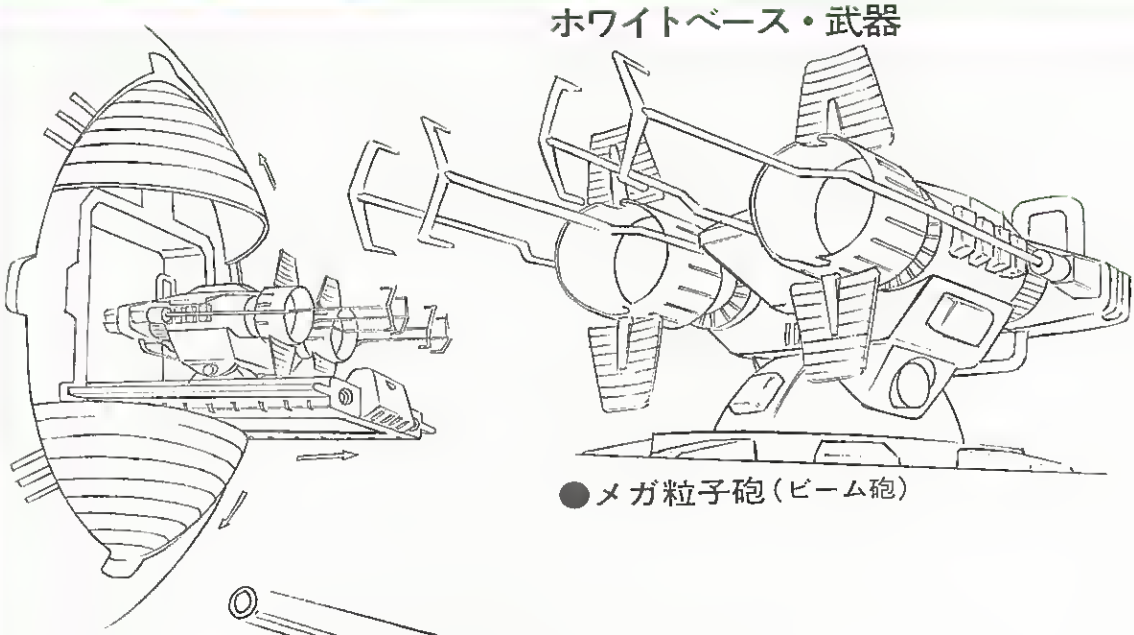


前部

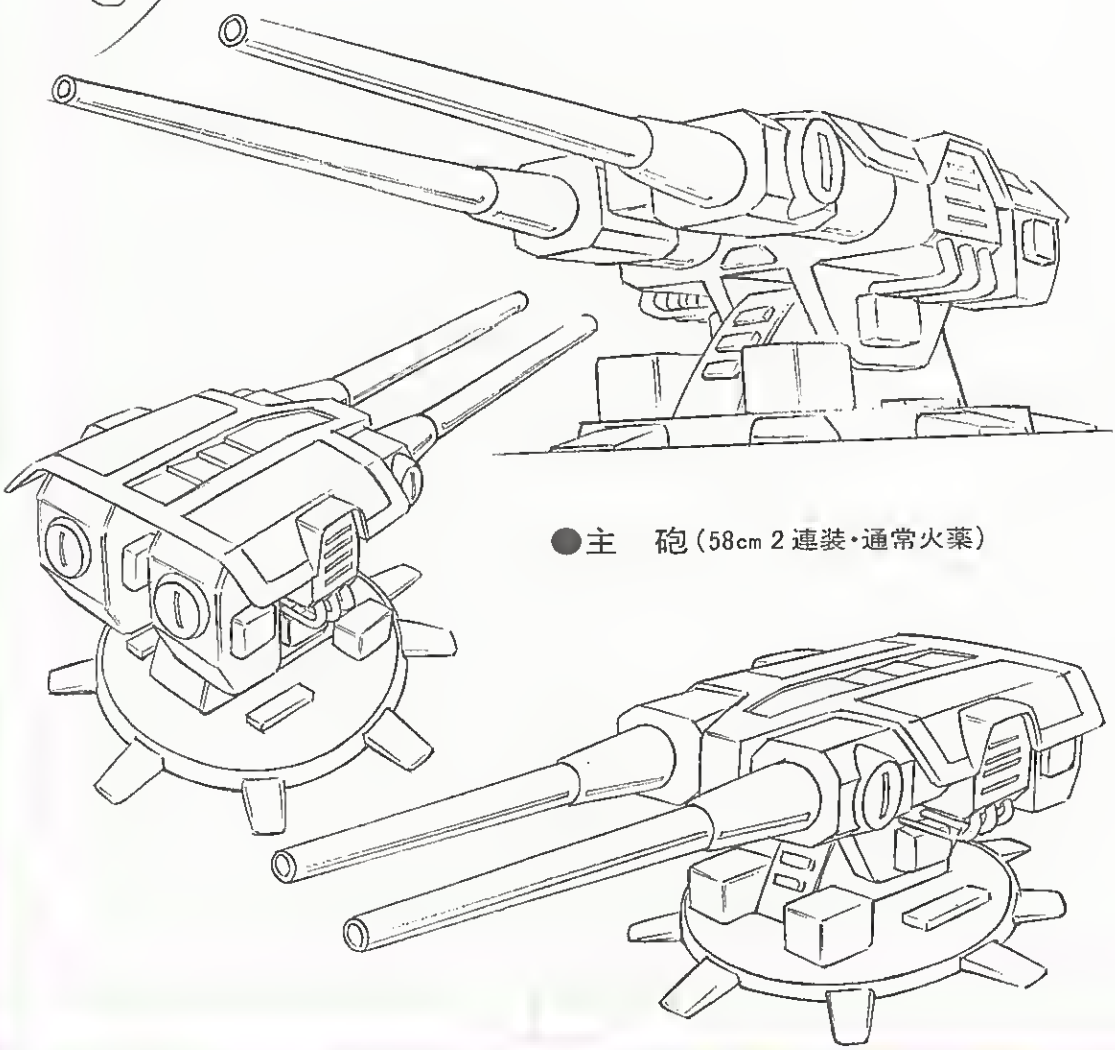
ホワイトベース・艦橋

前右側





●メガ粒子砲（ビーム砲）



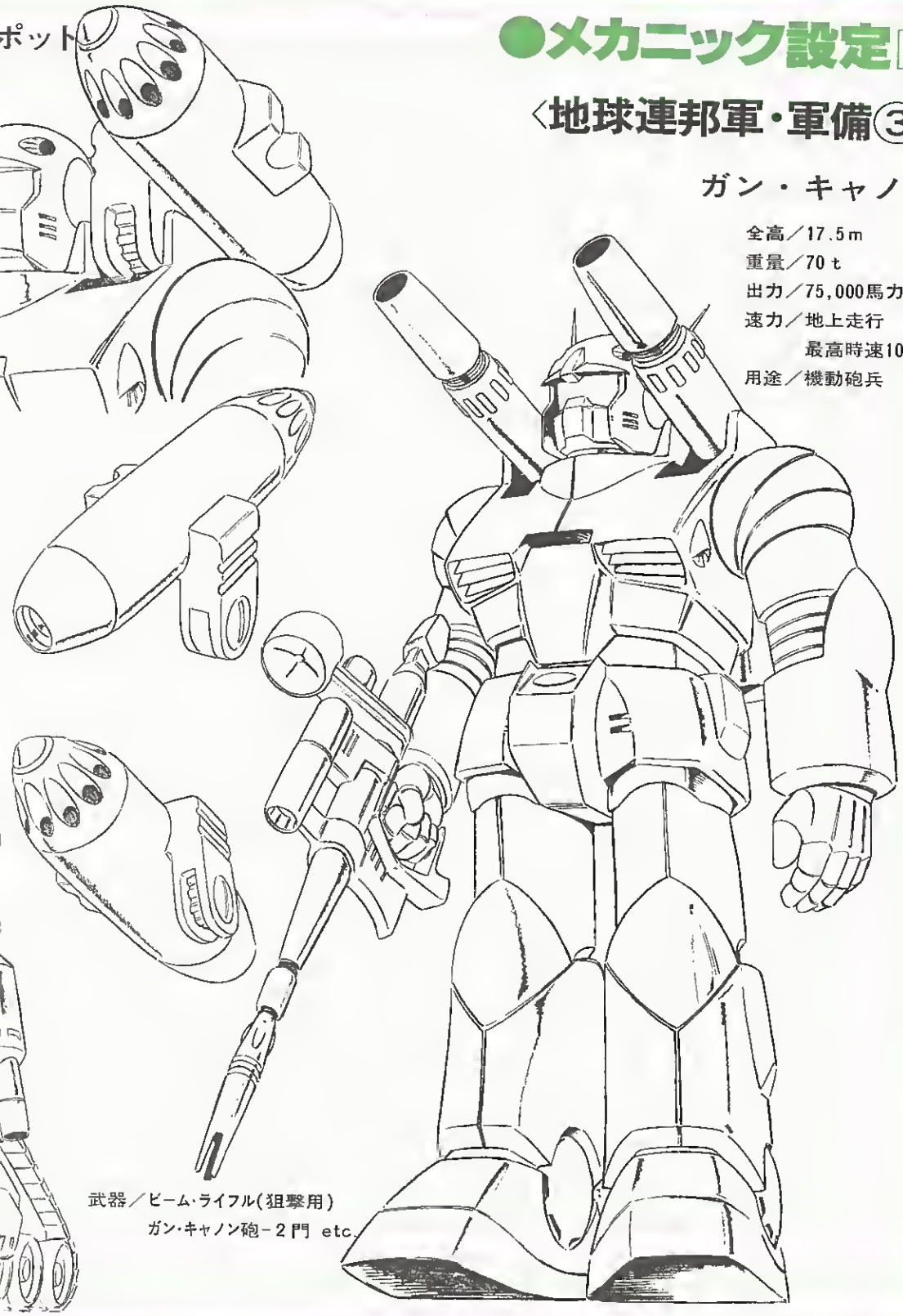
●主　砲（58cm 2 連装・通常火薬）

●メカニック設定3

〈地球連邦軍・軍備③〉

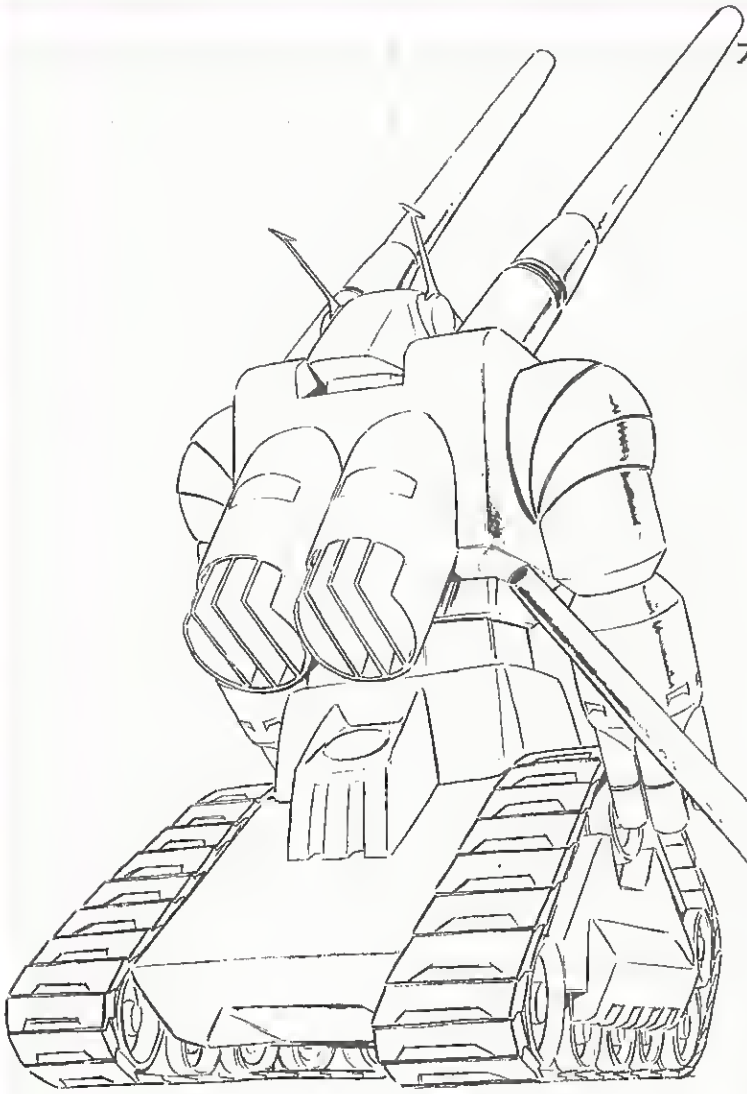
ガン・キャノン

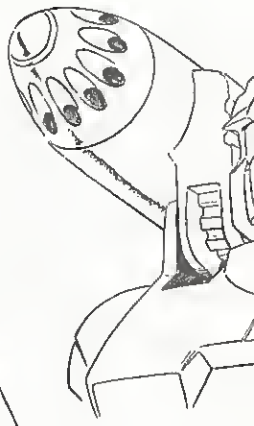
全高／17.5m
重量／70t
出力／75,000馬力
速力／地上走行
　　最高時速100km
用途／機動砲兵

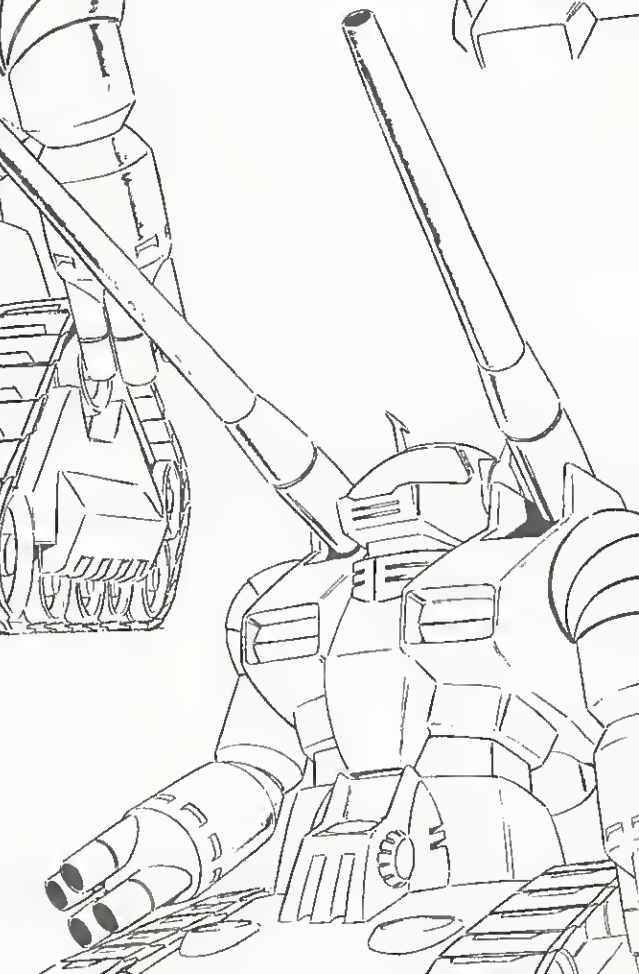


武器／ビーム・ライフル(狙撃用)
　　ガン・キャノン砲－2門 etc.

ガン・キャノンのミサイル





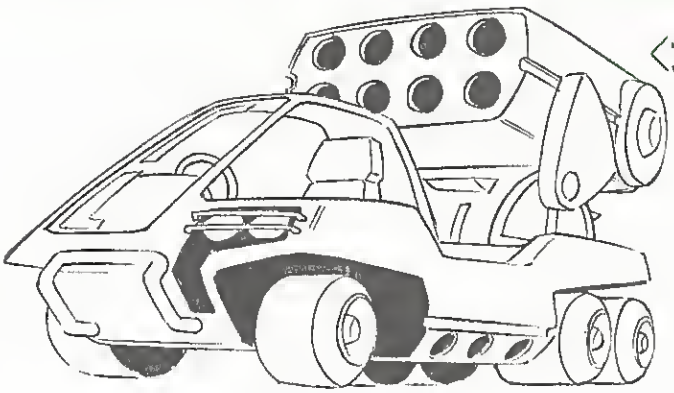


ガン・タンク

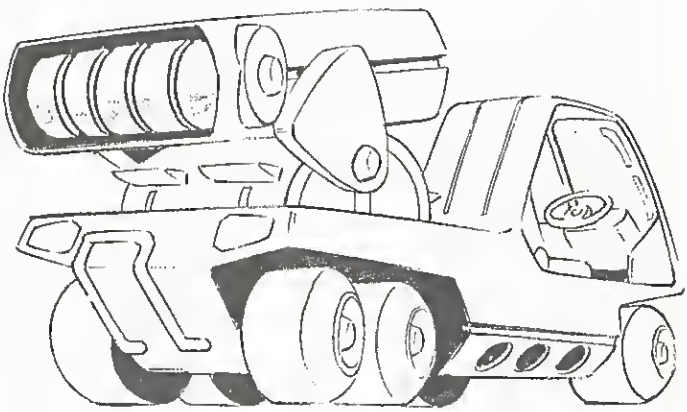
全高／19m
重量／80t
出力／85,000馬力
速力／地上走行
　　最高時速88km
素材／超鋼合金属ルナ・チタニウム
武器／120㎜タンク・キャノン砲２門
　　ポップ・ミサイル４連装２門
用途／機動歩兵　戦車戦用
乗員／主にハヤト・小林
　　カイ・シデンなど

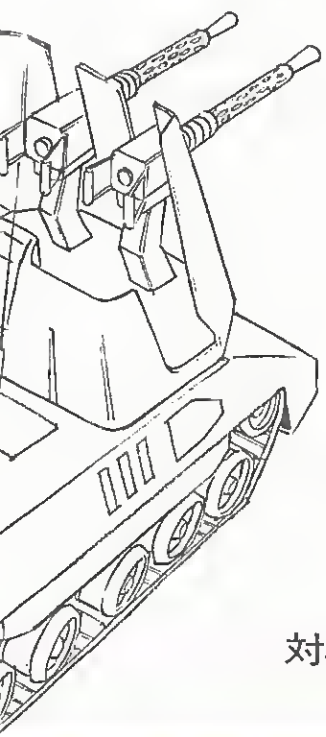
●メカニック設定4

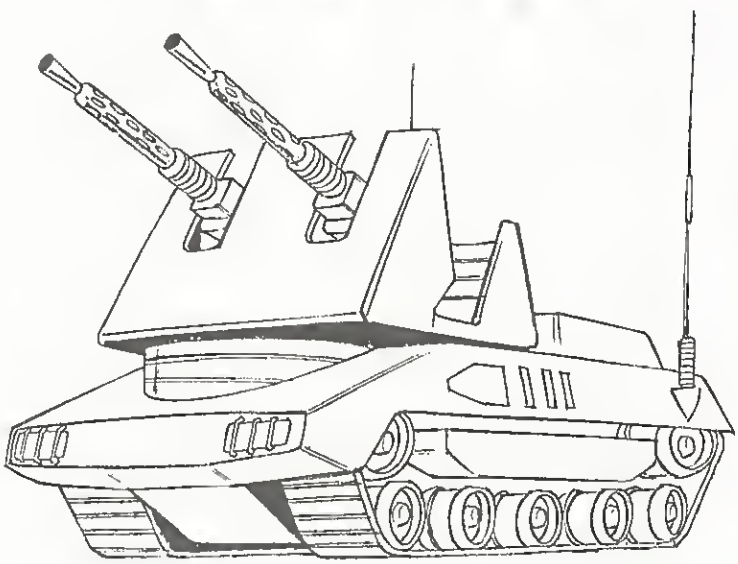
〈地球連邦軍・軍備④〉



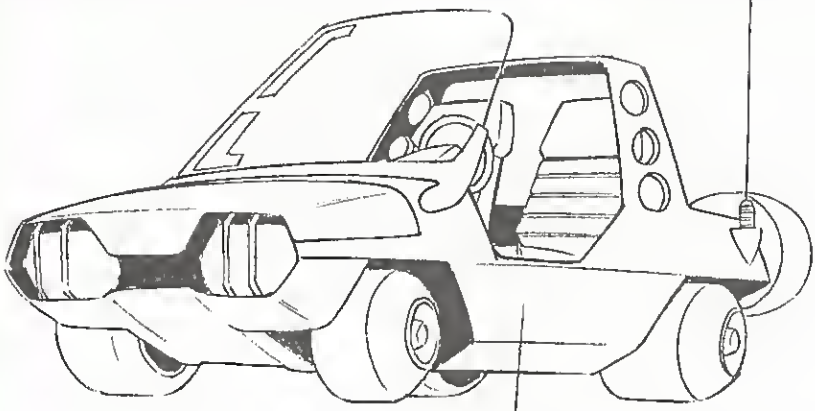
連邦軍陸軍
有線ミサイル・エレカ



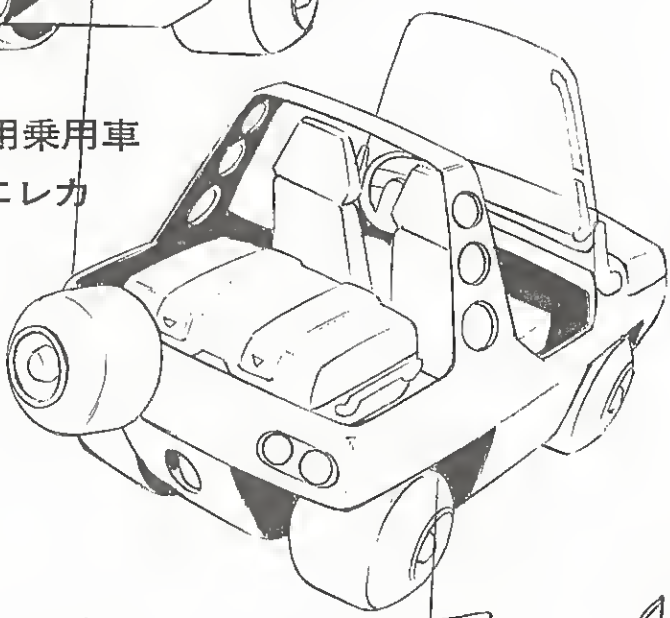




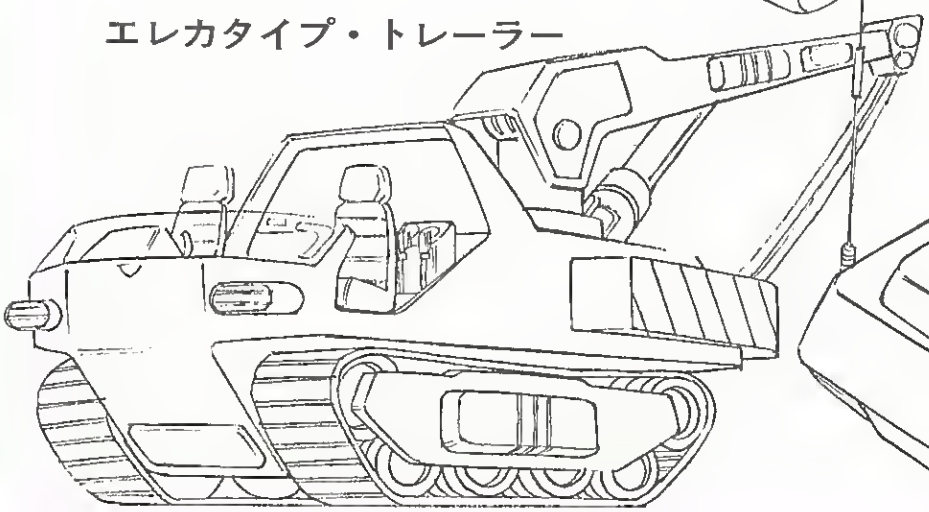
対戦車用自走砲

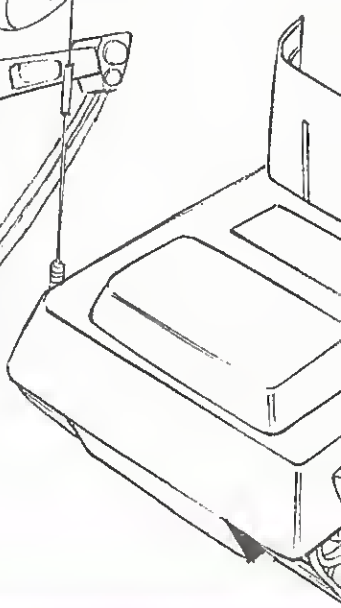


スペースコロニー用乗用車
スポーツタイプ・エレカ



エレカタイプ・トレーラー

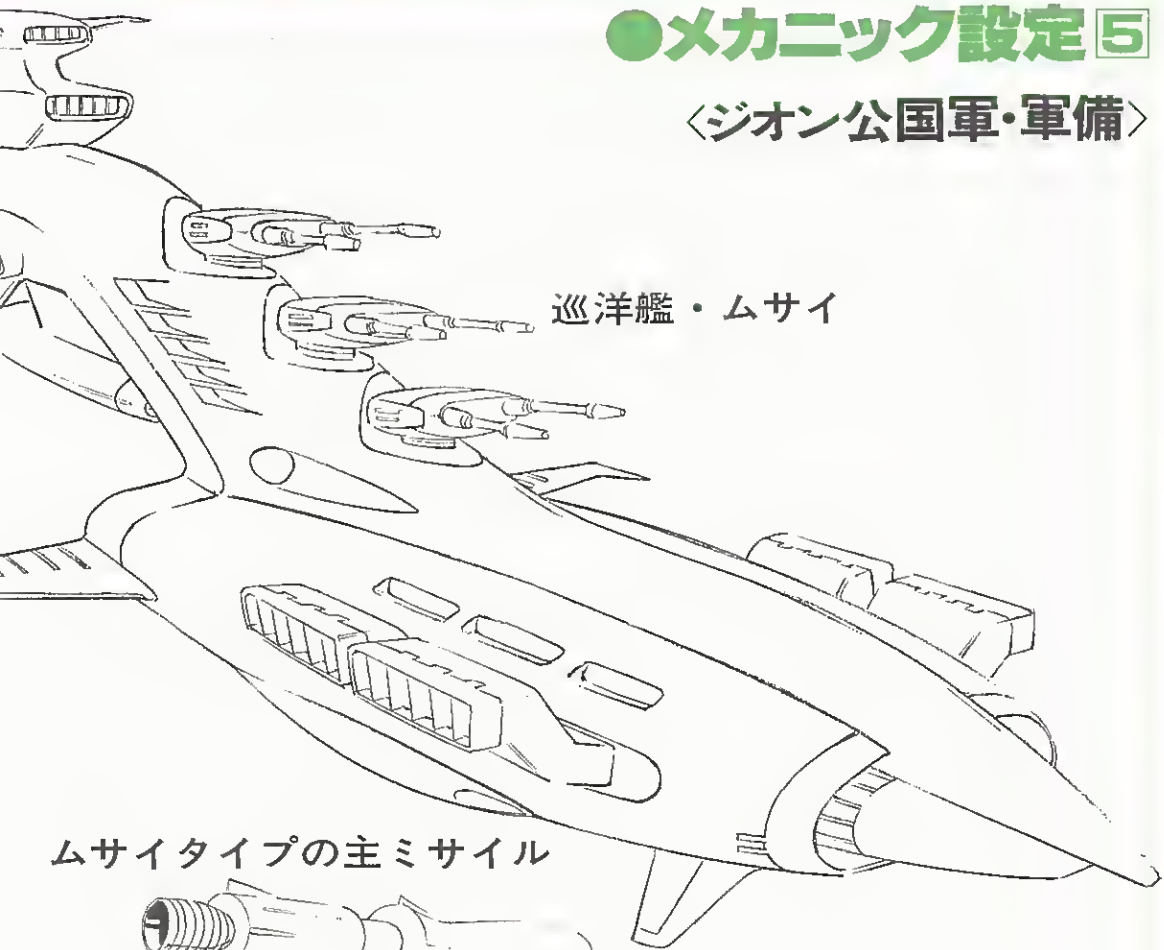




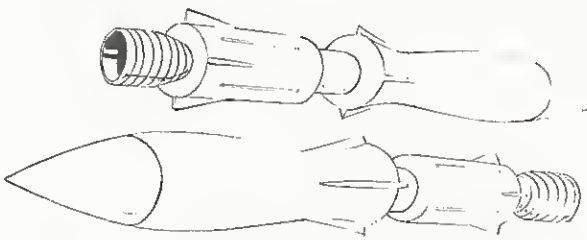
●メカニック設定5

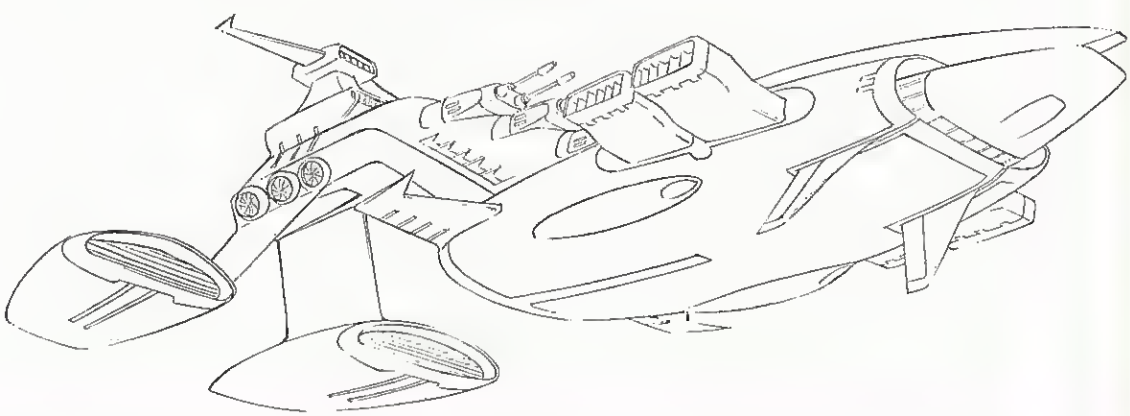
〈ジオン公国軍・軍備〉

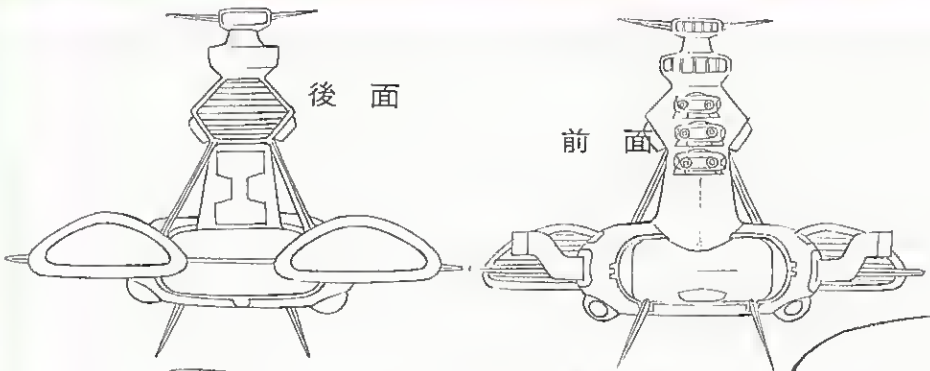
巡洋艦・ムサイ



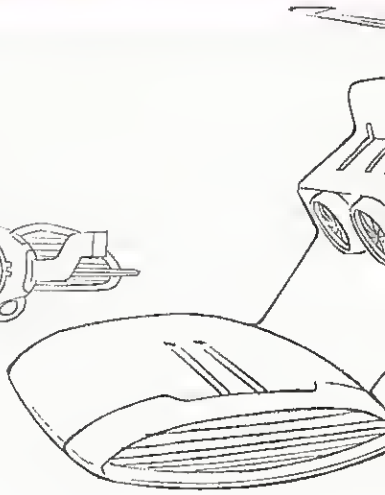
ムサイタイプの主ミサイル

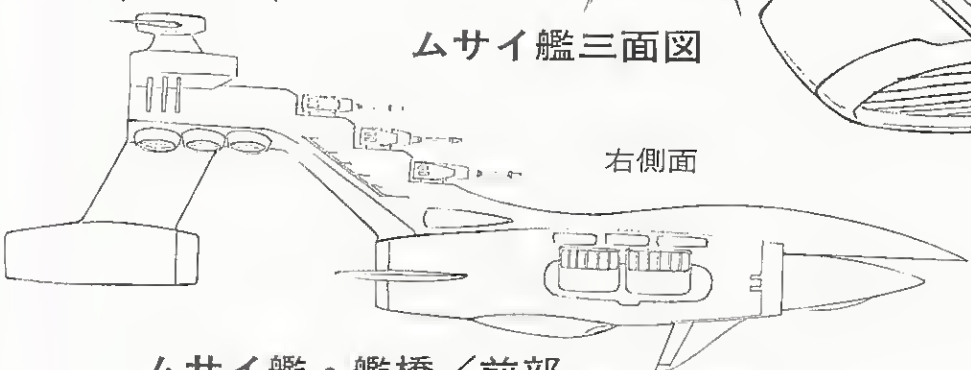




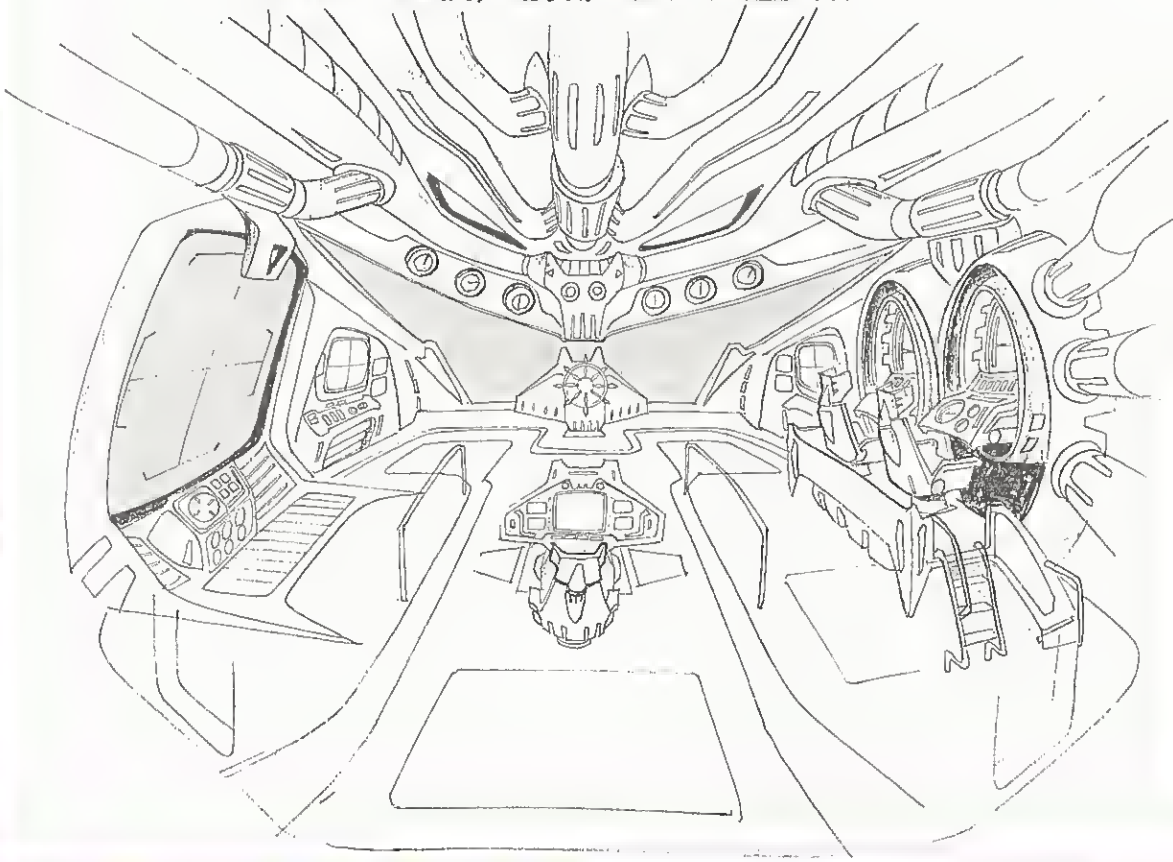


ムサイ艦三面図

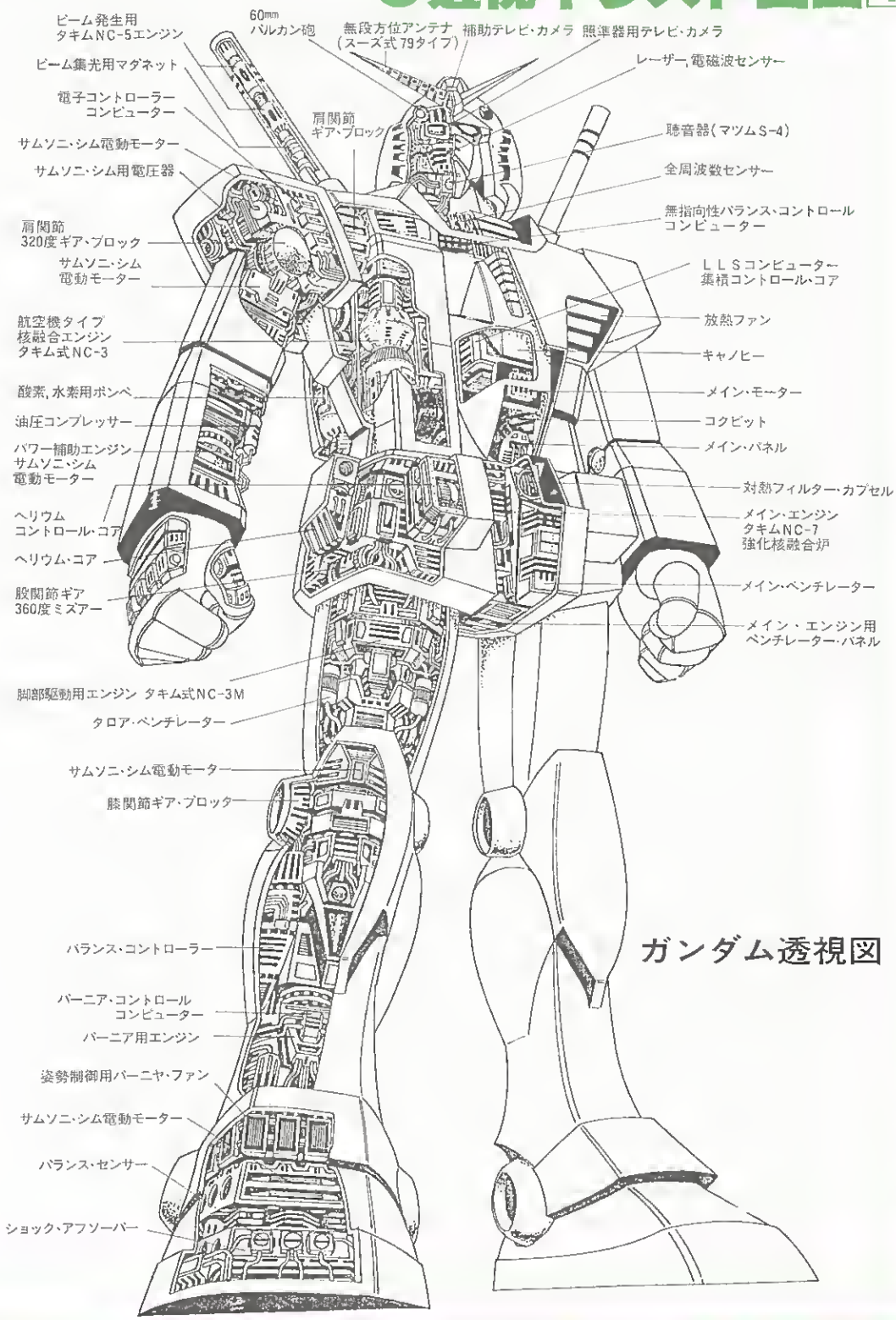




ムサイ艦・艦橋／前部 ★但し、シャア乗艦用ブリッジ

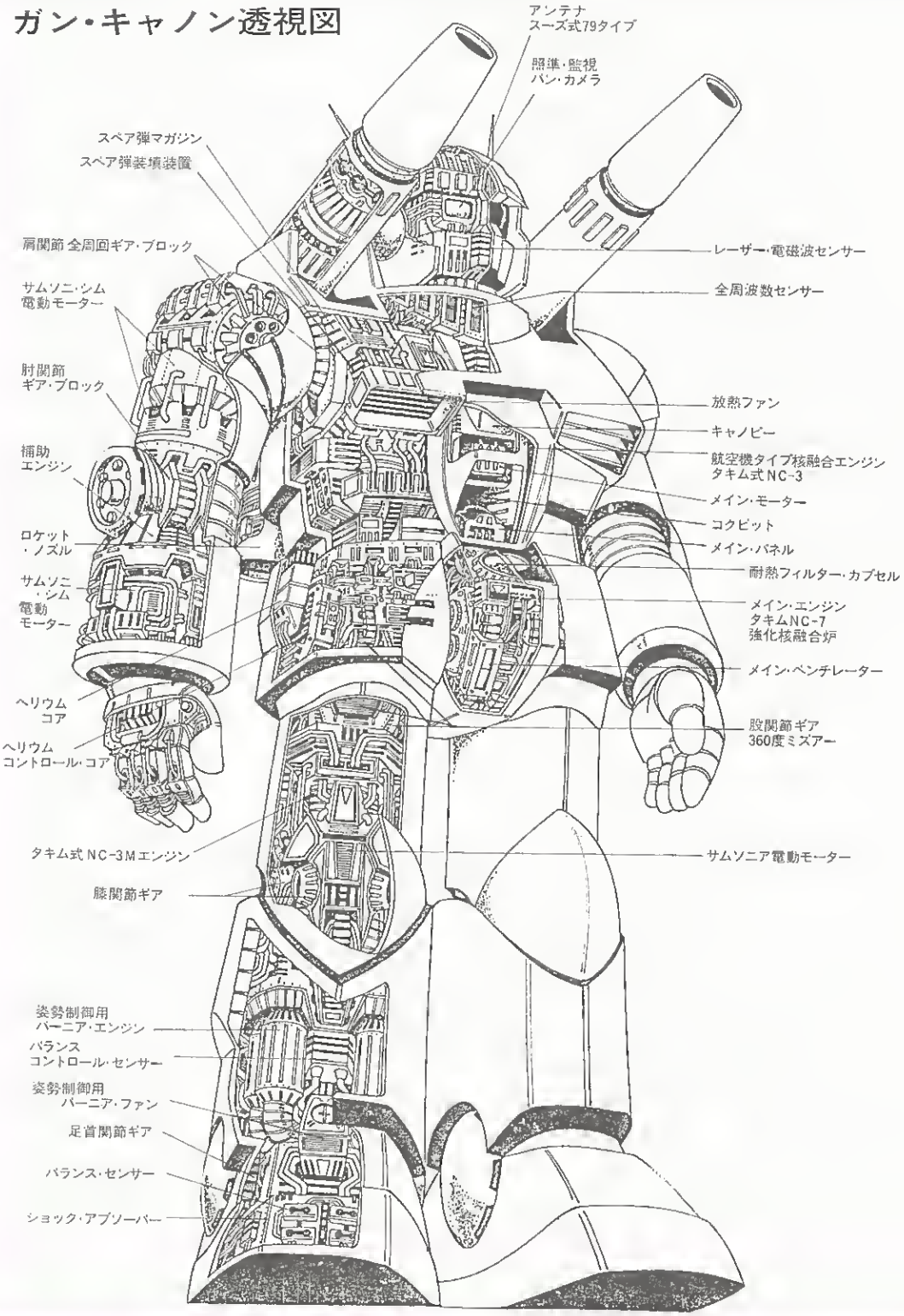


●透視イラスト図面 1



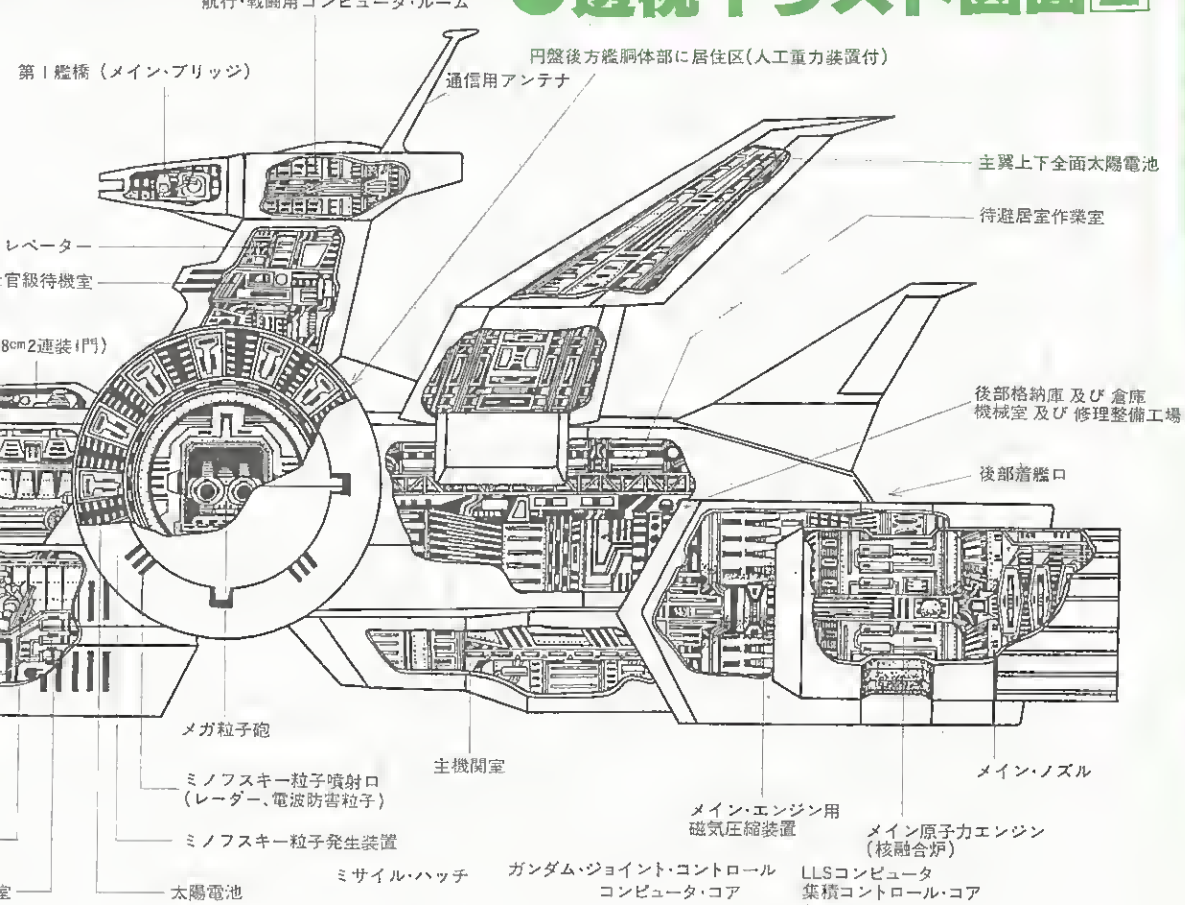
ガンダム透視図

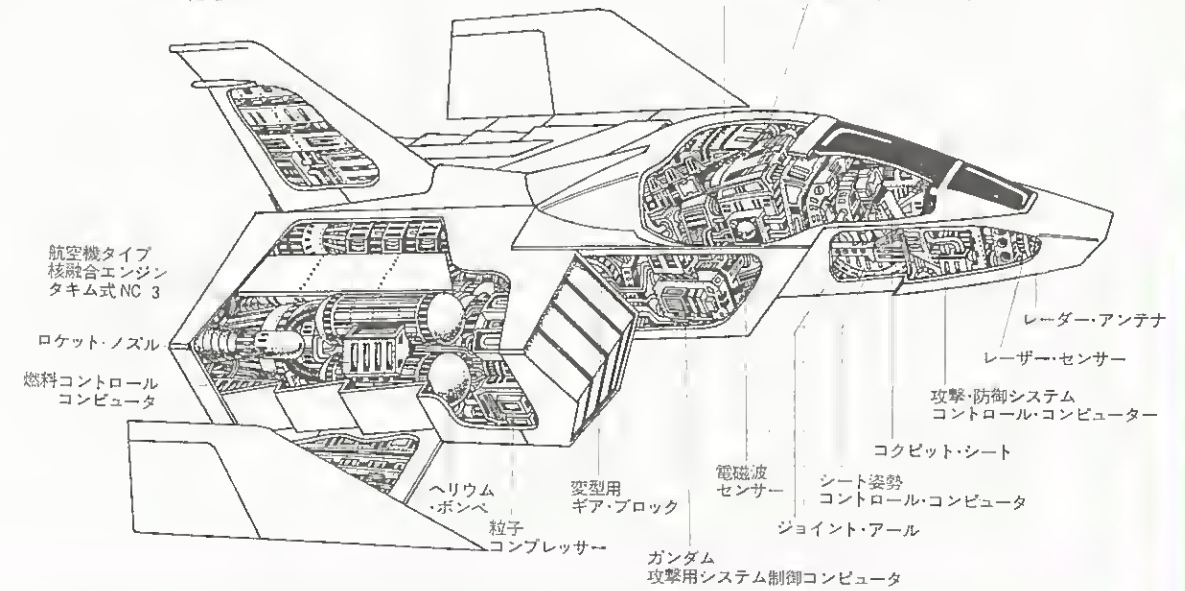
ガン・キャノン透視図


アンテナ
スーズ式79タイプ
照準・監視
パン・カメラ
スペア弾マガジン
スペア弾装填装置
肩関節 全周回ギア・ブロック
サムソニ・シム
電動モーター
肘関節
ギア・ブロック
補助
エンジン
ロケット
・ノズル
サムソニ
・シム
電動
モーター
ヘリウム
コア
ヘリウム
コントロール・コア
タキム式 NC-3Mエンジン
膝関節ギア
姿勢制御用
バーニア・エンジン
バランス
コントロール・センサー
姿勢制御用
バーニア・ファン
足首関節ギア
バランス・センサー
ショック・アブソーバー
レーザー・電磁波センサー
全周波数センサー
放熱ファン
キャノピー
航空機タイプ核融合エンジン
タキム式NC-3
メイン・モーター
コクピット
メイン・パネル
耐熱フィルター・カプセル
メイン・エンジン
タキムNC-7
強化核融合炉
メイン・ベンチレーター
股関節ギア
360度ミズアー
サムソニア電動モーター

ホワイト・ベース透視図

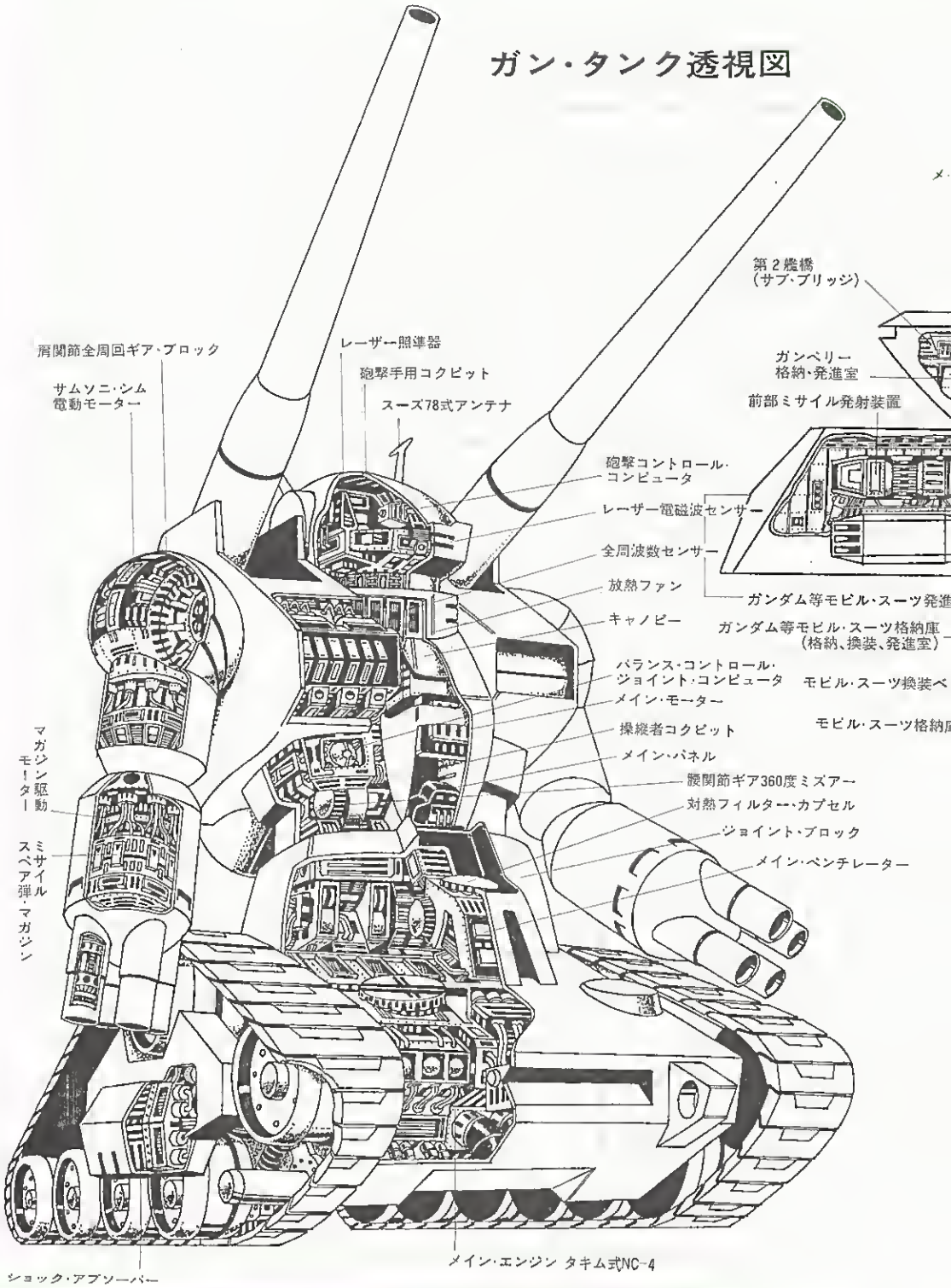
●透視イラスト図面2





コア・ファイター透視図

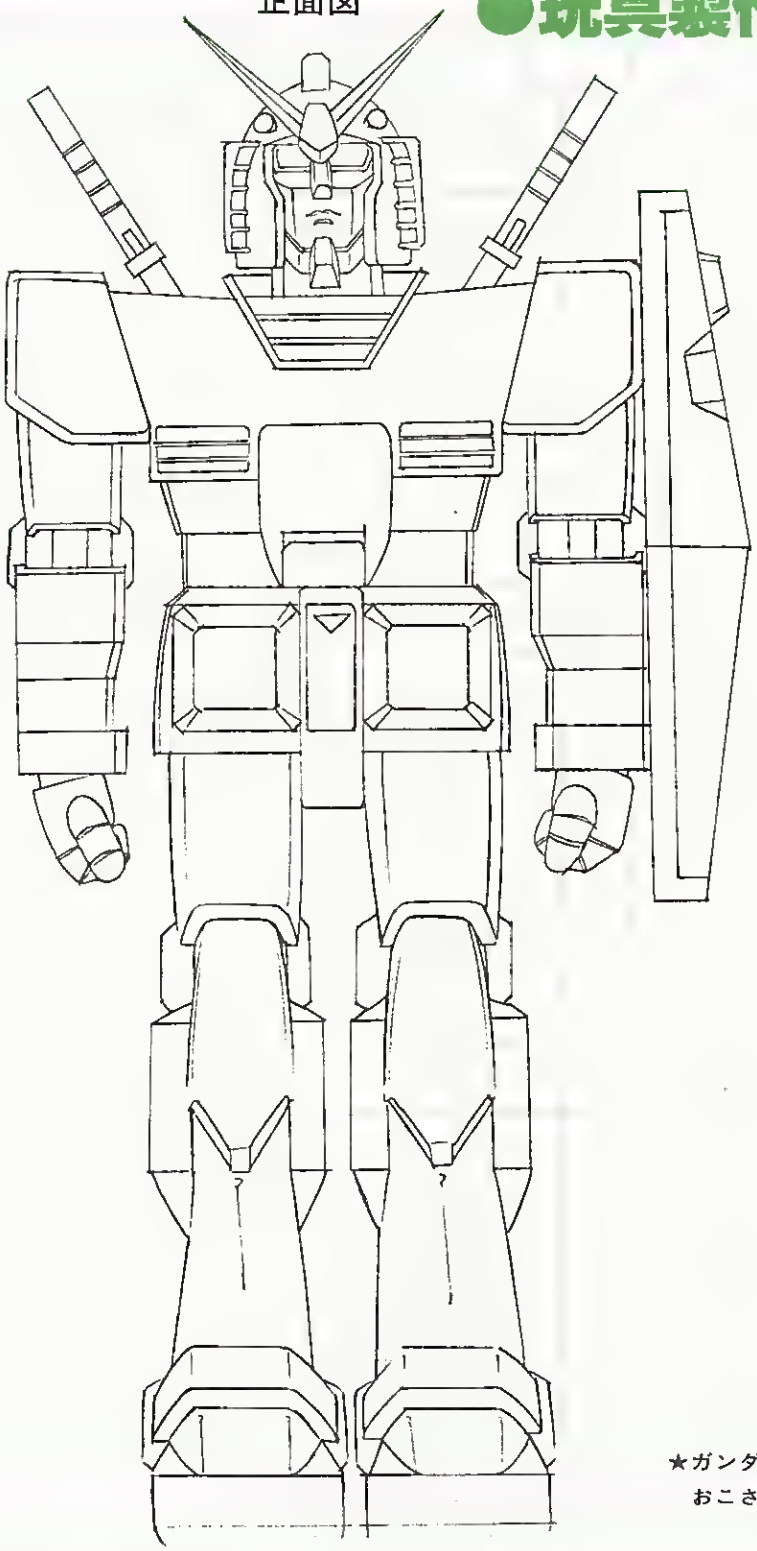
ガン・タンク透視図


第2艦橋
(サブ・ブリッジ)
ガンベリー
格納・発進室
前部ミサイル発射装置
肩関節全周回ギア・ブロック
サムソニ・シム
電動モーター
レーザー照準器
砲撃手用コクピット
スーズ78式アンテナ
砲撃コントロール・
コンピュータ
レーザー電磁波センサー
全周波数センサー
放熱ファン
キャノピー
ガンダム等モビル・スーツ発進
ガンダム等モビル・スーツ格納庫
(格納、換装、発進室)
バランス・コントロール・
ジョイント・コンピュータ
モビル・スーツ換装ベ
メイン・モーター
操縦者コクピット
モビル・スーツ格納庫
メイン・パネル
腰関節ギア360度ミズアー
対熱フィルター・カプセル
ジョイント・ブロック
メイン・ベンチレーター
マガジン駆動
モーター
ミサイル
スペア弾・マガジン
ショック・アブソーバー
メイン・エンジン タキム式NC-4

正面図

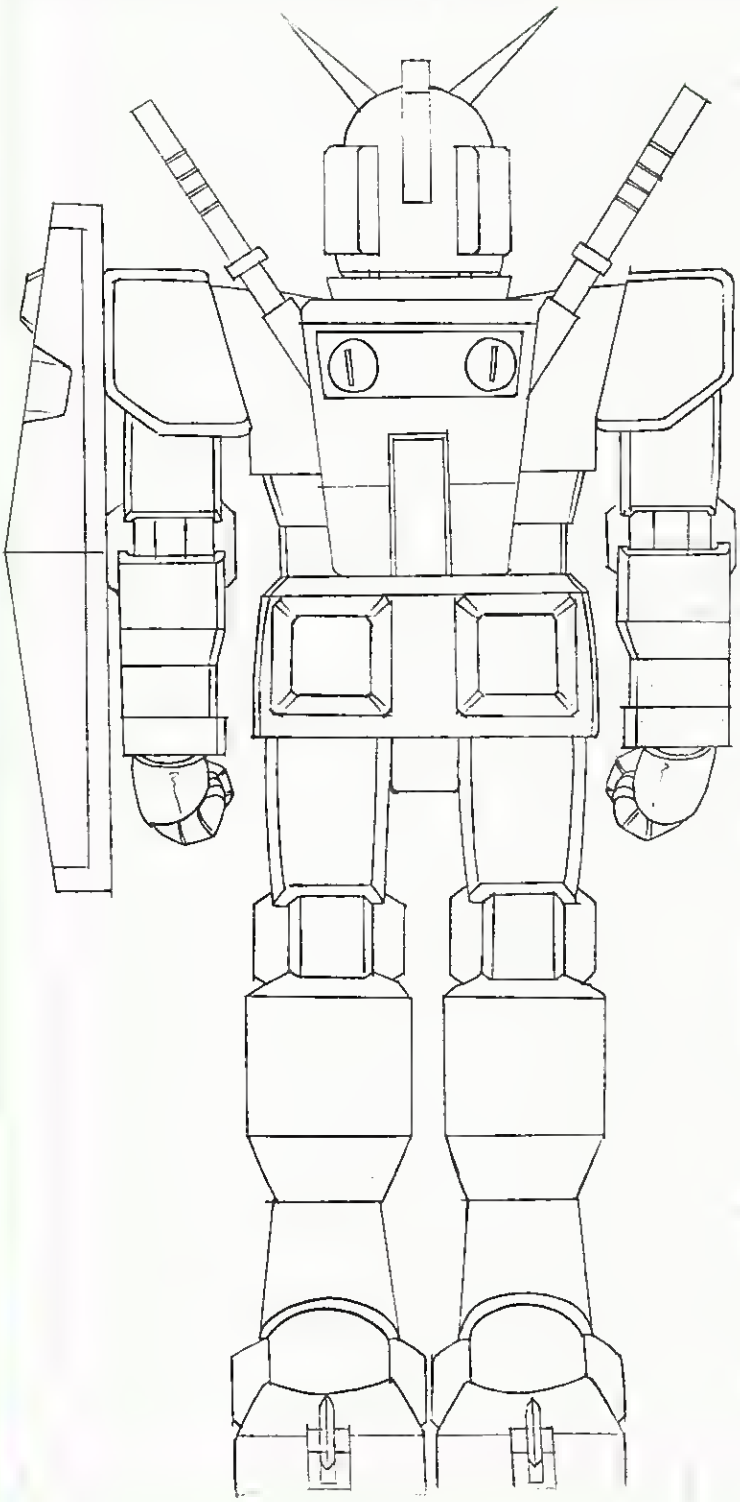
●玩具製作用図面 1

ガンダム三面図

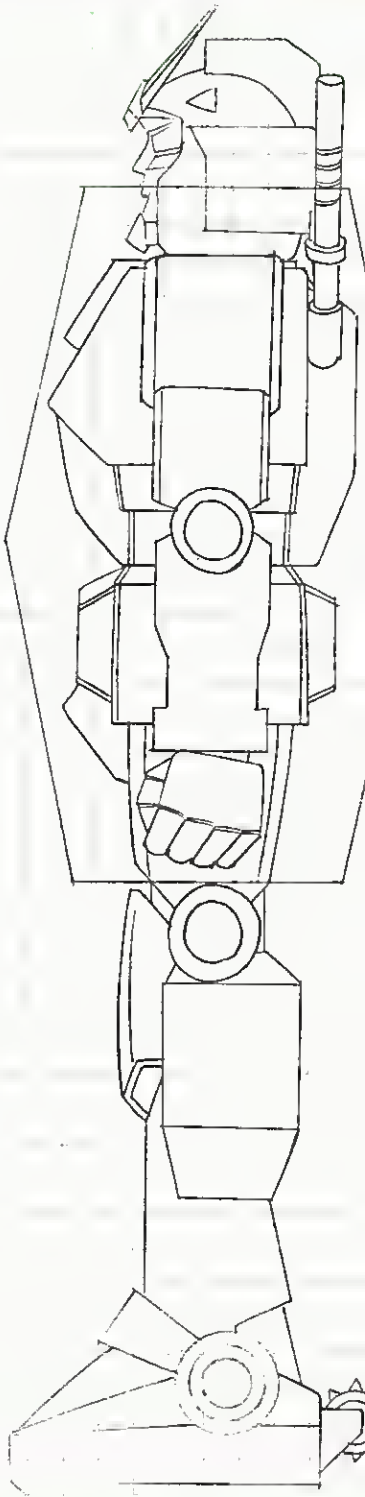


★ガンダムの玩具製作のために、
おこされた各種の図面である。

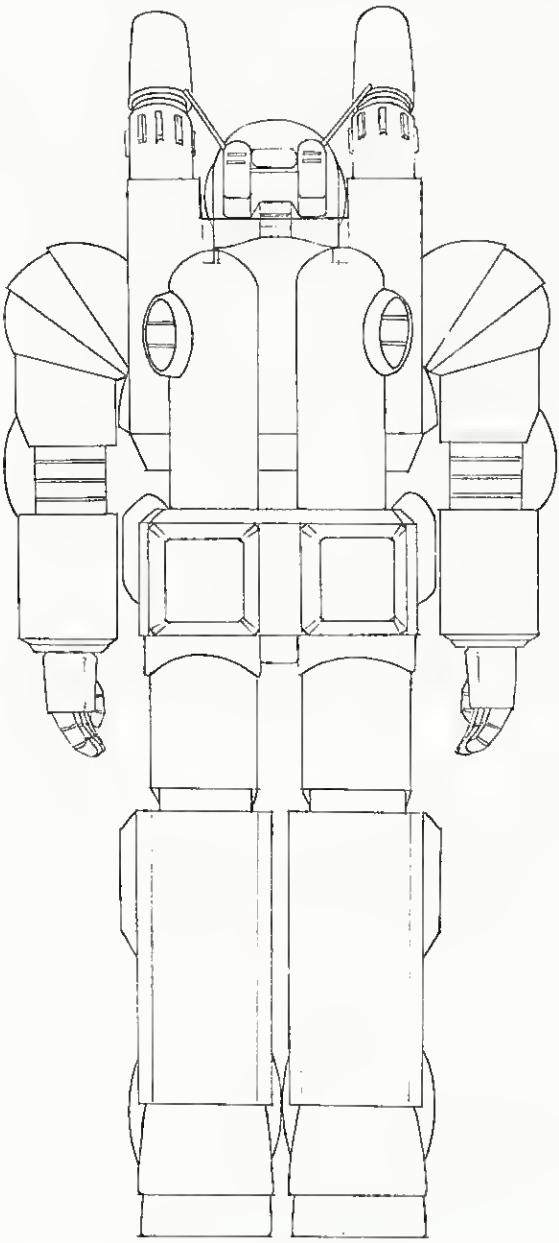
背面図



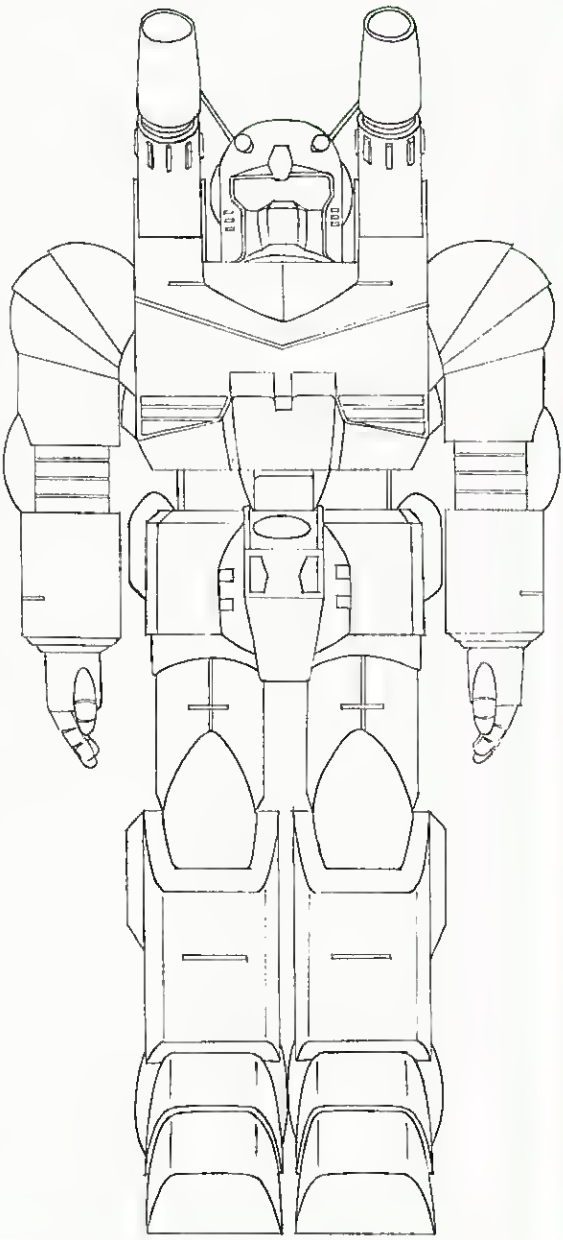
側面図



ガン・キャノン二面図

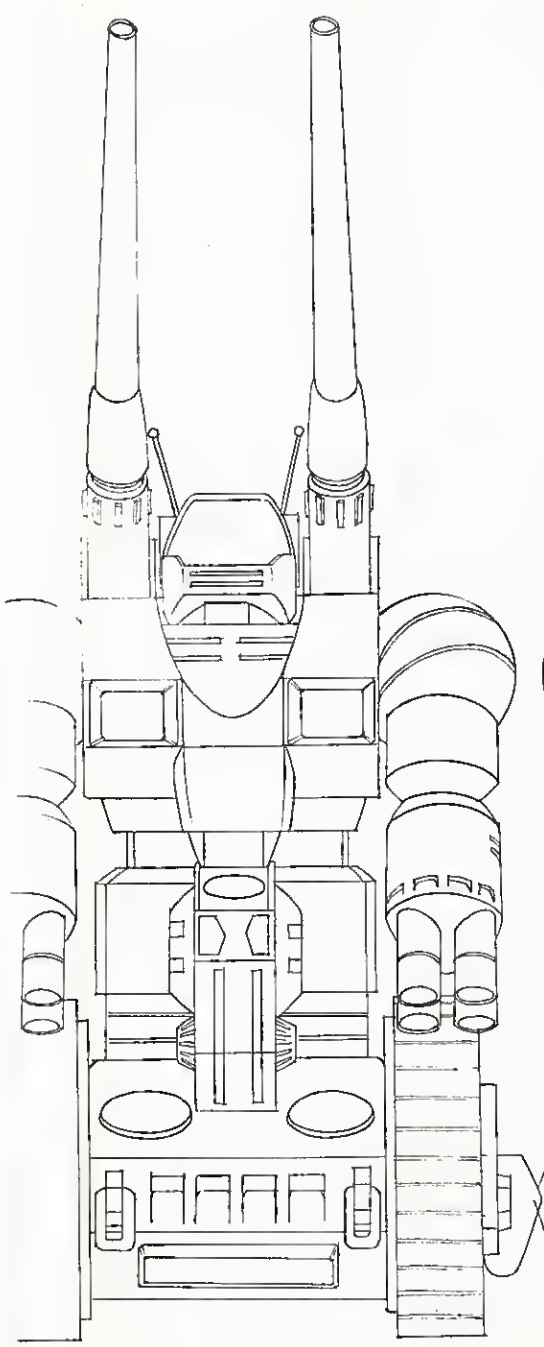


背面図

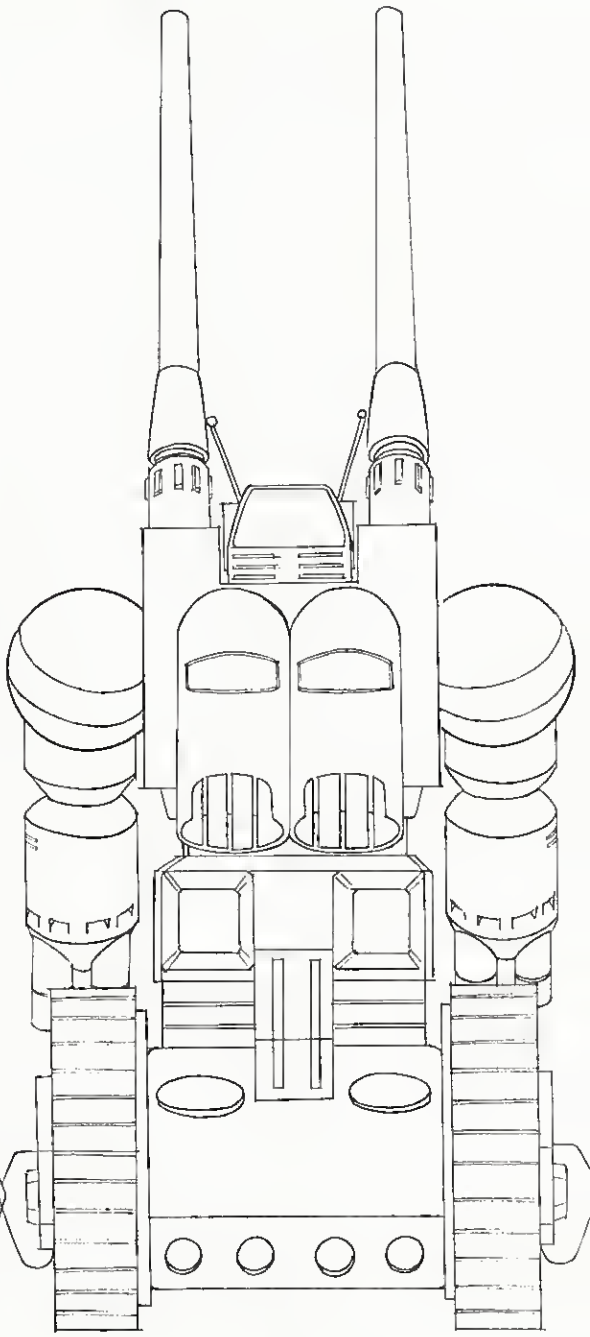


正面図

ガン・タンク二面図

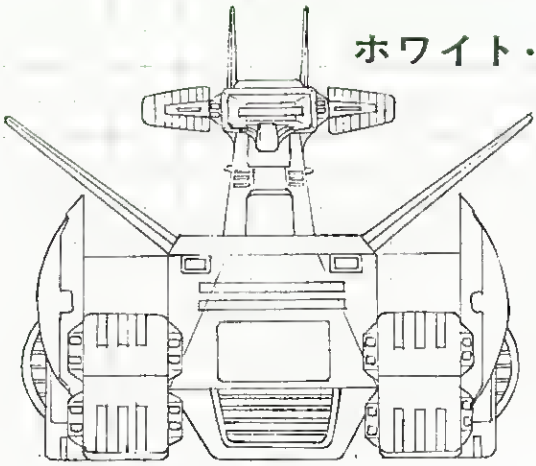


正面図

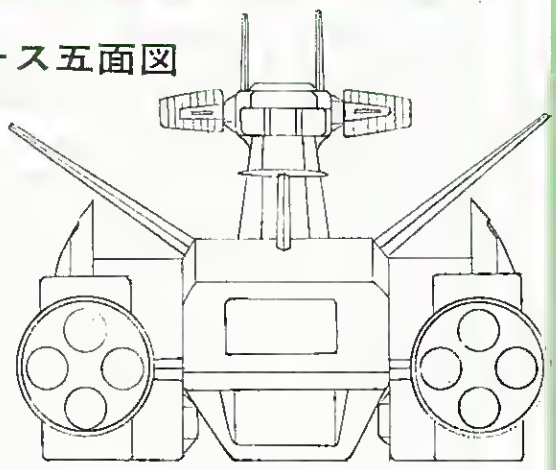


背面図

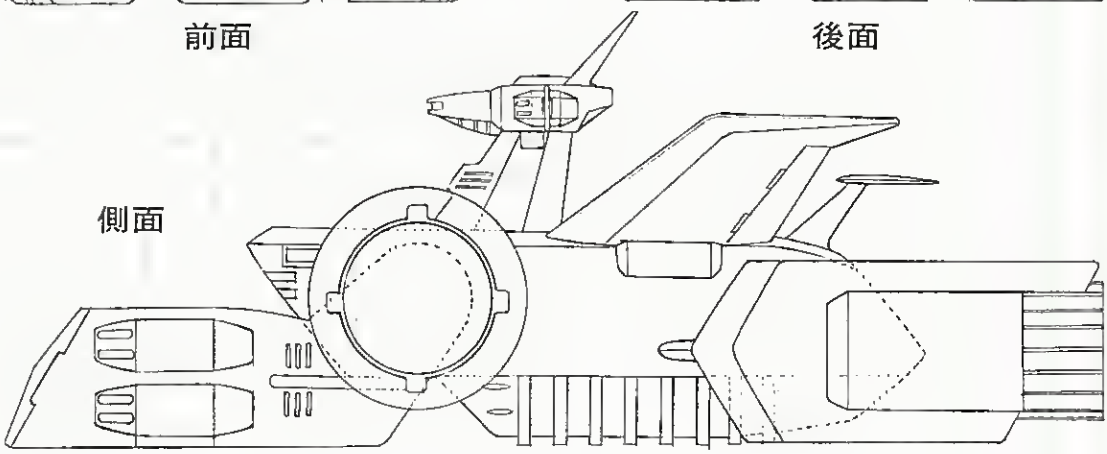
ホワイト・ベース五面図



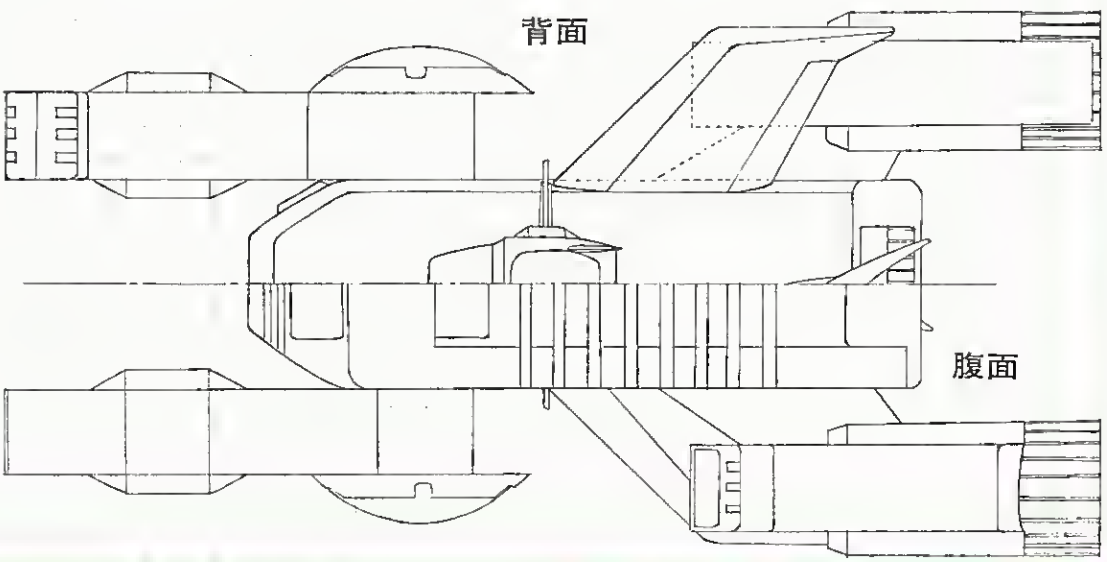
前面



後面



側面



背面

腹面

連続テレビ・アニメーション番組

機動戦士ガンダム
GUNDAM

録音台本

第1話　『ガンダム大地に立つ』

名古屋テレビ
制作　日本サンライズ
創通エージェンシー

第一話「ガンダム大地に立つ」

総監督　富野喜幸
シナリオ　星山博之
絵コンテ　斧谷稔
演出　貞光紳也
音楽　渡辺岳夫
　松山裕士
効果　松田昭彦（イシダ・サウンドアロ）
整音　オーディオ・プランニングU
録音　整音スタジオ
音響監督　松浦典良（オーディオ・プランニングU）



★TV放映時の録音台本・決定稿は色文字にて修正してあります。

登場キャラクター　声の出演

アムロ・嶺	古谷徹
ブライト・ノア	鈴置洋孝
フラウ・ボウ	鵜飼るみ子
ハヤト・小林	鈴木清信
シャア少佐	池田秀一
ドレン中尉	
デニム	緒方賢一
ジーン	曽我部和行
スレンダー	鈴木誠一
キッカ	井上瑤
ハロ	
艦長	政宗一成
中佐	池田勝
少尉	
テム・嶺	清川元夢
ハヤトの母	
フラウ・ボウの母	
フラウ・ボウの祖父	鈴木れい子
兵士A～I	
老人A～B	
老婆A～B	
士官	
スピーカー	
人々	
ナレーター	永井一郎

S C	画面	音声
1	スペース・アイランドの中	N「人類が、ふえすぎた人口を宇宙に移民させる様になって、すでに半世紀がすぎていた。地球のまわりの巨大な人工の島には、人類の第二の故郷となり、人々は、そこで子を生み、育て、そして死んでいった」
2	ムサイ艦がメガ粒子砲を斉射しつつすすむ	
3	アイランドの周辺に核爆発がおこっている	
4	ムサイ艦群	N
5	ザクのむこう、アイランドが落下してゆく	
6	大気に突入してゆくアイランド	
7	ニューヨークらしい処にアイランドが落下する	N「宇宙世紀ダブルオー79年。地球に最も遠い宇宙植民地サイドスリーは、ジオン公国を名乗り地球連邦政府に独立戦争を挑んできた。この一カ月余りの闘いで、ジオン公国と連邦軍は、総人口の半分を死に至らしめた。人々は、己らの行為に恐怖した。……戦争は膠着状態に入り、八カ月余りがすぎた」
8	サブタイトル「ガンダムでございます」「ルナツーネーム」	
9	月、地球、そして一機通りすぎる後からくるザク二機	呼吸音（off）「フッフー　フ、フ、フー　フッフー　フッフー！　フッフー！」
10	ザク三機なめサイド7の〝壁〟	
11	三機のザク進む、サイド7の壁にすすむ	
12	ザクくる	
13	ザク三機、着地、手前の一機、奥くの一機をみて指をさす	
14	しゃがむ一機、ドアの脇のノブをまわす	
15	反対でもノブをまわす、ドア開	
16	開いてゆくドア	
17	入ってくるザク達	
18	肩でクレーンを折る	
19	流れるクレーン、壁にぶつかりはねかえってくる	
20	クレーン、ドアの片へ流れてゆく	
21	ドアがかすかに開き単眼がのぞく	
22	ザク二機	デニム（off）「幸い墓守が、スレンダー、お前は、ここに残れ、俺たちは、まだ戦える内に」 スレンダー（off）「は！　曹長」
23	ドア開ききる、と「おりる二機	
24	センター・ブロックから降下する二機のザク	
25	降下するザク二機	
26	ザクなめ地面	S・E「サイレンがきこえてくる」
27	降下するザク二機	
28	ザク着地する	
29	小鳥が逃げる一機のザクのぞく	
30	ザクの手が上がる、とハッチが開いてジーンがあらわれ、双眼鏡をみる	
31	双眼鏡内、軍需施設がみえる	
32	ジーン双眼鏡を外して、向こうにデニムいる再び双眼鏡をのぞいて下をみるジーン	ジーン「曹長、軍の施設は、右上のブロックの様です」 デニム（off）「失敗したか？　その居住区には、まだ人がいるのか？」

33	双眼鏡内、住宅街 画面かわってエレベーター・トリック・カー走ってゆく、画面かわって、人影がゆく	シーン（off）「出勤時間のはすですが、車が一台行っただけです。人影はありません。……いました。子供の様です」
34	リビング・ルーム フラウ・ボウ入ってくる フラウ、机の上のシロスの下のサンドイッチ等をひきかえして階段を登る	フラウ「アムロー！　アムロ！」 フラウ「まァ！　まだ食べてない。アムロー！」
35	ハロ、階段をのぼっていく	
36	アムロ、顕微鏡下でマイコンの組立てをやっている、フラウきて	フラウ「こんなことだと思ったわ。ちゃんと朝食とらないと体のためによくないのよ」
37	フラウ、整理ダンスの上から鞄を出す	
38	アムロの下へ転ってくるハロ	ハロ「ハロー・アムロ　ハロー・アムロ」 アムロ（背中）「ハロ！　今日も元気だね」 ハロ「サンキュ・アムロ」
39	フラウ、下着を入れながら ムカッと立って アムロふりむいて	フラウ「何着ていくつもり。アムロ」 アムロ「……」 フラウ「アムロ！」 アムロ「このコンピューター組んだら、食べるよ」 フラウ「避難命令きいてないの！」 アムロ「避難命令？　あのサイレンそうなのかい」
40	フラウ、整理ダンスの戸を閉じて	フラウ「あきれた！　軍の放送、聞かなかったの！　軍艦が入港するから、避難するんだってさ」
41	アムロの手前へフラウ鞄を置いて	アムロ（背中）「なんで？」 フラウ（off）「知らないわよ」
42	フラウ	フラウ「ドッキングシオンの船はでも、追いかけれないんだぜ。アムロ！　時間ないのよ！」
43	アムロ振り向いて、立つアムロの窓外、車がゆく	アムロ「判ったよ。」 スピーカー（off）「退避急げ……！」

44	アムロ、電子チェック盤のスイッチを切る、フラウ、ハロ行く	フラウ「外で待ってるから！　ハロ、いらっしゃい」 アムロ「うるさいなァ」
45	アムロの家からとび出すフラウとハロ	フラウ「ハヤト君！」
46	手前からフラウとハロむこう車にのろうとしていたハヤトくる	ハヤト「やあ　フラウ・ボウ！」
47	ハヤト立ち止まる、フラウ、ハヤトの胸を叩いて ハヤトゆく フラウ、ふりむいて	フラウ「だめじゃない、お向いさんなんでしょ。アムロに教えてあげなくっちゃ」 ハヤト「避難命令のこと……？」 フラウ「そうよ。一人っきりなんだから」 ハヤト「ア、アムロのおやじさんみたいな軍事技術者がここに来なけりゃー研究施設をつくるんで、立ち退きさせられたの、まだうらんでんの!?」 フラウ「そ、そうじゃないけど……」 ハヤト「ハヤトの母（off）「ハヤト！」 ハヤト「はい！　じゃあ」 フラウ「アムロ！」
48	アムロのエレカが出てくる アムロ、サンドイッチをたべている、フラウのる、ハロとびのる、エレカ行く	フラウ「行儀悪いのね」 アムロ「ン」
49	くるアムロのエレカ	
50	エレカ内、フラウ、サンドイッチたべているアムロ	フラウ「入港する軍艦に、アムロのお父さん乗ってるんでしょ？」 アムロ「だと思うよ、一週間前に地球に下りるっていってたし……」 フラウ「ここも戦場になるの？」 アムロ「さ、おやじは研究のためにはここは来なければだめだっていってたし……」 フラウ「でも、軍艦来るってことは……」 アムロ「知らないよ。おやじは何も教えてくれないもん」
51	アムロの車ゆく、上方にドッキング・コアにつながるビルがみえてくる	

52 ビルの一角
中佐（off）「ホワイト・ベースに、ガンダムの部品をのせりゃあいいんだ！　地上の作業を急がせろ！」
兵A（off）「ハッ！」
中佐（off）「ホワイトベースめ！」

53 窓内　士官がゆく
中佐（off）「なりにはなっても、ジオンの船につけられればよい」

54 中佐　グリップにゆって走る
中佐　「いいか！　ホワイトベースにはパイロットがいる。連中にガンダムを渡しさえすれば、ジオンの船の一隻や二隻はやっつけられる！」
リフト・グリップから手を離す
小尉（off）「中佐！　ホワイトベース入港ま」
中佐　「急がせろ！」

55 中佐ふわっと浮んで床につく
おうー

56 少尉の横にくる中佐
うしろにむかって
中佐　「ホウー！　こ、これか!?」
小尉　「ハ！」
中佐　「さ、さすが我連邦軍の新鋭戦艦だな」
少尉　「ハイ、ガンダムは連邦ハイテク技術の結晶であります」
中佐　「ガンダムをドッキング・ベイにいる様、伝えやれ！」
兵A（off）「伝えます」

57 中佐
中佐　「こ、この艦とガンダムが完成すればジオン公国を打ち砕くなぞ、雑作もない……」

58 中佐たちなめホワイトベース

59 前進しているホワイトベース

60 前進するホワイトベース

61 ドッキングベイに入ってゆくホワイトベースのブリッジ

62 ドア開く、テムが書類をみている、テムふりむく
ブライト「依令！　嶺（レイ）大尉。入港いたしました。至急、ブリッジへおいで下さい」
テム　「うむ。了解した」

63 ブライトなめテム

64 テム、アムロの写真を見て

65 テムからブライト
テム（背中）「何ヵ月になるね、軍に入って」
ブライト（背中）「六ヵ月であります」
テム（背中）「十九才だったか？」
ブライト（背中）「はい！」

66 アムロの写真

67 テム
テム　「……ガンダムが量産されれば、君の様な若者が実戦に出なくとも、戦争は終ろう」
ブライト「ガンダム？　……あ、ガンダーX78のことでありますか？」
テム（背中）フ……（笑い）…君らしいな。我々の愛称というのが気に入らんとは……」
ブライト「いえ…」

68 ブライト、テム出てくる
ブライト（off）「お子様でらっしゃいますか？」
テム（off）「ああ、……。こんな年の子が、ゲ…（on）リラ戦に出ているとの噂さもきくが本当かね？」
ブライト「ハイ！事実だそうであります」
テム「いやだね」
ブライト「ハイー」

69 艦長下をみる、来るテム
艦長　「ごくろう様です。嶺（レイ）大尉」
テム　「結局、ジオンの（背中）船は……」

70 艦長なめテム
艦長（背中）「残念ながら……」

71 ホワイトベース入ってゆく

72 誘導灯がきえてゆく

73 サイド7よりT・B

74 さらにT・

75 さらにT・B　ルナツー入ってくる、シャアのムサイがみえる

76 ブリッジにシャア現える
シャア（off）「サイド7に潜入したデニムからの連絡は？」
兵D（off）「ハッ！ ありません」

77 シャア

78 シャア うしろにいるドレン
シャア「……私もよくよく運のない男だな？ 作戦が終っての帰り道で、あんな獲物に出合うとは……フフ……むこうの運が良かったのかな？」
ドレン「はい、シャア少佐。……しかし、あんな辺地のサイドに連邦のV作戦の基地があるのでしょうか？」
シャア「あるよ。……我ぐザク、モビルスーツよりすぐれたモビルスーツを、開発しているかも知れんぞ」
ドレン「まさか、あんな僻地のサイドで…」
シャア「遅いな……」
ドレン「来ました！」
S・E「コールサイン黒の首領がひとり」

79 ドレン、シャアをみて
ドレン「暗号 C・C・ブー です」

80 シャア ニヤリと笑い
シャア「みろ。……私の予測した通りだ」

81 シャアなめドレン
ドレン「で、では連邦軍もモビルスーツを？」
シャア「開発に成功したとみるのが正しいな」

82 双眼鏡内、ガンキャノンの上半身をつんだトレーラゆく、カメラ移動すると工場らしいもの
デニム（off）「三台目もモビルスーツだ！ まだ、あの中に何機もあるかも知れんぞ」

83 ジーンと双眼鏡をのぞいているデニム、双眼鏡のシャッターをおしている
ジーン「叩くなら今しかないな」
デニム「我々は偵察が任務だ。シャア少佐はこの事実を伝えればよい」
ジーン「しかし、敵のモビルスーツが、あの戦艦にのったら……」

84 デニム双眼鏡から目を離し、又見てシャッターおしている
デニム「手柄のないことを焦ることはない」

85 ジーンとび下りてボタ山の斜面をおりる
デニム「ジーン！」
ジーン「シャア少佐だって戦場の闘いで勝って出世したんだ」

86 ジーン走ってきてザクの手にのる

87 ザクの手が上がりハッチの処でとまる

88 シートに坐るジーン 前部装甲板閉じる

89 ザクの手の上のデニム
デニム「おい、ジーン！ 貴様、命令違反を犯すのか。やめろ！ ジーン」

90 デニムなめザク、歩いていく

91 ジーン
ジーン「フン！ 手柄をたてちまえば、こっちのものよ！」

92 ジーンなめスクリーン 遠景みえてくる

93 ザク、ボタ山に上がりきり銃を構える

94A ジーンなめスクリーン上、ガンキャノンに照準あう

94B ザク、銃をかまえる

95 ボタンをおすジーン

96 ザク、銃うつ

97 ガンキャノン爆発

98 トレーラー後部爆発

99 トレーラー前部爆発

100 ガンキャノンひっくりかえってくる

101 ジーン
ジーン「へへ…敵を倒すにゃ早いほどいいってね」

102 スコープがリフトを照準に合せる

103 ザク 撃つ！

104 リフトに直撃

105	トレーラごと山の斜面をすべりおちるガンタンク	
106	トラックの上におちてくるガンキャノン	
108	ゆれる待避カプセル ハッとする老婆、子供 立つ老人	老婆A「ああー」 子　供「ヒー！」 老人A「ち、近いぞ」 老人B（off）「サ、サイドの中らしい」 老婆B「隕石じゃないの？」
109	アムロ目を見開いてゆく 大きくゆれる	アムロ「こ、この震動の伝わり方は……爆発だ」 人々（off）「キァアー！」
110	フラウとフラウの母、祖父 手前に立つアムロ アムロ行く	フラウ「あー！」 フラウの母「あー！」 フラウの祖父「ジ、ジオンだ！　ジオンの攻撃だ!!」 アムロ「！」 フラウ（off）「アムロ！」 アムロ「父を探してきます」 フラウの祖父「アムロ君！」
111	アムロ、ドアにとりつく 老人Cとめる アムロ出ていく	老人C「君！　勝手に出ては、皆んなの迷惑に……」 アムロ「父が軍属です。こんな待避カプセルじゃ、潰ちませんから、今日入港した船に待避させてもらう様に頼んできます」 老人C「君！」
112	アムロ出て、もう一つのドアに手をかける アムロ出る	老人C「やめたまえ！」 アムロ「閉めといて下さい」
113	待避カプセルの入口からアムロかけだす、爆撃の音、すごいうっとなる	アムロ「う！」
114	アムロなめザクが爆撃をよける 倒れるアムロ	アムロ「うわー！」
115	カプセルから出ようとする老婆	老婆A「アア～。ジ、ジオンのモビスーツが……」
115	Aたち	

116	着白のアムロ	アムロ「こ、これが、ジオンのザ、ザクか!?……」
117	アムロなめ銃をかまえるザク	
118	ザク　撃つ	
119	巨大な薬きょがおちる アムロはねおきてエレカへゆく	
120	アムロ、エレカをスタートさせる	
121	アムロのエレカゆくが、むこうから軍用のエレカがくるあわててハンドルを切るアムロ	
122	エレカ上の士官、兵士	士　官「貴様！　民間人は待避カプセルに入っていろ！」
123	エレカのアムロ	アムロ「技術士官のテム・レイを探してんです！　どこにいるんですか！」 士　官「船じゃないのか！　おい、下せ！」
124	軍用エレカ	
125	有線ミサイルがくるにげるアムロ	アムロ「危ない！」
126	コンテナをはこぶ士官と兵 有線ミサイル入ってゆく	
127	アムロ、エレカのむこうに伏せる	
128	アムロなめ爆発、破片とんでくる	
129	エレカのフロントグラスにあたる破片	
130	コンテナの破片とぶ	
131	アムロの横に破片おちる アムロ、顔をあげる	アムロ「あ……」
132	破壊された軍用エレカ等	

133 エレカの陰のアムロ

134 アムロ　アムロ「うう……！」

135 有線ミサイルをうつジープザク、そのジープを破壊

136 対モビルスーツ　銃をうつ砲

137 研究所の陰からザク連射

138 対モビルガンにあたる

139 まいあがる前部装甲板

140 ファイルの近くへアムロにじりよる、うしろで光って、体をおこす　アムロ「し、死んだ……」(あ!)

141 立とうとして目の前のファイルをみる　アムロ「？」

142 ファイル

143 アムロ、ファイルを手にとって開く、あっとなる　アムロ「……極秘資料？!」

144 アムロなめノート　「ば、ば、これは、」

145 アムロ目を開き　アムロ「れ、連邦軍の……モ、モビル、スーツ？」

146 アイ・キャッチャー！

——C M——

147 アイ・キャッチャー

148 モニター内スレンダーを見ているドレン、シャアがくる　スレンダー「ははは。自分はデニム曹長の命令を守って……」　シャア「デニム曹長は！」　スレンダー「ハッ！　ジーンを援護するため、後方から出ました」

149 シャア、ドレン　シャア「連邦軍のモビルスーツは存在するのだな！」　スレンダー「はい！」　シャア「お前は、撮れるだけの写真をとって危険になったらひき上げろ」　スレンダー（off）「は、はい」　シャア「……」　ドレン「どうします」　シャア「デニムに新兵がおさえられんとはな……連邦のモビルスーツが動き出したとなればデニム等は信用しよう。……私がでるしかないかも知れん。船をサイド7に近づけろ」　ドレン「はっ！」

151 待避カプセルから走り出る人々　人々（off）「港へゆくんだ！　戦艦が待っているぞ！　逃げおくれるな！　走ってでも行くんだ！……etc…　リフトはこわれてるぞ！　二十八番へいけ！　戦艦が来てるんだ！…etc」

152 人々のむこう、アムロがファイルをめくっている　アムロ（off）「コンピュータ管理で操縦ができる？」

153 ファイルの頁　アムロ「……教育型タイプ、コンピューター？……。すごい……！　おやじが熱中するわけだ」　フラウ（off）「アムロー！」

154 ファイルをめくっているアムロ　フラウの声にふりむく　フラウ「アムロ！　何しているの！」

155A フラウくる

155B アムロのところにフラウ・ボウくる、二人ゆく　フラウ「もっと右！　射程距離にあと一メートルだわ！」

156 ミサイルカー　ミサイル発射

157 二体のザクの方へ行くミサイル一体逃げる

158 ミサイルカーをうつザク

159 ミサイルよけるザク　ボタ山のむこうで爆発するザク連続射撃

160 つづけざま爆発

161 避難民がふっとぶ

162 倒れる老人・子供たち
人々「うわー！」
レツ「ちくしょオー！」

163 フラウとアムロ
フラウ「ア、アムロ」
[illegible]
アムロ「！」
フラウ「アムロ……（訊く）」

164 走る人々の向うにテム見える
テム（off）「急げ！奥のリフトが使えるはずだ」

165 アムロ、フラウの手をはらって行く
フラウ行く
アムロ「フラウ・ボウは港に上れ！」
フラウ「アムロ！」
フラウの母（off）「フラウ！早く！」
フラウ「…はい！」

166 走るアムロ
アムロ「父さん！」

167 テムと兵F
テム（off）「第三リフトがあるだろ！」
兵F（off）「しかしリフトは避難民で一杯なんです！」
[illegible]
アムロ「！」

168 アムロ、キッとなる

169 テムと敬礼する兵
テム（背中）「避難民より、ガンダムをホワイトベースに収容せよ、戦闘準備させるんだ！」
兵F「ハッ！」

170 走るアムロ
アムロ（怒り）「父さん！」

171 ふりむくテム
テム「…!? アムロ！避難しないのか？」

172 テムのところへくるアムロ
アムロ「俺は避難カプセルが何の役に立つんです。父さんは、人間よりモビル・スーツの方が大切なんですか！」
テム「早くだせ！」
アムロ「父さん！」
テム「早くホワイトベースへ逃げこむんだ」
アムロ「ホワイトベース？」

テム「入港している軍艦だ！」
テム「何をしている！」

173 キーをガチャガチャやっている兵F
兵、テム来て奥へ行く
テム「エンジンがかかりません」
「ホワイトベースへ行け」（背中）
牽引車を探してくる」（行く）

174 アムロ行こうとして立ち止まり
あらためてみつめる
アムロ「父さん！」

175 アムロなめガンダムがある

176 アムロ頁をめくる
うしろで主が上がる
アムロ「これが連邦軍の秘密兵器なのか」
アムロ「あっ！」

177 アムロの上に降る

178 土の降るのがやんでゆく
立ち上がろうとのりだすアムロ
アムロ（恐い）「う……」
フラウ（off）「アムロ！早く！」
[illegible]

179 フラウとハロ走ってくる
うしろで爆発、ふっとぶフラウ
フラウ「大丈夫！アムロ！キャーン！」

180 立ってゆくアムロ
アムロ「フラウ・ボウ！」

181 フラウ頭をかかえ体を小さくする

182 フラウのところにくるアムロ
アムロ「フラウ！フラウ・ボウ！」

183 頭をかかえたままのフラウ
フラウ「うう……う……」

184 アムロ、フラウの手を外す
アムロ「フラウ・ボウ！しっかりするんだ」
フラウ（背中）「う……ア…アムロ……」
アムロ「立てるか!?」
フラウ「あ！う！…（息をのむ）」

185 累々たる死体

186 フラウ・ボウ
フラウ（かすれてる）「か、か、か、かあさん……お、おじいちゃん…」

187 アムロふるえている
アムロ「……」

188 フラウ、ヨロヨロとくる
フラウ「ああ！ああ！」

189 母の上にかがみこむフラウ
190 アムロ立つ
191 泣いているフラウ
192 母のうえにおおいかぶさっているフラウ、アムロくる
193 フラウの肩をつかむアムロ
アムロ平手打ち
フラウ・ボウ行く
194 走っていくフラウ
195 アムロ
196 フラウ、爆撃穴の脇をのぼる
197 涙あふれるアムロ、立つ
198 走るアムロの足
199 アムロ走る、バスト
200 走るアムロ　アップ
201 アムロかけこみトレーラにのる
202 アムロかけあがる
203 アムロ、ガンダムの胴体の上にくる
204 ホロをはがすアムロ
205 コクピット、ポッとエネルギーランプついている

フラウ（背中）「かあさん、かあさん、かあさん……ああ……」
フラウ（背中）「ああ、ああ……ああ　ああ」
アムロ「フラウ。君までやられる。逃げるんだ。フラウ！」
フラウ「いやあよ！」
アムロ「しっかりしろ！　君は、強い女の子じゃないか！」
フラウ（泣く）「う、う、う……！」
アムロ「港まで走るんだ。走れるな！　フラウ・ボウ！　ぼくもすぐ行く。行くんだ！　（さけぶ）走れ！　フラウ・ボウ！」
アムロ（悲しく）「走れ、フラウ……」
アムロ「そそ、そうだ…フラウ・ボウ……い、いいぞ……」

206 アムロ
207 コクピットに入るアムロ
ファイルをとってひっこむ
208 坐るアムロ、左右をみる
手前に手をのばす
209 スイッチいれる、アムロ
210 アムロ、マニュアルとって見くらべる
211 ゲージ上がるメーター
212 アムロ、ファイルを下して
装甲板が上がる
213 アムロなめブラウン管、明るく
214 アムロ正面と左右をみて、下を見る
215 ファイルのページをめくる
216 アムロ、脇下のレバーをおす
217 アムロ顔をあげるとモニターがあらわれる、ブレる
パネルをみてスイッチをおしてゆく、スクリーンに景色がうつる
218 前方スクリーン
ザクがとんでゆく
219 着地するザク、撃つ
手前、人々伏せる
220 ドッキング・コアにつながる下部を爆撃、宇宙服の人々もとぶ
221 外で爆撃、ブライト、老婆をリフトにおしやる

アムロ「動くぞ……こいつ」
アムロ「同じだ……こいつか？」
アムロ「すごい…五倍以上のエネルギーゲインがある！」
アムロ「やってみるさ！」
アムロ「こ、これだけか？」
アムロ「こいつだ」
人々「うわー！」
アムロ「間に合うか？」
アムロ「左と右か」
キッカ「ギャー！」
ブライト「急いで！　早く！　武器を！」

222 タラップ上、人々がリフトからホワイトベースのハッチに入ってゆく

兵G「ホワイトベース！　コア・ファイター発進できませんかァ！」
兵H（off）「出来るわけないだろ！　サイド側の装甲を開かなけりゃあな」

223 ブリッチ内・艦長たち

艦長（off）「戦闘員は全員出たのか！」
兵I（off）「ハッ！　パイロットもガンダム：（off）収容に下させました」
艦長「ゆれる　サイドの中から攻撃とはな…」

224 艦長、目を正面にもわし

225 ガンダムの横でモビルカー爆発

226 ガンダムの体がすべる

227 コクピットのアムロうつとモニターを見る

アムロ「う……！　た、立ち上がって……」

228 ザク正面見る

229 アムロ息をのむ

アムロ「し、正面だ？」

230 ザクの単眼が輝く

231 アムロ、膝の上のファイルをめくる

アムロ「ぶ、武器は……」

232 ザク、銃をかまえ

233 アムロ、指がレバーを握りしめている

アムロ「うわーっ！」

234 ガンダムの額の銃が唸る

235 銃撃よけるザク

236 ジーン

ジーン「な、デ、デニム曹長！　て、敵のモビルスーツが動きます！」

237 ふりむくデニムのザク

デニム（off）「なにーっ！」

238 デニム

デニム「みんな部品ばかりだと思っていたが」
ジーン（off）「一番奥の、完成品らしい」
デニム「退れ！　ジーン！　性能が判らんけやは……」
ジーン「いや！　…まだ、よく動けんようです。やります」

239 ジーン前へのりだして

240 ジーンなめモニターの中のガンダム肘をつく

241 ガンダム左足が地につく上体がブレながら上る

242 銃をかまえるザク、撃つ

243 アムロ、目を閉じる
ガンガンと響く砲撃音

アムロ「来た！」

244 ガンダムにはじける銃撃

245 撃ちやめるザク、をひく

246 ジーン

ジーン「な、なんてモビル・スーツだ！　ライフルを全く受けつけません！」
デニム（off）「退るんだジーン」
アムロ「見ていろよ、ザクめー！」

247 アムロ、レバーを手前にひいて

248 ガンダムの上体が上る

249 ジーンのザク、撃つ、うしろからデニムのザクかけよりジーンをおさえる

デニム「我々は、偵察が任務なんだぞ！　ひくんだジーン！」

250 デニム

251 ジーンのりだすジーン、デニム入る

ジーン「何言ってるんです！　ここで倒さなければ敵はますます…う！」
デニム「た、立った！」

252 ガンダム膝立つ

253 二機のザクあとずさる

254 ガンダム手を大きくまわして上体を前へ

255 ガンダムの膝が上る

256 コクピット内のアムロ

アムロ「……くっ！　た、たってくれ……立てよ……！」

257 立つガンダム

258 デニム、ジーン

デニム「で、でかい……」
ジーン「そ、曹長！」

259 ガンダムの顔が上る

260 アムロ、シートのうしろから照準器をまわす

アムロ「こ、これか！」

261 アムロなめスコープ内ザクに照準があう

262 アムロ　ボタンおす

アムロ「ク！」

263 撃つガンダム

264 銃撃ゆく、二機のザク身をひく

265 銃をかまえて撃つザク

266 ガンダム撃つ

267 ガンダム前進する
クレーン牽引車ゆく

268 牽引車にのるテム上兵F

269 テム　ハッとする
テム「なんて攻撃の仕方だ！　誰がコクピットにいる、……」

270 テムなめてアイルったアムロ

271 テム
テム「ま、まさか……アムロ……」

272 ハッとするアムロ
正面をみる
アムロ「うっ……!?　弾丸が切れた？」

273 立つザク

274 ジーン
ジーン「やってやる！　いくら装甲が厚くったって……」

275 来るザク

276 アムロ
アムロ「き、来た」

277 アムロなめせまるザク

278 アムロ
アムロ「アア……」

279 ガンダムなめザク来る

280 ジーン
ジーン「へへ…おびえていやがるぜ　このモビルスーツ」

281 ザク銃をかまえる

282 銃をおしかえすガンダム

283 ジーン
ジーン「うわ～！」

284 ガンダム、ザクの顎をつかんでぐいっとひく

285 ジーン
ジーン「うわーっ！」

286 ガンダム、ザクをひき、おしもどす

287 ザクの顎がひきちぎれてとぶ

288 ふっとぶザク、おちる銃

289 ふっとぶザク

290 ジーン
ジーン「うわーっ！」

291 研究施設をぶちこわすザク

292 地面をえぐって停まるザク

293 倒れているジーンのザクなめ
デニムのザク

294 デニム
デニム「う……！　わ、わが軍の事が誇るモビルスーツ・ザクを、二、三つも簡単にやっつけるパワー!?　あれが、連邦軍のモビル・スーツの威力なのか！……」

295 ガンダム

296 アムロふるえている
アムロ「……す、すごい……」

297 起き上るジーンのザク

298 デニムのザク、ジーンのザクをひっぱってやる

299 アムロのり出す

300 ガンダム、破片をなげつける

301 アムロ、パネルをキョロキョロ
アムロ「逃がすものか！……！　ふ、武器はないのか、武器は！」

302	パネルに剣の表示があらわれる	アムロ	「これか？」
303A	柄が上に浮く		
303B	後退するザク二機		
304	デニム	デニム	「ジーン、スレンダーが待っている処までジャンプできるか！」
305	ジーン	ジーン	「補助カメラが使えますから、見えます。ジャンプします」
306	ジーンのザクあがるたすけるデニムのザク		
307	アムロ	アムロ	「逃がすものか！」
308	走りながらサーベルをぬくガンダム		
310	デニムのザクの頭上をとぶガンダム		
311	ガンダムとぶ		
312	ジーンのザク		
313	ジーン	ジーン	「うわー！」
314	アムロ	アムロ	「うわー！」
315	ガンダム、ザクをきる		
316	ガンダム着地		
317	ガンダム頭上でザク爆発		
318	爆圧にのめりこむガンダム		
319	ブレるコクピットの中のアムロ	アムロ	「う、うーっ」
320	ふきとだされるデニムのザク		
321	サイド7の外板がはじけて土砂が流れる		

322	クレーン車ひきずられるテムと兵ふっとぶ	テム	「うわー！」
323	テムと兵、宇宙へ吹きだされる	テム 兵	「うわ」 「あー！」
324	サイド7外からいろんなものがひっかかって次第に土砂が少くなる		
325	上体が上るガンダムむこうにザクもく		
326	アムロハッとモニターを見る	アムロ	「モ、モビル・スーツのエンジンをやれば、サイド7もやられちゃうかも……。ど、どうすればいいんだ」
327	アムロなめデニムのザクがつっこんでくる		
328	デニム	デニム	「よ、よくもジーンを！」
329	アムロ	アムロ	「ど、どうする……コクピットだけを狙えるか？」
330	走るザク		
331	ビーム剣を構えるガンダム		
332	アムロ	アムロ	「今度、ザクを爆発させたら、サイド7の空気がなくなっちゃう……」
333	ジャンプするザク		
334	ザクつっこみ、ガンダム剣をつきだす		
335	ザクのコクピットに入るビームサーベル		
336	ザクをさしているガンダム		
337	アムロ	アムロ	「……！」
338	ザクの胸から剣をぬく		

339	剣をおさめるガンダム うしろをみる	
340	破壊された研究施設等	
341	ブライト、兵Gの叫うエレベーターとじる	ブライト「民間人をホワイトベースへ急がせろ」 兵G（off）「ハ！」 兵H「空気の流出は止まったようです！」 ブライト「ガンダムの運搬は!?」 兵H「正規の技師がほとんどやられてしまった様で、すすんでません」ブライト「あれにもやって貰おう」 兵H「ハ？」
342	ブライト	ブライト「正規のパイロットだろうと何だろうと手伝ってもらわなければ」（なるまい）
343	ブライト、兵なめ、くるガンダム、ぶれる	
344	アムロ	アムロ「なんだ？」
345	港の方に爆発のアトが散ってゆく	
346	爆発で中佐たちふっとぶ 開いた穴にムサイの光点見える	中佐たち「うわー！」
347	ムサイ、魚雷二発うつ	
348	シャア、ドレンたち	シャア「スレンダーは…!?」 ドレン（off）「サイド7を脱出して、本艦に向かっております」
349	シャア	シャア「認めたくないものだな。……自分自身の……若さ故の誤ちというものを…」
350	シャアなめサイドは向かう 魚雷がみえる	
351	サイド7に魚雷ゆく	……第一話・おわり……



制作スタッフ紹介

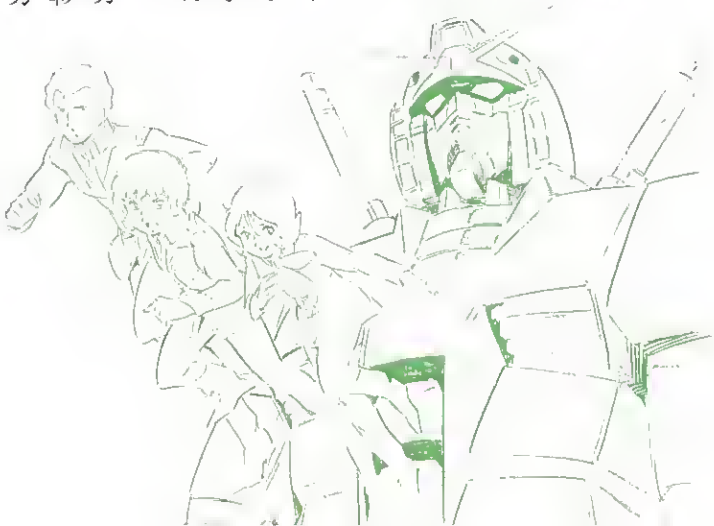
第一話「ガンダム大地に立つ」

企画　日本サンライズ
原作　矢立　肇
シナリオ　富野　喜幸
音楽　星山　博之
主題歌・作詞　渡辺　岳夫
作曲　松山　祐士
編曲　井荻　麟
歌　池田　鴻
キャラクター・デザイン　安彦　良和
メカニカル・デザイン　大河原邦男
美術設定　中村　光毅
アニメーション・ディレクター　安彦　良和
総監督　富野　喜幸
プロデューサー　関岡　渉（名古屋テレビ）
大熊　伸行（創通エージェンシー）
渋江　靖夫（日本サンライズ）

制作　名古屋テレビ
創通エージェンシー
日本サンライズ
安彦　良和（ザ・スタジオ・Z）

作画監督・レイアウト
作画　作画　長崎　重信
鍋島　修
平山　一
アート・テイク・ワン
東條　俊寿
那須野幸子
浜津　守
シャフト
森山　政子
満橋　曜子
土井　通明
旭プロダクション
斉藤　秋男
鶴渕　友彰
小谷地文男
東京現像所
松浦　典良（オーディオプランニング U）
松田　昭彦
日向　国雄
整音スタジオ
豊住　政弘
円井　正
神田　豊

動画チェック
仕上
特殊効果
撮影
編集
現像
音響監督
効果
整音
録音
制作進行
設定制作
アシスタントプロデューサー



●メインスタッフ・プロフィール

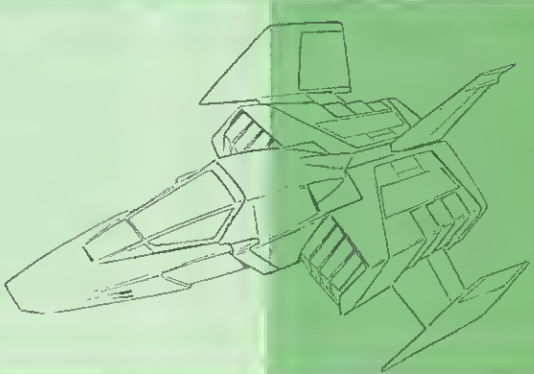


プロデューサー　渋江　靖夫

昭和40年、虫プロダクションに制作として入社し、「鉄腕アトム」「リボンの騎士」のほか、世界旅行シリーズ（NTV）などを担当し、虫プロダクションにCM部を設立した。

その後、CM制作、「ゲバゲバ90分」のアニメ部分や「ファミリークラシック」等のプロデュースを務めた。

日本サンライズの設立に参加し、以後「勇者ライディーン」「ろぼっ子ビートン」「ダイターン3」「機動戦士ガンダム」「ウルトラマン」などのプロデューサーを担当している。



プロデューサー　関岡　渉

（名古屋テレビ・制作部長）

主として、スタジオ番組を中心に制作担当してきたが、子供番組としては「プンプン、バンバン」や「マゴベエ探偵団」などがある。

アニメーション番組のプロデュースを手がけるのは、この「機動戦士ガンダム」が初めてだが、今後の番組づくりに意欲を燃やしている。



プロデューサー　大熊　伸行

（創通エージェンシー・制作営業部長）

これまでに、「マッハ・バロン」と「レッド・バロン」などの作品を手がけているが、「ザンボット3」以来、日本サンライズとコンビを組み、その後「ダイターン・3」そして今回の「機動戦士ガンダム」とプロデュースを担当している。



原作・総監督　富野　喜幸

昭和39年～42年まで虫プロダクションに所属し、その間「鉄腕アトム」や「リボンの騎士」演出を担当。

以後、フリーとなり、チーフ・ディレクターとして「夕焼け番長」「海のトリトン」のほか、日本サンライズにおいては、「勇者ライディーン」や「ザンボット3」「ダイターン3」「機動戦士ガンダム」の総監督を務めている。

氏はまた、「ザンボット3」「ダイターン3」「機動戦士ガンダム」の原作者でもある。



キャラクター・デザイン
アニメーション・ディレクター

安彦　良和

虫プロダクション・アニメーター養成所の第一期生として入社。海外との合作アニメーション等の原画を担当。

日本サンライズでは、「勇者ライディーン」のキャラクター・デザインを手がけている。「クム・クム」の原作とキャラクター・デザイン、「ザンボット3」「機動戦士ガンダム」のキャラクターデザインを担当するかたわら「宇宙戦艦ヤマト」の演出もしている。



メカニカル・デザイン

大河原邦男

昭和47年、竜の子プロに美術として入社する。「ガッチャマン」のメカ・デザインをスタートに、「ハリケーン・ポリマー」「ゴーダム」「テッカマン」などのメカ・デザインを担当。

昭和51年、中村光毅氏と美術設定・デザインの会社〝メカマン〟を設立したが後にフリーとなり「マシン・飛龍」「メカンダー・ロボ」「ダイケンゴー」「ヤッターマン」「ザンボット3」や「ダイターン3」「機動戦士ガンダム」など多数のメカ・デザインを手がけている。



美術監督

中村　光毅

竜の子プロに美術担当として入社。丁度、竜の子プロの第一回作品として制作が開始された「宇宙エース」に参加し、その後、「ポールのミラクル大作戦」「マッハGO、GO、GO」「決断」「科学忍者隊ガッチャマン」を担当。

昭和51年、有限会社〝メカマン〟を設立して独立した。

現在、「新・ガッチャマン」「サンボット3」「ダイターン3」そして、「機動戦士ガンダム」等の美術監督を務めている。

★シナリオ、演出、アニメーター、背景、仕上げ、特殊効果、撮影、編集、音響、声優、その他のスタッフ・プロフィールは、各巻にて随時紹介いたします。

スタッフからのコメント

企画室　山浦　栄二

今までロボット・アニメ作品が数多く企画・制作されながら、何か物足りなく新鮮味に欠け不満に思ってました。

そこでロボットを登場させ、今までになかった全く新しいSFアクションをつくることはできないか、と考えたことが〈機動戦士ガンダム〉を生む、最初のきっかけになりました。

ある日「ロボット・アニメの最大の欠点は、SF的要素があるようで殆んどないことだろうな。企画する者がSFをよく知らんし、理解もしてない。ロボット的なメカが登場するSF〝宇宙の戦士〟という本があるから、一度読んでみたら…」という有難い助言をいただきました。

この一冊のSF小説との出逢いが、〈機動戦士ガンダム〉の誕生を決定的なものにしたのです。

イメージが固まり、具体的な企画作業が着々と進められてゆきました。

メインスタッフと企画室のプレーンと共に、企画設定、シリーズ設定をすすめ、ついに〈機動戦士ガンダム〉は誕生しました。勿論、番組作品は企画だけではできません。制作に参加した全スタッフの総力で創り出されるのです。制作に参加した多くの裏方さんたちの苦労を忘れないで下さい。



アムロ、旅立ち

原作・監督　富野　喜幸

制作当事者が、フィルム以外でその作品のコメントを語るのは邪道です。にもかかわらず、このような型でガンダムの始りを記録するのは、極めてマニアチックな発想であって好みではありません。

本来フィルムというものは、もっと一般的なものだからです。しかし、百歩譲って自らマニアチックになって言うならば、ニュータイプへの物語の出発を、ここに示される世界から始めたという構造論とデテール論を、読者がよみとっていただけたら幸いと思うのです。

ファンタジィへ突きすすむ前段階としてのリアリティを、アニメーションならどう創るのか？その実験が、ガンダムの制作主題であったのです。

演　出　藤原　良二

もしも僕があと百年生きられて、その時この作品を見たら、どんな感じ方するだろうなァって考えると、すごく楽しくなる。

百年後の人間が今と同じ感覚や考え方であるとは思わないが、少なくとも人間としての生き方に変りはないだろうし、変って欲しくないと思う。

なんて、大そうなことではなくて、つまりこの作品が、僕の成長にどれだけ大きな位置をしめたかを、百年後の僕が見ている図を想像すると、楽しくなるんです。

演　出　関田　修

つかれたぞ――!!

だれか助けてくれ――……!!

演　出　久野　弘

すごい作品だナ――と、面白がって見ていたガンダムを、ひょんな事から演出することになり、おっかなびっくり始めましたが……。

未熟な私はドジばかりで、冷汗の連続……。富野様、ゴメンナサイ！と、まず謝まっておいて。

しかし、メカをメカメカしく描きまくるガンダムは、私としても楽しくやらせて貰いましたし、何よりすごく勉強になりました。

わずか4本を担当しただけですが、この幸運を嬉しく思ってます。

脚　本　星山　博之

テレビ・アニメの主人公は外向的な性格の人間が殆んどである。その方が描きやすいし、正しいともいえる。

そうは思いながら、一度内向的な性格の人間を主人公にした作品を作ってみたいと思っていた。それが実現した。アムロである。この主人公の設定は富野さんの思いと一致し、それなりに成功したと思っている。

そしてもう一人愛着のあるシデン。彼の現実派としてのしたたかさが、そのシデンの存在が、アムロという人間を浮きあがらせるキイの人物になったのかも知れない……。

脚　本　松崎　健一

ガンダムという作品は作業にかかる時、非常に抽象的ですがなにができるんではないか、という感じがしたんです。どの作品の場合でも、そういう感覚はあるんですが、ガンダムでは特に感じました。そして、ある程度は出来たんではないでしょうか。

勿論、ある意味ではかなり自由に書かせてもらいましたし、このようにハードな面を持つ作品を、画像として生かせるスタッフの力が大きいと思っています。

動画チェック　浜津　守

幾多の制約とスタッフの人手不足のままスタートした制作現場は、くじけている暇も惜しいほどの毎日。まさにW（ホワイト）・ベース航海日誌そのものの日々の中、長編としての確かな快感と、圧倒的作業量の苦痛が、めまぐるしく交錯してゆきました。

すべての工程の終りが見えてくるときには、一筋の光のかけらが感じられる思いがします。

70年代の最後に参加できた作品としても、思い入れがぬりこめられた作品です。



作画　前島　和子

34話のラッシュの後。「何だあ、このブタミライ…」ギョ!!わ、わたしの描いたミライさん……。

安彦さんが作監のころは、ラッシュが楽しみだったのに！今は見るたびに食欲がなくなります。

ワーン、キャラが似なくてゴメンナサイ!!

作画　板野　一郎

富野さんや脚本・演出の皆さんの力で、登場人物一人一人に味を付け、それに合わせて安彦さんならではの、キャラクターとリアルな芝居……その他いろいろ れして、これから話の大詰という時に安彦さんの入院。残念です。

それからは、富野さんたちも作画するようになり、それを見ると作画の僕も顔がひきつりそう…人って突然の環境の変化に適応できるんですね。

僕も努力して……??

動画　戸川　俊信

第一話の初号ですっかり驚かされてから、安彦さん独特のくせのあるキャラと取り組むことになり、いつの間にか一年が過ぎてしまった。

しかし私にとって、最も勉強になった作品だったと思います。

制作主任　神田　豊

ガンダムはザンボット以上にシリアスな作品だ。内容も高度になり、長編的シリーズで話は見ごたえがあって皆んなに喜ばれるけれど…制作状況もあの時と変ってなく、逆に本数が増えて制作的には相変らず苦しい。

だんだん胃の痛みが強くなり、安彦氏のように倒れそう！安彦氏が倒れたことも大打撃でした。

視聴者の皆さん。楽しむだけでなく、スタッフが苦労して作っていることを忘れずに見て下さい!!

制作進行　豊住　政弘

ガンダム、すごい！あるあるある！いろんな人物・メカ・舞台と、こんなに出てきて何だかわからない。コピーも大変。複雑だから作画も何もかも上がらない。スケジュールがない！アニメーターがいない！仕上げがいない！背景がない！あるのは徹夜ばかりだ。コメントなんて書くヒマない！早く終らないかなぁ―。

見てる人は良いだろう。すごく良いと思うもの。制作するより、見る方の人になりたいナ。

進行　草刈　忠良

が、我慢、我慢。外注さんからの文句。ン、ん！言葉に詰るほど、荒れたあの話。ダ、だめだこりゃ、原画上がんないよ。ム、無理だ、もうこのスケジュールじゃ！

と、まぁ何か思い出せと云われたらこんな事しか頭に浮んできません。

「ガンダム」見るのは面白いけど、作るのは本当にしんどいです。今まで担当した作品の中で、一番大変でしたよ富野さん。〇〇、バンザイ！



制作事務　竹川　早苗

制作事務とは名ばかり。ほとんどバンク係として過した日々でした。余りのバンクの多さに、辞めようと思ったこと数度……。

これを乗り越えてこられたのは、ひたすら、総監督の暖かい声があったればこそ。

この話が終る頃には、私もガンダムに登場した女性たちのように、したたかな女に成長している事でしょう。

制作事務　伊藤　京子

途中から入ったばかりなので、何を書いていいのかわからないのです。

しいて云えば、ただただ大変だなァと思うことです。地獄のカット袋探しは、口では云い表わせないほどの仕事で、背景が無いとか、カットが無いとか、何もわからない私にとっては笑ってごまかすばかりでした。あー疲れたという感じ。忘れられないのは、背景をまっぷたつに何してしまったこと。苦しかったです。はい、終り。

◎キャスト紹介

〈第一話〉

アムロ……古谷　徹
ブライト……鈴置洋孝
フラウ・ボウ…鵜飼るみ子
ハヤト……鈴木清信
シャア……池田秀一
デニム……緒方賢一
ジーン……曽我部和行
テム・レイ……清川元夢
中佐……池田　勝
スレンダー……鈴木誠一
艦長……政宗一成
フラウ・ボウの母…鈴木れい子
ナレーター……永井一郎





◎声優からのメッセージ



古谷　徹（アムロ）

僕は元来SFが好きですし、すごく好きですね、この作品。

今までのアニメにない、生活してるって感じが随所にあって、SFで架空のことなのだけど納得させられる要素が沢山あります。だから役者として嘘のセリフじゃなく、本物のセリフを云わざるを得なくなる。アムロにしてもアニメのパターン的な少年ではなく、アムロ自身も生活をしている、微妙で感受性の強い少年として把えてます。



鵜飼るみ子（フラウ・ボウ）

生き生きした若い人間群像の中で、一人一人の個性がはっきりしていて強い生命力が感じられ、好きですね。

フラウ・ボウって、平凡だけどしっかり者だし、もっと楽しくて自由で、男の人が奥さんにしたくなる女性の理想像みたいですね。ただ、戦争の真只中で、個性が圧し殺されるのが残念。

フラウは、自分の中にもいる女の子でやり易いだけに、常に慣れすぎないよう新鮮さに、心がけています。



池田秀一（シャア少佐）



いい作品にぶつかったと思ってます。僕のやってるシャアは、一見人間臭くない余り感情を表にあらわすことのない人物だけに、逆に人間臭さをもってるのじゃないかと感じますね。

それに、いつも仮面を被っていて素顔がわからないし、仮面の裏側にある表情が出せればなと思ってます。

戦況下での悲しみや喜びや……このドラマが全部終った時、観ている人の中に何が残るのか…興味ありますね。



井上　瑤（セイラ・マス）



今までやった中で一番面白い。一口にいえばリアリティでしょうね。

未来の話だけど、人間の存在そのものが今と変らない。アムロにしてもセイラにしても、登場人物みんながいつもその辺にいそうな人ばかりだから、全然無理がなく、自然にやってます。

人の心を破壊する、ゾーッとするような戦争の怖ろしさや、ものすごく深い悲しみのリアリティは、子供には難しいけど、新しいアニメですね。



鈴置　洋孝（ブライト・ノア）



ん——実際にはこの平和な世の中だけど、生きることと死ぬことを、すごく考えさせられる作品だと思います。

ブライトは若く、自ら選んだ訳でもなく、戦争という状況設定の下で実戦の指令官として若い連中を引っぱって行かなければならない。その中に葛藤があったり、いら立ちがあったり、難しいけど面白い役です。ただ、厭な奴にはしたくない。若者らしく生きている青年の姿として把えたいですね。



古川　登志夫（カイ・シデン）



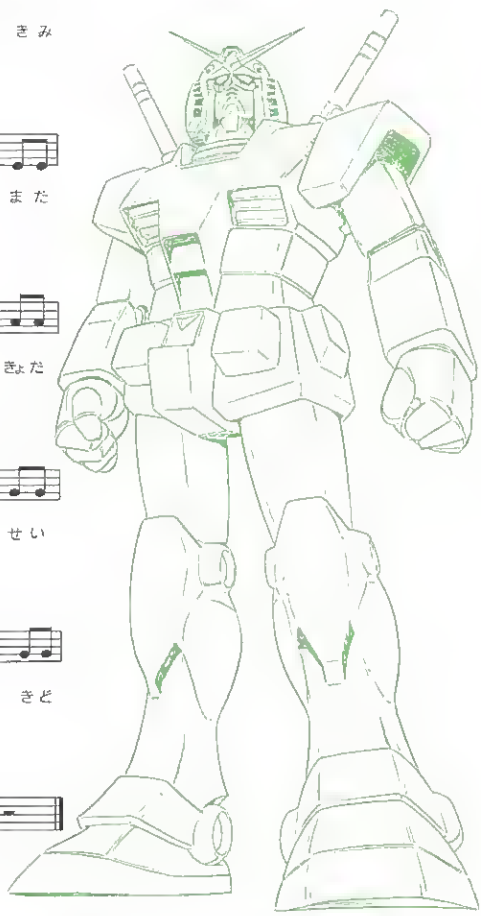
今までとは確実に違う、子供という対象の枠をかなり大胆に踏みはずした新しいジャンルのアニメーションが生れたという感じがしますね。

特にカイ・シデンなどは人格的にも非常に未完成で、現実の僕たちとダブル部分が多いですし、生身の人間として、いろいろな性格を背負わされていて……その多面性、例えば笑いながらのセリフの中で内面の悲しみを同時に出せたら…と思います。

翔べ！ガンダム

●テーマソング・スコア





翔べ！ガンダム（オープニング・テーマ）

作詞 井荻麟
作曲 渡辺岳夫
編曲 松山祐士
歌 池田鴻
コーラス フィーリング・フリー ミュージック・クリエイション
レコード キング・レコードTV(H)57

一、も、え、あ、が、れ、
もえあがれ ガンダム
君よ 燃え上がれ ガンダム
まだ 怒りに燃える 闘志があるなら
巨大な敵を 討てよ 討てよ
正義の怒りを ぶつけろ ガンダム
機動戦士 ガンダム ガンダム

二、た、ち、あ、が、れ、
たちあがれ 立ち上がれ ガンダム
君よ 翔べ
まだ 絶望に沈む 悲しみあるなら
恐怖を 払って 行けよ 行けよ 行けよ
うず巻く 血潮を 燃やせ ガンダム
機動戦士 ガンダム ガンダム

三、よ、み、が、え、る、
よみがえる
君よ 逃げるガンダム
まだ 愛にふるえる 心があるなら
平和を求めて 翔べよ 翔べよ 翔べよ
銀河へ向って 翔べよ ガンダム
機動戦士 ガンダム ガンダム

日本音楽著作権協会(出)許諾第7911223号

永遠にアムロ





永遠にアムロ（クロージング・テーマ）

作詞 井荻麟
作曲 渡辺岳夫
編曲 松山祐士
歌 池田鴻
コーラス フィーリング・フリー
レコード キング・レコードTV(H)57

一、
アムロ ふりむかないで
宇宙のかなたに 輝く星は
アムロ お前の生まれた故郷だ
おぼえているかい 少年の日のことを
あたたかい ぬくもりの中で
めざめた朝を
アムロ ふりむくな アムロ
男は涙を 見せぬもの 見せぬもの
ただ あしたへと
永遠に……

二、
アムロ ふりむかないで
宇宙のはてに きらめく星は
アムロ お前がすてた故郷だ
忘れはしない 少年の日の誓いを
青春を かけ守りぬけ
この俺を
アムロ ふりむくな アムロ
男は寂しさ かくすもの かくすもの
ただ あしたへと
永遠に……

おぼえているかい 少年の日のことを
あたたかい ぬくもりの中で
めざめた朝を
アムロ ふりむくな アムロ
男は涙を 見せぬもの 見せぬもの
ただ あしたへと
永遠に……

©1979 名古屋テレビ音楽出版



機動戦士ガンダム・記録全集 1

昭和54年12月20日　発　行

発行者／岸　本　吉　功
発行所／株式会社日本サンライズ
〒167・東京都杉並区上井草2-35-11
電　話／東　京（03）399－8962
編集者／株式会社ニューアート・クリエイション
印刷・製本所／小宮山印刷株式会社

定価 2,700 円

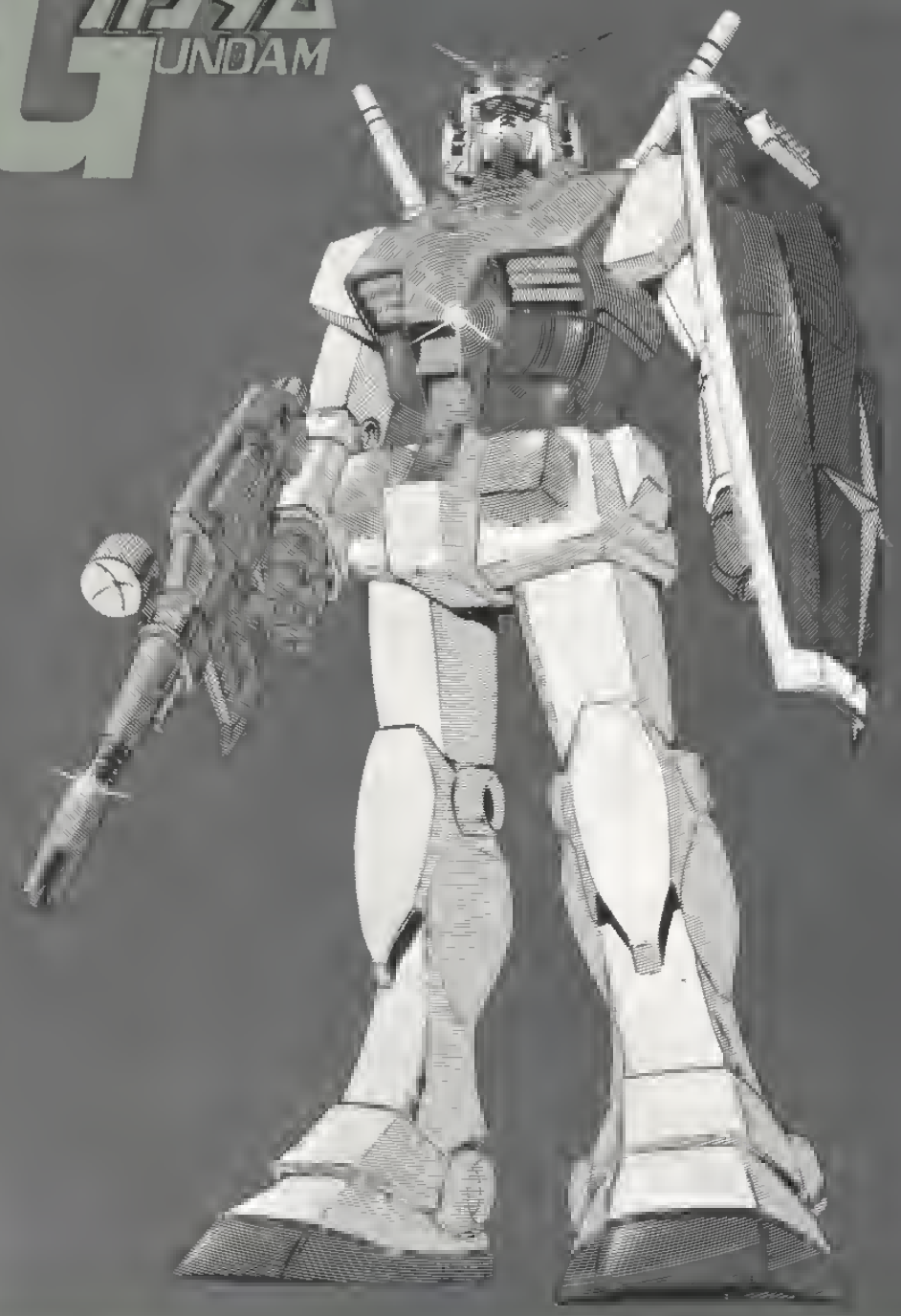
●落丁本・乱丁本はお取りかえします。

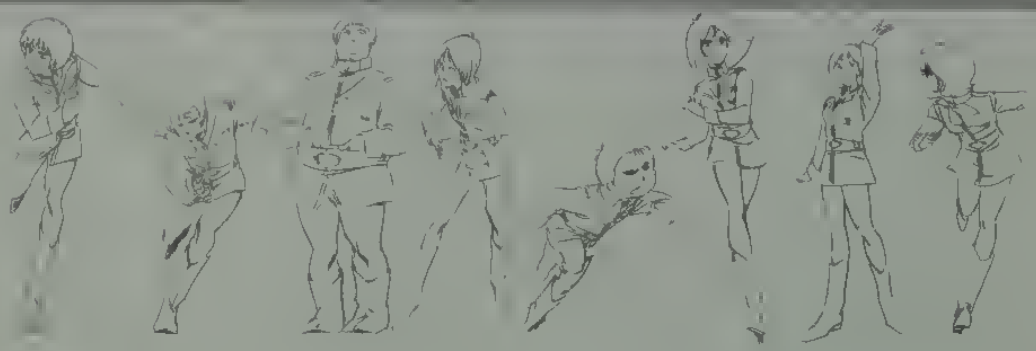
無断の転載複製を禁ず。

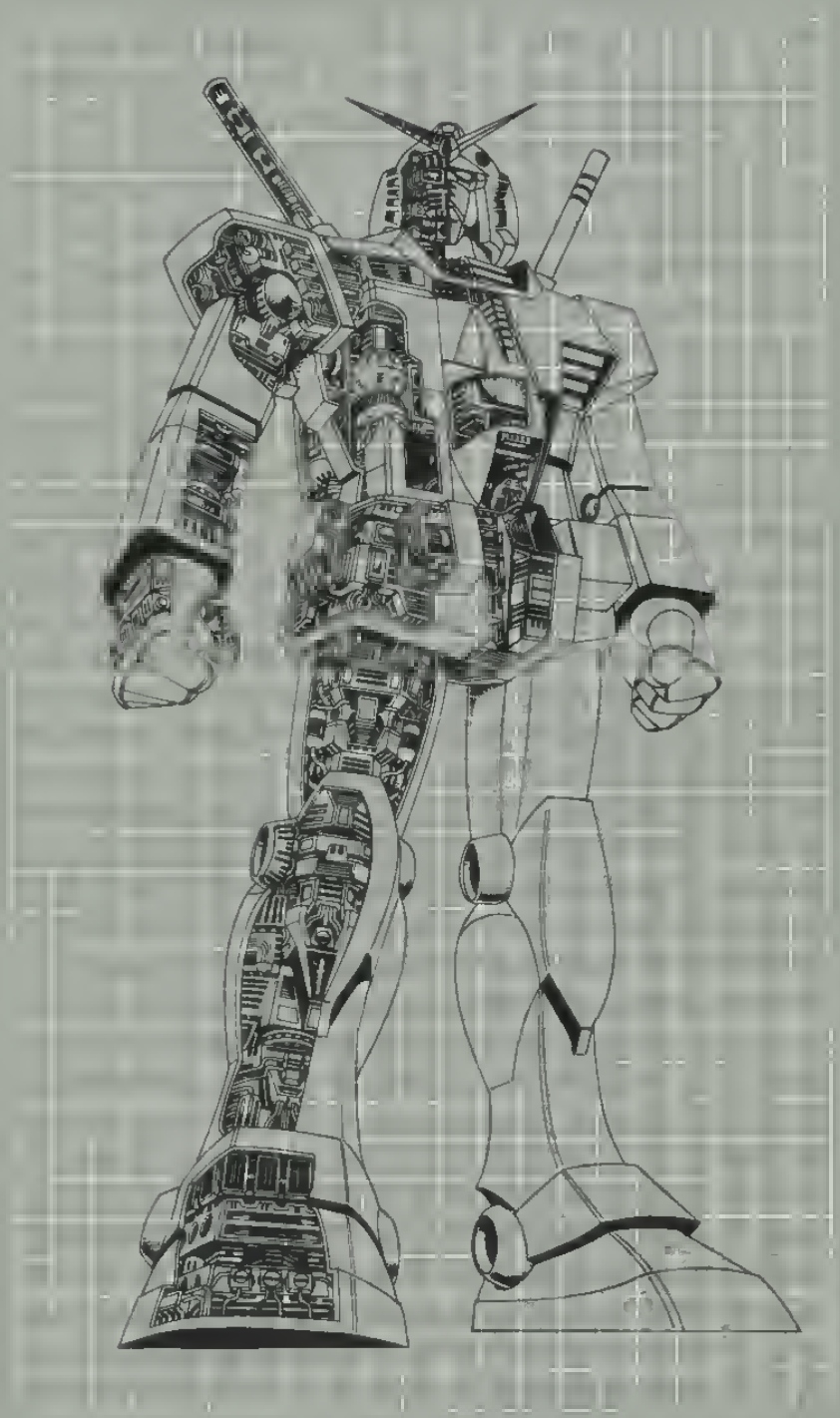
MOBILE SUIT GUNDAM

記録全集 1

機動戦士ガンダム
GUNDAM







Presented by

NIPPON SUNRISE

機動戦士ガンダム

記録全集 1

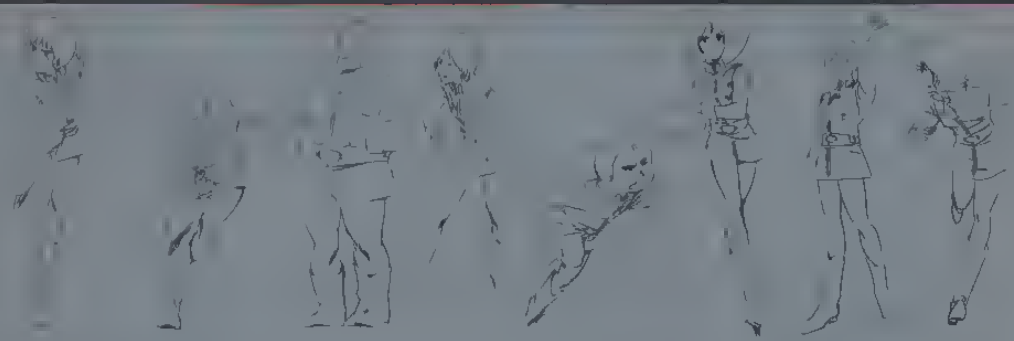
日本サンライズ

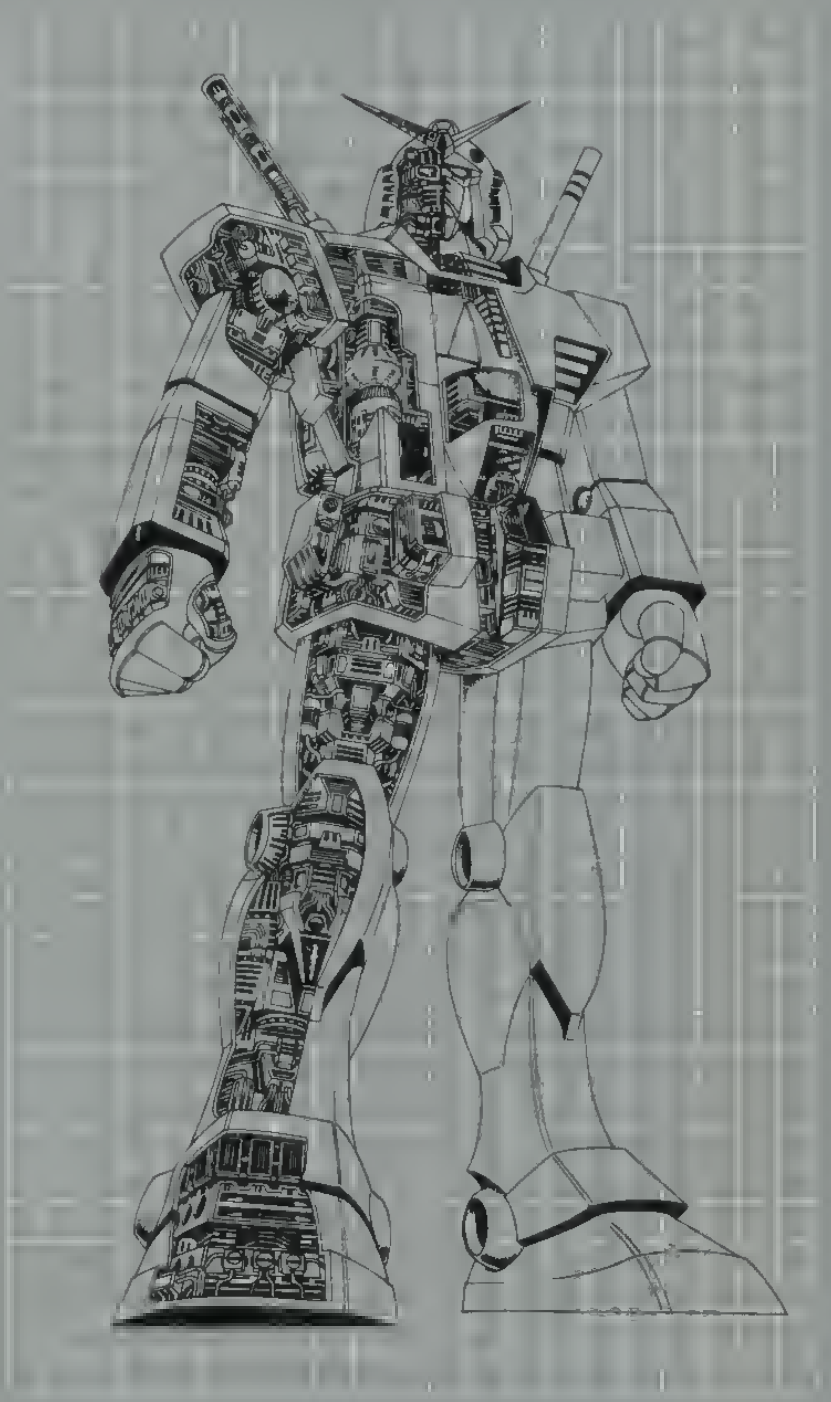
機動戦士ガンダム
GUNDAM

記録全集 1



MOBILE SUIT GUNDAM





Presented by

NIPPON SUNRISE

機動戦士ガンダム

記録全集 1

日本サンライズ